

土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考
地質調査編 〔2〕 地質調査 標準歩掛等	目次 - 3	<p>地質調査標準歩掛等 運用資料 調地標準 - 7</p> <p>1. 共通 調地標準 - 9</p> <p> 1-2 共通の留意事項 調地標準 - 9</p> <p>2. 機械ボーリング(土質ボーリング・岩盤ボーリング) 調地標準 - 9</p> <p> 2-7 解析等調査業務 調地標準 - 9</p> <p> 2-8 その他 調地標準 - 9</p> <p> 2-9 ボーリング孔保護工 調地標準 - 9</p> <p> 2-10 オーガーボーリング 調地標準 - 10</p> <p> 2-11 ピートサンプリング 調地標準 - 10</p> <p>5. 地すべり調査 調地標準 - 11</p> <p> 5-7 その他 調地標準 - 11</p> <p> 5-8 地下水検層 調地標準 - 11</p> <p>6. 地質概査 調地標準 - 12</p> <p> 6-1 適用範囲及び条件 調地標準 - 12</p> <p> 6-2 標準歩掛 調地標準 - 12</p> <p> 6-3 その他 調地標準 - 13</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; margin-top: 20px;"> 現行なし </div>	<p>地質調査標準歩掛等 運用資料 調地標準 - 7</p> <p>1. 共通 調地標準 - 9</p> <p> 1-2 共通の留意事項 調地標準 - 9</p> <p>2. 機械ボーリング(土質ボーリング・岩盤ボーリング) 調地標準 - 9</p> <p> 2-7 解析等調査業務 調地標準 - 9</p> <p> 2-8 その他 調地標準 - 9</p> <p> 2-9 ボーリング孔保護工 調地標準 - 9</p> <p> 2-10 オーガーボーリング 調地標準 - 10</p> <p> 2-11 ピートサンプリング 調地標準 - 10</p> <p>5. 地すべり調査 調地標準 - 11</p> <p> 5-7 その他 調地標準 - 11</p> <p> 5-8 地下水検層 調地標準 - 11</p> <p>6. 地質概査 調地標準 - 12</p> <p> 6-1 適用範囲及び条件 調地標準 - 12</p> <p> 6-2 標準歩掛 調地標準 - 12</p> <p> 6-3 その他 調地標準 - 13</p> <p>7. 物理検層 調地標準 - 14</p> <p> 7-1 適用 調地標準 - 14</p> <p> 7-2 測定 調地標準 - 14</p> <p> 7-3 データ整理・計算 調地標準 - 15</p> <p> 7-4 解析 調地標準 - 16</p> <p> 7-5 深度補正 調地標準 - 16</p> <p> 7-6 その他 調地標準 - 16</p>	<p>物理検層 歩掛の追加 ※ 令和6年12月 に廃止した 歩掛を一部 改定して再掲</p>

土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考
地質調査編 〔2〕 地質調査 標準歩掛等	調地標準 －6	現行なし	<p>7. 物理検層</p> <p>7-1. 適用 「運用資料」を適用する。</p> <p>7-2. 測定 「運用資料」を適用する。</p> <p>7-3. データ整理・計算 「運用資料」を適用する。</p> <p>7-4. 解析 「運用資料」を適用する。</p> <p>7-5. 深度補正 「運用資料」を適用する。</p> <p>7-6. その他 「運用資料」を適用する。</p>	物理検層 歩掛の追加 ※ 令和6年12月 に廃止した 歩掛を一部 改定して再掲

土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																																																																																																																																																																																																																
地質調査編 〔2〕 地質調査 標準歩掛等	調地標準 - 14	現行なし	<p>7-1 物理検層</p> <p>7-1-1 適用 ボーリング孔を利用して孔壁周辺の地層の物理的性質を調べる各原位置試験に適用する。なお、ボーリングと同一業務で行わない場合は、計画準備費・報告書作成費を別途計上すること。</p> <p>7-1-2 測定 7-1-2-1 測定(物理検層)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>DXB48010~DXB48080</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">(1式(1.00m)当り)</td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">名 称</th> <th rowspan="2">単 位</th> <th colspan="2">速度(P)検層 クワイクイック</th> <th rowspan="2">音波(P)</th> <th colspan="3">P-S 検 層</th> <th rowspan="2">摘 要</th> </tr> <tr> <th>1m間隔</th> <th>2m間隔</th> <th>1m間隔(連続)</th> <th>ダウンホール</th> <th>孔内起振受振</th> <th>1m間隔</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">直接 人件費</td> <td>地質調査師</td> <td>人</td> <td>3.0</td> <td>2.0</td> <td>3.0</td> <td>6.0</td> <td>3.0</td> <td>4.0</td> <td>2人作業</td> </tr> <tr> <td>主任地質調査員</td> <td>人</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> <td>1.5</td> <td>3.0</td> <td>1.5</td> <td>2.0</td> <td>1人作業</td> </tr> <tr> <td>地質調査員</td> <td>人</td> <td>4.5</td> <td>3.0</td> <td>4.5</td> <td>9.0</td> <td>4.5</td> <td>6.0</td> <td>3人作業</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">材料費</td> <td>ダイマイト</td> <td>本</td> <td>(4.0)</td> <td>(2.0)</td> <td>—</td> <td>(4.0)</td> <td>(2.0)</td> <td>—</td> <td>3号桐(100g)</td> </tr> <tr> <td>電気・電管</td> <td>個</td> <td>(3.0)</td> <td>(1.5)</td> <td>—</td> <td>(3.0)</td> <td>(1.5)</td> <td>—</td> <td>6号瞬発</td> </tr> <tr> <td>損 耗 費</td> <td>式</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>別表による</td> </tr> <tr> <td>消耗品費</td> <td>式</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>上記材料費計*1%</td> </tr> <tr> <td>動力費</td> <td>軽油・油脂</td> <td>式</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>材料費*1%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">機械等 損料</td> <td>検層器損料</td> <td>目</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> <td>1.5</td> <td>3.0</td> <td>1.5</td> <td>2.0</td> <td>ダウンホール1m間隔の 直接人件費*1.8%</td> </tr> <tr> <td>ボックスマシ</td> <td>目</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> <td>1.5</td> <td>3.0</td> <td>1.5</td> <td>2.0</td> <td>ダウンホール1m間隔の 直接人件費*2.5%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>名 称</th> <th>単 位</th> <th>密度 連続</th> <th>電気 連続</th> <th>温度 連続</th> <th>ボック 連続</th> <th>摘 要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">直接 人件費</td> <td>地質調査師</td> <td>人</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>2人作業</td> </tr> <tr> <td>主任地質調査員</td> <td>人</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>1人作業</td> </tr> <tr> <td>地質調査員</td> <td>人</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>2人作業</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">材料費</td> <td>損 耗 費</td> <td>式</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>別表による</td> </tr> <tr> <td>消耗品費</td> <td>式</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>上記材料費計*5%</td> </tr> <tr> <td>動力費</td> <td>軽油・油脂</td> <td>式</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>材料費*1%</td> </tr> <tr> <td>安全費</td> <td>法による</td> <td>式</td> <td>1</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>直接人件費*5%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">機械等 損料</td> <td>検層器損料</td> <td>目</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>直接人件費*0.8%</td> </tr> <tr> <td>ボックスマシ</td> <td>目</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>直接人件費*3.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>損耗費はケーブル及びボンデ合わせて1回使用当たりの費用とし、下表の値を直接人件費に乘じる。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>速度(P)</th> <th>音波(P)</th> <th>P-S検層 ダウンホール</th> <th>P-S検層 孔内起振受振</th> <th>密度</th> <th>電気</th> <th>温度</th> <th>ボック</th> <th>摘 要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1m間隔の 7%</td> <td>1m間隔の 1.7%</td> <td>1m間隔の 7%</td> <td>4.0%</td> <td>3.5%</td> <td>1.1%</td> <td>1.1%</td> <td>1.9%</td> <td>ケーブル及びボンデは 3.0回使用で全損</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 7-1-5により歩掛補正を行う。ただし、材料費について、測定深度100m未満の場合は、実測定長に応じ 比例按分のこと。 2. 各検層の測定間隔は、表に示す値を基本としている。表以外の測定間隔の場合は別途考慮すること。</p>	施工単価コード	DXB48010~DXB48080	(1式(1.00m)当り)		区分	名 称	単 位	速度(P)検層 クワイクイック		音波(P)	P-S 検 層			摘 要	1m間隔	2m間隔	1m間隔(連続)	ダウンホール	孔内起振受振	1m間隔	直接 人件費	地質調査師	人	3.0	2.0	3.0	6.0	3.0	4.0	2人作業	主任地質調査員	人	1.5	1.0	1.5	3.0	1.5	2.0	1人作業	地質調査員	人	4.5	3.0	4.5	9.0	4.5	6.0	3人作業	材料費	ダイマイト	本	(4.0)	(2.0)	—	(4.0)	(2.0)	—	3号桐(100g)	電気・電管	個	(3.0)	(1.5)	—	(3.0)	(1.5)	—	6号瞬発	損 耗 費	式	1	1	1	1	1	1	別表による	消耗品費	式	1	1	1	1	1	1	上記材料費計*1%	動力費	軽油・油脂	式	1	1	1	1	1	1	材料費*1%	機械等 損料	検層器損料	目	1.5	1.0	1.5	3.0	1.5	2.0	ダウンホール1m間隔の 直接人件費*1.8%	ボックスマシ	目	1.5	1.0	1.5	3.0	1.5	2.0	ダウンホール1m間隔の 直接人件費*2.5%	区分	名 称	単 位	密度 連続	電気 連続	温度 連続	ボック 連続	摘 要	直接 人件費	地質調査師	人	2.0	2.0	2.0	2.0	2人作業	主任地質調査員	人	1.0	1.0	1.0	1.0	1人作業	地質調査員	人	2.0	2.0	2.0	2.0	2人作業	材料費	損 耗 費	式	1	1	1	1	別表による	消耗品費	式	1	1	1	1	上記材料費計*5%	動力費	軽油・油脂	式	1	1	1	1	材料費*1%	安全費	法による	式	1	—	—	—	直接人件費*5%	機械等 損料	検層器損料	目	1.0	1.0	1.0	1.0	直接人件費*0.8%	ボックスマシ	目	1.0	1.0	1.0	1.0	直接人件費*3.4%	速度(P)	音波(P)	P-S検層 ダウンホール	P-S検層 孔内起振受振	密度	電気	温度	ボック	摘 要	1m間隔の 7%	1m間隔の 1.7%	1m間隔の 7%	4.0%	3.5%	1.1%	1.1%	1.9%	ケーブル及びボンデは 3.0回使用で全損	<p>物理検層 歩掛の追加 ※ 令和6年12月 に廃止した 歩掛を一部 改定して再掲</p> <p>単位をmから 式に改定</p> <p>一部損耗費の 率の変更</p> <p>注1において 材料費に係る 取扱いを追記</p>
施工単価コード	DXB48010~DXB48080																																																																																																																																																																																																																			
(1式(1.00m)当り)																																																																																																																																																																																																																				
区分	名 称	単 位	速度(P)検層 クワイクイック		音波(P)	P-S 検 層			摘 要																																																																																																																																																																																																											
			1m間隔	2m間隔		1m間隔(連続)	ダウンホール	孔内起振受振		1m間隔																																																																																																																																																																																																										
直接 人件費	地質調査師	人	3.0	2.0	3.0	6.0	3.0	4.0	2人作業																																																																																																																																																																																																											
	主任地質調査員	人	1.5	1.0	1.5	3.0	1.5	2.0	1人作業																																																																																																																																																																																																											
	地質調査員	人	4.5	3.0	4.5	9.0	4.5	6.0	3人作業																																																																																																																																																																																																											
材料費	ダイマイト	本	(4.0)	(2.0)	—	(4.0)	(2.0)	—	3号桐(100g)																																																																																																																																																																																																											
	電気・電管	個	(3.0)	(1.5)	—	(3.0)	(1.5)	—	6号瞬発																																																																																																																																																																																																											
	損 耗 費	式	1	1	1	1	1	1	別表による																																																																																																																																																																																																											
	消耗品費	式	1	1	1	1	1	1	上記材料費計*1%																																																																																																																																																																																																											
動力費	軽油・油脂	式	1	1	1	1	1	1	材料費*1%																																																																																																																																																																																																											
機械等 損料	検層器損料	目	1.5	1.0	1.5	3.0	1.5	2.0	ダウンホール1m間隔の 直接人件費*1.8%																																																																																																																																																																																																											
	ボックスマシ	目	1.5	1.0	1.5	3.0	1.5	2.0	ダウンホール1m間隔の 直接人件費*2.5%																																																																																																																																																																																																											
区分	名 称	単 位	密度 連続	電気 連続	温度 連続	ボック 連続	摘 要																																																																																																																																																																																																													
直接 人件費	地質調査師	人	2.0	2.0	2.0	2.0	2人作業																																																																																																																																																																																																													
	主任地質調査員	人	1.0	1.0	1.0	1.0	1人作業																																																																																																																																																																																																													
	地質調査員	人	2.0	2.0	2.0	2.0	2人作業																																																																																																																																																																																																													
材料費	損 耗 費	式	1	1	1	1	別表による																																																																																																																																																																																																													
	消耗品費	式	1	1	1	1	上記材料費計*5%																																																																																																																																																																																																													
動力費	軽油・油脂	式	1	1	1	1	材料費*1%																																																																																																																																																																																																													
安全費	法による	式	1	—	—	—	直接人件費*5%																																																																																																																																																																																																													
機械等 損料	検層器損料	目	1.0	1.0	1.0	1.0	直接人件費*0.8%																																																																																																																																																																																																													
	ボックスマシ	目	1.0	1.0	1.0	1.0	直接人件費*3.4%																																																																																																																																																																																																													
速度(P)	音波(P)	P-S検層 ダウンホール	P-S検層 孔内起振受振	密度	電気	温度	ボック	摘 要																																																																																																																																																																																																												
1m間隔の 7%	1m間隔の 1.7%	1m間隔の 7%	4.0%	3.5%	1.1%	1.1%	1.9%	ケーブル及びボンデは 3.0回使用で全損																																																																																																																																																																																																												

土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																																																												
地質調査編 〔2〕 地質調査 標準歩掛等	調地標準 - 15	現行なし	<p>3. 速度検層、P・S検層におけるダイナマイト及び電気雷管は必要に応じて計上すること。</p> <p>4. 消耗品費には、記録紙や電源(電池等)、油脂、ピエゾチップ等を含む。</p> <p>5. 当該歩掛は、最大深さ30.0m程度までの調査を標準としているため、これを超える深度の調査の場合は、別途考慮すること。なお、P・S検層(ダウンホール方式)の測定は、現場状況と地質状況にもよるが深さ10.0m程度が限界なので注意のこと。</p> <p>6. 当該歩掛には、検層機器の昇降に必要なボーリングマシンやボーリングオペレーターを含む。なお、削孔費は別途計上のこと。</p> <p>7. 速度検層において起振孔を必要とする場合は、別途φ7.6mm以上のボーリング費(φ7.3mm以上のケーシング全損)を計上のこと。</p> <p>8. 崩壊性地質などで、塩ビパイプにより孔壁の保護を要する場合は、別途材料費及び挿入費を計上のこと。</p> <p>9. ボーリングのケーシングプログラムなどにより測定作業が分割される場合は、複数孔による場合と考慮して積算すること。また、現地状況により動復員(往復)に日数を要する場合は、別途歩掛を調整・計上すること。</p> <p>10. ダウンホール方式によるP・S検層を実施する際に、地震基礎として設定された速度を確認して、ボーリングの掘止めを行う場合、増掘する場合の測定費は、その都度別孔扱いとして個別に補正係数を乗じて積算すること。</p> <p>11. 密度検層における安全費とは、線源が半減期を迎える5年に一度ソンドの部品交換を行う費用、線源の仕様及び保管に係る費用である。</p> <p>12. 測定深とは、測定区間長ではなく、測定する最下端の深さを指す。従って、6.0mから10.0m間を測定する場合は、測定深10.0mとなる。</p> <p>13. ダウンホール方式によるP・S検層の測定間隔は、土質地盤では1m間隔、岩盤では2m間隔が標準である。同一孔で深度0~5.0mの5.0m区間が土質地盤、5.0~8.0mの3.0m区間が岩盤の場合の直接人件費の積算例は以下となる。 (ダウンホール方式1mの直接人件費×0.69(深度5.0mの補正係数) + ダウンホール方式2mの直接人件費×0.56(深度3.0mの補正係数)) × 0.88(深度3.0mの補正係数)</p> <p>14. ダウンホール方式によるP・S検層において、岩盤区間中の採み層や破砕帯の検出など、地質状況の変化が大きく高い精度を要求される場合は、岩盤でも1m間隔とすることがある。</p> <p>7-3 データ整理・計算 7-3-1 データ整理・計算(物理検層)</p> <table border="1" data-bbox="1936 1266 2479 1300"> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>DXB48210~DXB48280</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">(1式(1.00m)当り)</p> <table border="1" data-bbox="1527 1320 2479 1481"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">名 称</th> <th rowspan="2">単 位</th> <th colspan="2">速度(P)検層 2m間隔</th> <th rowspan="2">音波(P) 1m間隔(連続)</th> <th colspan="2">P・S 検 層 ダウンホール</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>1m間隔</th> <th>2m間隔</th> <th>1m間隔</th> <th>2m間隔</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>直接人件費</td> <td>地質調査技師 主任地質調査員</td> <td>人</td> <td>2.0</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>2.0</td> <td>1.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>消耗品費</td> <td></td> <td>式</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>直接人件費*5%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1527 1481 2479 1643"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">名 称</th> <th rowspan="2">単 位</th> <th rowspan="2">P・S検層 孔内起振受振 1m間隔</th> <th rowspan="2">密度 連続</th> <th rowspan="2">電気 連続</th> <th rowspan="2">温度 連続</th> <th rowspan="2">圧力 連続</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>直接人件費</td> <td>地質調査技師 主任地質調査員</td> <td>人</td> <td>1.0</td> <td>4.0</td> <td>4.0</td> <td>4.0</td> <td>4.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>消耗品費</td> <td></td> <td>式</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>直接人件費*5%</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 各検層の測定間隔は、表に示す値を基本としている。表以外の測定間隔の場合は別途考慮すること。 2. 7-5により歩掛補正を行う。</p>	施工単価コード	DXB48210~DXB48280	区分	名 称	単 位	速度(P)検層 2m間隔		音波(P) 1m間隔(連続)	P・S 検 層 ダウンホール		備 考	1m間隔	2m間隔	1m間隔	2m間隔	直接人件費	地質調査技師 主任地質調査員	人	2.0	1.0	1.0	2.0	1.0		消耗品費		式	1	1	1	1	1	直接人件費*5%	区分	名 称	単 位	P・S検層 孔内起振受振 1m間隔	密度 連続	電気 連続	温度 連続	圧力 連続	備 考	直接人件費	地質調査技師 主任地質調査員	人	1.0	4.0	4.0	4.0	4.0		消耗品費		式	1	1	1	1	1	直接人件費*5%	物理検層 歩掛の追加 ※ 令和6年12月 に廃止した 歩掛を一部 改定して再掲 単位をmから 式に改定 旧注4、注6 の内容が他と 重複していた ため削除 注13において 積算例を追記
施工単価コード	DXB48210~DXB48280																																																															
区分	名 称	単 位	速度(P)検層 2m間隔		音波(P) 1m間隔(連続)	P・S 検 層 ダウンホール		備 考																																																								
			1m間隔	2m間隔		1m間隔	2m間隔																																																									
直接人件費	地質調査技師 主任地質調査員	人	2.0	1.0	1.0	2.0	1.0																																																									
消耗品費		式	1	1	1	1	1	直接人件費*5%																																																								
区分	名 称	単 位	P・S検層 孔内起振受振 1m間隔	密度 連続	電気 連続	温度 連続	圧力 連続	備 考																																																								
									直接人件費	地質調査技師 主任地質調査員	人	1.0	4.0	4.0	4.0	4.0																																																
消耗品費		式	1	1	1	1	1	直接人件費*5%																																																								

土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																																																														
地質調査編 〔2〕 地質調査 標準歩掛等	調地標準 - 16	現行なし	<p>7-4 解析 7-4-1 解析(物理検層)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 施工単価コード DXB48410~DXB48440 (1式(100m)当り) </div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">名 称</th> <th rowspan="2">単 位</th> <th colspan="2">速度(P)検層</th> <th rowspan="2">音波 (P)</th> <th colspan="3">P・S検層</th> <th rowspan="2">摘 要</th> </tr> <tr> <th>1m間隔</th> <th>2m間隔</th> <th colspan="2">ダウンホール</th> <th>孔内起振変換</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">直接 人件費</td> <td>主任技師</td> <td>人</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>技師(A)</td> <td>人</td> <td>3.0</td> <td>1.5</td> <td>3.0</td> <td>4.0</td> <td>2.0</td> <td>4.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>技師(C)</td> <td>人</td> <td>2.5</td> <td>2.0</td> <td>5.0</td> <td>6.0</td> <td>5.0</td> <td>6.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>技 術 員</td> <td>人</td> <td>3.0</td> <td>2.0</td> <td>5.0</td> <td>8.0</td> <td>5.0</td> <td>8.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>材料費</td> <td>雑 品 式</td> <td>式</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>直接人件費*1%</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 各検層の測定間隔は、表に示す値を基本としている。表以外の測定間隔の場合は別途考慮すること。 2. 7-5により歩掛補正を行う。 3. 密度、電気、温度、キャリパー検層は、データ整理・計算に解析費用を含む。 3. ダウンホール方式によるP・S検層を実施する際に、地震基盤として設定された速度を確認してボーリングの掘止めを行う場合、現地で解析した区間は別孔の解析費として計上すること。 4. 当該作業は、解析等調査業務費として計上すること。</p> <p>7-5 深度補正 測定、データ整理・計算、解析について、測定深に応じて次の補正係数を各人件費、材料費、機械経等損料に乘じる。なお、複数の孔がある場合は、孔毎にそれぞれの測定深に応じた補正係数を用いること。</p> <p>(1) 測定深が2.0m以下の場合 補正係数 = 0.5</p> <p>(2) 測定深が2.0m超10.0m以下の場合 補正係数 = 0.00625 × 測定深 + 0.375 (測定深は整数とし、補正係数は小数第3位四捨五入して小数第2位とする)</p> <p>(3) 測定深が10.0m超50.0m以下の場合 補正係数 = (1.8 - 0.4log(測定深)) × 測定深 ÷ 10.0 (測定深は整数とし、補正係数は小数第3位四捨五入して小数第2位とする。対数(log)の底は1.0)</p> <p>(4) 測定深が50.0m超の場合 補正係数 = 3.6</p> <p>7-6 その他 電子成果品作成費は、「設計業務等標準積算基準書 第2編 第2章 地質調査標準歩掛等 2-8-1 電子成果品作成費」により計上する。</p>	区分	名 称	単 位	速度(P)検層		音波 (P)	P・S検層			摘 要	1m間隔	2m間隔	ダウンホール		孔内起振変換	直接 人件費	主任技師	人	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0		技師(A)	人	3.0	1.5	3.0	4.0	2.0	4.0		技師(C)	人	2.5	2.0	5.0	6.0	5.0	6.0		技 術 員	人	3.0	2.0	5.0	8.0	5.0	8.0		材料費	雑 品 式	式	1	1	1	1	1	1	直接人件費*1%	物理検層 歩掛の追加 ※ 令和6年12月 に廃止した 歩掛を一部 改定して再掲 単位をmから 式に改定 深度補正の 計算式(2) を改定
区分	名 称	単 位	速度(P)検層				音波 (P)	P・S検層			摘 要																																																							
			1m間隔	2m間隔	ダウンホール			孔内起振変換																																																										
直接 人件費	主任技師	人	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0																																																										
	技師(A)	人	3.0	1.5	3.0	4.0	2.0	4.0																																																										
	技師(C)	人	2.5	2.0	5.0	6.0	5.0	6.0																																																										
	技 術 員	人	3.0	2.0	5.0	8.0	5.0	8.0																																																										
材料費	雑 品 式	式	1	1	1	1	1	1	直接人件費*1%																																																									

土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考
設計編 〔2〕 土木設計業務 等標準歩掛	設標準 - 4	<p>7. 一般構造物設計</p> <p>7-1 門型ラーメン・箱型函渠 「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 7-1 門型ラーメン・箱型函渠」を適用する。なお、作業区分については「運用資料」を適用する。 施工単価コード：WS402401～WS402412(門型ラーメン・箱型函渠予備設計)、WS403001～WS403008(門型ラーメン詳細設計)、WS403101～WS403108(箱型函渠詳細設計)、WS403201～WS403208(プレキャストボックスウイングの取り付け設計)、WS403301～WS403305(プレキャストボックス割付一般図作成)</p> <p>7-2 擁壁・補強土 「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 7-2 擁壁・補強土」を適用する。 施工単価コード：WS402501～WS402512(擁壁・補強土予備設計)、WS403401～WS403408(逆T式擁壁)、WS403501～WS403508(重力式擁壁)、WS403601～WS403608(モタレ式擁壁)、WS415601～WS415608(井桁式擁壁)、WS415701～WS415708(大型ブロック積擁壁)、WS403701～WS403708(補強土テールアルメ、多数アンカー式擁壁)、WS403801～WS403808(U型擁壁)、WS403901～WS403905(プレキャストL型擁壁の割付一般図)</p> <p>7-3 法面工 「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 7-3 法面工」を適用する。 施工単価コード：WS402601～WS402612(法面工予備設計)、WS404001～WS404008(場所打ち法枠)、WS404101～WS404108(アンカー付場所打ち法枠)</p> <p>7-4 落石防護柵 「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 7-4 落石防護柵」を適用する。 施工単価コード：WS404401～WS404408</p> <p>7-5 雪崩予防施設 「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 7-5 雪崩予防施設」を適用する。 施工単価コード：WS404801～WS404808(雪崩予防柵、雪崩防護柵)、WS404901～WS404909(吊柵)</p> <p>7-6 一般構造物基礎工 「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 7-6 一般構造物基礎工」を適用する。なお、作業区分については「運用資料」を適用する。 施工単価コード：WS405101～WS405108(既製杭)、WS405201～WS405208(場所打杭)、WS405301～WS405308(深礎杭)</p> <p>7-7 その他 「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 7-7 その他」を適用する。</p> <p>7-8 山留め式擁壁詳細設計 「運用資料」を適用する。</p> <p>7-9 雪況調査対策工検討設計 「運用資料」を適用する。</p> <p style="text-align: center;">設標準 - 4</p>	<p>7. 一般構造物設計</p> <p>7-1 門型ラーメン・箱型函渠 「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 7-1 門型ラーメン・箱型函渠」を適用する。なお、作業区分、概算工事費については「運用資料」を適用する。 施工単価コード：WS402401～WS402412(門型ラーメン・箱型函渠予備設計)、WS403001～WS403008(門型ラーメン詳細設計)、WS403101～WS403108(箱型函渠詳細設計)、WS403201～WS403208(プレキャストボックスウイングの取り付け設計)、WS403301～WS403305(プレキャストボックス割付一般図作成)</p> <p>7-2 擁壁・補強土 「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 7-2 擁壁・補強土」を適用する。 なお、概算工事費については「運用資料」を適用する。 施工単価コード：WS402501～WS402512(擁壁・補強土予備設計)、WS403401～WS403408(逆T式擁壁)、WS403501～WS403508(重力式擁壁)、WS403601～WS403608(モタレ式擁壁)、WS415601～WS415608(井桁式擁壁)、WS415701～WS415708(大型ブロック積擁壁)、WS403701～WS403708(補強土テールアルメ、多数アンカー式擁壁)、WS403801～WS403808(ひ型擁壁)、WS403901～WS403905(プレキャストL型擁壁の割付一般図)</p> <p>7-3 法面工 「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 7-3 法面工」を適用する。 なお、概算工事費については「運用資料」を適用する。 施工単価コード：WS402601～WS402612(法面工予備設計)、WS404001～WS404008(場所打ち法枠)、WS404101～WS404108(アンカー付場所打ち法枠)</p> <p>7-4 落石防護柵 「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 7-4 落石防護柵」を適用する。 施工単価コード：WS404401～WS404408</p> <p>7-5 雪崩予防施設 「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 7-5 雪崩予防施設」を適用する。 施工単価コード：WS404801～WS404808(雪崩予防柵、雪崩防護柵)、WS404901～WS404909(吊柵)</p> <p>7-6 一般構造物基礎工 「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 7-6 一般構造物基礎工」を適用する。なお、作業区分については「運用資料」を適用する。 施工単価コード：WS405101～WS405108(既製杭)、WS405201～WS405208(場所打杭)、WS405301～WS405308(深礎杭)</p> <p>7-7 その他 「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 7-7 その他」を適用する。</p> <p>7-8 山留め式擁壁詳細設計 「運用資料」を適用する。</p> <p>7-9 雪況調査対策工検討設計 「運用資料」を適用する。</p> <p style="text-align: center;">設標準 - 4</p>	概算工事費 歩掛の追加 に伴う 記載の追加

土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考
設計編 〔2〕 土木設計業務 等標準歩掛	設標準 - 5	<p>8. 橋梁設計</p> <p>8-1 橋梁予備設計 「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-1 橋梁予備設計」を適用する。 施工単価コード：WS406101～WS406109</p> <p>8-2 橋梁詳細設計 「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2 橋梁詳細設計」を適用する。 なお、落橋防止システムの設計はそれぞれの上部工標準歩掛に含まれている。 ~~~~~ 施工単価コード：WS406201(座標計算)、WS406202(施工計画)、WS406204(動的照査)、WS406205(関係機関との協議資料作成)、WS406203(現地踏査)、WS406301～WS406306(RC単統床版橋)、WS406401～WS406406(RC単統T桁橋)、WS406501～WS406506(RC単統中空床版橋)、WS406601～WS406606(RC多径間連続中空床版橋)、WS406701～WS406706(RC多径間連続T桁橋)、WS406801～WS406806(RC多径間連続ラーメン橋)、WS406901～WS406906(PC単統プレテンションI桁橋)、WS407001～WS407006(PC単統プレテンションT桁橋)、WS407101～WS407106(PCプレテンションホロー桁橋)、WS407201～WS407206(PC単統中空床版橋)、WS407301～WS407306(PC単統ポストテンションT桁橋)、WS407401～WS407406(PC単統箱桁橋)、WS407501～WS407506(PC多径間連続プレテンションT桁橋)、WS407601～WS407606(PC多径間連続ポストテンションT桁橋)、WS407701～WS407706(PC斜材付きπ型ラーメン橋)、WS407801～WS407806(PC多径間連続中空床版橋)、WS407901～WS407906(PC多径間連続ポストテンションT桁橋)、WS408001～WS408006(PC多径間連続箱桁橋)、WS408101～WS408106(鋼単統H形橋)、WS408201～WS408206(鋼単統合成H形橋)、WS408301～WS408306(鋼単統鉸桁橋)、WS408401～WS408406(鋼単統合成鉸桁橋)、WS408501～WS408506(鋼単統鋼床版鉸桁橋)、WS408601～WS408606(鋼単統箱桁橋)、WS408701～WS408706(鋼単統合成箱桁橋)、WS408801～WS408806(鋼単統鋼床版箱桁橋)、WS408901～WS408906(鋼ゲルバー桁橋)、WS409001～WS409006(鋼単統トラス橋)、</p> <p style="text-align: center;">設標準 - 5</p>	<p>8. 橋梁設計</p> <p>8-1 橋梁予備設計 「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-1 橋梁予備設計」を適用する。 施工単価コード：WS406101～WS406109</p> <p>8-2 橋梁詳細設計 「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2 橋梁詳細設計」を適用する。 なお、落橋防止システムの設計はそれぞれの上部工標準歩掛に含まれている。また、概算工事費については、「運用資料」を適用する。 ~~~~~ 施工単価コード：WS406201(座標計算)、WS406202(施工計画)、WS406204(動的照査)、WS406205(関係機関との協議資料作成)、WS406203(現地踏査)、WS406301～WS406306(RC単統床版橋)、WS406401～WS406406(RC単統T桁橋)、WS406501～WS406506(RC単統中空床版橋)、WS406601～WS406606(RC多径間連続中空床版橋)、WS406701～WS406706(RC多径間連続T桁橋)、WS406801～WS406806(RC多径間連続ラーメン橋)、WS406901～WS406906(PC単統プレテンションI桁橋)、WS407001～WS407006(PC単統プレテンションT桁橋)、WS407101～WS407106(PCプレテンションホロー桁橋)、WS407201～WS407206(PC単統中空床版橋)、WS407301～WS407306(PC単統ポストテンションT桁橋)、WS407401～WS407406(PC単統箱桁橋)、WS407501～WS407506(PC多径間連続プレテンションT桁橋)、WS407601～WS407606(PC多径間連続ポストテンションT桁橋)、WS407701～WS407706(PC斜材付きπ型ラーメン橋)、WS407801～WS407806(PC多径間連続中空床版橋)、WS407901～WS407906(PC多径間連続ポストテンションT桁橋)、WS408001～WS408006(PC多径間連続箱桁橋)、WS408101～WS408106(鋼単統H形橋)、WS408201～WS408206(鋼単統合成H形橋)、WS408301～WS408306(鋼単統鉸桁橋)、WS408401～WS408406(鋼単統合成鉸桁橋)、WS408501～WS408506(鋼単統鋼床版鉸桁橋)、WS408601～WS408606(鋼単統箱桁橋)、WS408701～WS408706(鋼単統合成箱桁橋)、WS408801～WS408806(鋼単統鋼床版箱桁橋)、WS408901～WS408906(鋼ゲルバー桁橋)、WS409001～WS409006(鋼単統トラス橋)、</p> <p style="text-align: center;">設標準 - 5</p>	概算工事費 歩掛の追加 に伴う 記載の追加
	設標準 - 10	<p>14. 河川構造物設計</p> <p>14-1 樋門設計 「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 14-1 樋門設計」を適用する。なお、留意事項及び電算プログラムの適用、小型水門設備設計~~~~~については「運用資料」を適用する。 施工単価コード：WS303201～WS303210(樋門予備設計)、WS303301～WS303312・DXC43505～DXC43510(樋門詳細設計(柔構造形式)電算プログラムなし)、WS303401～WS303412・DXC43705～DXC43710(樋門詳細設計(剛支持直接基礎)電算プログラムなし)</p>	<p>14. 河川構造物設計</p> <p>14-1 樋門設計 「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 14-1 樋門設計」を適用する。なお、留意事項及び電算プログラムの適用、小型水門設備設計~~~~~概算工事費については「運用資料」を適用する。 施工単価コード：WS303201～WS303210(樋門予備設計)、WS303301～WS303312・DXC43505～DXC43510(樋門詳細設計(柔構造形式)電算プログラムなし)、WS303401～WS303412・DXC43705～DXC43710(樋門詳細設計(剛支持直接基礎)電算プログラムなし)</p>	概算工事費 歩掛の追加 に伴う 記載の追加
	設標準 - 11	<p>15. 砂防構造物設計</p> <p>15-1 砂防堰堤設計 「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 15-1 砂防堰堤設計」を適用する。 なお、作業区分、留意事項~~~~~については「運用資料」を適用する。 施工単価コード：WS500301～WS500311(砂防堰堤及び床固工予備設計)、WS500401～WS500419(砂防堰堤及び床固工詳細設計)</p>	<p>15. 砂防構造物設計</p> <p>15-1 砂防堰堤設計 「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 15-1 砂防堰堤設計」を適用する。 なお、作業区分、留意事項~~~~~概算工事費については「運用資料」を適用する。 施工単価コード：WS500301～WS500311(砂防堰堤及び床固工予備設計)、WS500401～WS500419(砂防堰堤及び床固工詳細設計)</p>	概算工事費 歩掛の追加 に伴う 記載の追加

土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現行	改定	備考																																																																														
設計編 〔2〕 土木設計業務 等標準歩掛 2. 道路設計 標準歩掛	設標準 - 2 3	<p>概算工事費算出の歩掛は次のとおりとする。</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2">施工単価コード</td> <td colspan="6">DXC14001</td> </tr> <tr> <td colspan="2">(予備設計あり)</td> <td colspan="6">(1業務当り)</td> </tr> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">職種</th> <th colspan="6">直接人件費</th> </tr> <tr> <th>主任技術者</th> <th>技師長</th> <th>主任技師</th> <th>技師(A)</th> <th>技師(B)</th> <th>技師(C)</th> <th>技術員</th> </tr> <tr> <td>概算工事費</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2.5</td> <td>4.0</td> <td>3.0</td> <td>4.5</td> </tr> </table> <p>(注) 1. 見積必要品目がある場合は、実施時点での見積徴収作業を含む。 2. 電子計算機使用料は、直接経費として直接人件費の2%を計上する。 3. 2-3-3標準歩掛等の補正は適用しない。</p>	施工単価コード		DXC14001						(予備設計あり)		(1業務当り)						区分	職種	直接人件費						主任技術者	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	概算工事費				2.5	4.0	3.0	4.5	<p>概算工事費算出の歩掛は次のとおりとする。</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2">施工単価コード</td> <td colspan="6">DXC14001</td> </tr> <tr> <td colspan="2">(予備設計あり)</td> <td colspan="6">(1業務当り)</td> </tr> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">職種</th> <th colspan="6">直接人件費</th> </tr> <tr> <th>主任技術者</th> <th>技師長</th> <th>主任技師</th> <th>技師(A)</th> <th>技師(B)</th> <th>技師(C)</th> <th>技術員</th> </tr> <tr> <td>概算工事費</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.0</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> </tr> </table> <p>(注) 1. 見積必要品目がある場合は、実施時点での見積徴収作業を含む。 2. 電子計算機使用料は、直接経費として直接人件費の2%を計上する。 3. 2-3-3標準歩掛等の補正は適用しない。</p>	施工単価コード		DXC14001						(予備設計あり)		(1業務当り)						区分	職種	直接人件費						主任技術者	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	概算工事費				1.0	2.0	2.0	2.0	概算工事費歩掛の改定
施工単価コード		DXC14001																																																																																
(予備設計あり)		(1業務当り)																																																																																
区分	職種	直接人件費																																																																																
		主任技術者	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員																																																																										
概算工事費				2.5	4.0	3.0	4.5																																																																											
施工単価コード		DXC14001																																																																																
(予備設計あり)		(1業務当り)																																																																																
区分	職種	直接人件費																																																																																
		主任技術者	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員																																																																										
概算工事費				1.0	2.0	2.0	2.0																																																																											
設計編 〔2〕 土木設計業務 等標準歩掛 7. 一般構造物 設計	設標準 - 3 0 (1)	<p>現行なし</p>	<p>7-1-5 概算工事費 (1) 適用範囲 門型ラーメン、現場打・プレキャスト函渠、及び開削共同溝詳細設計における概算工事費算出に適用する。 (2) 標準歩掛 7-1-5-1 概算工事費</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2">施工単価コード</td> <td colspan="6">DXC13000</td> </tr> <tr> <td colspan="2">(予備設計あり)</td> <td colspan="6">(1業務当り)</td> </tr> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">職種</th> <th colspan="6">直接人件費</th> </tr> <tr> <th>主任技術者</th> <th>技師長</th> <th>主任技師</th> <th>技師(A)</th> <th>技師(B)</th> <th>技師(C)</th> <th>技術員</th> </tr> <tr> <td>概算工事費</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td></td> </tr> </table> <p>(注) 1. 見積必要品目がある場合は、実施時点での見積徴収作業を含む。 2. 電子計算機使用料は、直接経費として直接人件費の2%を計上する。 1. 2-3-3標準歩掛等の補正は適用しない。</p> <p>7-2 擁壁：補強土 7-2-1 概算工事費 (1) 適用範囲 逆工式、重力式、モタレ式、井桁式、大型ブロック積、補強土(テールアルメ、多数アンカー式擁壁等)U型、プレキャストU型、及び山留め式擁壁詳細設計における概算工事費算出に適用する。 (2) 標準歩掛 7-2-1-1 概算工事費</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2">施工単価コード</td> <td colspan="6">DXC13100</td> </tr> <tr> <td colspan="2">(予備設計あり)</td> <td colspan="6">(1業務当り)</td> </tr> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">職種</th> <th colspan="6">直接人件費</th> </tr> <tr> <th>主任技術者</th> <th>技師長</th> <th>主任技師</th> <th>技師(A)</th> <th>技師(B)</th> <th>技師(C)</th> <th>技術員</th> </tr> <tr> <td>概算工事費</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(注) 1. 見積必要品目がある場合は、実施時点での見積徴収作業を含む。 2. 電子計算機使用料は、直接経費として直接人件費の2%を計上する。 2. 2-3-3標準歩掛等の補正は適用しない。</p> <p>※新規で1ページ追加となるため、暫定的なページ番号を設定</p>	施工単価コード		DXC13000						(予備設計あり)		(1業務当り)						区分	職種	直接人件費						主任技術者	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	概算工事費				2.0	2.0	2.0		施工単価コード		DXC13100						(予備設計あり)		(1業務当り)						区分	職種	直接人件費						主任技術者	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	概算工事費				1.5	1.5			概算工事費歩掛の追加
施工単価コード		DXC13000																																																																																
(予備設計あり)		(1業務当り)																																																																																
区分	職種	直接人件費																																																																																
		主任技術者	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員																																																																										
概算工事費				2.0	2.0	2.0																																																																												
施工単価コード		DXC13100																																																																																
(予備設計あり)		(1業務当り)																																																																																
区分	職種	直接人件費																																																																																
		主任技術者	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員																																																																										
概算工事費				1.5	1.5																																																																													

土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現行	改定	備考																																	
<p>設計編 〔2〕 土木設計業務 等標準歩掛 7. 一般構造物 設計</p>	<p>設標準 - 30(2)</p>	<p>現行なし</p>	<p>7-3. 法面工 7-3-1. 概算工事費 (1) 適用範囲 場所打ち法枠及びアンカー付き場所打ち法枠詳細設計における概算工事費算出に適用する。 (2) 標準歩掛 7-3-1-1. 概算工事費</p> <table border="1" data-bbox="1554 459 1975 494"> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>DXC13200</td> </tr> </table> <p>(1業務当り)</p> <table border="1" data-bbox="1229 517 1975 628"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="7">職 種</th> </tr> <tr> <th>主任技術者</th> <th>技師長</th> <th>主任技師</th> <th>技師(A)</th> <th>技師(B)</th> <th>技師(C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>概算工事費</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.0</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 見積必要品目がある場合は、実施時点での見積取作業を含む。 2. 電子計算機使用料は、直接経費として直接人件費の2%を計上する。 3. 2-3-3 標準歩掛等の補正は適用しない。</p> <p>※新規で1ページ追加となるため、暫定的なページ番号を設定</p>	施工単価コード	DXC13200	区分	職 種							主任技術者	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	概算工事費				1.0	2.0	2.0		<p>概算工事費 歩掛の追加</p>								
施工単価コード	DXC13200																																				
区分	職 種																																				
	主任技術者	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員																														
概算工事費				1.0	2.0	2.0																															
<p>設計編 〔2〕 土木設計業務 等標準歩掛 8. 橋梁設計</p>	<p>設標準 - 47</p>	<p>8. 橋梁設計 8-3 橋断歩道橋詳細設計 橋断歩道橋詳細設計における作業区分は以下のとおりとする。</p> <table border="1" data-bbox="427 932 1128 1342"> <thead> <tr> <th>作業区分</th> <th>作 業 の 範 囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設計計画</td> <td> <p>1) 設計計画 業務目的・主旨を把握したうえで、設計図書に示す業務内容を確認し、以下の計画、◎成果 る主な図書及 計画、◎その</p> <p>設計図書に示された道路の幾何構造、荷重条件等設計施工上の基本条件を確認し、当該設計用に整理する。</p> <p>3) 設計細部事項の検討 使用材料、地盤定数、支承条件、構造細目、付属物の形式など詳細設計に当たり必要な細部条件について技術的検討を加えたうえで、これを当該設計用に整理す</p> </td> </tr> </tbody> </table> <p>現行なし</p>	作業区分	作 業 の 範 囲	設計計画	<p>1) 設計計画 業務目的・主旨を把握したうえで、設計図書に示す業務内容を確認し、以下の計画、◎成果 る主な図書及 計画、◎その</p> <p>設計図書に示された道路の幾何構造、荷重条件等設計施工上の基本条件を確認し、当該設計用に整理する。</p> <p>3) 設計細部事項の検討 使用材料、地盤定数、支承条件、構造細目、付属物の形式など詳細設計に当たり必要な細部条件について技術的検討を加えたうえで、これを当該設計用に整理す</p>	<p>8. 橋梁設計 8-2 橋梁詳細設計 8-2-2-1. 概算工事費 (1) 適用範囲 橋梁詳細設計(橋梁撤去、土留工、及び仮橋・仮橋詳細設計を含む)における概算工事費算出に適用する。 (2) 標準歩掛 7-1-5-1. 概算工事費</p> <table border="1" data-bbox="1554 1034 1975 1069"> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>DXC13500</td> </tr> </table> <p>(1業務当り)</p> <table border="1" data-bbox="1240 1091 1975 1187"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="7">職 種</th> </tr> <tr> <th>主任技術者</th> <th>技師長</th> <th>主任技師</th> <th>技師(A)</th> <th>技師(B)</th> <th>技師(C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>概算工事費</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.5</td> <td>5.0</td> <td>7.0</td> <td>6.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 見積必要品目がある場合は、実施時点での見積取作業を含む。 2. 電子計算機使用料は、直接経費として直接人件費の2%を計上する。 4. 2-3-3 標準歩掛等の補正は適用しない。</p> <p>8-3 橋断歩道橋詳細設計 橋断歩道橋詳細設計における作業区分は以下のとおりとする。</p> <table border="1" data-bbox="1234 1337 1951 1437"> <thead> <tr> <th>作業区分</th> <th>作 業 の 範 囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設計計画</td> <td> <p>1) 設計計画 業務目的・主旨を把握したうえで、設計図書に示す業務内容を確認し、以下の項目について記載した業務計画書を作成する。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	施工単価コード	DXC13500	区分	職 種							主任技術者	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	概算工事費				1.5	5.0	7.0	6.0	作業区分	作 業 の 範 囲	設計計画	<p>1) 設計計画 業務目的・主旨を把握したうえで、設計図書に示す業務内容を確認し、以下の項目について記載した業務計画書を作成する。</p>	<p>概算工事費 歩掛の追加</p>
作業区分	作 業 の 範 囲																																				
設計計画	<p>1) 設計計画 業務目的・主旨を把握したうえで、設計図書に示す業務内容を確認し、以下の計画、◎成果 る主な図書及 計画、◎その</p> <p>設計図書に示された道路の幾何構造、荷重条件等設計施工上の基本条件を確認し、当該設計用に整理する。</p> <p>3) 設計細部事項の検討 使用材料、地盤定数、支承条件、構造細目、付属物の形式など詳細設計に当たり必要な細部条件について技術的検討を加えたうえで、これを当該設計用に整理す</p>																																				
施工単価コード	DXC13500																																				
区分	職 種																																				
	主任技術者	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員																														
概算工事費				1.5	5.0	7.0	6.0																														
作業区分	作 業 の 範 囲																																				
設計計画	<p>1) 設計計画 業務目的・主旨を把握したうえで、設計図書に示す業務内容を確認し、以下の項目について記載した業務計画書を作成する。</p>																																				

土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
設計編 〔2〕 土木設計業務 等標準歩掛 14. 河川構造物 設計	設標準 ー87	<p>14-1-3-2 標準歩掛(電算プログラム使用) 本歩掛は、設計条件が全て整備されており、各構造物の応力計算より、数量計算まで、全て電算プログラムにより処理する場合に適用する。</p> <p>14-1-3-2-1 樋門詳細設計(柔構造形式(電算タイプ))</p> <table border="1"> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>DXC44005~DXC44031</td> </tr> <tr> <td>概算工事費</td> <td>DXC48500</td> </tr> </table> <p>標準 RC構造:一連当り断面積2m²以上7m²以下×1連×4.0m (1箇所当り)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">職 種</th> <th colspan="5">直 接 人 件 費</th> </tr> <tr> <th>技師長</th> <th>主任技師</th> <th>技師A</th> <th>技師B</th> <th>技師C</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設計計画</td> <td></td> <td></td> <td>0.5</td> <td>2.0</td> <td>1.0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現地踏査</td> <td></td> <td></td> <td>0.5</td> <td>1.0</td> <td>1.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基本事項の決定</td> <td></td> <td>1.0</td> <td>2.5</td> <td>4.5</td> <td>7.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">景観設計</td> <td>普通の検討</td> <td></td> <td>1.0</td> <td>1.5</td> <td>2.0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特別の検討</td> <td></td> <td>1.5</td> <td>3.0</td> <td>5.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="6">構造設計</td> <td>設計条件の確認</td> <td></td> <td>1.0</td> <td>2.0</td> <td>3.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基礎工</td> <td></td> <td>2.0</td> <td>4.0</td> <td>8.5</td> <td>3.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高水護岸・低水護岸及び土工</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2.0</td> <td>3.5</td> <td>5.0</td> </tr> <tr> <td>呑口部修正</td> <td></td> <td>0.6</td> <td>1.3</td> <td>1.3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>吐口部修正</td> <td></td> <td>0.6</td> <td>1.3</td> <td>1.3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>地盤処理工(置換基礎)</td> <td></td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>3.0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">施工計画</td> <td>地盤処理工以外</td> <td></td> <td>1.0</td> <td>1.5</td> <td>5.0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>地盤処理工(置換基礎)</td> <td></td> <td>0.5</td> <td>1.5</td> <td>2.0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>仮設構造物設計</td> <td></td> <td></td> <td>1.0</td> <td>2.5</td> <td>5.0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>数量計算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.2</td> <td>2.8</td> <td>4.6</td> </tr> <tr> <td>パース作成</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.0</td> <td>3.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>照 査</td> <td></td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>2.0</td> <td>3.3</td> <td>2.3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>報告書作成</td> <td></td> <td></td> <td>1.5</td> <td>3.0</td> <td>3.5</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(注)1. 予備設計を行わないで詳細設計を行う場合は、「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 14-1-1 適用範囲及び留意事項の(5)」によるものとする。 2. 呑口・吐口の設計については、電算プログラムで対応できるタイプ以外のコンクリート構造の呑吐口について計上すること。 3. 基礎杭の設計を必要とする場合は別途計上すること。 4. 景観設計の「普通の検討」と「特別の検討」の区分は「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 14-1-3 樋門詳細設計の(1)」によるものとする。 5. 仮設構造物設計には、鋼矢板式二重締切堤は含まれないものとする。 6. 電算プログラム使用料として「14-1-3-2-3 電算プログラム使用による設計費」を別途計上すること。(電算機使用料(直接人件費の2%)は計上しない) 7. 標準歩掛の補正は「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 14-1-4 標準歩掛の補正」によるものとする。 8. パース作成は必要に応じて計上する。 9. 照査には、赤黄チェックによる照査も含む。</p>	施工単価コード	DXC44005~DXC44031	概算工事費	DXC48500	区分	職 種	直 接 人 件 費					技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員	設計計画			0.5	2.0	1.0			現地踏査			0.5	1.0	1.5			基本事項の決定		1.0	2.5	4.5	7.5			景観設計	普通の検討		1.0	1.5	2.0			特別の検討		1.5	3.0	5.5			構造設計	設計条件の確認		1.0	2.0	3.5			基礎工		2.0	4.0	8.5	3.0		高水護岸・低水護岸及び土工				2.0	3.5	5.0	呑口部修正		0.6	1.3	1.3			吐口部修正		0.6	1.3	1.3			地盤処理工(置換基礎)		1.0	1.0	3.0			施工計画	地盤処理工以外		1.0	1.5	5.0			地盤処理工(置換基礎)		0.5	1.5	2.0			仮設構造物設計			1.0	2.5	5.0			数量計算					1.2	2.8	4.6	パース作成				1.0	3.5			照 査		1.0	1.0	2.0	3.3	2.3		報告書作成			1.5	3.0	3.5			<p>14-1-3-2 標準歩掛(電算プログラム使用) 本歩掛は、設計条件が全て整備されており、各構造物の応力計算より、数量計算まで、全て電算プログラムにより処理する場合に適用する。</p> <p>14-1-3-2-1 樋門詳細設計(柔構造形式(電算タイプ))</p> <table border="1"> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>DXC44005~DXC44031</td> </tr> <tr> <td>概算工事費</td> <td>DXC48500</td> </tr> </table> <p>標準 RC構造:一連当り断面積2m²以上7m²以下×1連×4.0m (1箇所当り)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">職 種</th> <th colspan="5">直 接 人 件 費</th> </tr> <tr> <th>技師長</th> <th>主任技師</th> <th>技師A</th> <th>技師B</th> <th>技師C</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設計計画</td> <td></td> <td></td> <td>0.5</td> <td>2.0</td> <td>1.0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現地踏査</td> <td></td> <td></td> <td>0.5</td> <td>1.0</td> <td>1.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基本事項の決定</td> <td></td> <td>1.0</td> <td>2.5</td> <td>4.5</td> <td>7.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">景観設計</td> <td>普通の検討</td> <td></td> <td>1.0</td> <td>1.5</td> <td>2.0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特別の検討</td> <td></td> <td>1.5</td> <td>3.0</td> <td>5.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="6">構造設計</td> <td>設計条件の確認</td> <td></td> <td>1.0</td> <td>2.0</td> <td>3.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基礎工</td> <td></td> <td>2.0</td> <td>4.0</td> <td>8.5</td> <td>3.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高水護岸・低水護岸及び土工</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2.0</td> <td>3.5</td> <td>5.0</td> </tr> <tr> <td>呑口部修正</td> <td></td> <td>0.6</td> <td>1.3</td> <td>1.3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>吐口部修正</td> <td></td> <td>0.6</td> <td>1.3</td> <td>1.3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>地盤処理工(置換基礎)</td> <td></td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>3.0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">施工計画</td> <td>地盤処理工以外</td> <td></td> <td>1.0</td> <td>1.5</td> <td>5.0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>地盤処理工(置換基礎)</td> <td></td> <td>0.5</td> <td>1.5</td> <td>2.0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>仮設構造物設計</td> <td></td> <td></td> <td>1.0</td> <td>2.5</td> <td>5.0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>数量計算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.2</td> <td>2.8</td> <td>4.6</td> </tr> <tr> <td>パース作成</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.0</td> <td>3.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>照 査</td> <td></td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>2.0</td> <td>3.3</td> <td>2.3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>報告書作成</td> <td></td> <td></td> <td>1.5</td> <td>3.0</td> <td>3.5</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>概算工事費「14-1.0 河川・砂防構造物詳細設計概算工事費算出」による。</p> <p>(注)1. 予備設計を行わないで詳細設計を行う場合は、「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 14-1-1 適用範囲及び留意事項の(5)」によるものとする。 2. 呑口・吐口の設計については、電算プログラムで対応できるタイプ以外のコンクリート構造の呑吐口について計上すること。 3. 基礎杭の設計を必要とする場合は別途計上すること。 4. 景観設計の「普通の検討」と「特別の検討」の区分は「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 14-1-3 樋門詳細設計の(1)」によるものとする。 5. 仮設構造物設計には、鋼矢板式二重締切堤は含まれないものとする。 6. 電算プログラム使用料として「14-1-3-2-3 電算プログラム使用による設計費」を別途計上すること。(電算機使用料(直接人件費の2%)は計上しない) 7. 標準歩掛の補正は「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 14-1-4 標準歩掛の補正」によるものとする。 8. パース作成は必要に応じて計上する。 9. 照査には、赤黄チェックによる照査も含む。</p>	施工単価コード	DXC44005~DXC44031	概算工事費	DXC48500	区分	職 種	直 接 人 件 費					技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員	設計計画			0.5	2.0	1.0			現地踏査			0.5	1.0	1.5			基本事項の決定		1.0	2.5	4.5	7.5			景観設計	普通の検討		1.0	1.5	2.0			特別の検討		1.5	3.0	5.5			構造設計	設計条件の確認		1.0	2.0	3.5			基礎工		2.0	4.0	8.5	3.0		高水護岸・低水護岸及び土工				2.0	3.5	5.0	呑口部修正		0.6	1.3	1.3			吐口部修正		0.6	1.3	1.3			地盤処理工(置換基礎)		1.0	1.0	3.0			施工計画	地盤処理工以外		1.0	1.5	5.0			地盤処理工(置換基礎)		0.5	1.5	2.0			仮設構造物設計			1.0	2.5	5.0			数量計算					1.2	2.8	4.6	パース作成				1.0	3.5			照 査		1.0	1.0	2.0	3.3	2.3		報告書作成			1.5	3.0	3.5			概算工事費 歩掛の追加
施工単価コード	DXC44005~DXC44031																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
概算工事費	DXC48500																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
区分	職 種	直 接 人 件 費																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
		技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
設計計画			0.5	2.0	1.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
現地踏査			0.5	1.0	1.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
基本事項の決定		1.0	2.5	4.5	7.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
景観設計	普通の検討		1.0	1.5	2.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	特別の検討		1.5	3.0	5.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
構造設計	設計条件の確認		1.0	2.0	3.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	基礎工		2.0	4.0	8.5	3.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	高水護岸・低水護岸及び土工				2.0	3.5	5.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	呑口部修正		0.6	1.3	1.3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	吐口部修正		0.6	1.3	1.3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	地盤処理工(置換基礎)		1.0	1.0	3.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
施工計画	地盤処理工以外		1.0	1.5	5.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	地盤処理工(置換基礎)		0.5	1.5	2.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
仮設構造物設計			1.0	2.5	5.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
数量計算					1.2	2.8	4.6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
パース作成				1.0	3.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
照 査		1.0	1.0	2.0	3.3	2.3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
報告書作成			1.5	3.0	3.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
施工単価コード	DXC44005~DXC44031																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
概算工事費	DXC48500																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
区分	職 種	直 接 人 件 費																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
		技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
設計計画			0.5	2.0	1.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
現地踏査			0.5	1.0	1.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
基本事項の決定		1.0	2.5	4.5	7.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
景観設計	普通の検討		1.0	1.5	2.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	特別の検討		1.5	3.0	5.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
構造設計	設計条件の確認		1.0	2.0	3.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	基礎工		2.0	4.0	8.5	3.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	高水護岸・低水護岸及び土工				2.0	3.5	5.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	呑口部修正		0.6	1.3	1.3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	吐口部修正		0.6	1.3	1.3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	地盤処理工(置換基礎)		1.0	1.0	3.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
施工計画	地盤処理工以外		1.0	1.5	5.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	地盤処理工(置換基礎)		0.5	1.5	2.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
仮設構造物設計			1.0	2.5	5.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
数量計算					1.2	2.8	4.6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
パース作成				1.0	3.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
照 査		1.0	1.0	2.0	3.3	2.3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
報告書作成			1.5	3.0	3.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			

土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現行	改定	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
設計編 〔2〕 土木設計業務 等標準歩掛 14. 河川構造物 設計	設標準 - 88	14-1-3-2-2 橋門詳細設計(剛支持直接基礎(電算タイプ)) <table border="1"> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>DXC44041~DXC44221</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">標準 R/C構造:一連当り断面積5m²以下×1連×2スパン (1箇所当り)</td> </tr> <tr> <th colspan="2">職 種</th> <th colspan="6">直 接 人 件 費</th> </tr> <tr> <th>区 分</th> <th></th> <th>技師長</th> <th>主任技師</th> <th>技師A</th> <th>技師B</th> <th>技師C</th> <th>技術員</th> </tr> <tr> <td>設計計画</td> <td></td> <td></td> <td>0.5</td> <td>2.0</td> <td>1.0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現地踏査</td> <td></td> <td></td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>1.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基本事項の決定</td> <td></td> <td>1.0</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>3.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">景観設計</td> <td>普通の検討</td> <td></td> <td>1.0</td> <td>1.5</td> <td>2.0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特別の検討</td> <td></td> <td>1.5</td> <td>3.0</td> <td>5.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="7">構造設計</td> <td>設計条件の確認</td> <td></td> <td>1.0</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基礎工</td> <td></td> <td></td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>3.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>躯体工</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.3</td> <td>2.6</td> <td>4.8</td> </tr> <tr> <td>高水護岸・低水護岸及び土工</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2.0</td> <td>3.5</td> <td>5.0</td> </tr> <tr> <td>呑口部修正</td> <td></td> <td>0.6</td> <td>1.3</td> <td>1.3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>吐口部修正</td> <td></td> <td>0.6</td> <td>1.3</td> <td>1.3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>地盤処理工(置換基礎)</td> <td></td> <td>1.0</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td>0.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">施工計画</td> <td>地盤処理工以外</td> <td></td> <td>1.0</td> <td>1.5</td> <td>2.5</td> <td>2.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地盤処理工(置換基礎)</td> <td></td> <td></td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>仮設構造物設計</td> <td></td> <td></td> <td>1.0</td> <td>2.5</td> <td>4.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>数量計算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.3</td> <td>2.3</td> <td>3.8</td> </tr> <tr> <td colspan="8"><hr/></td> </tr> <tr> <td>パース作成</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.0</td> <td>3.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>照査</td> <td></td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> <td>2.0</td> <td>3.6</td> <td>2.6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>報告書作成</td> <td></td> <td></td> <td>1.5</td> <td>3.0</td> <td>3.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>2.5</td> <td>11.2</td> <td>23.1</td> <td>36.8</td> <td>16.5</td> <td>13.6</td> </tr> </table>	施工単価コード	DXC44041~DXC44221	標準 R/C構造:一連当り断面積5m ² 以下×1連×2スパン (1箇所当り)		職 種		直 接 人 件 費						区 分		技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員	設計計画			0.5	2.0	1.0			現地踏査			1.0	1.0	1.5			基本事項の決定		1.0	2.0	2.0	3.5			景観設計	普通の検討		1.0	1.5	2.0			特別の検討		1.5	3.0	5.5			構造設計	設計条件の確認		1.0	2.0	2.0			基礎工			2.0	2.0	3.0		躯体工				1.3	2.6	4.8	高水護岸・低水護岸及び土工				2.0	3.5	5.0	呑口部修正		0.6	1.3	1.3			吐口部修正		0.6	1.3	1.3			地盤処理工(置換基礎)		1.0	1.5	1.5	0.5		施工計画	地盤処理工以外		1.0	1.5	2.5	2.5		地盤処理工(置換基礎)			1.0	1.0	1.0		仮設構造物設計			1.0	2.5	4.5			数量計算					1.3	2.3	3.8	<hr/>								パース作成				1.0	3.5			照査		1.5	1.0	2.0	3.6	2.6		報告書作成			1.5	3.0	3.5			合計		2.5	11.2	23.1	36.8	16.5	13.6	14-1-3-2-2 橋門詳細設計(剛支持直接基礎(電算タイプ)) <table border="1"> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>DXC44041~DXC44221</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">標準 R/C構造:一連当り断面積5m²以下×1連×2スパン (1箇所当り)</td> </tr> <tr> <th colspan="2">職 種</th> <th colspan="6">直 接 人 件 費</th> </tr> <tr> <th>区 分</th> <th></th> <th>技師長</th> <th>主任技師</th> <th>技師A</th> <th>技師B</th> <th>技師C</th> <th>技術員</th> </tr> <tr> <td>設計計画</td> <td></td> <td></td> <td>0.5</td> <td>2.0</td> <td>1.0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現地踏査</td> <td></td> <td></td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>1.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基本事項の決定</td> <td></td> <td>1.0</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>3.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">景観設計</td> <td>普通の検討</td> <td></td> <td>1.0</td> <td>1.5</td> <td>2.0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特別の検討</td> <td></td> <td>1.5</td> <td>3.0</td> <td>5.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="7">構造設計</td> <td>設計条件の確認</td> <td></td> <td>1.0</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基礎工</td> <td></td> <td></td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>3.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>躯体工</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.3</td> <td>2.6</td> <td>4.8</td> </tr> <tr> <td>高水護岸・低水護岸及び土工</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2.0</td> <td>3.5</td> <td>5.0</td> </tr> <tr> <td>呑口部修正</td> <td></td> <td>0.6</td> <td>1.3</td> <td>1.3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>吐口部修正</td> <td></td> <td>0.6</td> <td>1.3</td> <td>1.3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>地盤処理工(置換基礎)</td> <td></td> <td>1.0</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td>0.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">施工計画</td> <td>地盤処理工以外</td> <td></td> <td>1.0</td> <td>1.5</td> <td>2.5</td> <td>2.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地盤処理工(置換基礎)</td> <td></td> <td></td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>仮設構造物設計</td> <td></td> <td></td> <td>1.0</td> <td>2.5</td> <td>4.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>数量計算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.3</td> <td>2.3</td> <td>3.8</td> </tr> <tr> <td colspan="8"><hr/></td> </tr> <tr> <td>パース作成</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.0</td> <td>3.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>照査</td> <td></td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> <td>2.0</td> <td>3.6</td> <td>2.6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>報告書作成</td> <td></td> <td></td> <td>1.5</td> <td>3.0</td> <td>3.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>2.5</td> <td>11.2</td> <td>23.1</td> <td>36.8</td> <td>16.5</td> <td>13.6</td> </tr> </table> <p>概算工事費 歩掛の追加</p>	施工単価コード	DXC44041~DXC44221	標準 R/C構造:一連当り断面積5m ² 以下×1連×2スパン (1箇所当り)		職 種		直 接 人 件 費						区 分		技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員	設計計画			0.5	2.0	1.0			現地踏査			1.0	1.0	1.5			基本事項の決定		1.0	2.0	2.0	3.5			景観設計	普通の検討		1.0	1.5	2.0			特別の検討		1.5	3.0	5.5			構造設計	設計条件の確認		1.0	2.0	2.0			基礎工			2.0	2.0	3.0		躯体工				1.3	2.6	4.8	高水護岸・低水護岸及び土工				2.0	3.5	5.0	呑口部修正		0.6	1.3	1.3			吐口部修正		0.6	1.3	1.3			地盤処理工(置換基礎)		1.0	1.5	1.5	0.5		施工計画	地盤処理工以外		1.0	1.5	2.5	2.5		地盤処理工(置換基礎)			1.0	1.0	1.0		仮設構造物設計			1.0	2.5	4.5			数量計算					1.3	2.3	3.8	<hr/>								パース作成				1.0	3.5			照査		1.5	1.0	2.0	3.6	2.6		報告書作成			1.5	3.0	3.5			合計		2.5	11.2	23.1	36.8	16.5	13.6	概算工事費 歩掛の追加 による 適用の追加
		施工単価コード	DXC44041~DXC44221																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
標準 R/C構造:一連当り断面積5m ² 以下×1連×2スパン (1箇所当り)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
職 種		直 接 人 件 費																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
区 分		技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
設計計画			0.5	2.0	1.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
現地踏査			1.0	1.0	1.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
基本事項の決定		1.0	2.0	2.0	3.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
景観設計	普通の検討		1.0	1.5	2.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	特別の検討		1.5	3.0	5.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
構造設計	設計条件の確認		1.0	2.0	2.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	基礎工			2.0	2.0	3.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	躯体工				1.3	2.6	4.8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	高水護岸・低水護岸及び土工				2.0	3.5	5.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	呑口部修正		0.6	1.3	1.3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	吐口部修正		0.6	1.3	1.3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	地盤処理工(置換基礎)		1.0	1.5	1.5	0.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
施工計画	地盤処理工以外		1.0	1.5	2.5	2.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	地盤処理工(置換基礎)			1.0	1.0	1.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
仮設構造物設計			1.0	2.5	4.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
数量計算					1.3	2.3	3.8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
<hr/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
パース作成				1.0	3.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
照査		1.5	1.0	2.0	3.6	2.6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
報告書作成			1.5	3.0	3.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
合計		2.5	11.2	23.1	36.8	16.5	13.6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
施工単価コード	DXC44041~DXC44221																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
標準 R/C構造:一連当り断面積5m ² 以下×1連×2スパン (1箇所当り)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
職 種		直 接 人 件 費																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
区 分		技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
設計計画			0.5	2.0	1.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
現地踏査			1.0	1.0	1.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
基本事項の決定		1.0	2.0	2.0	3.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
景観設計	普通の検討		1.0	1.5	2.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	特別の検討		1.5	3.0	5.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
構造設計	設計条件の確認		1.0	2.0	2.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	基礎工			2.0	2.0	3.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	躯体工				1.3	2.6	4.8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	高水護岸・低水護岸及び土工				2.0	3.5	5.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	呑口部修正		0.6	1.3	1.3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	吐口部修正		0.6	1.3	1.3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	地盤処理工(置換基礎)		1.0	1.5	1.5	0.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
施工計画	地盤処理工以外		1.0	1.5	2.5	2.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	地盤処理工(置換基礎)			1.0	1.0	1.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
仮設構造物設計			1.0	2.5	4.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
数量計算					1.3	2.3	3.8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
<hr/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
パース作成				1.0	3.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
照査		1.5	1.0	2.0	3.6	2.6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
報告書作成			1.5	3.0	3.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
合計		2.5	11.2	23.1	36.8	16.5	13.6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
設計編 〔2〕 土木設計業務 等標準歩掛 14. 河川構造物 設計	設標準 - 91	現行なし	14-1-3-2-2 橋門詳細設計(剛支持直接基礎(電算タイプ)) 〔14-1-3-2-2〕 概算工事費 〔14-1-3-2-2〕 河川:砂防構造物詳細設計概算工事費算出〕によるものとする。 〔施工単価コード:DXC48500〕	概算工事費 歩掛の追加 による 適用の追加																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								

土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																																								
設計編 〔2〕 土木設計業務 等標準歩掛 14. 河川構造物 設計	設標準 -100	<p>14-3-3-2</p> <p>14-3-3-2-1 概算工事費</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2">施工単価コード</td> <td colspan="6">DXC40210</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="6">(1業務当り)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">区 分</td> <td>職 種</td> <td colspan="6">直 接 人 件 費</td> </tr> <tr> <td></td> <td>主、任 技術者</td> <td>技師長</td> <td>主、任 技 師</td> <td>技 師 (A)</td> <td>技 師 (B)</td> <td>技 師 (C)</td> <td>技術員</td> </tr> <tr> <td></td> <td>概 算 工 事 費</td> <td></td> <td></td> <td>1.4</td> <td>5.4</td> <td>9.3</td> <td></td> </tr> </table> <p>(注) 1. 見積必要品目がある場合は、実施時点での見積撤収作業を含む。 2. 14-3-4 標準歩掛の補正は適用しない。</p>	施工単価コード		DXC40210								(1業務当り)						区 分	職 種	直 接 人 件 費							主、任 技術者	技師長	主、任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員		概 算 工 事 費			1.4	5.4	9.3		<p>14-3-3-2 概算工事費</p> <p>「14-10 河川・砂防構造物詳細設計概算工事費算出」によるものとする。 (施工単価コード：DXC48500)</p>	概算工事費 歩掛の新設 に伴う 既存歩掛の 廃止
施工単価コード		DXC40210																																										
		(1業務当り)																																										
区 分	職 種	直 接 人 件 費																																										
		主、任 技術者	技師長	主、任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員																																				
	概 算 工 事 費			1.4	5.4	9.3																																						
設計編 〔2〕 土木設計業務 等標準歩掛 14. 河川構造物 設計	設標準 -122	<p>14-6-2-3 自動開閉樋門詳細設計(柔構造形式・剛支持直接基礎)</p> <p>14-6-2-3-1 作業区分 自動開閉樋門詳細設計歩掛における作業区分は以下のとおりとする。</p> <table border="1"> <tr> <th>作業区分</th> <th>作 業 の 範 囲</th> </tr> <tr> <td>設 計 計 画</td> <td>業務の目的・主旨を把握したうえで、設計図書に示す業務内容を確認し、業務計画書を作成する。</td> </tr> <tr> <td>現 地 踏 査</td> <td>貸与資料を基に現地踏査を行い、現況施設の状況、予定地周辺の河川の状況、地形、地質、近接構造物及び土地利用状況・河川の利用形態等を把握し、合わせて工事用道路、仮排水路、施工ヤード等の施工の観点から現地状況を把握し整理する。</td> </tr> <tr> <td>基本事項の決定</td> <td>予備設計等の貸与資料、設計図書及び指示事項等に基づき、詳細設計で決定する事項を整理し、施設、配置計画、断面、基礎地盤の沈下・変位量、地盤対策工及び面材、面軸構造形式、スパン割り、継手形式を検討する。</td> </tr> </table> <p>~~~~~</p> <table border="1"> <tr> <td>施 工 計 画</td> <td>堤防開削、本堤築造及びそれに伴う仮締切の構造・撤去等の工事の順序と施工法を検討する。</td> </tr> <tr> <td>施 工 計 画 (地盤処理工置換基礎)</td> <td>地盤処理工(置換基礎)の工事順序と施工法を検討する。</td> </tr> <tr> <td>仮設構造物設計</td> <td>施工計画により必要となる仮設構造物(仮締切、仮排水路、工事用道路及び山留工等)の規模、構造諸元を近接構造物への影響を考慮して、水理計算、安定計算及び構造計算により決定し、仮設計画を策定する。</td> </tr> <tr> <td>数 量 計 算</td> <td>数量算出要領に基づき、工種別、区間別に数量のとりまとめを行う。</td> </tr> </table>	作業区分	作 業 の 範 囲	設 計 計 画	業務の目的・主旨を把握したうえで、設計図書に示す業務内容を確認し、業務計画書を作成する。	現 地 踏 査	貸与資料を基に現地踏査を行い、現況施設の状況、予定地周辺の河川の状況、地形、地質、近接構造物及び土地利用状況・河川の利用形態等を把握し、合わせて工事用道路、仮排水路、施工ヤード等の施工の観点から現地状況を把握し整理する。	基本事項の決定	予備設計等の貸与資料、設計図書及び指示事項等に基づき、詳細設計で決定する事項を整理し、施設、配置計画、断面、基礎地盤の沈下・変位量、地盤対策工及び面材、面軸構造形式、スパン割り、継手形式を検討する。	施 工 計 画	堤防開削、本堤築造及びそれに伴う仮締切の構造・撤去等の工事の順序と施工法を検討する。	施 工 計 画 (地盤処理工置換基礎)	地盤処理工(置換基礎)の工事順序と施工法を検討する。	仮設構造物設計	施工計画により必要となる仮設構造物(仮締切、仮排水路、工事用道路及び山留工等)の規模、構造諸元を近接構造物への影響を考慮して、水理計算、安定計算及び構造計算により決定し、仮設計画を策定する。	数 量 計 算	数量算出要領に基づき、工種別、区間別に数量のとりまとめを行う。	<p>14-6-2-3 自動開閉樋門詳細設計(柔構造形式・剛支持直接基礎)</p> <p>14-6-2-3-1 作業区分 自動開閉樋門詳細設計歩掛における作業区分は以下のとおりとする。</p> <table border="1"> <tr> <th>作業区分</th> <th>作 業 の 範 囲</th> </tr> <tr> <td>設 計 計 画</td> <td>業務の目的・主旨を把握したうえで、設計図書に示す業務内容を確認し、業務計画書を作成する。</td> </tr> <tr> <td>現 地 踏 査</td> <td>貸与資料を基に現地踏査を行い、現況施設の状況、予定地周辺の河川の状況、地形、地質、近接構造物及び土地利用状況・河川の利用形態等を把握し、合わせて工事用道路、仮排水路、施工ヤード等の施工の観点から現地状況を把握し整理する。</td> </tr> <tr> <td>基本事項の決定</td> <td>予備設計等の貸与資料、設計図書及び指示事項等に基づき、詳細設計で決定する事項を整理し、施設、配置計画、断面、基礎地盤の沈下・変位量、地盤対策工及び面材、面軸構造形式、スパン割り、継手形式を検討する。</td> </tr> </table> <p>~~~~~</p> <table border="1"> <tr> <td>施 工 計 画</td> <td>堤防開削、本堤築造及びそれに伴う仮締切の構造・撤去等の工事の順序と施工法を検討する。</td> </tr> <tr> <td>施 工 計 画 (地盤処理工置換基礎)</td> <td>地盤処理工(置換基礎)の工事順序と施工法を検討する。</td> </tr> <tr> <td>仮設構造物設計</td> <td>施工計画により必要となる仮設構造物(仮締切、仮排水路、工事用道路及び山留工等)の規模、構造諸元を近接構造物への影響を考慮して、水理計算、安定計算及び構造計算により決定し、仮設計画を策定する。</td> </tr> <tr> <td>数 量 計 算</td> <td>数量算出要領に基づき、工種別、区間別に数量のとりまとめを行う。</td> </tr> </table> <p>概 算 工 事 費 詳細設計として作成した設計図及び数量等に基づき概算工事費を算出する。</p>	作業区分	作 業 の 範 囲	設 計 計 画	業務の目的・主旨を把握したうえで、設計図書に示す業務内容を確認し、業務計画書を作成する。	現 地 踏 査	貸与資料を基に現地踏査を行い、現況施設の状況、予定地周辺の河川の状況、地形、地質、近接構造物及び土地利用状況・河川の利用形態等を把握し、合わせて工事用道路、仮排水路、施工ヤード等の施工の観点から現地状況を把握し整理する。	基本事項の決定	予備設計等の貸与資料、設計図書及び指示事項等に基づき、詳細設計で決定する事項を整理し、施設、配置計画、断面、基礎地盤の沈下・変位量、地盤対策工及び面材、面軸構造形式、スパン割り、継手形式を検討する。	施 工 計 画	堤防開削、本堤築造及びそれに伴う仮締切の構造・撤去等の工事の順序と施工法を検討する。	施 工 計 画 (地盤処理工置換基礎)	地盤処理工(置換基礎)の工事順序と施工法を検討する。	仮設構造物設計	施工計画により必要となる仮設構造物(仮締切、仮排水路、工事用道路及び山留工等)の規模、構造諸元を近接構造物への影響を考慮して、水理計算、安定計算及び構造計算により決定し、仮設計画を策定する。	数 量 計 算	数量算出要領に基づき、工種別、区間別に数量のとりまとめを行う。	概算工事費 歩掛の追加 に伴う 作業区分の 追加								
作業区分	作 業 の 範 囲																																											
設 計 計 画	業務の目的・主旨を把握したうえで、設計図書に示す業務内容を確認し、業務計画書を作成する。																																											
現 地 踏 査	貸与資料を基に現地踏査を行い、現況施設の状況、予定地周辺の河川の状況、地形、地質、近接構造物及び土地利用状況・河川の利用形態等を把握し、合わせて工事用道路、仮排水路、施工ヤード等の施工の観点から現地状況を把握し整理する。																																											
基本事項の決定	予備設計等の貸与資料、設計図書及び指示事項等に基づき、詳細設計で決定する事項を整理し、施設、配置計画、断面、基礎地盤の沈下・変位量、地盤対策工及び面材、面軸構造形式、スパン割り、継手形式を検討する。																																											
施 工 計 画	堤防開削、本堤築造及びそれに伴う仮締切の構造・撤去等の工事の順序と施工法を検討する。																																											
施 工 計 画 (地盤処理工置換基礎)	地盤処理工(置換基礎)の工事順序と施工法を検討する。																																											
仮設構造物設計	施工計画により必要となる仮設構造物(仮締切、仮排水路、工事用道路及び山留工等)の規模、構造諸元を近接構造物への影響を考慮して、水理計算、安定計算及び構造計算により決定し、仮設計画を策定する。																																											
数 量 計 算	数量算出要領に基づき、工種別、区間別に数量のとりまとめを行う。																																											
作業区分	作 業 の 範 囲																																											
設 計 計 画	業務の目的・主旨を把握したうえで、設計図書に示す業務内容を確認し、業務計画書を作成する。																																											
現 地 踏 査	貸与資料を基に現地踏査を行い、現況施設の状況、予定地周辺の河川の状況、地形、地質、近接構造物及び土地利用状況・河川の利用形態等を把握し、合わせて工事用道路、仮排水路、施工ヤード等の施工の観点から現地状況を把握し整理する。																																											
基本事項の決定	予備設計等の貸与資料、設計図書及び指示事項等に基づき、詳細設計で決定する事項を整理し、施設、配置計画、断面、基礎地盤の沈下・変位量、地盤対策工及び面材、面軸構造形式、スパン割り、継手形式を検討する。																																											
施 工 計 画	堤防開削、本堤築造及びそれに伴う仮締切の構造・撤去等の工事の順序と施工法を検討する。																																											
施 工 計 画 (地盤処理工置換基礎)	地盤処理工(置換基礎)の工事順序と施工法を検討する。																																											
仮設構造物設計	施工計画により必要となる仮設構造物(仮締切、仮排水路、工事用道路及び山留工等)の規模、構造諸元を近接構造物への影響を考慮して、水理計算、安定計算及び構造計算により決定し、仮設計画を策定する。																																											
数 量 計 算	数量算出要領に基づき、工種別、区間別に数量のとりまとめを行う。																																											

土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現行	改定	備考																																																																																																																																																																												
設計編 〔2〕 土木設計業務 等標準歩掛 14. 河川構造物 設計	設標準 -123	<p>14-6-2-3-2 標準歩掛(自動開閉樋門詳細設計(柔構造形式)) 14-6-2-3-2-1 自動開閉樋門詳細設計(柔構造形式)</p> <p>施工単価コード DXC45065 ~ DXC45160</p> <p>標準 RC構造:一連当り断面積2m²以上4m²以下×1連×4.0m (1箇所当り)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">職種</th> <th colspan="6">直接人件費</th> </tr> <tr> <th>技師長</th> <th>主任技師</th> <th>技師A</th> <th>技師B</th> <th>技師C</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設計計画</td> <td></td> <td></td> <td>0.5</td> <td>1.9</td> <td>1.0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現地踏査</td> <td></td> <td></td> <td>0.5</td> <td>1.0</td> <td>1.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基本事項の決定</td> <td></td> <td>1.0</td> <td>2.5</td> <td>4.5</td> <td>7.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>施工計画</td> <td></td> <td></td> <td>1.0</td> <td>1.5</td> <td>5.0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>仮設構造物設計</td> <td></td> <td></td> <td>1.0</td> <td>2.5</td> <td>5.0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>数量計算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3.0</td> <td>5.5</td> <td>8.5</td> </tr> <tr> <td>照査</td> <td></td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>2.0</td> <td>3.3</td> <td>2.3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>報告書作成</td> <td></td> <td></td> <td>1.5</td> <td>3.0</td> <td>3.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>2.0</td> <td>12.0</td> <td>23.9</td> <td>60.5</td> <td>37.8</td> <td>44.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 照査には、赤黄チェックによる照査も含む。 (注) 1. 予備設計を行わないで詳細設計を行う場合は、「14-6-2-1 適用範囲及び留意事項の4)」によるものとする。</p>	区分	職種	直接人件費						技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員	設計計画			0.5	1.9	1.0			現地踏査			0.5	1.0	1.5			基本事項の決定		1.0	2.5	4.5	7.5			施工計画			1.0	1.5	5.0			仮設構造物設計			1.0	2.5	5.0			数量計算					3.0	5.5	8.5	照査		1.0	1.0	2.0	3.3	2.3		報告書作成			1.5	3.0	3.5			合計		2.0	12.0	23.9	60.5	37.8	44.6	<p>14-6-2-3-2 標準歩掛(自動開閉樋門詳細設計(柔構造形式)) 14-6-2-3-2-1 自動開閉樋門詳細設計(柔構造形式)</p> <p>施工単価コード DXC45065~DXC45160 DXC48500</p> <p>標準 RC構造:一連当り断面積2m²以上4m²以下×1連×4.0m (1箇所当り)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">職種</th> <th colspan="6">直接人件費</th> </tr> <tr> <th>技師長</th> <th>主任技師</th> <th>技師A</th> <th>技師B</th> <th>技師C</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設計計画</td> <td></td> <td></td> <td>0.5</td> <td>1.9</td> <td>1.0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現地踏査</td> <td></td> <td></td> <td>0.5</td> <td>1.0</td> <td>1.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基本事項の決定</td> <td></td> <td>1.0</td> <td>2.5</td> <td>4.5</td> <td>7.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>施工計画</td> <td></td> <td></td> <td>1.0</td> <td>1.5</td> <td>5.0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>仮設構造物設計</td> <td></td> <td></td> <td>1.0</td> <td>2.5</td> <td>5.0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>数量計算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3.0</td> <td>5.5</td> <td>8.5</td> </tr> <tr> <td>照査</td> <td></td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>2.0</td> <td>3.3</td> <td>2.3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>報告書作成</td> <td></td> <td></td> <td>1.5</td> <td>3.0</td> <td>3.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>2.0</td> <td>12.0</td> <td>23.9</td> <td>60.5</td> <td>37.8</td> <td>44.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 照査には、赤黄チェックによる照査も含む。 2. 予備設計を行わないで詳細設計を行う場合は、「14-6-2-1 適用範囲及び留意事項の4)」によるものとする。</p>	区分	職種	直接人件費						技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員	設計計画			0.5	1.9	1.0			現地踏査			0.5	1.0	1.5			基本事項の決定		1.0	2.5	4.5	7.5			施工計画			1.0	1.5	5.0			仮設構造物設計			1.0	2.5	5.0			数量計算					3.0	5.5	8.5	照査		1.0	1.0	2.0	3.3	2.3		報告書作成			1.5	3.0	3.5			合計		2.0	12.0	23.9	60.5	37.8	44.6	<p>単価コードの表記方法の変更</p> <p>概算工事費歩掛の追加</p> <p>注釈欄が重複していたため整理</p>
		区分			職種	直接人件費																																																																																																																																																																										
技師長	主任技師		技師A	技師B		技師C	技術員																																																																																																																																																																									
設計計画			0.5	1.9	1.0																																																																																																																																																																											
現地踏査			0.5	1.0	1.5																																																																																																																																																																											
基本事項の決定		1.0	2.5	4.5	7.5																																																																																																																																																																											
施工計画			1.0	1.5	5.0																																																																																																																																																																											
仮設構造物設計			1.0	2.5	5.0																																																																																																																																																																											
数量計算					3.0	5.5	8.5																																																																																																																																																																									
照査		1.0	1.0	2.0	3.3	2.3																																																																																																																																																																										
報告書作成			1.5	3.0	3.5																																																																																																																																																																											
合計		2.0	12.0	23.9	60.5	37.8	44.6																																																																																																																																																																									
区分	職種	直接人件費																																																																																																																																																																														
		技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員																																																																																																																																																																									
設計計画			0.5	1.9	1.0																																																																																																																																																																											
現地踏査			0.5	1.0	1.5																																																																																																																																																																											
基本事項の決定		1.0	2.5	4.5	7.5																																																																																																																																																																											
施工計画			1.0	1.5	5.0																																																																																																																																																																											
仮設構造物設計			1.0	2.5	5.0																																																																																																																																																																											
数量計算					3.0	5.5	8.5																																																																																																																																																																									
照査		1.0	1.0	2.0	3.3	2.3																																																																																																																																																																										
報告書作成			1.5	3.0	3.5																																																																																																																																																																											
合計		2.0	12.0	23.9	60.5	37.8	44.6																																																																																																																																																																									
設計編 〔2〕 土木設計業務 等標準歩掛 14. 河川構造物 設計	設標準 -125	<p>14-6-2-3-3 標準歩掛(自動開閉樋門詳細設計(剛支持直接基礎)) 14-6-2-3-3-1 自動開閉樋門詳細設計(剛支持直接基礎)</p> <p>施工単価コード DXC45165 ~ DXC45260</p> <p>標準 RC構造:一連当り断面積4m²以下×1連×2スパン (1箇所当り)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">職種</th> <th colspan="6">直接人件費</th> </tr> <tr> <th>技師長</th> <th>主任技師</th> <th>技師A</th> <th>技師B</th> <th>技師C</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設計計画</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>1.8</td> <td>1.1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>施工計画</td> <td></td> <td></td> <td>1.0</td> <td>1.4</td> <td>2.8</td> <td>2.4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>仮設構造物設計</td> <td></td> <td></td> <td>1.0</td> <td>2.5</td> <td>4.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>数量計算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2.0</td> <td>4.6</td> <td>7.6</td> </tr> <tr> <td>照査</td> <td></td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> <td>2.0</td> <td>3.5</td> <td>2.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>報告書作成</td> <td></td> <td></td> <td>1.5</td> <td>3.0</td> <td>3.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>2.5</td> <td>10.1</td> <td>22.3</td> <td>41.7</td> <td>34.8</td> <td>35.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 予備設計を行わないで詳細設計を行う場合は、「14-6-2-1 適用範囲及び留意事項の4)」によるものとする。 2. 施工計画の歩掛は、地盤処理工を含まない場合である。 3. 電算機使用料は、直接人件費の2%を直接経費として計上する。</p>	区分	職種	直接人件費						技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員	設計計画			0.6	1.8	1.1			施工計画			1.0	1.4	2.8	2.4		仮設構造物設計			1.0	2.5	4.5			数量計算					2.0	4.6	7.6	照査		1.5	1.0	2.0	3.5	2.5		報告書作成			1.5	3.0	3.5			合計		2.5	10.1	22.3	41.7	34.8	35.0	<p>14-6-2-3-3 標準歩掛(自動開閉樋門詳細設計(剛支持直接基礎)) 14-6-2-3-3-1 自動開閉樋門詳細設計(剛支持直接基礎)</p> <p>施工単価コード DXC45165~DXC45260 DXC48500</p> <p>標準 RC構造:一連当り断面積4m²以下×1連×2スパン (1箇所当り)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">職種</th> <th colspan="6">直接人件費</th> </tr> <tr> <th>技師長</th> <th>主任技師</th> <th>技師A</th> <th>技師B</th> <th>技師C</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設計計画</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>1.8</td> <td>1.1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>施工計画</td> <td></td> <td></td> <td>1.0</td> <td>1.4</td> <td>2.8</td> <td>2.4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>仮設構造物設計</td> <td></td> <td></td> <td>1.0</td> <td>2.5</td> <td>4.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>数量計算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2.0</td> <td>4.6</td> <td>7.6</td> </tr> <tr> <td>照査</td> <td></td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> <td>2.0</td> <td>3.5</td> <td>2.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>報告書作成</td> <td></td> <td></td> <td>1.5</td> <td>3.0</td> <td>3.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>2.5</td> <td>10.1</td> <td>22.3</td> <td>41.7</td> <td>34.8</td> <td>35.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 予備設計を行わないで詳細設計を行う場合は、「14-6-2-1 適用範囲及び留意事項の4)」によるものとする。 2. 施工計画の歩掛は、地盤処理工を含まない場合である。 3. 電算機使用料は、直接人件費の2%を直接経費として計上する。</p>	区分	職種	直接人件費						技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員	設計計画			0.6	1.8	1.1			施工計画			1.0	1.4	2.8	2.4		仮設構造物設計			1.0	2.5	4.5			数量計算					2.0	4.6	7.6	照査		1.5	1.0	2.0	3.5	2.5		報告書作成			1.5	3.0	3.5			合計		2.5	10.1	22.3	41.7	34.8	35.0	<p>単価コードの表記方法の変更</p> <p>概算工事費歩掛の追加</p>																																
		区分			職種	直接人件費																																																																																																																																																																										
技師長	主任技師		技師A	技師B		技師C	技術員																																																																																																																																																																									
設計計画			0.6	1.8	1.1																																																																																																																																																																											
施工計画			1.0	1.4	2.8	2.4																																																																																																																																																																										
仮設構造物設計			1.0	2.5	4.5																																																																																																																																																																											
数量計算					2.0	4.6	7.6																																																																																																																																																																									
照査		1.5	1.0	2.0	3.5	2.5																																																																																																																																																																										
報告書作成			1.5	3.0	3.5																																																																																																																																																																											
合計		2.5	10.1	22.3	41.7	34.8	35.0																																																																																																																																																																									
区分	職種	直接人件費																																																																																																																																																																														
		技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員																																																																																																																																																																									
設計計画			0.6	1.8	1.1																																																																																																																																																																											
施工計画			1.0	1.4	2.8	2.4																																																																																																																																																																										
仮設構造物設計			1.0	2.5	4.5																																																																																																																																																																											
数量計算					2.0	4.6	7.6																																																																																																																																																																									
照査		1.5	1.0	2.0	3.5	2.5																																																																																																																																																																										
報告書作成			1.5	3.0	3.5																																																																																																																																																																											
合計		2.5	10.1	22.3	41.7	34.8	35.0																																																																																																																																																																									

土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																																																																																																																																																																																																																						
設計編 〔2〕 土木設計業務 等標準歩掛 14. 河川構造物 設計	設標準 -133	<table border="1"> <tr> <th>作業区分</th> <th>作 業 の 範 囲</th> </tr> <tr> <td>数 量 計 算</td> <td>数量算出要領に基づき、工種別、区間別に数量のとりまとめを行う。</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">~~~~~</td> </tr> <tr> <td>照 査</td> <td> 下記に示す事項を標準として照査を行う。 ①設計条件の決定に際し、現地の状況の他、基礎情報を収集、把握しているかの確認を行い、その内容が適切であるかについて照査を行う。 ②設計方針及び設計手法が適切であるかの照査を行う。 ③設計計算、設計図、概算工事費の適切性及び整合性に着目し照査を行う。最小鉄筋量等構造細目についても照査を行い、基準との整合を図る。特に、構造物相互の取り合いについて整合性の照査を行う。 </td> </tr> <tr> <td>報 告 書 作 成</td> <td>設計業務成果概要書、設計計算書等、設計図面、数量計算書、概算工事費、施工計画書、現地踏査結果等のとりまとめを行い、報告書を作成する。</td> </tr> </table>	作業区分	作 業 の 範 囲	数 量 計 算	数量算出要領に基づき、工種別、区間別に数量のとりまとめを行う。	~~~~~		照 査	下記に示す事項を標準として照査を行う。 ①設計条件の決定に際し、現地の状況の他、基礎情報を収集、把握しているかの確認を行い、その内容が適切であるかについて照査を行う。 ②設計方針及び設計手法が適切であるかの照査を行う。 ③設計計算、設計図、概算工事費の適切性及び整合性に着目し照査を行う。最小鉄筋量等構造細目についても照査を行い、基準との整合を図る。特に、構造物相互の取り合いについて整合性の照査を行う。	報 告 書 作 成	設計業務成果概要書、設計計算書等、設計図面、数量計算書、概算工事費、施工計画書、現地踏査結果等のとりまとめを行い、報告書を作成する。	<table border="1"> <tr> <th>作業区分</th> <th>作 業 の 範 囲</th> </tr> <tr> <td>数 量 計 算</td> <td>数量算出要領に基づき、工種別、区間別に数量のとりまとめを行う。</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">~~~~~</td> </tr> <tr> <td>概 算 工 事 費</td> <td>詳細設計として作成した設計図及び数量等に基づき概算工事費を算出する。</td> </tr> <tr> <td>照 査</td> <td> 下記に示す事項を標準として照査を行う。 ①設計条件の決定に際し、現地の状況の他、基礎情報を収集、把握しているかの確認を行い、その内容が適切であるかについて照査を行う。 ②設計方針及び設計手法が適切であるかの照査を行う。 ③設計計算、設計図、概算工事費の適切性及び整合性に着目し照査を行う。最小鉄筋量等構造細目についても照査を行い、基準との整合を図る。特に、構造物相互の取り合いについて整合性の照査を行う。 </td> </tr> <tr> <td>報 告 書 作 成</td> <td>設計業務成果概要書、設計計算書等、設計図面、数量計算書、概算工事費、施工計画書、現地踏査結果等のとりまとめを行い、報告書を作成する。</td> </tr> </table>	作業区分	作 業 の 範 囲	数 量 計 算	数量算出要領に基づき、工種別、区間別に数量のとりまとめを行う。	~~~~~		概 算 工 事 費	詳細設計として作成した設計図及び数量等に基づき概算工事費を算出する。	照 査	下記に示す事項を標準として照査を行う。 ①設計条件の決定に際し、現地の状況の他、基礎情報を収集、把握しているかの確認を行い、その内容が適切であるかについて照査を行う。 ②設計方針及び設計手法が適切であるかの照査を行う。 ③設計計算、設計図、概算工事費の適切性及び整合性に着目し照査を行う。最小鉄筋量等構造細目についても照査を行い、基準との整合を図る。特に、構造物相互の取り合いについて整合性の照査を行う。	報 告 書 作 成	設計業務成果概要書、設計計算書等、設計図面、数量計算書、概算工事費、施工計画書、現地踏査結果等のとりまとめを行い、報告書を作成する。	概算工事費 歩掛の追加 に伴う 作業区分の 追加																																																																																																																																																																																																
		作業区分	作 業 の 範 囲																																																																																																																																																																																																																							
数 量 計 算	数量算出要領に基づき、工種別、区間別に数量のとりまとめを行う。																																																																																																																																																																																																																									
~~~~~																																																																																																																																																																																																																										
照 査	下記に示す事項を標準として照査を行う。 ①設計条件の決定に際し、現地の状況の他、基礎情報を収集、把握しているかの確認を行い、その内容が適切であるかについて照査を行う。 ②設計方針及び設計手法が適切であるかの照査を行う。 ③設計計算、設計図、概算工事費の適切性及び整合性に着目し照査を行う。最小鉄筋量等構造細目についても照査を行い、基準との整合を図る。特に、構造物相互の取り合いについて整合性の照査を行う。																																																																																																																																																																																																																									
報 告 書 作 成	設計業務成果概要書、設計計算書等、設計図面、数量計算書、概算工事費、施工計画書、現地踏査結果等のとりまとめを行い、報告書を作成する。																																																																																																																																																																																																																									
作業区分	作 業 の 範 囲																																																																																																																																																																																																																									
数 量 計 算	数量算出要領に基づき、工種別、区間別に数量のとりまとめを行う。																																																																																																																																																																																																																									
~~~~~																																																																																																																																																																																																																										
概 算 工 事 費	詳細設計として作成した設計図及び数量等に基づき概算工事費を算出する。																																																																																																																																																																																																																									
照 査	下記に示す事項を標準として照査を行う。 ①設計条件の決定に際し、現地の状況の他、基礎情報を収集、把握しているかの確認を行い、その内容が適切であるかについて照査を行う。 ②設計方針及び設計手法が適切であるかの照査を行う。 ③設計計算、設計図、概算工事費の適切性及び整合性に着目し照査を行う。最小鉄筋量等構造細目についても照査を行い、基準との整合を図る。特に、構造物相互の取り合いについて整合性の照査を行う。																																																																																																																																																																																																																									
報 告 書 作 成	設計業務成果概要書、設計計算書等、設計図面、数量計算書、概算工事費、施工計画書、現地踏査結果等のとりまとめを行い、報告書を作成する。																																																																																																																																																																																																																									
設計編 〔2〕 土木設計業務 等標準歩掛 14. 河川構造物 設計	設標準 -143	14-8-3-3-1 排水工詳細設計 (柔構造形式) <table border="1"> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>DXC47501</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">~~~~~</td> </tr> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>DXC47515</td> </tr> </table> <p>標準 RC構造：一連当り断面積 2m²以上 7m²以下×1連×4.0m (1箇所当り)</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th rowspan="2">職 種</th> <th colspan="5">直 接 人 件 費</th> </tr> <tr> <th>技師長</th> <th>主任技師</th> <th>技師A</th> <th>技師B</th> <th>技師C</th> <th>技術員</th> </tr> <tr> <td>設 計 計 画</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>1.9</td> <td>1.2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現 地 踏 査</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>1.2</td> <td>1.4</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基本事項の決定</td> <td></td> <td>0.7</td> <td>2.4</td> <td>5.0</td> <td>8.0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="8" style="text-align: center;">~~~~~</td> </tr> <tr> <td>施 工 計 画</td> <td></td> <td></td> <td>0.7</td> <td>1.8</td> <td>5.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>仮設構造物設計</td> <td></td> <td></td> <td>0.7</td> <td>2.5</td> <td>5.8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>数 量 計 算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2.5</td> <td>5.9</td> <td>9.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="8" style="text-align: center;">~~~~~</td> </tr> <tr> <td>照 査</td> <td></td> <td>0.7</td> <td>1.2</td> <td>2.3</td> <td>3.6</td> <td>2.1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>報 告 書 作 成</td> <td></td> <td></td> <td>1.3</td> <td>3.1</td> <td>4.1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td></td> <td>1.4</td> <td>10.6</td> <td>26.0</td> <td>58.4</td> <td>32.0</td> <td>38.1</td> </tr> </table> <p>(注) 1. 予備設計を行わないで詳細設計を行う場合は、「14-8-1 適用範囲及び留意事項の5)」によるものとする。 2. 施工計画の歩掛は、地盤処理工を含まない場合である。</p>	施工単価コード	DXC47501	~~~~~		施工単価コード	DXC47515	区 分	職 種	直 接 人 件 費					技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員	設 計 計 画			0.6	1.9	1.2			現 地 踏 査			0.6	1.2	1.4			基本事項の決定		0.7	2.4	5.0	8.0			~~~~~								施 工 計 画			0.7	1.8	5.5			仮設構造物設計			0.7	2.5	5.8			数 量 計 算				2.5	5.9	9.0		~~~~~								照 査		0.7	1.2	2.3	3.6	2.1		報 告 書 作 成			1.3	3.1	4.1			合 計		1.4	10.6	26.0	58.4	32.0	38.1	14-8-3-3-1 排水工詳細設計 (柔構造形式) <table border="1"> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>DXC47501 ~ DXC47515</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">~~~~~</td> </tr> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>DXC47515</td> </tr> </table> <p>標準 RC構造：一連当り断面積 2m²以上 7m²以下×1連×4.0m (1箇所当り)</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th rowspan="2">職 種</th> <th colspan="5">直 接 人 件 費</th> </tr> <tr> <th>技師長</th> <th>主任技師</th> <th>技師A</th> <th>技師B</th> <th>技師C</th> <th>技術員</th> </tr> <tr> <td>設 計 計 画</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>1.9</td> <td>1.2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現 地 踏 査</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>1.2</td> <td>1.4</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="8" style="text-align: center;">~~~~~</td> </tr> <tr> <td>施 工 計 画</td> <td></td> <td></td> <td>0.7</td> <td>1.8</td> <td>5.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>仮設構造物設計</td> <td></td> <td></td> <td>0.7</td> <td>2.5</td> <td>5.8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>数 量 計 算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2.5</td> <td>5.9</td> <td>9.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="8" style="text-align: center;">~~~~~</td> </tr> <tr> <td>概 算 工 事 費</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>照 査</td> <td></td> <td>0.7</td> <td>1.2</td> <td>2.3</td> <td>3.6</td> <td>2.1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>報 告 書 作 成</td> <td></td> <td></td> <td>1.3</td> <td>3.1</td> <td>4.1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td></td> <td>1.4</td> <td>10.6</td> <td>26.0</td> <td>58.4</td> <td>32.0</td> <td>38.1</td> </tr> </table> <p>(注) 1. 予備設計を行わないで詳細設計を行う場合は、「14-8-1 適用範囲及び留意事項の5)」によるものとする。 2. 施工計画の歩掛は、地盤処理工を含まない場合である。</p>	施工単価コード	DXC47501 ~ DXC47515	~~~~~		施工単価コード	DXC47515	区 分	職 種	直 接 人 件 費					技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員	設 計 計 画			0.6	1.9	1.2			現 地 踏 査			0.6	1.2	1.4			~~~~~								施 工 計 画			0.7	1.8	5.5			仮設構造物設計			0.7	2.5	5.8			数 量 計 算				2.5	5.9	9.0		~~~~~								概 算 工 事 費								照 査		0.7	1.2	2.3	3.6	2.1		報 告 書 作 成			1.3	3.1	4.1			合 計		1.4	10.6	26.0	58.4	32.0	38.1	単価コードの 表記方法の 変更 概算工事費 歩掛の追加
		施工単価コード	DXC47501																																																																																																																																																																																																																							
~~~~~																																																																																																																																																																																																																										
施工単価コード	DXC47515																																																																																																																																																																																																																									
区 分	職 種	直 接 人 件 費																																																																																																																																																																																																																								
		技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員																																																																																																																																																																																																																			
設 計 計 画			0.6	1.9	1.2																																																																																																																																																																																																																					
現 地 踏 査			0.6	1.2	1.4																																																																																																																																																																																																																					
基本事項の決定		0.7	2.4	5.0	8.0																																																																																																																																																																																																																					
~~~~~																																																																																																																																																																																																																										
施 工 計 画			0.7	1.8	5.5																																																																																																																																																																																																																					
仮設構造物設計			0.7	2.5	5.8																																																																																																																																																																																																																					
数 量 計 算				2.5	5.9	9.0																																																																																																																																																																																																																				
~~~~~																																																																																																																																																																																																																										
照 査		0.7	1.2	2.3	3.6	2.1																																																																																																																																																																																																																				
報 告 書 作 成			1.3	3.1	4.1																																																																																																																																																																																																																					
合 計		1.4	10.6	26.0	58.4	32.0	38.1																																																																																																																																																																																																																			
施工単価コード	DXC47501 ~ DXC47515																																																																																																																																																																																																																									
~~~~~																																																																																																																																																																																																																										
施工単価コード	DXC47515																																																																																																																																																																																																																									
区 分	職 種	直 接 人 件 費																																																																																																																																																																																																																								
		技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員																																																																																																																																																																																																																			
設 計 計 画			0.6	1.9	1.2																																																																																																																																																																																																																					
現 地 踏 査			0.6	1.2	1.4																																																																																																																																																																																																																					
~~~~~																																																																																																																																																																																																																										
施 工 計 画			0.7	1.8	5.5																																																																																																																																																																																																																					
仮設構造物設計			0.7	2.5	5.8																																																																																																																																																																																																																					
数 量 計 算				2.5	5.9	9.0																																																																																																																																																																																																																				
~~~~~																																																																																																																																																																																																																										
概 算 工 事 費																																																																																																																																																																																																																										
照 査		0.7	1.2	2.3	3.6	2.1																																																																																																																																																																																																																				
報 告 書 作 成			1.3	3.1	4.1																																																																																																																																																																																																																					
合 計		1.4	10.6	26.0	58.4	32.0	38.1																																																																																																																																																																																																																			

土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																																																																																																																																																																												
設計編 〔2〕 土木設計業務 等標準歩掛 14. 河川構造物 設計	設標準 -144	14-8-3-3-2 排水工詳細設計(剛支持直接基礎) 施工単価コード DXC47701 〰️ 施工単価コード DXC47715 標準 RC構造:一連当り断面積5m ² 以下×1連×2スパン (1箇所当り) <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">職種</th> <th colspan="6">直接人件費</th> </tr> <tr> <th>技師長</th> <th>主任技師</th> <th>技師A</th> <th>技師B</th> <th>技師C</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設計計画</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>1.9</td> <td>1.2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現地踏査</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>1.2</td> <td>1.4</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基本事項の決定</td> <td></td> <td>0.7</td> <td>1.8</td> <td>2.5</td> <td>4.1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="8">〰️</td> </tr> <tr> <td>数量計算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.9</td> <td>4.6</td> <td>8.0</td> </tr> <tr> <td colspan="8">〰️</td> </tr> <tr> <td>照査</td> <td></td> <td>0.7</td> <td>1.2</td> <td>2.3</td> <td>3.5</td> <td>2.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>報告書作成</td> <td></td> <td></td> <td>1.3</td> <td>3.1</td> <td>4.1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>1.4</td> <td>8.2</td> <td>23.7</td> <td>39.9</td> <td>28.7</td> <td>28.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注)1. 予備設計を行わないで詳細設計を行う場合は、「14-8-1 適用範囲及び留意事項の5)」によるものとする。</p>	区分	職種	直接人件費						技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員	設計計画			0.6	1.9	1.2			現地踏査			0.6	1.2	1.4			基本事項の決定		0.7	1.8	2.5	4.1			〰️								数量計算					1.9	4.6	8.0	〰️								照査		0.7	1.2	2.3	3.5	2.0		報告書作成			1.3	3.1	4.1			合計		1.4	8.2	23.7	39.9	28.7	28.4	14-8-3-3-2 排水工詳細設計(剛支持直接基礎) 施工単価コード DXC47701~DXC47715 〰️ 施工単価コード(概算工事費) DXC48500 標準 RC構造:一連当り断面積5m ² 以下×1連×2スパン (1箇所当り) <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">職種</th> <th colspan="6">直接人件費</th> </tr> <tr> <th>技師長</th> <th>主任技師</th> <th>技師A</th> <th>技師B</th> <th>技師C</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設計計画</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>1.9</td> <td>1.2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現地踏査</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>1.2</td> <td>1.4</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基本事項の決定</td> <td></td> <td>0.7</td> <td>1.8</td> <td>2.5</td> <td>4.1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="8">〰️</td> </tr> <tr> <td>数量計算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.9</td> <td>4.6</td> <td>8.0</td> </tr> <tr> <td colspan="8">概算工事費「14-10.河川・砂防構造物詳細設計概算工事費算出」による。</td> </tr> <tr> <td>照査</td> <td></td> <td>0.7</td> <td>1.2</td> <td>2.3</td> <td>3.5</td> <td>2.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>報告書作成</td> <td></td> <td></td> <td>1.3</td> <td>3.1</td> <td>4.1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>1.4</td> <td>8.2</td> <td>23.7</td> <td>39.9</td> <td>28.7</td> <td>28.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注)1. 予備設計を行わないで詳細設計を行う場合は、「14-8-1 適用範囲及び留意事項の5)」によるものとする。</p>	区分	職種	直接人件費						技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員	設計計画			0.6	1.9	1.2			現地踏査			0.6	1.2	1.4			基本事項の決定		0.7	1.8	2.5	4.1			〰️								数量計算					1.9	4.6	8.0	概算工事費「14-10.河川・砂防構造物詳細設計概算工事費算出」による。								照査		0.7	1.2	2.3	3.5	2.0		報告書作成			1.3	3.1	4.1			合計		1.4	8.2	23.7	39.9	28.7	28.4	単価コードの 表記方法の 変更 概算工事費 歩掛の追加 及び これに伴う 作業区分の 追加
		区分			職種	直接人件費																																																																																																																																																																										
技師長	主任技師		技師A	技師B		技師C	技術員																																																																																																																																																																									
設計計画			0.6	1.9	1.2																																																																																																																																																																											
現地踏査			0.6	1.2	1.4																																																																																																																																																																											
基本事項の決定		0.7	1.8	2.5	4.1																																																																																																																																																																											
〰️																																																																																																																																																																																
数量計算					1.9	4.6	8.0																																																																																																																																																																									
〰️																																																																																																																																																																																
照査		0.7	1.2	2.3	3.5	2.0																																																																																																																																																																										
報告書作成			1.3	3.1	4.1																																																																																																																																																																											
合計		1.4	8.2	23.7	39.9	28.7	28.4																																																																																																																																																																									
区分	職種	直接人件費																																																																																																																																																																														
		技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員																																																																																																																																																																									
設計計画			0.6	1.9	1.2																																																																																																																																																																											
現地踏査			0.6	1.2	1.4																																																																																																																																																																											
基本事項の決定		0.7	1.8	2.5	4.1																																																																																																																																																																											
〰️																																																																																																																																																																																
数量計算					1.9	4.6	8.0																																																																																																																																																																									
概算工事費「14-10.河川・砂防構造物詳細設計概算工事費算出」による。																																																																																																																																																																																
照査		0.7	1.2	2.3	3.5	2.0																																																																																																																																																																										
報告書作成			1.3	3.1	4.1																																																																																																																																																																											
合計		1.4	8.2	23.7	39.9	28.7	28.4																																																																																																																																																																									
設計編 〔2〕 土木設計業務 等標準歩掛 14. 河川構造物 設計	設標準 -145	14-8-3-3-3 排水工詳細設計(柔構造形式(電算タイプ)) 本歩掛は「7-3-2 電算プログラム使用の適用範囲」の排水工を電算プログラムにより処理する上で、補完のために別途委託業務が必要な場合に適用する。 施工単価コード DXC47801 〰️ 施工単価コード DXC47816 標準 RC構造:一連当り断面積2m ² 以上7m ² 以下×1連×4.0m (1箇所当り) <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">職種</th> <th colspan="6">直接人件費</th> </tr> <tr> <th>技師長</th> <th>主任技師</th> <th>技師A</th> <th>技師B</th> <th>技師C</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設計計画</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>1.9</td> <td>1.2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現地踏査</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>1.2</td> <td>1.4</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="8">〰️</td> </tr> <tr> <td>仮設構造物設計</td> <td></td> <td></td> <td>0.7</td> <td>2.5</td> <td>5.8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>数量計算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.3</td> <td>3.0</td> <td>5.0</td> </tr> <tr> <td colspan="8">〰️</td> </tr> <tr> <td>照査</td> <td></td> <td>0.7</td> <td>1.2</td> <td>2.3</td> <td>3.6</td> <td>2.1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>報告書作成</td> <td></td> <td></td> <td>1.3</td> <td>3.1</td> <td>4.1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>1.3</td> <td>11.7</td> <td>28.2</td> <td>50.2</td> <td>11.9</td> <td>10.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注)1. 予備設計を行わないで詳細設計を行う場合は、「14-8-1 適用範囲及び留意事項の5)」によるものとする。</p>	区分	職種	直接人件費						技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員	設計計画			0.6	1.9	1.2			現地踏査			0.6	1.2	1.4			〰️								仮設構造物設計			0.7	2.5	5.8			数量計算					1.3	3.0	5.0	〰️								照査		0.7	1.2	2.3	3.6	2.1		報告書作成			1.3	3.1	4.1			合計		1.3	11.7	28.2	50.2	11.9	10.3	14-8-3-3-3 排水工詳細設計(柔構造形式(電算タイプ)) 本歩掛は「7-3-2 電算プログラム使用の適用範囲」の排水工を電算プログラムにより処理する上で、補完のために別途委託業務が必要な場合に適用する。 施工単価コード DXC47801~DXC47816 〰️ 施工単価コード(概算工事費) DXC48500 標準 RC構造:一連当り断面積2m ² 以上7m ² 以下×1連×4.0m (1箇所当り) <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">職種</th> <th colspan="6">直接人件費</th> </tr> <tr> <th>技師長</th> <th>主任技師</th> <th>技師A</th> <th>技師B</th> <th>技師C</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設計計画</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>1.9</td> <td>1.2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現地踏査</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>1.2</td> <td>1.4</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="8">〰️</td> </tr> <tr> <td>仮設構造物設計</td> <td></td> <td></td> <td>0.7</td> <td>2.5</td> <td>5.8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>数量計算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.3</td> <td>3.0</td> <td>5.0</td> </tr> <tr> <td colspan="8">概算工事費「14-10.河川・砂防構造物詳細設計概算工事費算出」による。</td> </tr> <tr> <td>照査</td> <td></td> <td>0.7</td> <td>1.2</td> <td>2.3</td> <td>3.6</td> <td>2.1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>報告書作成</td> <td></td> <td></td> <td>1.3</td> <td>3.1</td> <td>4.1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>1.3</td> <td>11.7</td> <td>28.2</td> <td>50.2</td> <td>11.9</td> <td>10.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注)1. 予備設計を行わないで詳細設計を行う場合は、「14-8-1 適用範囲及び留意事項の5)」によるものとする。</p>	区分	職種	直接人件費						技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員	設計計画			0.6	1.9	1.2			現地踏査			0.6	1.2	1.4			〰️								仮設構造物設計			0.7	2.5	5.8			数量計算					1.3	3.0	5.0	概算工事費「14-10.河川・砂防構造物詳細設計概算工事費算出」による。								照査		0.7	1.2	2.3	3.6	2.1		報告書作成			1.3	3.1	4.1			合計		1.3	11.7	28.2	50.2	11.9	10.3	単価コードの 表記方法の 変更 概算工事費 歩掛の追加 及び これに伴う 作業区分の 追加
		区分			職種	直接人件費																																																																																																																																																																										
技師長	主任技師		技師A	技師B		技師C	技術員																																																																																																																																																																									
設計計画			0.6	1.9	1.2																																																																																																																																																																											
現地踏査			0.6	1.2	1.4																																																																																																																																																																											
〰️																																																																																																																																																																																
仮設構造物設計			0.7	2.5	5.8																																																																																																																																																																											
数量計算					1.3	3.0	5.0																																																																																																																																																																									
〰️																																																																																																																																																																																
照査		0.7	1.2	2.3	3.6	2.1																																																																																																																																																																										
報告書作成			1.3	3.1	4.1																																																																																																																																																																											
合計		1.3	11.7	28.2	50.2	11.9	10.3																																																																																																																																																																									
区分	職種	直接人件費																																																																																																																																																																														
		技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員																																																																																																																																																																									
設計計画			0.6	1.9	1.2																																																																																																																																																																											
現地踏査			0.6	1.2	1.4																																																																																																																																																																											
〰️																																																																																																																																																																																
仮設構造物設計			0.7	2.5	5.8																																																																																																																																																																											
数量計算					1.3	3.0	5.0																																																																																																																																																																									
概算工事費「14-10.河川・砂防構造物詳細設計概算工事費算出」による。																																																																																																																																																																																
照査		0.7	1.2	2.3	3.6	2.1																																																																																																																																																																										
報告書作成			1.3	3.1	4.1																																																																																																																																																																											
合計		1.3	11.7	28.2	50.2	11.9	10.3																																																																																																																																																																									

土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現行	改定	備考																																																																																																																																																																										
設計編 〔2〕 土木設計業務 等標準歩掛 14. 河川構造物 設計	設標準 -146	14-8-3-3-4 排水工詳細設計(剛支持直接基礎(電算タイプ)) 本歩掛は「7-3-2 電算プログラム使用の適用範囲」の排水工を電算プログラムにより処理する上で、補完のために別途委託業務が必要な場合に適用する。 施工単価コード DXC47901 ~ 施工単価コード DXC47917 標準 R/C構造:一連当り断面積5m ² 以下×1連×2スパン (1箇所当り) <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">職種</th> <th colspan="5">直接人件費</th> </tr> <tr> <th>技師長</th> <th>主任技師</th> <th>技師A</th> <th>技師B</th> <th>技師C</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設計計画</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>1.9</td> <td>1.2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現地踏査</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>1.2</td> <td>1.4</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="8">~~~~~</td> </tr> <tr> <td>仮設構造物設計</td> <td></td> <td></td> <td>0.7</td> <td>2.5</td> <td>5.3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>数量計算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.2</td> <td>2.6</td> <td>4.4</td> </tr> <tr> <td colspan="8">~~~~~</td> </tr> <tr> <td>照査</td> <td></td> <td>0.7</td> <td>1.2</td> <td>2.3</td> <td>3.5</td> <td>2.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>報告書作成</td> <td></td> <td></td> <td>1.3</td> <td>3.1</td> <td>4.1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>1.3</td> <td>9.4</td> <td>23.5</td> <td>36.5</td> <td>16.2</td> <td>14.4</td> </tr> </tbody> </table> (注) 1. 予備設計を行わないで詳細設計を行う場合は、「14-8-1 適用範囲及び留意事項の5)」によるものとする。 2. 香口・吐口の設計については、電算プログラムで対応できるタイプ以外のコンクリート構造の香吐口について計上すること。	区分	職種	直接人件費					技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員	設計計画			0.6	1.9	1.2			現地踏査			0.6	1.2	1.4			~~~~~								仮設構造物設計			0.7	2.5	5.3			数量計算					1.2	2.6	4.4	~~~~~								照査		0.7	1.2	2.3	3.5	2.0		報告書作成			1.3	3.1	4.1			合計		1.3	9.4	23.5	36.5	16.2	14.4	14-8-3-3-4 排水工詳細設計(剛支持直接基礎(電算タイプ)) 本歩掛は「7-3-2 電算プログラム使用の適用範囲」の排水工を電算プログラムにより処理する上で、補完のために別途委託業務が必要な場合に適用する。 施工単価コード DXC47901~DXC47917 施工単価コード(概算工事費) DXC48500 標準 R/C構造:一連当り断面積5m ² 以下×1連×2スパン (1箇所当り) <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">職種</th> <th colspan="5">直接人件費</th> </tr> <tr> <th>技師長</th> <th>主任技師</th> <th>技師A</th> <th>技師B</th> <th>技師C</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設計計画</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>1.9</td> <td>1.2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現地踏査</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>1.2</td> <td>1.4</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="8">~~~~~</td> </tr> <tr> <td>仮設構造物設計</td> <td></td> <td></td> <td>0.7</td> <td>2.5</td> <td>5.3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>数量計算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.2</td> <td>2.6</td> <td>4.4</td> </tr> <tr> <td colspan="8">~~~~~</td> </tr> <tr> <td>照査</td> <td></td> <td>0.7</td> <td>1.2</td> <td>2.3</td> <td>3.5</td> <td>2.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>報告書作成</td> <td></td> <td></td> <td>1.3</td> <td>3.1</td> <td>4.1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>1.3</td> <td>9.4</td> <td>23.5</td> <td>36.5</td> <td>16.2</td> <td>14.4</td> </tr> </tbody> </table> (注) 1. 予備設計を行わないで詳細設計を行う場合は、「14-8-1 適用範囲及び留意事項の5)」によるものとする。 2. 香口・吐口の設計については、電算プログラムで対応できるタイプ以外のコンクリート構造の香吐口について計上すること。	区分	職種	直接人件費					技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員	設計計画			0.6	1.9	1.2			現地踏査			0.6	1.2	1.4			~~~~~								仮設構造物設計			0.7	2.5	5.3			数量計算					1.2	2.6	4.4	~~~~~								照査		0.7	1.2	2.3	3.5	2.0		報告書作成			1.3	3.1	4.1			合計		1.3	9.4	23.5	36.5	16.2	14.4	単価コードの表記方法の変更 概算工事費歩掛の追加及びこれに伴う作業区分の追加
		区分			職種	直接人件費																																																																																																																																																																								
技師長	主任技師		技師A	技師B		技師C	技術員																																																																																																																																																																							
設計計画			0.6	1.9	1.2																																																																																																																																																																									
現地踏査			0.6	1.2	1.4																																																																																																																																																																									
~~~~~																																																																																																																																																																														
仮設構造物設計			0.7	2.5	5.3																																																																																																																																																																									
数量計算					1.2	2.6	4.4																																																																																																																																																																							
~~~~~																																																																																																																																																																														
照査		0.7	1.2	2.3	3.5	2.0																																																																																																																																																																								
報告書作成			1.3	3.1	4.1																																																																																																																																																																									
合計		1.3	9.4	23.5	36.5	16.2	14.4																																																																																																																																																																							
区分	職種	直接人件費																																																																																																																																																																												
		技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員																																																																																																																																																																							
設計計画			0.6	1.9	1.2																																																																																																																																																																									
現地踏査			0.6	1.2	1.4																																																																																																																																																																									
~~~~~																																																																																																																																																																														
仮設構造物設計			0.7	2.5	5.3																																																																																																																																																																									
数量計算					1.2	2.6	4.4																																																																																																																																																																							
~~~~~																																																																																																																																																																														
照査		0.7	1.2	2.3	3.5	2.0																																																																																																																																																																								
報告書作成			1.3	3.1	4.1																																																																																																																																																																									
合計		1.3	9.4	23.5	36.5	16.2	14.4																																																																																																																																																																							
設計編 〔2〕 土木設計業務 等標準歩掛 14. 河川構造物 設計	設標準 -154(1)	現行なし	14-10 河川・砂防構造物詳細設計概算工事費算出 (1) 適用範囲 護岸詳細設計、橋門詳細設計、自動開閉橋門詳細設計、排水工実施設計及び詳細設計、砂防堰堤詳細設計、並びに急傾斜地崩壊防止施設詳細設計における概算工事費算出に適用する。 (2) 標準歩掛 14-10-1 概算工事費 施工単価コード DXC48500 (1業務当り) <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">職種</th> <th colspan="5">直接人件費</th> </tr> <tr> <th>主任技師</th> <th>技師長</th> <th>主任技師</th> <th>技師(A)</th> <th>技師(B)</th> <th>技師(C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>概算工事費</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.1</td> <td>2.8</td> <td>8.0</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> (注) 1. 見積必要品目がある場合は、実施時点での見積徴収作業を含む。 2. 各詳細設計における標準歩掛の補正は適用しない。	区分	職種	直接人件費					主任技師	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	概算工事費					1.1	2.8	8.0		概算工事費歩掛の追加																																																																																																																																																			
		区分	職種			直接人件費																																																																																																																																																																								
主任技師	技師長			主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員																																																																																																																																																																						
概算工事費					1.1	2.8	8.0																																																																																																																																																																							
			※新規で1ページ追加となるため、暫定的なページ番号を設定																																																																																																																																																																											

土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																																																																
設計編 〔2〕 土木設計業務 等標準歩掛 15. 砂防構造物 設計	設標準 -157	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">作業区分</th> <th>作 業 の 範 囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">施設設計</td> <td>基礎工設計</td> <td>基礎の支持力及び長期的な湛水の可能性を検討し、パイピング対策が必要な場合は、その対策について設計を行う。 堰堤が高く長期的に湛水することが考えられる場合にはコンソリデーショングラウチング及びカーテングラウチング及び置換工等の設計をおこない、施設設計図面を作成する。</td> </tr> <tr> <td>景観設計</td> <td>自然と地域になじんだ施設の設計を行う。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">施工計画・仮設構造物設計</td> <td>〈施工計画〉 設計図書に基づき、施工方法、施工順序を考慮し、掘削計画、現場内道路及びコンクリート打設計書の概略施工計画を立案する。 なお、施工計画書には、設計と不可分な施工上の留意点について取りまとめ記載する。 〈仮設構造物設計〉 設計図書に基づき、工事施工に必要な河川切り直し計画、仮排水路の転流工の概略設計を行う。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">数量計算</td> <td>詳細設計で作成した設計図に基づき、土木工事数量算出要領により数量計算を行い、工種別、区間別にとりまとめを行う。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">~~~~~</td> <td>~~~~~</td> </tr> <tr> <td colspan="2">照査</td> <td>1) 設計条件の決定に際し、実施方針、現地の状況、既存資料等の確認を行い、その内容が適切であるか照査を行う。 2) 設計条件及び現地条件等、基本条件の整理が終了した段階で、設計基本条件の運用と手順について照査を行う。 3) 詳細設計に必要な設計詳細条件の設計方針・設計手段及び全体一般図についてその妥当性について照査を行う。 4) すべての成果品について正確性、適切性及び、整合性に着目し照査を行う。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">総合検討</td> <td>施設設計について、総合的な検討を行う。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">報告書作成</td> <td>設計成果として、設計報告書、設計図、数量計算書を取りまとめ報告書の作成を行う。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">現地踏査</td> <td>貸与資料を基に現地踏査を行い、計画予定地周辺の溪流の状況、河床材料の粒径、地形、地質、周辺構造物及び周辺の土地利用状況等を確認し、合わせて工事用道路、施工ヤード等の施工の観点から現地状況を把握し整理を行う。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">~~~~~</td> <td>~~~~~</td> </tr> </tbody> </table>	作業区分		作 業 の 範 囲	施設設計	基礎工設計	基礎の支持力及び長期的な湛水の可能性を検討し、パイピング対策が必要な場合は、その対策について設計を行う。 堰堤が高く長期的に湛水することが考えられる場合にはコンソリデーショングラウチング及びカーテングラウチング及び置換工等の設計をおこない、施設設計図面を作成する。	景観設計	自然と地域になじんだ施設の設計を行う。	施工計画・仮設構造物設計		〈施工計画〉 設計図書に基づき、施工方法、施工順序を考慮し、掘削計画、現場内道路及びコンクリート打設計書の概略施工計画を立案する。 なお、施工計画書には、設計と不可分な施工上の留意点について取りまとめ記載する。 〈仮設構造物設計〉 設計図書に基づき、工事施工に必要な河川切り直し計画、仮排水路の転流工の概略設計を行う。	数量計算		詳細設計で作成した設計図に基づき、土木工事数量算出要領により数量計算を行い、工種別、区間別にとりまとめを行う。	~~~~~		~~~~~	照査		1) 設計条件の決定に際し、実施方針、現地の状況、既存資料等の確認を行い、その内容が適切であるか照査を行う。 2) 設計条件及び現地条件等、基本条件の整理が終了した段階で、設計基本条件の運用と手順について照査を行う。 3) 詳細設計に必要な設計詳細条件の設計方針・設計手段及び全体一般図についてその妥当性について照査を行う。 4) すべての成果品について正確性、適切性及び、整合性に着目し照査を行う。	総合検討		施設設計について、総合的な検討を行う。	報告書作成		設計成果として、設計報告書、設計図、数量計算書を取りまとめ報告書の作成を行う。	現地踏査		貸与資料を基に現地踏査を行い、計画予定地周辺の溪流の状況、河床材料の粒径、地形、地質、周辺構造物及び周辺の土地利用状況等を確認し、合わせて工事用道路、施工ヤード等の施工の観点から現地状況を把握し整理を行う。	~~~~~		~~~~~	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">作業区分</th> <th>作 業 の 範 囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">施設設計</td> <td>基礎工設計</td> <td>基礎の支持力及び長期的な湛水の可能性を検討し、パイピング対策が必要な場合は、その対策について設計を行う。 堰堤が高く長期的に湛水することが考えられる場合にはコンソリデーショングラウチング及びカーテングラウチング及び置換工等の設計をおこない、施設設計図面を作成する。</td> </tr> <tr> <td>景観設計</td> <td>自然と地域になじんだ施設の設計を行う。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">施工計画・仮設構造物設計</td> <td>〈施工計画〉 設計図書に基づき、施工方法、施工順序を考慮し、掘削計画、現場内道路及びコンクリート打設計書の概略施工計画を立案する。 なお、施工計画書には、設計と不可分な施工上の留意点について取りまとめ記載する。 〈仮設構造物設計〉 設計図書に基づき、工事施工に必要な河川切り直し計画、仮排水路の転流工の概略設計を行う。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">数量計算</td> <td>詳細設計で作成した設計図に基づき、土木工事数量算出要領により数量計算を行い、工種別、区間別にとりまとめを行う。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">概算工事費</td> <td>詳細設計として作成した設計図及び数量等に基づき概算工事費を算出する。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">照査</td> <td>1) 設計条件の決定に際し、実施方針、現地の状況、既存資料等の確認を行い、その内容が適切であるか照査を行う。 2) 設計条件及び現地条件等、基本条件の整理が終了した段階で、設計基本条件の運用と手順について照査を行う。 3) 詳細設計に必要な設計詳細条件の設計方針・設計手段及び全体一般図についてその妥当性について照査を行う。 4) すべての成果品について正確性、適切性及び、整合性に着目し照査を行う。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">総合検討</td> <td>施設設計について、総合的な検討を行う。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">報告書作成</td> <td>設計成果として、設計報告書、設計図、数量計算書を取りまとめ報告書の作成を行う。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">現地踏査</td> <td>貸与資料を基に現地踏査を行い、計画予定地周辺の溪流の状況、河床材料の粒径、地形、地質、周辺構造物及び周辺の土地利用状況等を確認し、合わせて工事用道路、施工ヤード等の施工の観点から現地状況を把握し整理を行う。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">~~~~~</td> <td>~~~~~</td> </tr> </tbody> </table> <p>1.5.2.1.2.2. 概算工事費 「1.4-1.0. 河川・砂防構造物詳細設計概算工事費算出」によるものとする。(施工単価コード: DXC48500)</p>	作業区分		作 業 の 範 囲	施設設計	基礎工設計	基礎の支持力及び長期的な湛水の可能性を検討し、パイピング対策が必要な場合は、その対策について設計を行う。 堰堤が高く長期的に湛水することが考えられる場合にはコンソリデーショングラウチング及びカーテングラウチング及び置換工等の設計をおこない、施設設計図面を作成する。	景観設計	自然と地域になじんだ施設の設計を行う。	施工計画・仮設構造物設計		〈施工計画〉 設計図書に基づき、施工方法、施工順序を考慮し、掘削計画、現場内道路及びコンクリート打設計書の概略施工計画を立案する。 なお、施工計画書には、設計と不可分な施工上の留意点について取りまとめ記載する。 〈仮設構造物設計〉 設計図書に基づき、工事施工に必要な河川切り直し計画、仮排水路の転流工の概略設計を行う。	数量計算		詳細設計で作成した設計図に基づき、土木工事数量算出要領により数量計算を行い、工種別、区間別にとりまとめを行う。	概算工事費		詳細設計として作成した設計図及び数量等に基づき概算工事費を算出する。	照査		1) 設計条件の決定に際し、実施方針、現地の状況、既存資料等の確認を行い、その内容が適切であるか照査を行う。 2) 設計条件及び現地条件等、基本条件の整理が終了した段階で、設計基本条件の運用と手順について照査を行う。 3) 詳細設計に必要な設計詳細条件の設計方針・設計手段及び全体一般図についてその妥当性について照査を行う。 4) すべての成果品について正確性、適切性及び、整合性に着目し照査を行う。	総合検討		施設設計について、総合的な検討を行う。	報告書作成		設計成果として、設計報告書、設計図、数量計算書を取りまとめ報告書の作成を行う。	現地踏査		貸与資料を基に現地踏査を行い、計画予定地周辺の溪流の状況、河床材料の粒径、地形、地質、周辺構造物及び周辺の土地利用状況等を確認し、合わせて工事用道路、施工ヤード等の施工の観点から現地状況を把握し整理を行う。	~~~~~		~~~~~	概算工事費 歩掛の追加 及び これに伴う 作業区分の 追加
作業区分		作 業 の 範 囲																																																																		
施設設計	基礎工設計	基礎の支持力及び長期的な湛水の可能性を検討し、パイピング対策が必要な場合は、その対策について設計を行う。 堰堤が高く長期的に湛水することが考えられる場合にはコンソリデーショングラウチング及びカーテングラウチング及び置換工等の設計をおこない、施設設計図面を作成する。																																																																		
	景観設計	自然と地域になじんだ施設の設計を行う。																																																																		
施工計画・仮設構造物設計		〈施工計画〉 設計図書に基づき、施工方法、施工順序を考慮し、掘削計画、現場内道路及びコンクリート打設計書の概略施工計画を立案する。 なお、施工計画書には、設計と不可分な施工上の留意点について取りまとめ記載する。 〈仮設構造物設計〉 設計図書に基づき、工事施工に必要な河川切り直し計画、仮排水路の転流工の概略設計を行う。																																																																		
数量計算		詳細設計で作成した設計図に基づき、土木工事数量算出要領により数量計算を行い、工種別、区間別にとりまとめを行う。																																																																		
~~~~~		~~~~~																																																																		
照査		1) 設計条件の決定に際し、実施方針、現地の状況、既存資料等の確認を行い、その内容が適切であるか照査を行う。 2) 設計条件及び現地条件等、基本条件の整理が終了した段階で、設計基本条件の運用と手順について照査を行う。 3) 詳細設計に必要な設計詳細条件の設計方針・設計手段及び全体一般図についてその妥当性について照査を行う。 4) すべての成果品について正確性、適切性及び、整合性に着目し照査を行う。																																																																		
総合検討		施設設計について、総合的な検討を行う。																																																																		
報告書作成		設計成果として、設計報告書、設計図、数量計算書を取りまとめ報告書の作成を行う。																																																																		
現地踏査		貸与資料を基に現地踏査を行い、計画予定地周辺の溪流の状況、河床材料の粒径、地形、地質、周辺構造物及び周辺の土地利用状況等を確認し、合わせて工事用道路、施工ヤード等の施工の観点から現地状況を把握し整理を行う。																																																																		
~~~~~		~~~~~																																																																		
作業区分		作 業 の 範 囲																																																																		
施設設計	基礎工設計	基礎の支持力及び長期的な湛水の可能性を検討し、パイピング対策が必要な場合は、その対策について設計を行う。 堰堤が高く長期的に湛水することが考えられる場合にはコンソリデーショングラウチング及びカーテングラウチング及び置換工等の設計をおこない、施設設計図面を作成する。																																																																		
	景観設計	自然と地域になじんだ施設の設計を行う。																																																																		
施工計画・仮設構造物設計		〈施工計画〉 設計図書に基づき、施工方法、施工順序を考慮し、掘削計画、現場内道路及びコンクリート打設計書の概略施工計画を立案する。 なお、施工計画書には、設計と不可分な施工上の留意点について取りまとめ記載する。 〈仮設構造物設計〉 設計図書に基づき、工事施工に必要な河川切り直し計画、仮排水路の転流工の概略設計を行う。																																																																		
数量計算		詳細設計で作成した設計図に基づき、土木工事数量算出要領により数量計算を行い、工種別、区間別にとりまとめを行う。																																																																		
概算工事費		詳細設計として作成した設計図及び数量等に基づき概算工事費を算出する。																																																																		
照査		1) 設計条件の決定に際し、実施方針、現地の状況、既存資料等の確認を行い、その内容が適切であるか照査を行う。 2) 設計条件及び現地条件等、基本条件の整理が終了した段階で、設計基本条件の運用と手順について照査を行う。 3) 詳細設計に必要な設計詳細条件の設計方針・設計手段及び全体一般図についてその妥当性について照査を行う。 4) すべての成果品について正確性、適切性及び、整合性に着目し照査を行う。																																																																		
総合検討		施設設計について、総合的な検討を行う。																																																																		
報告書作成		設計成果として、設計報告書、設計図、数量計算書を取りまとめ報告書の作成を行う。																																																																		
現地踏査		貸与資料を基に現地踏査を行い、計画予定地周辺の溪流の状況、河床材料の粒径、地形、地質、周辺構造物及び周辺の土地利用状況等を確認し、合わせて工事用道路、施工ヤード等の施工の観点から現地状況を把握し整理を行う。																																																																		
~~~~~		~~~~~																																																																		

# 土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																																																																																																																																																																					
設計編 〔2〕 土木設計業務 等標準歩掛 17. 急傾斜地崩壊 防止施設設計	設標準 -175	<p>17-2-2 作業区分 急傾斜地崩壊防止施設詳細設計歩掛における作業区分は以下のとおりとする。</p> <table border="1"> <tr> <th>作業区分</th> <th>作 業 の 範 囲</th> </tr> <tr> <td>設 計 計 画</td> <td>業務内容の目的・主旨を把握したうえで、設計図書に示す業務内容を確認し、業務計画を作成する。</td> </tr> </table> <hr/> <table border="1"> <tr> <th>数 量 計 算</th> <th>決 定 した 対 策 施 設 の 詳 細 形 状 対 して、設 計 図 書 に 記 載 する 方 法 に よ り、そ の 数 量 を 詳 細 に 計 算 し、工 種 別、区 間 別 に と り ま と め を 行 う。</th> </tr> </table>	作業区分	作 業 の 範 囲	設 計 計 画	業務内容の目的・主旨を把握したうえで、設計図書に示す業務内容を確認し、業務計画を作成する。	数 量 計 算	決 定 した 対 策 施 設 の 詳 細 形 状 対 して、設 計 図 書 に 記 載 する 方 法 に よ り、そ の 数 量 を 詳 細 に 計 算 し、工 種 別、区 間 別 に と り ま と め を 行 う。	<p>17-2-2 作業区分 急傾斜地崩壊防止施設詳細設計歩掛における作業区分は以下のとおりとする。</p> <table border="1"> <tr> <th>作業区分</th> <th>作 業 の 範 囲</th> </tr> <tr> <td>設 計 計 画</td> <td>業務内容の目的・主旨を把握したうえで、設計図書に示す業務内容を確認し、業務計画を作成する。</td> </tr> </table> <hr/> <table border="1"> <tr> <th>数 量 計 算</th> <th>決 定 した 対 策 施 設 の 詳 細 形 状 対 して、設 計 図 書 に 記 載 する 方 法 に よ り、そ の 数 量 を 詳 細 に 計 算 し、工 種 別、区 間 別 に と り ま と め を 行 う。</th> </tr> </table> <p><b>概算工事費</b> 詳細設計として作成した設計図及び数量等に基づき概算工事費を算出する。</p>	作業区分	作 業 の 範 囲	設 計 計 画	業務内容の目的・主旨を把握したうえで、設計図書に示す業務内容を確認し、業務計画を作成する。	数 量 計 算	決 定 した 対 策 施 設 の 詳 細 形 状 対 して、設 計 図 書 に 記 載 する 方 法 に よ り、そ の 数 量 を 詳 細 に 計 算 し、工 種 別、区 間 別 に と り ま と め を 行 う。	概算工事費 歩掛の追加 に伴う 作業区分の 追加																																																																																																																																																									
作業区分	作 業 の 範 囲																																																																																																																																																																								
設 計 計 画	業務内容の目的・主旨を把握したうえで、設計図書に示す業務内容を確認し、業務計画を作成する。																																																																																																																																																																								
数 量 計 算	決 定 した 対 策 施 設 の 詳 細 形 状 対 して、設 計 図 書 に 記 載 する 方 法 に よ り、そ の 数 量 を 詳 細 に 計 算 し、工 種 別、区 間 別 に と り ま と め を 行 う。																																																																																																																																																																								
作業区分	作 業 の 範 囲																																																																																																																																																																								
設 計 計 画	業務内容の目的・主旨を把握したうえで、設計図書に示す業務内容を確認し、業務計画を作成する。																																																																																																																																																																								
数 量 計 算	決 定 した 対 策 施 設 の 詳 細 形 状 対 して、設 計 図 書 に 記 載 する 方 法 に よ り、そ の 数 量 を 詳 細 に 計 算 し、工 種 別、区 間 別 に と り ま と め を 行 う。																																																																																																																																																																								
設計編 〔2〕 土木設計業務 等標準歩掛 17. 急傾斜地崩壊 防止施設設計	設標準 -177	<p>17-2-3-1 場所打ち法枠工設計</p> <table border="1"> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>DXC62201</td> </tr> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>DXC62208</td> </tr> </table> <p>(1箇所当たり)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">職 種</th> <th colspan="5">直 接 人 件 費</th> </tr> <tr> <th>主任技師</th> <th>技師A</th> <th>技師B</th> <th>技師C</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設 計 計 画</td> <td></td> <td>0.6</td> <td>0.7</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現 地 踏 査</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>0.8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>設 計 条 件 の 確 認</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>設 計 計 算</td> <td></td> <td></td> <td>0.8</td> <td>2.1</td> <td>2.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>設 計 図</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2.4</td> <td>6.1</td> <td>5.8</td> </tr> <tr> <td>数 量 計 算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2.5</td> <td>5.4</td> <td>5.1</td> </tr> <tr> <td>照 査</td> <td></td> <td>0.6</td> <td>0.6</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>報 告 書 作 成</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.5</td> <td>0.6</td> <td>0.7</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td></td> <td>1.2</td> <td>3.3</td> <td>9.3</td> <td>15.6</td> <td>11.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1 予備設計と同一業務の場合、現地踏査及び設計条件の確認は計上しない。 2 予備設計を行っている場合、標準歩掛に90%を乗じて適用する。 3 電算機使用料は、直接人件費の2%を直接経費として計上する。 4 補正係数の適用及び予備設計の取り扱いについては、17-5 急傾斜地崩壊防止施設設計歩掛の運用を参照すること。 5 照査には、赤黄チェックによる照査も含む。</p>	施工単価コード	DXC62201	施工単価コード	DXC62208	区分	職 種	直 接 人 件 費					主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員	設 計 計 画		0.6	0.7				現 地 踏 査			0.6	0.8			設 計 条 件 の 確 認			0.6				設 計 計 算			0.8	2.1	2.5		設 計 図				2.4	6.1	5.8	数 量 計 算				2.5	5.4	5.1	照 査		0.6	0.6	1.0	1.0		報 告 書 作 成				0.5	0.6	0.7	合 計		1.2	3.3	9.3	15.6	11.6	<p>17-2-3-1 場所打ち法枠工設計</p> <table border="1"> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>DXC62201~DXC62208</td> </tr> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>DXC48500</td> </tr> </table> <p>(1箇所当たり)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">職 種</th> <th colspan="5">直 接 人 件 費</th> </tr> <tr> <th>主任技師</th> <th>技師A</th> <th>技師B</th> <th>技師C</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設 計 計 画</td> <td></td> <td>0.6</td> <td>0.7</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現 地 踏 査</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>0.8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>設 計 条 件 の 確 認</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>設 計 計 算</td> <td></td> <td></td> <td>0.8</td> <td>2.1</td> <td>2.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>設 計 図</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2.4</td> <td>6.1</td> <td>5.8</td> </tr> <tr> <td>数 量 計 算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2.5</td> <td>5.4</td> <td>5.1</td> </tr> <tr> <td>概算工事費</td> <td></td> <td colspan="5">「1.4-1.0 河川・砂防構造物詳細設計概算工事費算出」による。</td> </tr> <tr> <td>照 査</td> <td></td> <td>0.6</td> <td>0.6</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>報 告 書 作 成</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.5</td> <td>0.6</td> <td>0.7</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td></td> <td>1.2</td> <td>3.3</td> <td>9.3</td> <td>15.6</td> <td>11.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1 予備設計と同一業務の場合、現地踏査及び設計条件の確認は計上しない。 2 予備設計を行っている場合、標準歩掛に90%を乗じて適用する。 3 電算機使用料は、直接人件費の2%を直接経費として計上する。 4 補正係数の適用及び予備設計の取り扱いについては、17-5 急傾斜地崩壊防止施設設計歩掛の運用を参照すること。 5 照査には、赤黄チェックによる照査も含む。</p>	施工単価コード	DXC62201~DXC62208	施工単価コード	DXC48500	区分	職 種	直 接 人 件 費					主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員	設 計 計 画		0.6	0.7				現 地 踏 査			0.6	0.8			設 計 条 件 の 確 認			0.6				設 計 計 算			0.8	2.1	2.5		設 計 図				2.4	6.1	5.8	数 量 計 算				2.5	5.4	5.1	概算工事費		「1.4-1.0 河川・砂防構造物詳細設計概算工事費算出」による。					照 査		0.6	0.6	1.0	1.0		報 告 書 作 成				0.5	0.6	0.7	合 計		1.2	3.3	9.3	15.6	11.6	単価コードの 表記方法の 変更  概算工事費 歩掛の追加 及び これに伴う 作業区分の 追加
施工単価コード	DXC62201																																																																																																																																																																								
施工単価コード	DXC62208																																																																																																																																																																								
区分	職 種	直 接 人 件 費																																																																																																																																																																							
		主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員																																																																																																																																																																			
設 計 計 画		0.6	0.7																																																																																																																																																																						
現 地 踏 査			0.6	0.8																																																																																																																																																																					
設 計 条 件 の 確 認			0.6																																																																																																																																																																						
設 計 計 算			0.8	2.1	2.5																																																																																																																																																																				
設 計 図				2.4	6.1	5.8																																																																																																																																																																			
数 量 計 算				2.5	5.4	5.1																																																																																																																																																																			
照 査		0.6	0.6	1.0	1.0																																																																																																																																																																				
報 告 書 作 成				0.5	0.6	0.7																																																																																																																																																																			
合 計		1.2	3.3	9.3	15.6	11.6																																																																																																																																																																			
施工単価コード	DXC62201~DXC62208																																																																																																																																																																								
施工単価コード	DXC48500																																																																																																																																																																								
区分	職 種	直 接 人 件 費																																																																																																																																																																							
		主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員																																																																																																																																																																			
設 計 計 画		0.6	0.7																																																																																																																																																																						
現 地 踏 査			0.6	0.8																																																																																																																																																																					
設 計 条 件 の 確 認			0.6																																																																																																																																																																						
設 計 計 算			0.8	2.1	2.5																																																																																																																																																																				
設 計 図				2.4	6.1	5.8																																																																																																																																																																			
数 量 計 算				2.5	5.4	5.1																																																																																																																																																																			
概算工事費		「1.4-1.0 河川・砂防構造物詳細設計概算工事費算出」による。																																																																																																																																																																							
照 査		0.6	0.6	1.0	1.0																																																																																																																																																																				
報 告 書 作 成				0.5	0.6	0.7																																																																																																																																																																			
合 計		1.2	3.3	9.3	15.6	11.6																																																																																																																																																																			

# 土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現行	改定	備考																																																																																																																																																															
設計編 〔2〕 土木設計業務 等標準歩掛 17. 急傾斜地崩壊 防止施設設計	設標準 -178	17-2-4-1 アンカー付場所打ち法枠工設計(グラウンドアンカー併用・ロックボルト併用) 施工単価コード DXC62401 ~ 施工単価コード DXC62408 (1箇所当り)	17-2-4-1 アンカー付場所打ち法枠工設計(グラウンドアンカー併用・ロックボルト併用) 施工単価コード DXC62401~DXC62408 施工単価コード(概算工事費) DXC48500 (1箇所当り)	単価コードの 表記方法の 変更  概算工事費 歩掛の追加 及び これに伴う 作業区分の 追加																																																																																																																																																															
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">職種</th> <th colspan="5">直接人件費</th> </tr> <tr> <th>主任技師</th> <th>技師A</th> <th>技師B</th> <th>技師C</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設計計画</td> <td></td> <td>0.6</td> <td>0.7</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現地踏査</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>0.7</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>設計条件の確認</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>設計計算</td> <td></td> <td></td> <td>3.5</td> <td>5.5</td> <td>7.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>設計図</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3.8</td> <td>5.6</td> <td>9.4</td> </tr> <tr> <td>数量計算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2.4</td> <td>4.7</td> <td>7.2</td> </tr> <tr> <td colspan="6">-----</td> </tr> <tr> <td>照査</td> <td></td> <td>1.1</td> <td>1.3</td> <td>1.3</td> <td>1.3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>報告書作成</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.5</td> <td>1.2</td> <td>1.3</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>1.7</td> <td>6.7</td> <td>14.2</td> <td>19.8</td> <td>17.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1 予備設計と同一業務の場合、現地踏査及び設計条件の確認は計上しない。 2 予備設計を行っている場合、標準歩掛に90%を乗じて適用する。 3 ロックボルト併用を標準とし、グラウンドアンカー併用の場合は標準歩掛に110%を乗じて適用する。</p>	区分		職種	直接人件費					主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員	設計計画		0.6	0.7				現地踏査			0.6	0.7			設計条件の確認			0.6				設計計算			3.5	5.5	7.0		設計図				3.8	5.6	9.4	数量計算				2.4	4.7	7.2	-----						照査		1.1	1.3	1.3	1.3		報告書作成				0.5	1.2	1.3	合計		1.7	6.7	14.2	19.8	17.9	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">職種</th> <th colspan="5">直接人件費</th> </tr> <tr> <th>主任技師</th> <th>技師A</th> <th>技師B</th> <th>技師C</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設計計画</td> <td></td> <td>0.6</td> <td>0.7</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現地踏査</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>0.7</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>設計条件の確認</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>設計計算</td> <td></td> <td></td> <td>3.5</td> <td>5.5</td> <td>7.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>設計図</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3.8</td> <td>5.6</td> <td>9.4</td> </tr> <tr> <td>数量計算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2.4</td> <td>4.7</td> <td>7.2</td> </tr> <tr> <td colspan="6">-----</td> </tr> <tr> <td>照査</td> <td></td> <td>1.1</td> <td>1.3</td> <td>1.3</td> <td>1.3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>報告書作成</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.5</td> <td>1.2</td> <td>1.3</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>1.7</td> <td>6.7</td> <td>14.2</td> <td>19.8</td> <td>17.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1 予備設計と同一業務の場合、現地踏査及び設計条件の確認は計上しない。 2 予備設計を行っている場合、標準歩掛に90%を乗じて適用する。 3 ロックボルト併用を標準とし、グラウンドアンカー併用の場合は標準歩掛に110%を乗じて適用する。</p>	区分	職種	直接人件費					主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員	設計計画		0.6	0.7				現地踏査			0.6	0.7			設計条件の確認			0.6				設計計算			3.5	5.5	7.0		設計図				3.8	5.6	9.4	数量計算				2.4	4.7	7.2	-----						照査		1.1	1.3	1.3	1.3		報告書作成				0.5	1.2	1.3	合計		1.7	6.7
区分	職種	直接人件費																																																																																																																																																																	
		主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員																																																																																																																																																													
設計計画		0.6	0.7																																																																																																																																																																
現地踏査			0.6	0.7																																																																																																																																																															
設計条件の確認			0.6																																																																																																																																																																
設計計算			3.5	5.5	7.0																																																																																																																																																														
設計図				3.8	5.6	9.4																																																																																																																																																													
数量計算				2.4	4.7	7.2																																																																																																																																																													
-----																																																																																																																																																																			
照査		1.1	1.3	1.3	1.3																																																																																																																																																														
報告書作成				0.5	1.2	1.3																																																																																																																																																													
合計		1.7	6.7	14.2	19.8	17.9																																																																																																																																																													
区分	職種	直接人件費																																																																																																																																																																	
		主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員																																																																																																																																																													
設計計画		0.6	0.7																																																																																																																																																																
現地踏査			0.6	0.7																																																																																																																																																															
設計条件の確認			0.6																																																																																																																																																																
設計計算			3.5	5.5	7.0																																																																																																																																																														
設計図				3.8	5.6	9.4																																																																																																																																																													
数量計算				2.4	4.7	7.2																																																																																																																																																													
-----																																																																																																																																																																			
照査		1.1	1.3	1.3	1.3																																																																																																																																																														
報告書作成				0.5	1.2	1.3																																																																																																																																																													
合計		1.7	6.7	14.2	19.8	17.9																																																																																																																																																													
設計編 〔2〕 土木設計業務 等標準歩掛 17. 急傾斜地崩壊 防止施設設計	設標準 -179	17-2-5-1 プレキャスト法枠工設計 施工単価コード DXC62601 ~ 施工単価コード DXC62607 (1箇所当り)	17-2-5-1 プレキャスト法枠工設計 施工単価コード DXC62601~DXC62607 施工単価コード(概算工事費) DXC48500 (1箇所当り)	単価コードの 表記方法の 変更  概算工事費 歩掛の追加 及び これに伴う 作業区分の 追加																																																																																																																																																															
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">職種</th> <th colspan="5">直接人件費</th> </tr> <tr> <th>主任技師</th> <th>技師A</th> <th>技師B</th> <th>技師C</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設計計画</td> <td></td> <td>0.6</td> <td>0.6</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現地踏査</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>0.8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>設計条件の確認</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>設計図</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.2</td> <td>2.4</td> <td>2.8</td> </tr> <tr> <td>数量計算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.2</td> <td>2.3</td> <td>2.6</td> </tr> <tr> <td colspan="6">-----</td> </tr> <tr> <td>照査</td> <td></td> <td>0.6</td> <td>0.6</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>報告書作成</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.5</td> <td>0.6</td> <td>0.7</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>1.2</td> <td>2.4</td> <td>4.7</td> <td>6.3</td> <td>6.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1 予備設計と同一業務の場合、現地踏査及び設計条件の確認は計上しない。 2 予備設計を行っている場合、標準歩掛に90%を乗じて適用する。 3 電算機使用料は、直接人件費の2%を直接経費として計上する。</p>	区分		職種	直接人件費					主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員	設計計画		0.6	0.6				現地踏査			0.6	0.8			設計条件の確認			0.6				設計図				1.2	2.4	2.8	数量計算				1.2	2.3	2.6	-----						照査		0.6	0.6	1.0	1.0		報告書作成				0.5	0.6	0.7	合計		1.2	2.4	4.7	6.3	6.1	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">職種</th> <th colspan="5">直接人件費</th> </tr> <tr> <th>主任技師</th> <th>技師A</th> <th>技師B</th> <th>技師C</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設計計画</td> <td></td> <td>0.6</td> <td>0.6</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現地踏査</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>0.8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>設計条件の確認</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>設計図</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.2</td> <td>2.4</td> <td>2.8</td> </tr> <tr> <td>数量計算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.2</td> <td>2.3</td> <td>2.6</td> </tr> <tr> <td colspan="6">-----</td> </tr> <tr> <td>照査</td> <td></td> <td>0.6</td> <td>0.6</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>報告書作成</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.5</td> <td>0.6</td> <td>0.7</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>1.2</td> <td>2.4</td> <td>4.7</td> <td>6.3</td> <td>6.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1 予備設計と同一業務の場合、現地踏査及び設計条件の確認は計上しない。 2 予備設計を行っている場合、標準歩掛に90%を乗じて適用する。 3 電算機使用料は、直接人件費の2%を直接経費として計上する。</p>	区分	職種	直接人件費					主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員	設計計画		0.6	0.6				現地踏査			0.6	0.8			設計条件の確認			0.6				設計図				1.2	2.4	2.8	数量計算				1.2	2.3	2.6	-----						照査		0.6	0.6	1.0	1.0		報告書作成				0.5	0.6	0.7	合計		1.2	2.4	4.7	6.3	6.1											
区分	職種	直接人件費																																																																																																																																																																	
		主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員																																																																																																																																																													
設計計画		0.6	0.6																																																																																																																																																																
現地踏査			0.6	0.8																																																																																																																																																															
設計条件の確認			0.6																																																																																																																																																																
設計図				1.2	2.4	2.8																																																																																																																																																													
数量計算				1.2	2.3	2.6																																																																																																																																																													
-----																																																																																																																																																																			
照査		0.6	0.6	1.0	1.0																																																																																																																																																														
報告書作成				0.5	0.6	0.7																																																																																																																																																													
合計		1.2	2.4	4.7	6.3	6.1																																																																																																																																																													
区分	職種	直接人件費																																																																																																																																																																	
		主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員																																																																																																																																																													
設計計画		0.6	0.6																																																																																																																																																																
現地踏査			0.6	0.8																																																																																																																																																															
設計条件の確認			0.6																																																																																																																																																																
設計図				1.2	2.4	2.8																																																																																																																																																													
数量計算				1.2	2.3	2.6																																																																																																																																																													
-----																																																																																																																																																																			
照査		0.6	0.6	1.0	1.0																																																																																																																																																														
報告書作成				0.5	0.6	0.7																																																																																																																																																													
合計		1.2	2.4	4.7	6.3	6.1																																																																																																																																																													

# 土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																																																																																																																																																															
設計編 〔2〕 土木設計業務 等標準歩掛 17. 急傾斜地崩壊 防止施設設計	設標準 -180	17-2-6-1 土留柵工設計 施工単価コード <u>DXC62801</u> ~ 施工単価コード <u>DXC62808</u> (1箇所当り)	17-2-6-1 土留柵工設計 施工単価コード <u>DXC62801~DXC62808</u> 施工単価コード <u>(概算工事費) DXC48500</u> (1箇所当り)	単価コードの 表記方法の 変更  概算工事費 歩掛の追加 及び これに伴う 作業区分の 追加																																																																																																																																																															
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">職種</th> <th colspan="5">直接人件費</th> </tr> <tr> <th>主任技師</th> <th>技師A</th> <th>技師B</th> <th>技師C</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設計計画</td> <td></td> <td>0.6</td> <td>0.6</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現地踏査</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>0.6</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>設計条件の確認</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>設計計算</td> <td></td> <td></td> <td>2.2</td> <td>3.3</td> <td>5.1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>設計図</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3.7</td> <td>4.8</td> <td>9.3</td> </tr> <tr> <td>数量計算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2.1</td> <td>3.5</td> <td>7.0</td> </tr> <tr> <td colspan="6"><hr/></td> </tr> <tr> <td>照査</td> <td></td> <td>1.1</td> <td>1.3</td> <td>1.3</td> <td>1.3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>報告書作成</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>1.2</td> <td>1.2</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>1.7</td> <td>5.3</td> <td>11.6</td> <td>15.9</td> <td>17.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1 予備設計と同一業務の場合、現地踏査及び設計条件の確認は計上しない。 2 予備設計を行っている場合、標準歩掛に90%を乗じて適用する。 3 電算機使用料は、直接人件費の2%を直接経費として計上する。</p>	区分		職種	直接人件費					主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員	設計計画		0.6	0.6				現地踏査			0.6	0.6			設計条件の確認			0.6				設計計算			2.2	3.3	5.1		設計図				3.7	4.8	9.3	数量計算				2.1	3.5	7.0	<hr/>						照査		1.1	1.3	1.3	1.3		報告書作成				0.6	1.2	1.2	合計		1.7	5.3	11.6	15.9	17.5	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">職種</th> <th colspan="5">直接人件費</th> </tr> <tr> <th>主任技師</th> <th>技師A</th> <th>技師B</th> <th>技師C</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設計計画</td> <td></td> <td>0.6</td> <td>0.6</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現地踏査</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>0.6</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>設計条件の確認</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>設計計算</td> <td></td> <td></td> <td>2.2</td> <td>3.3</td> <td>5.1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>設計図</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3.7</td> <td>4.8</td> <td>9.3</td> </tr> <tr> <td>数量計算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2.1</td> <td>3.5</td> <td>7.0</td> </tr> <tr> <td colspan="6"><hr/></td> </tr> <tr> <td>照査</td> <td></td> <td>1.1</td> <td>1.3</td> <td>1.3</td> <td>1.3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>報告書作成</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>1.2</td> <td>1.2</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>1.7</td> <td>5.3</td> <td>11.6</td> <td>15.9</td> <td>17.5</td> </tr> </tbody> </table> <p><u>概算工事費</u>「1.4-1.0 河川・砂防構造物詳細設計概算工事費算出」による。</p> <p>(注) 1 予備設計と同一業務の場合、現地踏査及び設計条件の確認は計上しない。 2 予備設計を行っている場合、標準歩掛に90%を乗じて適用する。 3 電算機使用料は、直接人件費の2%を直接経費として計上する。</p>	区分	職種	直接人件費					主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員	設計計画		0.6	0.6				現地踏査			0.6	0.6			設計条件の確認			0.6				設計計算			2.2	3.3	5.1		設計図				3.7	4.8	9.3	数量計算				2.1	3.5	7.0	<hr/>						照査		1.1	1.3	1.3	1.3		報告書作成				0.6	1.2	1.2	合計		1.7	5.3
区分	職種	直接人件費																																																																																																																																																																	
		主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員																																																																																																																																																													
設計計画		0.6	0.6																																																																																																																																																																
現地踏査			0.6	0.6																																																																																																																																																															
設計条件の確認			0.6																																																																																																																																																																
設計計算			2.2	3.3	5.1																																																																																																																																																														
設計図				3.7	4.8	9.3																																																																																																																																																													
数量計算				2.1	3.5	7.0																																																																																																																																																													
<hr/>																																																																																																																																																																			
照査		1.1	1.3	1.3	1.3																																																																																																																																																														
報告書作成				0.6	1.2	1.2																																																																																																																																																													
合計		1.7	5.3	11.6	15.9	17.5																																																																																																																																																													
区分	職種	直接人件費																																																																																																																																																																	
		主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員																																																																																																																																																													
設計計画		0.6	0.6																																																																																																																																																																
現地踏査			0.6	0.6																																																																																																																																																															
設計条件の確認			0.6																																																																																																																																																																
設計計算			2.2	3.3	5.1																																																																																																																																																														
設計図				3.7	4.8	9.3																																																																																																																																																													
数量計算				2.1	3.5	7.0																																																																																																																																																													
<hr/>																																																																																																																																																																			
照査		1.1	1.3	1.3	1.3																																																																																																																																																														
報告書作成				0.6	1.2	1.2																																																																																																																																																													
合計		1.7	5.3	11.6	15.9	17.5																																																																																																																																																													
設計編 〔2〕 土木設計業務 等標準歩掛 17. 急傾斜地崩壊 防止施設設計	設標準 -181	17-2-7-1 重力式擁壁工設計 施工単価コード <u>DXC63001</u> ~ 施工単価コード <u>DXC63008</u> (1箇所当り)	17-2-7-1 重力式擁壁工設計 施工単価コード <u>DXC63001~DXC63008</u> 施工単価コード <u>(概算工事費) DXC48500</u> (1箇所当り)	単価コードの 表記方法の 変更  概算工事費 歩掛の追加 及び これに伴う 作業区分の 追加																																																																																																																																																															
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">職種</th> <th colspan="5">直接人件費</th> </tr> <tr> <th>主任技師</th> <th>技師A</th> <th>技師B</th> <th>技師C</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設計計画</td> <td></td> <td>0.6</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現地踏査</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>0.6</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>設計条件の確認</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>設計計算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>1.3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>設計図</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.3</td> <td>1.7</td> <td>1.3</td> </tr> <tr> <td>数量計算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>1.3</td> </tr> <tr> <td colspan="6"><hr/></td> </tr> <tr> <td>照査</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>0.8</td> <td>0.8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>報告書作成</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.5</td> <td>0.6</td> <td>0.7</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>0.6</td> <td>1.8</td> <td>3.8</td> <td>5.0</td> <td>3.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1 予備設計と同一業務の場合、現地踏査及び設計条件の確認は計上しない。 2 予備設計を行っている場合、標準歩掛に90%を乗じて適用する。 3 電算機使用料は、直接人件費の2%を直接経費として計上する。</p>	区分		職種	直接人件費					主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員	設計計画		0.6					現地踏査			0.6	0.6			設計条件の確認			0.6				設計計算				0.6	1.3		設計図				1.3	1.7	1.3	数量計算					0.6	1.3	<hr/>						照査			0.6	0.8	0.8		報告書作成				0.5	0.6	0.7	合計		0.6	1.8	3.8	5.0	3.3	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">職種</th> <th colspan="5">直接人件費</th> </tr> <tr> <th>主任技師</th> <th>技師A</th> <th>技師B</th> <th>技師C</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設計計画</td> <td></td> <td>0.6</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現地踏査</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>0.6</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>設計条件の確認</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>設計計算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>1.3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>設計図</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.3</td> <td>1.7</td> <td>1.3</td> </tr> <tr> <td>数量計算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>1.3</td> </tr> <tr> <td colspan="6"><hr/></td> </tr> <tr> <td>照査</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>0.8</td> <td>0.8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>報告書作成</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.5</td> <td>0.6</td> <td>0.7</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>0.6</td> <td>1.8</td> <td>3.8</td> <td>5.0</td> <td>3.3</td> </tr> </tbody> </table> <p><u>概算工事費</u>「1.4-1.0 河川・砂防構造物詳細設計概算工事費算出」による。</p> <p>(注) 1 予備設計と同一業務の場合、現地踏査及び設計条件の確認は計上しない。 2 予備設計を行っている場合、標準歩掛に90%を乗じて適用する。 3 電算機使用料は、直接人件費の2%を直接経費として計上する。</p>	区分	職種	直接人件費					主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員	設計計画		0.6					現地踏査			0.6	0.6			設計条件の確認			0.6				設計計算				0.6	1.3		設計図				1.3	1.7	1.3	数量計算					0.6	1.3	<hr/>						照査			0.6	0.8	0.8		報告書作成				0.5	0.6	0.7	合計		0.6	1.8
区分	職種	直接人件費																																																																																																																																																																	
		主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員																																																																																																																																																													
設計計画		0.6																																																																																																																																																																	
現地踏査			0.6	0.6																																																																																																																																																															
設計条件の確認			0.6																																																																																																																																																																
設計計算				0.6	1.3																																																																																																																																																														
設計図				1.3	1.7	1.3																																																																																																																																																													
数量計算					0.6	1.3																																																																																																																																																													
<hr/>																																																																																																																																																																			
照査			0.6	0.8	0.8																																																																																																																																																														
報告書作成				0.5	0.6	0.7																																																																																																																																																													
合計		0.6	1.8	3.8	5.0	3.3																																																																																																																																																													
区分	職種	直接人件費																																																																																																																																																																	
		主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員																																																																																																																																																													
設計計画		0.6																																																																																																																																																																	
現地踏査			0.6	0.6																																																																																																																																																															
設計条件の確認			0.6																																																																																																																																																																
設計計算				0.6	1.3																																																																																																																																																														
設計図				1.3	1.7	1.3																																																																																																																																																													
数量計算					0.6	1.3																																																																																																																																																													
<hr/>																																																																																																																																																																			
照査			0.6	0.8	0.8																																																																																																																																																														
報告書作成				0.5	0.6	0.7																																																																																																																																																													
合計		0.6	1.8	3.8	5.0	3.3																																																																																																																																																													

# 土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																																																																																																																																																													
設計編 〔2〕 土木設計業務 等標準歩掛 17. 急傾斜地崩壊 防止施設設計	設標準 -182	17-2-8-1 井桁式擁壁工設計 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">                         施工単価コード DXC63201 ~                          施工単価コード DXC63208                     </div> (1箇所当り) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">職 種</th> <th colspan="5">直 接 人 件 費</th> </tr> <tr> <th>主任技師</th> <th>技師A</th> <th>技師B</th> <th>技師C</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設 計 計 画</td> <td></td> <td>0.6</td> <td>0.6</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現 地 踏 査</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>0.6</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>設 計 条 件 の 確 認</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>設 計 計 算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.7</td> <td>1.7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>設 計 図</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.3</td> <td>1.8</td> <td>1.7</td> </tr> <tr> <td>数 量 計 算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>1.3</td> </tr> <tr> <td>照 査</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>0.8</td> <td>0.8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>報 告 書 作 成</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.5</td> <td>0.6</td> <td>0.7</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td></td> <td>0.6</td> <td>2.4</td> <td>4.9</td> <td>5.5</td> <td>3.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1 予備設計と同一業務の場合、現地踏査及び設計条件の確認は計上しない。                      2 予備設計を行っている場合、標準歩掛に90%を乗じて適用する。                      3 電算機使用料は、直接人件費の2%を直接経費として計上する。                      4 補正係数の適用及び予備設計の取り扱いについては、17-5 急傾斜地崩壊防止施設設計歩掛の運用を参照すること。                      5 照査には、赤黄チェックによる照査も含む。</p>	区分	職 種	直 接 人 件 費					主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員	設 計 計 画		0.6	0.6				現 地 踏 査			0.6	0.6			設 計 条 件 の 確 認			0.6				設 計 計 算				1.7	1.7		設 計 図				1.3	1.8	1.7	数 量 計 算					0.6	1.3	照 査			0.6	0.8	0.8		報 告 書 作 成				0.5	0.6	0.7	合 計		0.6	2.4	4.9	5.5	3.7	17-2-8-1 井桁式擁壁工設計 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">                         施工単価コード DXC63201~DXC63208                          施工単価コード(概算工事費) DXC48500                     </div> (1箇所当り) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">職 種</th> <th colspan="5">直 接 人 件 費</th> </tr> <tr> <th>主任技師</th> <th>技師A</th> <th>技師B</th> <th>技師C</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設 計 計 画</td> <td></td> <td>0.6</td> <td>0.6</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現 地 踏 査</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>0.6</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>設 計 条 件 の 確 認</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>設 計 計 算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.7</td> <td>1.7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>設 計 図</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.3</td> <td>1.8</td> <td>1.7</td> </tr> <tr> <td>数 量 計 算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>1.3</td> </tr> <tr> <td>概 算 工 事 費</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>照 査</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>0.8</td> <td>0.8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>報 告 書 作 成</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.5</td> <td>0.6</td> <td>0.7</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td></td> <td>0.6</td> <td>2.4</td> <td>4.9</td> <td>5.5</td> <td>3.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1 予備設計と同一業務の場合、現地踏査及び設計条件の確認は計上しない。                      2 予備設計を行っている場合、標準歩掛に90%を乗じて適用する。                      3 電算機使用料は、直接人件費の2%を直接経費として計上する。                      4 補正係数の適用及び予備設計の取り扱いについては、17-5 急傾斜地崩壊防止施設設計歩掛の運用を参照すること。                      5 照査には、赤黄チェックによる照査も含む。</p>	区分	職 種	直 接 人 件 費					主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員	設 計 計 画		0.6	0.6				現 地 踏 査			0.6	0.6			設 計 条 件 の 確 認			0.6				設 計 計 算				1.7	1.7		設 計 図				1.3	1.8	1.7	数 量 計 算					0.6	1.3	概 算 工 事 費							照 査			0.6	0.8	0.8		報 告 書 作 成				0.5	0.6	0.7	合 計		0.6	2.4	4.9	5.5	3.7	単価コードの 表記方法の 変更  概算工事費 歩掛の追加 及び これに伴う 作業区分の 追加
区分	職 種	直 接 人 件 費																																																																																																																																																															
		主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員																																																																																																																																																											
設 計 計 画		0.6	0.6																																																																																																																																																														
現 地 踏 査			0.6	0.6																																																																																																																																																													
設 計 条 件 の 確 認			0.6																																																																																																																																																														
設 計 計 算				1.7	1.7																																																																																																																																																												
設 計 図				1.3	1.8	1.7																																																																																																																																																											
数 量 計 算					0.6	1.3																																																																																																																																																											
照 査			0.6	0.8	0.8																																																																																																																																																												
報 告 書 作 成				0.5	0.6	0.7																																																																																																																																																											
合 計		0.6	2.4	4.9	5.5	3.7																																																																																																																																																											
区分	職 種	直 接 人 件 費																																																																																																																																																															
		主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員																																																																																																																																																											
設 計 計 画		0.6	0.6																																																																																																																																																														
現 地 踏 査			0.6	0.6																																																																																																																																																													
設 計 条 件 の 確 認			0.6																																																																																																																																																														
設 計 計 算				1.7	1.7																																																																																																																																																												
設 計 図				1.3	1.8	1.7																																																																																																																																																											
数 量 計 算					0.6	1.3																																																																																																																																																											
概 算 工 事 費																																																																																																																																																																	
照 査			0.6	0.8	0.8																																																																																																																																																												
報 告 書 作 成				0.5	0.6	0.7																																																																																																																																																											
合 計		0.6	2.4	4.9	5.5	3.7																																																																																																																																																											

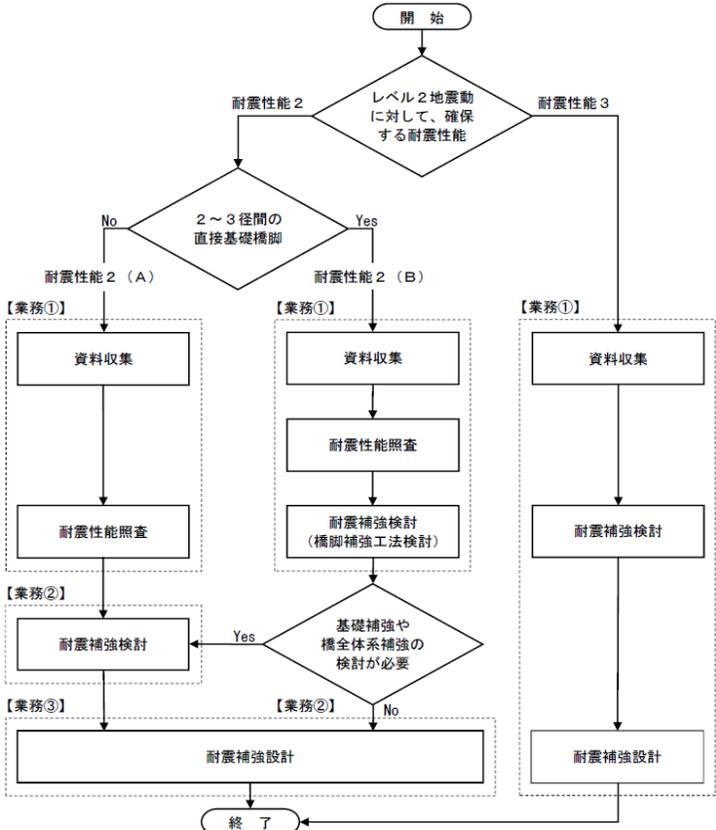
# 土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考
調査計画編	目次	<p style="text-align: center;">調 査 計 画 編</p> <p>〔1〕調査・計画業務委託積算基準……………計積基 - 1</p> <p>〔2〕道路調査……………計道調 - 1</p> <p>1. 道路環境調査……………計道調 - 1</p> <p>2. 緊急輸送道路の橋梁耐震補強3箇年プログラム……………計道調 - 28</p> <p>3. 道路防災総点検業務……………計道調 - 46</p> <p>4. 道路防災総点検交付金(ソフト)事業業務……………計道調 - 52</p> <p>5. 橋梁定期点検……………計道調 - 54</p> <p>6. 路面性状調査……………計道調 - 68</p> <p>7. 舗装補修工法検討業務……………計道調 - 72</p> <p>8. 橋梁補修設計……………計道調 - 73</p> <p>9. 横断排水施設点検業務委託積算基準……………計道調 - 80</p>	<p style="text-align: center;">調 査 計 画 編</p> <p>〔1〕調査・計画業務委託積算基準……………計積基 - 1</p> <p>〔2〕道路調査……………計道調 - 1</p> <p>1. 道路環境調査……………計道調 - 1</p> <p>2. 橋の耐震補強設計……………計道調 - 28</p> <p>3. 道路防災総点検業務……………計道調 - 46</p> <p>4. 道路防災総点検交付金(ソフト)事業業務……………計道調 - 52</p> <p>5. 橋梁定期点検……………計道調 - 54</p> <p>6. 路面性状調査……………計道調 - 68</p> <p>7. 舗装補修工法検討業務……………計道調 - 72</p> <p>8. 橋梁補修設計……………計道調 - 73</p> <p>9. 横断排水施設点検業務委託積算基準……………計道調 - 80</p>	目次の改定
調査計画編	目次	<p>2. 緊急輸送道路の橋梁耐震補強3箇年プログラム……………計道調 - 28</p> <p>2-1 鉄筋コンクリート単柱橋脚、 連続橋の固定橋脚の耐震補強設計……………計道調 - 28</p> <p>2-2 耐震補強設計(柱部材のみ)……………計道調 - 30</p> <p>2-3 落橋防止システム設置……………計道調 - 33</p> <p>2-4 落橋防止システム設計……………計道調 - 36</p> <p>2-5 業務等の費用……………計道調 - 36</p> <p>2-6 調査・設計歩掛……………計道調 - 37</p> <p>2-7 参考資料……………計道調 - 45</p> <p style="text-align: center;">( 全 廃 )</p>	<p>2. 橋の耐震補強設計……………計道調 - 28</p> <p>2-1 橋の耐震補強設計……………計道調 - 28</p> <p>2-2 業務等の費用……………計道調 - 34</p> <p>2-3 資料収集……………計道調 - 34</p> <p>2-4 耐震性能照査……………計道調 - 39</p> <p>2-5 耐震補強検討……………計道調 - 41</p> <p>2-6 耐震補強設計……………計道調 - 45(1)</p> <p>2-7 積算例……………計道調 - 45(7)</p> <p style="text-align: center;">( 全 増 )</p>	全面改定
調査計画編	目次	<p>8. 橋梁補修設計……………計道調 - 73</p> <p>8-1 適用範囲……………計道調 - 73</p> <p>8-2 業務等の費用及び積算……………計道調 - 73</p> <p>8-3 損傷箇所の確認調査……………計道調 - 73</p> <p>8-4 P C桁の補修設計……………計道調 - 73</p> <p>8-5 R C床版補修設計……………計道調 - 74</p> <p>8-6 鋼橋塗装塗り替え設計……………計道調 - 74</p> <p>8-7 伸縮装置取り替え設計……………計道調 - 75</p> <p>8-8 支承補修設計……………計道調 - 75</p> <p>8-9 支承取り替え設計……………計道調 - 75</p> <p>8-10 地覆・防護柵補修設計……………計道調 - 76</p> <p>8-11 地覆・防護柵部分補修設計……………計道調 - 76</p> <p>8-12 防護柵塗装塗り替え設計……………計道調 - 77</p> <p>8-13 地覆補修設計……………計道調 - 77</p> <p>8-14 橋面防水設計……………計道調 - 78</p> <p>8-15 下部工補修設計……………計道調 - 78</p> <p>8-16 施工計画……………計道調 - 78</p> <p>8-17 概算工事費算出……………計道調 - 79</p>	<p>8. 橋梁補修設計……………計道調 - 73</p> <p>8-1 適用範囲……………計道調 - 73</p> <p>8-2 業務等の費用及び積算……………計道調 - 73</p> <p>8-3 損傷箇所の確認調査……………計道調 - 73</p> <p>8-4 ロープアクセス調査……………計道調 - 74</p> <p>8-5 鉄筋腐食度はつり調査……………計道調 - 76</p> <p>8-6 P C桁の補修設計……………計道調 - 76</p> <p>8-7 R C床版補修設計……………計道調 - 77</p> <p>8-8 鋼橋塗装塗り替え設計……………計道調 - 77</p> <p>8-9 伸縮装置取り替え設計……………計道調 - 78</p> <p>8-10 支承補修設計……………計道調 - 78</p> <p>8-11 支承取り替え設計……………計道調 - 78</p> <p>8-12 地覆・防護柵補修設計……………計道調 - 79(1)</p> <p>8-13 地覆・防護柵部分補修設計……………計道調 - 79(1)</p> <p>8-14 防護柵塗装塗り替え設計……………計道調 - 79(2)</p> <p>8-15 地覆補修設計……………計道調 - 79(2)</p> <p>8-16 橋面防水設計……………計道調 - 79(3)</p> <p>8-17 下部工補修設計……………計道調 - 79(3)</p> <p>8-18 排水装置補修設計……………計道調 - 79(3)</p> <p>8-19 施工計画……………計道調 - 79(4)</p> <p>8-20 概算工事費算出……………計道調 - 79(4)</p>	<p>工種追加</p> <p>※各工種の 番号改定は 新旧表省略</p>

# 土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考
調査計画編  [2] 道路調査  2. 橋の 耐震補強設計  2-1. 橋の耐震 補強設計	計道調-28	<p style="color: red; font-size: 2em;">全 面 改 定</p>	<p style="color: red;">2. 橋の耐震補強設計</p> <p style="color: red;">2-1 橋の耐震補強設計</p> <p style="color: red;">(1) 設計フロー</p>  <p style="color: red; font-size: small;">注) 1. 上図の破線は、標準的な業務単位を示す。 2. 耐震性能2において、耐震補強検討の結果より橋の架替えが必要と判断される場合は、橋梁予備設計や道路概略設計(道路予備設計)を適宜検討すること。</p>	全面改定

# 土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																																	
調査計画編 〔2〕 道路調査 2. 橋の 耐震補強設計 2-1. 橋の耐震 補強設計 (2)作業内容 耐震性能 2(A) 【業務①】	計道調-29		<p>(2) 作業内容</p> <p>耐震性能2 (A) 【業務①】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>作業内容</th> <th>計上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現地踏査</td> <td>地形・地質を把握し、各種耐震補強対策の実施を想定し現地状況を確認・把握をする。必要に応じて橋脚まわりの桁下高をボールやテープを用いて計測するなどの簡易的な作工調査を含む。</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>既往資料収集</td> <td>対象橋梁の竣工図面、設計計算書、その他関連資料の収集・整理を行う。</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>上部構造形状調査</td> <td>下部構造に作用する上部構造反力の算出に必要なとなる範囲、支承及び落橋防止システムを設置する想定箇所を調査する。5m梯子程度以下で調査可能な箇所に適用する。</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>橋脚・橋台形状調査</td> <td>地表面又は水面より突出している部分の橋脚・橋台形状、支承及び落橋防止システムを設置する想定箇所を調査する。5m梯子程度以下で調査可能な箇所に適用する。</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>資料収集 非破壊調査及びはつり調査</td> <td>地表面又は水面より突出している部分の橋脚・橋台の配筋を調査する。柱の主要鉄筋のほか、橋座、上梁、ラーメン部材などの耐力照査を行うすべての主要鉄筋について鉄筋径やかぶりを調査する。また支承及び落橋防止システムを新たに設置する箇所を想定し調査する。</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>図面複製</td> <td>上部構造反力や橋脚補強など、耐震補強対策設計に必要な作工図及び一般図などの作成を行う。また既設橋梁の図面(PDFや調査図)をCADデータ化により複製する。</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>上部構造反力算出</td> <td>上部構造図面から上部構造重量を求め上部構造反力を算出する。</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>橋脚復元設計</td> <td>橋脚の配筋図又は設計計算書がなく、非破壊調査、はつり調査により配筋が復元できない場合に、架橋当時の基準などにより柱部材の復元設計を行う。必要に応じて橋台を含む。</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>耐震性能照査 橋脚の耐震性能照査</td> <td>既設橋脚の柱、張出しばり及びラーメン橋脚などの部材照査、及び橋脚の安定照査を行う。必要に応じてフーチングの部材照査を含む。</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>動的照査(耐震性能照査)</td> <td>既設橋の解析モデルにより動的解析を行い、各部材に生じる応答値により橋の耐震性能を照査する。</td> <td>◎</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. ◎の工種は標準的に計上する項目を示す。 ○の工種は必要に応じて計上すること。 2. 設計に必要な地質条件が不足する場合は地質調査を別途計上すること。 3. 設計や施工計画に必要な現地条件が不足する場合は測量調査を別途計上すること。</p>	区分	作業内容	計上	現地踏査	地形・地質を把握し、各種耐震補強対策の実施を想定し現地状況を確認・把握をする。必要に応じて橋脚まわりの桁下高をボールやテープを用いて計測するなどの簡易的な作工調査を含む。	◎	既往資料収集	対象橋梁の竣工図面、設計計算書、その他関連資料の収集・整理を行う。	◎	上部構造形状調査	下部構造に作用する上部構造反力の算出に必要なとなる範囲、支承及び落橋防止システムを設置する想定箇所を調査する。5m梯子程度以下で調査可能な箇所に適用する。	○	橋脚・橋台形状調査	地表面又は水面より突出している部分の橋脚・橋台形状、支承及び落橋防止システムを設置する想定箇所を調査する。5m梯子程度以下で調査可能な箇所に適用する。	○	資料収集 非破壊調査及びはつり調査	地表面又は水面より突出している部分の橋脚・橋台の配筋を調査する。柱の主要鉄筋のほか、橋座、上梁、ラーメン部材などの耐力照査を行うすべての主要鉄筋について鉄筋径やかぶりを調査する。また支承及び落橋防止システムを新たに設置する箇所を想定し調査する。	○	図面複製	上部構造反力や橋脚補強など、耐震補強対策設計に必要な作工図及び一般図などの作成を行う。また既設橋梁の図面(PDFや調査図)をCADデータ化により複製する。	◎	上部構造反力算出	上部構造図面から上部構造重量を求め上部構造反力を算出する。	◎	橋脚復元設計	橋脚の配筋図又は設計計算書がなく、非破壊調査、はつり調査により配筋が復元できない場合に、架橋当時の基準などにより柱部材の復元設計を行う。必要に応じて橋台を含む。	○	耐震性能照査 橋脚の耐震性能照査	既設橋脚の柱、張出しばり及びラーメン橋脚などの部材照査、及び橋脚の安定照査を行う。必要に応じてフーチングの部材照査を含む。	◎	動的照査(耐震性能照査)	既設橋の解析モデルにより動的解析を行い、各部材に生じる応答値により橋の耐震性能を照査する。	◎	全面改定
区分	作業内容	計上																																			
現地踏査	地形・地質を把握し、各種耐震補強対策の実施を想定し現地状況を確認・把握をする。必要に応じて橋脚まわりの桁下高をボールやテープを用いて計測するなどの簡易的な作工調査を含む。	◎																																			
既往資料収集	対象橋梁の竣工図面、設計計算書、その他関連資料の収集・整理を行う。	◎																																			
上部構造形状調査	下部構造に作用する上部構造反力の算出に必要なとなる範囲、支承及び落橋防止システムを設置する想定箇所を調査する。5m梯子程度以下で調査可能な箇所に適用する。	○																																			
橋脚・橋台形状調査	地表面又は水面より突出している部分の橋脚・橋台形状、支承及び落橋防止システムを設置する想定箇所を調査する。5m梯子程度以下で調査可能な箇所に適用する。	○																																			
資料収集 非破壊調査及びはつり調査	地表面又は水面より突出している部分の橋脚・橋台の配筋を調査する。柱の主要鉄筋のほか、橋座、上梁、ラーメン部材などの耐力照査を行うすべての主要鉄筋について鉄筋径やかぶりを調査する。また支承及び落橋防止システムを新たに設置する箇所を想定し調査する。	○																																			
図面複製	上部構造反力や橋脚補強など、耐震補強対策設計に必要な作工図及び一般図などの作成を行う。また既設橋梁の図面(PDFや調査図)をCADデータ化により複製する。	◎																																			
上部構造反力算出	上部構造図面から上部構造重量を求め上部構造反力を算出する。	◎																																			
橋脚復元設計	橋脚の配筋図又は設計計算書がなく、非破壊調査、はつり調査により配筋が復元できない場合に、架橋当時の基準などにより柱部材の復元設計を行う。必要に応じて橋台を含む。	○																																			
耐震性能照査 橋脚の耐震性能照査	既設橋脚の柱、張出しばり及びラーメン橋脚などの部材照査、及び橋脚の安定照査を行う。必要に応じてフーチングの部材照査を含む。	◎																																			
動的照査(耐震性能照査)	既設橋の解析モデルにより動的解析を行い、各部材に生じる応答値により橋の耐震性能を照査する。	◎																																			

全 面 改 定

# 土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																																															
調査計画編 〔2〕 道路調査 2. 橋の 耐震補強設計 2-1. 橋の耐震 補強設計 (2)作業内容 耐震性能 2(A) 【業務②】 【業務③】	計道調-30		<p style="text-align: center; color: red; font-size: 2em; font-weight: bold;">全 面 改 定</p> <p><b>耐震性能2(A)【業務②】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>作業内容</th> <th>計上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">耐震補強 検討</td> <td>橋脚の補強工法 検討</td> <td>耐震性能照査の結果から、必要となる耐震補強対策として橋脚の補強工法 検討を行う。ただし、建築限界や河種阻害率など補強規模に関わる制限を受け ず、補強工法が明確となる場合は計上しない。</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>動的照査(耐震 補強検討)</td> <td>補強部材を含め各部材の形状・剛性から設定する解析モデルなどを用いて 動的照査を行い、各部材に発生する応答値により耐震補強検討を行う。</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>既設基礎の照査 検討</td> <td>橋脚の補強を行う場合に、その補強形状をモデルとして、地震時に基礎が限 界状態以下に留まるかを照査する。直接基礎の場合は適用しない。</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>基礎の補強工法 検討</td> <td>既設基礎の照査の結果、補強が必要となる場合は基礎の補強工法検討を行 う。</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>支承形式検討</td> <td>橋全体系の補強の検討が必要な場合に支承形式の検討を行う。また、落橋防 止装置の設置条件など支承周りの構造との取合いの検討を行う。</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>関係機関との協 議資料作成(耐 震補強検討)</td> <td>設計図書に基づき関係機関との協議用資料、説明用資料の作成を行う。</td> <td>◎</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. ◎の工種は標準的に計上する項目を示す。 ○の工種は必要に応じて計上すること。</p> <p><b>耐震性能2(A)【業務③】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>作業内容</th> <th>計上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="7">耐震補強 設計</td> <td>橋脚の耐震補強 設計</td> <td>耐震補強検討の結果に基づき、橋脚の耐震補強設計を実施する。本設計で は、柱軸方向鉄筋の段落し部や基部の補強設計など柱部材全域にわたる設計 のほか、張出式橋脚の上梁やラーメン式橋脚のラーメン部材など柱以外の各 種部材に対しても設計を行う。直接基礎のフーチングの補強を含む。</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>基礎の耐震補強 設計</td> <td>耐震補強検討の結果に基づき、基礎の耐震補強設計を行う。</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>動的照査(耐震 補強設計)</td> <td>補強部材を含め各部材の形状・剛性から設定する解析モデルなどを用いて 動的照査を行い、各部材に発生する応答値により耐震補強設計を行う。</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>支承取り替え設 計</td> <td>既設支承の取り替え設計又は機能分離構造を追加する設計を行う。仮受け 構造・反力の算出などのほか、取付部の照査を含む。</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>落橋防止システム 設計</td> <td>落橋防止システムの検討・設計を行う。本設計では、桁かかり長の照査、沓 座拡幅設計、落橋防止構造及び横変位拘束構造の設計のほか、取付部の照査を 含む。</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>施工計画(耐震 補強設計)</td> <td>構造物の規模、道路・鉄道の交差条件、河川の渡河条件及び、計画工程表、 施工順序、施工方法、資材・部材の搬入計画、仮設備計画など、工事費積算に あたって必要な計画を記載した施工計画書を作成する。なお、施工計画書には 設計と不可分な施工上の留意点について取りまとめ記載する。</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>関係機関との協 議資料作成(耐 震補強設計)</td> <td>設計図書に基づき関係機関との協議用資料、説明用資料の作成を行う。</td> <td>◎</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. ◎の工種は標準的に計上する項目を示す。 ○の工種は必要に応じて計上すること。 2. 施工計画の実施にあたり、仮設構造物設計が必要な場合は別途計上すること。</p>	区分	作業内容	計上	耐震補強 検討	橋脚の補強工法 検討	耐震性能照査の結果から、必要となる耐震補強対策として橋脚の補強工法 検討を行う。ただし、建築限界や河種阻害率など補強規模に関わる制限を受け ず、補強工法が明確となる場合は計上しない。	◎	動的照査(耐震 補強検討)	補強部材を含め各部材の形状・剛性から設定する解析モデルなどを用いて 動的照査を行い、各部材に発生する応答値により耐震補強検討を行う。	◎	既設基礎の照査 検討	橋脚の補強を行う場合に、その補強形状をモデルとして、地震時に基礎が限 界状態以下に留まるかを照査する。直接基礎の場合は適用しない。	◎	基礎の補強工法 検討	既設基礎の照査の結果、補強が必要となる場合は基礎の補強工法検討を行 う。	○	支承形式検討	橋全体系の補強の検討が必要な場合に支承形式の検討を行う。また、落橋防 止装置の設置条件など支承周りの構造との取合いの検討を行う。	◎	関係機関との協 議資料作成(耐 震補強検討)	設計図書に基づき関係機関との協議用資料、説明用資料の作成を行う。	◎	区分	作業内容	計上	耐震補強 設計	橋脚の耐震補強 設計	耐震補強検討の結果に基づき、橋脚の耐震補強設計を実施する。本設計で は、柱軸方向鉄筋の段落し部や基部の補強設計など柱部材全域にわたる設計 のほか、張出式橋脚の上梁やラーメン式橋脚のラーメン部材など柱以外の各 種部材に対しても設計を行う。直接基礎のフーチングの補強を含む。	◎	基礎の耐震補強 設計	耐震補強検討の結果に基づき、基礎の耐震補強設計を行う。	○	動的照査(耐震 補強設計)	補強部材を含め各部材の形状・剛性から設定する解析モデルなどを用いて 動的照査を行い、各部材に発生する応答値により耐震補強設計を行う。	◎	支承取り替え設 計	既設支承の取り替え設計又は機能分離構造を追加する設計を行う。仮受け 構造・反力の算出などのほか、取付部の照査を含む。	◎	落橋防止システム 設計	落橋防止システムの検討・設計を行う。本設計では、桁かかり長の照査、沓 座拡幅設計、落橋防止構造及び横変位拘束構造の設計のほか、取付部の照査を 含む。	○	施工計画(耐震 補強設計)	構造物の規模、道路・鉄道の交差条件、河川の渡河条件及び、計画工程表、 施工順序、施工方法、資材・部材の搬入計画、仮設備計画など、工事費積算に あたって必要な計画を記載した施工計画書を作成する。なお、施工計画書には 設計と不可分な施工上の留意点について取りまとめ記載する。	◎	関係機関との協 議資料作成(耐 震補強設計)	設計図書に基づき関係機関との協議用資料、説明用資料の作成を行う。	◎	全面改定
区分	作業内容	計上																																																	
耐震補強 検討	橋脚の補強工法 検討	耐震性能照査の結果から、必要となる耐震補強対策として橋脚の補強工法 検討を行う。ただし、建築限界や河種阻害率など補強規模に関わる制限を受け ず、補強工法が明確となる場合は計上しない。	◎																																																
	動的照査(耐震 補強検討)	補強部材を含め各部材の形状・剛性から設定する解析モデルなどを用いて 動的照査を行い、各部材に発生する応答値により耐震補強検討を行う。	◎																																																
	既設基礎の照査 検討	橋脚の補強を行う場合に、その補強形状をモデルとして、地震時に基礎が限 界状態以下に留まるかを照査する。直接基礎の場合は適用しない。	◎																																																
	基礎の補強工法 検討	既設基礎の照査の結果、補強が必要となる場合は基礎の補強工法検討を行 う。	○																																																
	支承形式検討	橋全体系の補強の検討が必要な場合に支承形式の検討を行う。また、落橋防 止装置の設置条件など支承周りの構造との取合いの検討を行う。	◎																																																
	関係機関との協 議資料作成(耐 震補強検討)	設計図書に基づき関係機関との協議用資料、説明用資料の作成を行う。	◎																																																
区分	作業内容	計上																																																	
耐震補強 設計	橋脚の耐震補強 設計	耐震補強検討の結果に基づき、橋脚の耐震補強設計を実施する。本設計で は、柱軸方向鉄筋の段落し部や基部の補強設計など柱部材全域にわたる設計 のほか、張出式橋脚の上梁やラーメン式橋脚のラーメン部材など柱以外の各 種部材に対しても設計を行う。直接基礎のフーチングの補強を含む。	◎																																																
	基礎の耐震補強 設計	耐震補強検討の結果に基づき、基礎の耐震補強設計を行う。	○																																																
	動的照査(耐震 補強設計)	補強部材を含め各部材の形状・剛性から設定する解析モデルなどを用いて 動的照査を行い、各部材に発生する応答値により耐震補強設計を行う。	◎																																																
	支承取り替え設 計	既設支承の取り替え設計又は機能分離構造を追加する設計を行う。仮受け 構造・反力の算出などのほか、取付部の照査を含む。	◎																																																
	落橋防止システム 設計	落橋防止システムの検討・設計を行う。本設計では、桁かかり長の照査、沓 座拡幅設計、落橋防止構造及び横変位拘束構造の設計のほか、取付部の照査を 含む。	○																																																
	施工計画(耐震 補強設計)	構造物の規模、道路・鉄道の交差条件、河川の渡河条件及び、計画工程表、 施工順序、施工方法、資材・部材の搬入計画、仮設備計画など、工事費積算に あたって必要な計画を記載した施工計画書を作成する。なお、施工計画書には 設計と不可分な施工上の留意点について取りまとめ記載する。	◎																																																
	関係機関との協 議資料作成(耐 震補強設計)	設計図書に基づき関係機関との協議用資料、説明用資料の作成を行う。	◎																																																

# 土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																																																			
調査計画編 〔2〕 道路調査 2. 橋の 耐震補強設計 2-1. 橋の耐震 補強設計 (2)作業内容 耐震性能 2(B) 【業務①】	計道調-31		<p style="text-align: center; color: red; font-size: 2em;">全 面 改 定</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <caption>耐震性能2(B)【業務①】</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>作業内容</th> <th>計上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="7">資料収集</td> <td>現地踏査</td> <td>地形・地質を把握し、各種耐震補強対策の実施を想定し現地状況を確認・把握をする。必要に応じて橋脚まわりの桁下高をボールやテープを用いて計測するなどの簡易的な作工調査を含む。</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>既往資料収集</td> <td>対象橋梁の竣工図面、設計計算書、その他関連資料の収集・整理を行う。</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>上部構造形状調査</td> <td>下部構造に作用する上部構造反力の算出に必要な範囲、支承及び落橋防止システムを設置する想定箇所を調査する。5m梯子程度以下で調査可能な箇所に適用する。</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>橋脚・橋台形状調査</td> <td>地表面又は水面より突出している部分の橋脚・橋台形状、支承及び落橋防止システムを設置する想定箇所を調査する。5m梯子程度以下で調査可能な箇所に適用する。</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>非破壊調査及びはつり調査</td> <td>地表面又は水面より突出している部分の橋脚・橋台の配筋を調査する。柱の主要鉄筋のほか、橋座、上梁、ラーメン部材などの耐力照査を行うすべての主要鉄筋について鉄筋径やかぶりを調査する。また支承及び落橋防止システムを新たに設置する箇所を想定し調査する。</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>図面複製</td> <td>上部構造反力や橋脚補強など、耐震補強対策設計に必要な作工図及び一般図などの作成を行う。また既設橋梁の図面(PDFや調査図)をCADデータ化により複製する。</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>上部構造反力算出</td> <td>上部構造図面から上部構造重量を求め上部構造反力を算出する。</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">耐震性能照査</td> <td>橋脚の耐震性能照査</td> <td>既設橋脚の柱、張出しばり及びラーメン橋脚などの部材照査、及び橋脚の安定照査を行う。必要に応じてフーチングの部材照査を含む。</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>動的照査(耐震性能照査)</td> <td>既設橋の解析モデルにより動的解析を行い、各部材に生じる応答値により橋の耐震性能を照査する。</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">耐震補強検討</td> <td>橋脚の補強工法検討</td> <td>耐震性能照査の結果から、必要となる耐震補強対策として橋脚の補強工法検討を行う。ただし、建築限界や河積阻害率など補強規模に関わる制限を受けず、補強工法が明確となる場合は計上しない。</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>動的照査(耐震補強検討)</td> <td>補強部材を含め各部材の形状・剛性から設定する解析モデルなどを用いて動的照査を行い、各部材に発生する応答値により耐震補強検討を行う。</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>既設基礎の照査</td> <td>橋脚の補強を行う場合に、その補強形状をモデルとして、地震時に基礎が限界状態以下に留まるかを照査する。直接基礎の場合は適用しない。</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>基礎の補強工法検討</td> <td>既設基礎の照査の結果、補強が必要となる場合は基礎の補強工法検討を行う。</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>関係機関との協議資料作成(耐震補強検討)</td> <td>設計図書に基づき関係機関との協議用資料、説明用資料の作成を行う。</td> <td>◎</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. ◎の工種は標準的に計上する項目を示す。 ○の工種は必要に応じて計上すること。 2. 設計に必要な地質条件が不足する場合は地質調査を別途計上すること。 3. 設計や施工計画に必要な現地条件が不足する場合は測量調査を別途計上すること。</p>	区分	作業内容	計上	資料収集	現地踏査	地形・地質を把握し、各種耐震補強対策の実施を想定し現地状況を確認・把握をする。必要に応じて橋脚まわりの桁下高をボールやテープを用いて計測するなどの簡易的な作工調査を含む。	◎	既往資料収集	対象橋梁の竣工図面、設計計算書、その他関連資料の収集・整理を行う。	◎	上部構造形状調査	下部構造に作用する上部構造反力の算出に必要な範囲、支承及び落橋防止システムを設置する想定箇所を調査する。5m梯子程度以下で調査可能な箇所に適用する。	○	橋脚・橋台形状調査	地表面又は水面より突出している部分の橋脚・橋台形状、支承及び落橋防止システムを設置する想定箇所を調査する。5m梯子程度以下で調査可能な箇所に適用する。	○	非破壊調査及びはつり調査	地表面又は水面より突出している部分の橋脚・橋台の配筋を調査する。柱の主要鉄筋のほか、橋座、上梁、ラーメン部材などの耐力照査を行うすべての主要鉄筋について鉄筋径やかぶりを調査する。また支承及び落橋防止システムを新たに設置する箇所を想定し調査する。	○	図面複製	上部構造反力や橋脚補強など、耐震補強対策設計に必要な作工図及び一般図などの作成を行う。また既設橋梁の図面(PDFや調査図)をCADデータ化により複製する。	◎	上部構造反力算出	上部構造図面から上部構造重量を求め上部構造反力を算出する。	◎	耐震性能照査	橋脚の耐震性能照査	既設橋脚の柱、張出しばり及びラーメン橋脚などの部材照査、及び橋脚の安定照査を行う。必要に応じてフーチングの部材照査を含む。	◎	動的照査(耐震性能照査)	既設橋の解析モデルにより動的解析を行い、各部材に生じる応答値により橋の耐震性能を照査する。	○	耐震補強検討	橋脚の補強工法検討	耐震性能照査の結果から、必要となる耐震補強対策として橋脚の補強工法検討を行う。ただし、建築限界や河積阻害率など補強規模に関わる制限を受けず、補強工法が明確となる場合は計上しない。	◎	動的照査(耐震補強検討)	補強部材を含め各部材の形状・剛性から設定する解析モデルなどを用いて動的照査を行い、各部材に発生する応答値により耐震補強検討を行う。	○	既設基礎の照査	橋脚の補強を行う場合に、その補強形状をモデルとして、地震時に基礎が限界状態以下に留まるかを照査する。直接基礎の場合は適用しない。	◎	基礎の補強工法検討	既設基礎の照査の結果、補強が必要となる場合は基礎の補強工法検討を行う。	○				関係機関との協議資料作成(耐震補強検討)	設計図書に基づき関係機関との協議用資料、説明用資料の作成を行う。	◎	全面改定
区分	作業内容	計上																																																					
資料収集	現地踏査	地形・地質を把握し、各種耐震補強対策の実施を想定し現地状況を確認・把握をする。必要に応じて橋脚まわりの桁下高をボールやテープを用いて計測するなどの簡易的な作工調査を含む。	◎																																																				
	既往資料収集	対象橋梁の竣工図面、設計計算書、その他関連資料の収集・整理を行う。	◎																																																				
	上部構造形状調査	下部構造に作用する上部構造反力の算出に必要な範囲、支承及び落橋防止システムを設置する想定箇所を調査する。5m梯子程度以下で調査可能な箇所に適用する。	○																																																				
	橋脚・橋台形状調査	地表面又は水面より突出している部分の橋脚・橋台形状、支承及び落橋防止システムを設置する想定箇所を調査する。5m梯子程度以下で調査可能な箇所に適用する。	○																																																				
	非破壊調査及びはつり調査	地表面又は水面より突出している部分の橋脚・橋台の配筋を調査する。柱の主要鉄筋のほか、橋座、上梁、ラーメン部材などの耐力照査を行うすべての主要鉄筋について鉄筋径やかぶりを調査する。また支承及び落橋防止システムを新たに設置する箇所を想定し調査する。	○																																																				
	図面複製	上部構造反力や橋脚補強など、耐震補強対策設計に必要な作工図及び一般図などの作成を行う。また既設橋梁の図面(PDFや調査図)をCADデータ化により複製する。	◎																																																				
	上部構造反力算出	上部構造図面から上部構造重量を求め上部構造反力を算出する。	◎																																																				
耐震性能照査	橋脚の耐震性能照査	既設橋脚の柱、張出しばり及びラーメン橋脚などの部材照査、及び橋脚の安定照査を行う。必要に応じてフーチングの部材照査を含む。	◎																																																				
	動的照査(耐震性能照査)	既設橋の解析モデルにより動的解析を行い、各部材に生じる応答値により橋の耐震性能を照査する。	○																																																				
耐震補強検討	橋脚の補強工法検討	耐震性能照査の結果から、必要となる耐震補強対策として橋脚の補強工法検討を行う。ただし、建築限界や河積阻害率など補強規模に関わる制限を受けず、補強工法が明確となる場合は計上しない。	◎																																																				
	動的照査(耐震補強検討)	補強部材を含め各部材の形状・剛性から設定する解析モデルなどを用いて動的照査を行い、各部材に発生する応答値により耐震補強検討を行う。	○																																																				
	既設基礎の照査	橋脚の補強を行う場合に、その補強形状をモデルとして、地震時に基礎が限界状態以下に留まるかを照査する。直接基礎の場合は適用しない。	◎																																																				
	基礎の補強工法検討	既設基礎の照査の結果、補強が必要となる場合は基礎の補強工法検討を行う。	○																																																				
			関係機関との協議資料作成(耐震補強検討)	設計図書に基づき関係機関との協議用資料、説明用資料の作成を行う。	◎																																																		

# 土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																									
調査計画編  [2] 道路調査  2. 橋の 耐震補強設計  2-1. 橋の耐震 補強設計  (2)作業内容 耐震性能 2(B) 【業務②】	計道調-32	<h2 style="color: red;">全 面 改 定</h2>	<p style="text-align: center; color: red;">耐震性能2(B)【業務②】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">区分</th> <th style="width: 65%;">作業内容</th> <th style="width: 20%;">計上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="7" style="text-align: center; vertical-align: middle;">耐震補強設計</td> <td>橋脚の耐震補強設計</td> <td>耐震補強検討の結果に基づき、橋脚の耐震補強設計を実施する。本設計では、柱軸方向鉄筋の段落し部や基部の補強設計など柱部材全域にわたる設計のほか、張出式橋脚の上梁やラーメン式橋脚のラーメン部材など柱以外の各種部材に対しても設計を行う。直接基礎のフーチングの補強を含む。</td> <td style="text-align: center;">◎</td> </tr> <tr> <td>基礎の耐震補強設計</td> <td>耐震補強検討の結果に基づき、基礎の耐震補強設計を行う。</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>動的照査(耐震補強設計)</td> <td>補強部材を含め各部材の形状・剛性から設定する解析モデルなどを用いて動的照査を行い、各部材に発生する応答値により耐震補強設計を行う。</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>支承取り替え設計</td> <td>既設支承の取り替え設計又は機能分離構造を追加する設計を行う。仮受け構造・反力の算出などのほか、取付部の照査を含む。</td> <td style="text-align: center;">◎</td> </tr> <tr> <td>落橋防止システム設計</td> <td>落橋防止システムの検討・設計を行う。本設計では、桁かかり長の照査、沓座拡幅設計、落橋防止構造及び横変位拘束構造の設計のほか、取付部の照査を含む。</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>施工計画(耐震補強設計)</td> <td>構造物の規模、道路・鉄道の交差条件、河川の渡河条件及び、計画工程表、施工順序、施工方法、資材・部材の搬入計画、仮設備計画など、工事費積算にあたって必要な計画を記載した施工計画書を作成する。なお、施工計画書には設計と不可分な施工上の留意点について取りまとめ記載する。</td> <td style="text-align: center;">◎</td> </tr> <tr> <td>関係機関との協議資料作成(耐震補強設計)</td> <td>設計図書に基づき関係機関との協議用資料、説明用資料の作成を行う。</td> <td style="text-align: center;">◎</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small;">注) 1. ◎の工種は標準的に計上する項目を示す。 ○の工種は必要に応じて計上すること。 2. 施工計画の実施にあたり、仮設構造物設計が必要な場合は別途計上すること。</p>	区分	作業内容	計上	耐震補強設計	橋脚の耐震補強設計	耐震補強検討の結果に基づき、橋脚の耐震補強設計を実施する。本設計では、柱軸方向鉄筋の段落し部や基部の補強設計など柱部材全域にわたる設計のほか、張出式橋脚の上梁やラーメン式橋脚のラーメン部材など柱以外の各種部材に対しても設計を行う。直接基礎のフーチングの補強を含む。	◎	基礎の耐震補強設計	耐震補強検討の結果に基づき、基礎の耐震補強設計を行う。	○	動的照査(耐震補強設計)	補強部材を含め各部材の形状・剛性から設定する解析モデルなどを用いて動的照査を行い、各部材に発生する応答値により耐震補強設計を行う。	○	支承取り替え設計	既設支承の取り替え設計又は機能分離構造を追加する設計を行う。仮受け構造・反力の算出などのほか、取付部の照査を含む。	◎	落橋防止システム設計	落橋防止システムの検討・設計を行う。本設計では、桁かかり長の照査、沓座拡幅設計、落橋防止構造及び横変位拘束構造の設計のほか、取付部の照査を含む。	○	施工計画(耐震補強設計)	構造物の規模、道路・鉄道の交差条件、河川の渡河条件及び、計画工程表、施工順序、施工方法、資材・部材の搬入計画、仮設備計画など、工事費積算にあたって必要な計画を記載した施工計画書を作成する。なお、施工計画書には設計と不可分な施工上の留意点について取りまとめ記載する。	◎	関係機関との協議資料作成(耐震補強設計)	設計図書に基づき関係機関との協議用資料、説明用資料の作成を行う。	◎	全面改定
区分	作業内容	計上																											
耐震補強設計	橋脚の耐震補強設計	耐震補強検討の結果に基づき、橋脚の耐震補強設計を実施する。本設計では、柱軸方向鉄筋の段落し部や基部の補強設計など柱部材全域にわたる設計のほか、張出式橋脚の上梁やラーメン式橋脚のラーメン部材など柱以外の各種部材に対しても設計を行う。直接基礎のフーチングの補強を含む。	◎																										
	基礎の耐震補強設計	耐震補強検討の結果に基づき、基礎の耐震補強設計を行う。	○																										
	動的照査(耐震補強設計)	補強部材を含め各部材の形状・剛性から設定する解析モデルなどを用いて動的照査を行い、各部材に発生する応答値により耐震補強設計を行う。	○																										
	支承取り替え設計	既設支承の取り替え設計又は機能分離構造を追加する設計を行う。仮受け構造・反力の算出などのほか、取付部の照査を含む。	◎																										
	落橋防止システム設計	落橋防止システムの検討・設計を行う。本設計では、桁かかり長の照査、沓座拡幅設計、落橋防止構造及び横変位拘束構造の設計のほか、取付部の照査を含む。	○																										
	施工計画(耐震補強設計)	構造物の規模、道路・鉄道の交差条件、河川の渡河条件及び、計画工程表、施工順序、施工方法、資材・部材の搬入計画、仮設備計画など、工事費積算にあたって必要な計画を記載した施工計画書を作成する。なお、施工計画書には設計と不可分な施工上の留意点について取りまとめ記載する。	◎																										
	関係機関との協議資料作成(耐震補強設計)	設計図書に基づき関係機関との協議用資料、説明用資料の作成を行う。	◎																										

# 土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																																																		
調査計画編  〔2〕 道路調査  2. 橋の 耐震補強設計  2-1. 橋の耐震 補強設計  (2)作業内容 耐震性能3	計道調-33	<h2 style="color: red;">全 面 改 定</h2>	<p style="text-align: center; color: red;">耐震性能3</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">区分</th> <th style="width: 70%;">作業内容</th> <th style="width: 20%;">計上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="7">資料収集</td> <td>現地踏査</td> <td>地形・地質を把握し、各種耐震補強対策の実施を想定し現地状況を確認・把握をする。必要に応じて橋脚まわりの桁下高をボールやテープを用いて計測するなどの簡易的な作工調査を含む。</td> <td style="text-align: center;">◎</td> </tr> <tr> <td>既往資料収集</td> <td>対象橋梁の竣工図面、設計計算書、その他関連資料の収集・整理を行う。</td> <td style="text-align: center;">◎</td> </tr> <tr> <td>上部構造形状調査</td> <td>下部構造に作用する上部構造反力の算出に必要な範囲、支承及び落橋防止システムを設置する想定箇所を調査する。5m梯子程度以下で調査可能な箇所に適用する。</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>橋脚・橋台形状調査</td> <td>地表面又は水面より突出している部分の橋脚・橋台形状、支承及び落橋防止システムを設置する想定箇所を調査する。5m梯子程度以下で調査可能な箇所に適用する。</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>非破壊調査及びはつり調査</td> <td>地表面又は水面より突出している部分の橋脚・橋台の配筋を調査する。柱の主要鉄筋のほか、橋座、上梁、ラーメン部材などの耐力照査を行うすべての主要鉄筋について鉄筋径やかぶりを調査する。また支承及び落橋防止システムを新たに設置する箇所を想定し調査する。</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>図面複製</td> <td>上部構造反力や橋脚補強など、耐震補強対策設計に必要な作工図及び一般図などの作成を行う。また既設橋梁の図面(PDFや調査図)をCADデータ化により複製する。</td> <td style="text-align: center;">◎</td> </tr> <tr> <td>上部構造反力算出</td> <td>上部構造図面から上部構造重量を求め上部構造反力を算出する。</td> <td style="text-align: center;">◎</td> </tr> <tr> <td>橋脚復元設計</td> <td>橋脚の配筋図又は設計計算書がなく、非破壊調査、はつり調査により配筋が復元できない場合に、架橋当時の基準などにより柱部材の復元設計を行う。必要に応じて橋台を含む。</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">耐震補強設計</td> <td>段落し部の損傷判定</td> <td>既設橋脚の段落し部の損傷判定を行う。</td> <td style="text-align: center;">◎</td> </tr> <tr> <td>地震時保有水平耐力の照査</td> <td>段落し部損傷判定における計算過程で地震時保有水平耐力(Pa)の算出などを行う。</td> <td style="text-align: center;">◎</td> </tr> <tr> <td>橋脚の補強工法検討</td> <td>段落し部の損傷判定により、耐震補強対策が必要となる場合は、橋脚段落し部の補強工法検討を行う。</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>橋脚の耐震補強設計</td> <td>段落し部の損傷判定及び耐震補強工法検討により決定された工法に対して詳細設計を行う。</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>落橋防止システム設計</td> <td>落橋防止システムの検討・設計を行う。本設計では、桁かかり長の照査、沓座拡張設計、落橋防止構造及び横変位拘束構造の設計のほか、取付部の耐力照査を含む。</td> <td style="text-align: center;">◎</td> </tr> <tr> <td>施工計画(耐震補強設計)</td> <td>構造物の規模、道路・鉄道の交差条件、河川の渡河条件及び、計画工程表、施工順序、施工方法、資材・部材の搬入計画、仮設備計画など、工事費積算にあたって必要な計画を記載した施工計画書を作成する。なお、施工計画書には設計と不可分な施工上の留意点について取りまとめ記載する。</td> <td style="text-align: center;">◎</td> </tr> <tr> <td>関係機関との協議資料作成(耐震補強設計)</td> <td>設計図書に基づき関係機関との協議用資料、説明用資料の作成を行う。</td> <td style="text-align: center;">◎</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small;">注) 1. ◎の工種は標準的に計上する項目を示す。 ○の工種は必要に応じて計上すること。 2. 施工計画の実施にあたり、仮設構造物設計が必要な場合は別途計上すること。</p>	区分	作業内容	計上	資料収集	現地踏査	地形・地質を把握し、各種耐震補強対策の実施を想定し現地状況を確認・把握をする。必要に応じて橋脚まわりの桁下高をボールやテープを用いて計測するなどの簡易的な作工調査を含む。	◎	既往資料収集	対象橋梁の竣工図面、設計計算書、その他関連資料の収集・整理を行う。	◎	上部構造形状調査	下部構造に作用する上部構造反力の算出に必要な範囲、支承及び落橋防止システムを設置する想定箇所を調査する。5m梯子程度以下で調査可能な箇所に適用する。	○	橋脚・橋台形状調査	地表面又は水面より突出している部分の橋脚・橋台形状、支承及び落橋防止システムを設置する想定箇所を調査する。5m梯子程度以下で調査可能な箇所に適用する。	○	非破壊調査及びはつり調査	地表面又は水面より突出している部分の橋脚・橋台の配筋を調査する。柱の主要鉄筋のほか、橋座、上梁、ラーメン部材などの耐力照査を行うすべての主要鉄筋について鉄筋径やかぶりを調査する。また支承及び落橋防止システムを新たに設置する箇所を想定し調査する。	○	図面複製	上部構造反力や橋脚補強など、耐震補強対策設計に必要な作工図及び一般図などの作成を行う。また既設橋梁の図面(PDFや調査図)をCADデータ化により複製する。	◎	上部構造反力算出	上部構造図面から上部構造重量を求め上部構造反力を算出する。	◎	橋脚復元設計	橋脚の配筋図又は設計計算書がなく、非破壊調査、はつり調査により配筋が復元できない場合に、架橋当時の基準などにより柱部材の復元設計を行う。必要に応じて橋台を含む。	○	耐震補強設計	段落し部の損傷判定	既設橋脚の段落し部の損傷判定を行う。	◎	地震時保有水平耐力の照査	段落し部損傷判定における計算過程で地震時保有水平耐力(Pa)の算出などを行う。	◎	橋脚の補強工法検討	段落し部の損傷判定により、耐震補強対策が必要となる場合は、橋脚段落し部の補強工法検討を行う。	○	橋脚の耐震補強設計	段落し部の損傷判定及び耐震補強工法検討により決定された工法に対して詳細設計を行う。	○	落橋防止システム設計	落橋防止システムの検討・設計を行う。本設計では、桁かかり長の照査、沓座拡張設計、落橋防止構造及び横変位拘束構造の設計のほか、取付部の耐力照査を含む。	◎	施工計画(耐震補強設計)	構造物の規模、道路・鉄道の交差条件、河川の渡河条件及び、計画工程表、施工順序、施工方法、資材・部材の搬入計画、仮設備計画など、工事費積算にあたって必要な計画を記載した施工計画書を作成する。なお、施工計画書には設計と不可分な施工上の留意点について取りまとめ記載する。	◎	関係機関との協議資料作成(耐震補強設計)	設計図書に基づき関係機関との協議用資料、説明用資料の作成を行う。	◎	全面改定
区分	作業内容	計上																																																				
資料収集	現地踏査	地形・地質を把握し、各種耐震補強対策の実施を想定し現地状況を確認・把握をする。必要に応じて橋脚まわりの桁下高をボールやテープを用いて計測するなどの簡易的な作工調査を含む。	◎																																																			
	既往資料収集	対象橋梁の竣工図面、設計計算書、その他関連資料の収集・整理を行う。	◎																																																			
	上部構造形状調査	下部構造に作用する上部構造反力の算出に必要な範囲、支承及び落橋防止システムを設置する想定箇所を調査する。5m梯子程度以下で調査可能な箇所に適用する。	○																																																			
	橋脚・橋台形状調査	地表面又は水面より突出している部分の橋脚・橋台形状、支承及び落橋防止システムを設置する想定箇所を調査する。5m梯子程度以下で調査可能な箇所に適用する。	○																																																			
	非破壊調査及びはつり調査	地表面又は水面より突出している部分の橋脚・橋台の配筋を調査する。柱の主要鉄筋のほか、橋座、上梁、ラーメン部材などの耐力照査を行うすべての主要鉄筋について鉄筋径やかぶりを調査する。また支承及び落橋防止システムを新たに設置する箇所を想定し調査する。	○																																																			
	図面複製	上部構造反力や橋脚補強など、耐震補強対策設計に必要な作工図及び一般図などの作成を行う。また既設橋梁の図面(PDFや調査図)をCADデータ化により複製する。	◎																																																			
	上部構造反力算出	上部構造図面から上部構造重量を求め上部構造反力を算出する。	◎																																																			
橋脚復元設計	橋脚の配筋図又は設計計算書がなく、非破壊調査、はつり調査により配筋が復元できない場合に、架橋当時の基準などにより柱部材の復元設計を行う。必要に応じて橋台を含む。	○																																																				
耐震補強設計	段落し部の損傷判定	既設橋脚の段落し部の損傷判定を行う。	◎																																																			
	地震時保有水平耐力の照査	段落し部損傷判定における計算過程で地震時保有水平耐力(Pa)の算出などを行う。	◎																																																			
	橋脚の補強工法検討	段落し部の損傷判定により、耐震補強対策が必要となる場合は、橋脚段落し部の補強工法検討を行う。	○																																																			
	橋脚の耐震補強設計	段落し部の損傷判定及び耐震補強工法検討により決定された工法に対して詳細設計を行う。	○																																																			
	落橋防止システム設計	落橋防止システムの検討・設計を行う。本設計では、桁かかり長の照査、沓座拡張設計、落橋防止構造及び横変位拘束構造の設計のほか、取付部の耐力照査を含む。	◎																																																			
	施工計画(耐震補強設計)	構造物の規模、道路・鉄道の交差条件、河川の渡河条件及び、計画工程表、施工順序、施工方法、資材・部材の搬入計画、仮設備計画など、工事費積算にあたって必要な計画を記載した施工計画書を作成する。なお、施工計画書には設計と不可分な施工上の留意点について取りまとめ記載する。	◎																																																			
	関係機関との協議資料作成(耐震補強設計)	設計図書に基づき関係機関との協議用資料、説明用資料の作成を行う。	◎																																																			

# 土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現行	改定	備考																									
調査計画編 〔2〕 道路調査 2. 橋の 耐震補強設計 2-2. 業務等の費用 2-3. 資料収集 2-3-1. 現地踏査 2-3-2. 既往資料収集	計道調-34		<p><b>2-2 業務等の費用</b> (1) 業務等の費用及び積算等 業務等に係わる費用及び積算等は、設計業務委託積算基準による。</p> <p><b>2-3 資料収集</b></p> <p>2-3-1 現地踏査 (1) 適用範囲 耐震補強設計において、現地踏査を行う場合に適用する。橋脚まわりの桁下高をボールヤテープを用いて計測するなどの簡易的な作工調査を含む。 (2) 標準歩掛</p> <p>2-3-1-1 現地踏査 「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-1 橋梁予備設計」を適用する。 ・現地踏査 (施工単価コード: WS406109)</p> <p>2-3-2 既往資料収集 (1) 適用範囲 対象橋梁の竣工図面、設計計算書、その他関連資料(拡幅、補修、補強履歴など)の収集・整理を行う場合に適用する。 (2) 標準歩掛</p> <p>2-3-2-1 既往資料収集</p> <table border="1" data-bbox="1653 991 1951 1023"> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>DXD18200</td> </tr> </table> <p>(1橋当たり)</p> <table border="1" data-bbox="1249 1058 1888 1190"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">職 種</th> <th colspan="6">直 接 人 件 費</th> </tr> <tr> <th>主任 技術者</th> <th>技師長</th> <th>主任 技 師</th> <th>技 師 (A)</th> <th>技 師 (B)</th> <th>技 師 (C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>既往資料収集整理</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td></td> <td>0.8</td> </tr> </tbody> </table>	施工単価コード	DXD18200	区分	職 種	直 接 人 件 費						主任 技術者	技師長	主任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員	既往資料収集整理					0.6		0.8	全面改定
施工単価コード	DXD18200																												
区分	職 種	直 接 人 件 費																											
		主任 技術者	技師長	主任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員																					
既往資料収集整理					0.6		0.8																						

## 全 面 改 定

- ※ 2-6-1. 現地踏査
- ※ 2-6-2. 既往資料収集

注) 1. 耐震性能照査と耐震補強検討を同時発注又は単独発注に関係なく1橋梁として計上する。

# 土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																																																								
調査計画編  [2] 道路調査  2. 橋の 耐震補強設計  2-3. 資料収集  2-3-3. 上部構造 形状調査  2-3-4. 橋脚・橋台 形状調査	計道調-35	<p style="text-align: center; color: red; font-size: 24px;">全 面 改 定</p> <p>※2-6-3. 上部工形状調査                      ※2-6-4. 橋脚形状調査</p>	<p>2-3-3 上部構造形状調査</p> <p>(1) 適用範囲                      上部構造の既往資料がない場合に、下部構造に作用する上部構造反力の算出に必要な範囲、支承及び落橋防止システムを設置する想定箇所を調査する。5m梯子程度以下で調査可能な箇所に適用する。梯子での調査が困難で足場や点検車が必要な場合は、別途計上する。                      支間50m程度以上の場合や、箱桁や鋼床版、トラス橋など複雑な上部構造は別途見積対応とする。</p> <p>(2) 標準歩掛</p> <p>2-3-3-1 上部構造形状調査</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">施工単価コード</td> <td style="text-align: center;">DXD18400</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">(1支間当り)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">職 種</th> <th colspan="6">直 接 人 件 費</th> </tr> <tr> <th>主 任 技術者</th> <th>技 師 長</th> <th>主 任 技 師</th> <th>技 師 (A)</th> <th>技 師 (B)</th> <th>技 師 (C)</th> <th>技 術 員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>区 分</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>上 部 構 造 形 状 調 査</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">1.2</td> <td style="text-align: center;">1.3</td> <td></td> <td style="text-align: center;">1.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 脊座周形状調査を含む。                      2. 1橋梁で桁高、桁配置が同じ同形式が複数支間ある場合は1支間当りとし、同形式で桁高が違う場合は、70%の割増し、異形式の場合は支間数分を計上する。</p> <p>2-3-4 橋脚・橋台形状調査</p> <p>(1) 適用範囲                      補強対象橋脚に関する既往資料がない場合に、地表面又は水面より突出している部分の形状調査を行う。                      根入れ調査については橋脚柱の高さが不明な場合に別途計上するものとし、フーチング上面までの土被り深さをノンコーアボーリングで調査する方法やバックホウによる試掘等による。                      橋脚形状調査は5m程度の梯子を想定して歩掛に含んでいる。それ以外の水面上や高所の調査で足場や点検車が必要な場合は、別途計上する。</p> <p>(2) 標準歩掛</p> <p>2-3-4-1 橋脚・橋台形状調査</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">施工単価コード</td> <td style="text-align: center;">DXD18600</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">(下部工1基当り)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">職 種</th> <th colspan="6">直 接 人 件 費</th> </tr> <tr> <th>主 任 技術者</th> <th>技 師 長</th> <th>主 任 技 師</th> <th>技 師 (A)</th> <th>技 師 (B)</th> <th>技 師 (C)</th> <th>技 術 員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>区 分</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	施工単価コード	DXD18400	職 種	直 接 人 件 費						主 任 技術者	技 師 長	主 任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技 術 員	区 分								上 部 構 造 形 状 調 査				1.2	1.3		1.3	施工単価コード	DXD18600	職 種	直 接 人 件 費						主 任 技術者	技 師 長	主 任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技 術 員	区 分								全面改定
施工単価コード	DXD18400																																																											
職 種	直 接 人 件 費																																																											
	主 任 技術者	技 師 長	主 任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技 術 員																																																					
区 分																																																												
上 部 構 造 形 状 調 査				1.2	1.3		1.3																																																					
施工単価コード	DXD18600																																																											
職 種	直 接 人 件 費																																																											
	主 任 技術者	技 師 長	主 任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技 術 員																																																					
区 分																																																												

# 土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																																																																																														
調査計画編 〔2〕 道路調査 2. 橋の 耐震補強設計 2-3. 資料収集 2-3-5. 非破壊調査 及び はつり調査	計道調-36	<p style="font-size: 2em; color: red;">全 面 改 定</p> <p>※2-6-5. 非破壊調査及びはつり調査 ※2-7-1. 段落とし部はつり調査</p>	<p>2-3-5 非破壊調査及びはつり調査</p> <p>(1) 適用範囲 補強対象橋脚の配筋に関する既往資料がなく、橋脚段落し部の鉄筋径、間隔、かぶりなどを調査する場合に適用する。 非破壊調査費(鉄筋探査)は、必要に応じて別途計上するものとし、積算は、測量業務積算基準による。</p> <p>(2) 標準歩掛 2-3-5-1 非破壊調査及びはつり調査</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>DXD18800、DXD18900</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">(橋脚1基当り)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th rowspan="2">職 種</th> <th colspan="6">直 接 人 件 費</th> </tr> <tr> <th>主任 技術者</th> <th>技師長</th> <th>主任 技師</th> <th>技師 (A)</th> <th>技師 (B)</th> <th>技師 (C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>調 査 計 画</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.8</td> <td></td> <td>1.8</td> </tr> <tr> <td>デ ー タ 取 り ま と め</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.9</td> <td></td> <td>1.3</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.7</td> <td></td> <td>3.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 橋脚の規模によって段落し箇所が複数(2段配筋)想定される場合は、非破壊調査及びはつり調査を複数倍する。</p> <p>2-3-5-2 はつり調査費</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>DXD21600</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">(1箇所当り)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>規 格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>小 計</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">はつり作業</td> <td>技師(A)</td> <td></td> <td>人</td> <td>1.2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特殊作業員</td> <td></td> <td>人</td> <td>0.7</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>はつり工</td> <td></td> <td>人</td> <td>0.8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>普通作業員</td> <td></td> <td>人</td> <td>0.8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">復旧作業</td> <td>特殊作業員</td> <td></td> <td>人</td> <td>1.2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>型枠工</td> <td></td> <td>人</td> <td>1.2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>普通作業員</td> <td></td> <td>人</td> <td>1.2</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 作業は、はつり作業1日、復旧作業1日である。 2. はつり調査は0.7m×0.7m×深さ0.1mを基本としている。 3. コンクリートカッター損料、ピックハンマー損料、空気圧縮機賃料、発動発電機賃料、ハンド</p>	施工単価コード	DXD18800、DXD18900	区 分	職 種	直 接 人 件 費						主任 技術者	技師長	主任 技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員	調 査 計 画					0.8		1.8	デ ー タ 取 り ま と め					0.9		1.3	合 計					1.7		3.1	施工単価コード	DXD21600			規 格	単 位	数 量	小 計	備 考	はつり作業	技師(A)		人	1.2			特殊作業員		人	0.7			はつり工		人	0.8			普通作業員		人	0.8			復旧作業	特殊作業員		人	1.2			型枠工		人	1.2			普通作業員		人	1.2			全面改定
施工単価コード	DXD18800、DXD18900																																																																																																	
区 分	職 種	直 接 人 件 費																																																																																																
		主任 技術者	技師長	主任 技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員																																																																																										
調 査 計 画					0.8		1.8																																																																																											
デ ー タ 取 り ま と め					0.9		1.3																																																																																											
合 計					1.7		3.1																																																																																											
施工単価コード	DXD21600																																																																																																	
		規 格	単 位	数 量	小 計	備 考																																																																																												
はつり作業	技師(A)		人	1.2																																																																																														
	特殊作業員		人	0.7																																																																																														
	はつり工		人	0.8																																																																																														
	普通作業員		人	0.8																																																																																														
復旧作業	特殊作業員		人	1.2																																																																																														
	型枠工		人	1.2																																																																																														
	普通作業員		人	1.2																																																																																														

# 土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																																																															
調査計画編 〔2〕 道路調査 2. 橋の 耐震補強設計 2-3. 資料収集 2-3-6. 図面複製	計道調-37		<p>2-3-6 図面複製</p> <p>(1) 適用範囲</p> <p>調査結果や既設橋梁の図面 (PDFや調査図) をCADデータ化により複製する場合に適用する。</p> <p>一般図作成は、関係機関との協議や補強工事計画、仮設計画などができる図面を作成する。</p> <p>上部構造図作成は、上部構造重量算出ができる図面を作成する。また、上下部構造の取合い(番座回り)を明示する。</p> <p>橋脚構造図作成は、橋脚全体の構造図を作成する。</p> <p>橋脚配筋図作成は、配筋図、鉄筋段落とし位置の図面を作成する。</p> <p>(2) 標準歩掛</p> <p>2-3-6-1 図面複製</p> <table border="1" data-bbox="1624 619 1971 654"> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>DXD20001 ~ DXD20004</td> </tr> </table> <p>(橋脚1基当り)</p> <table border="1" data-bbox="1249 683 1877 938"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th rowspan="2">職 種</th> <th colspan="7">直 接 人 件 費</th> </tr> <tr> <th>主 任 技術者</th> <th>技 師 長</th> <th>主 任 技 師</th> <th>技 師 (A)</th> <th>技 師 (B)</th> <th>技 師 (C)</th> <th>技 術 員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一 般 図 作 成</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>上 部 構 造 図 作 成</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>0.7</td> <td>0.7</td> </tr> <tr> <td>橋 脚 構 造 図 作 成</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.2</td> <td>0.2</td> </tr> <tr> <td>橋 脚 配 筋 図 作 成</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.3</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.1</td> <td>1.2</td> <td>1.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 上部構造図作成について、同形式で桁高や支間長が違う複数径間の図面を複製する場合は類似として70%を計上する。</p> <p>2. 橋脚構造図について、幅、高さが違う複数橋脚について作成する場合は基数分を計上する。</p> <p>3. 橋脚配筋図について、複数橋脚の配筋図を作成する場合は、橋脚基数分を計上する。</p>	施工単価コード	DXD20001 ~ DXD20004	区 分	職 種	直 接 人 件 費							主 任 技術者	技 師 長	主 任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技 術 員	一 般 図 作 成						0.5			上 部 構 造 図 作 成						0.6	0.7	0.7	橋 脚 構 造 図 作 成							0.2	0.2	橋 脚 配 筋 図 作 成							0.3	0.5	合 計						1.1	1.2	1.4	全面改定
施工単価コード	DXD20001 ~ DXD20004																																																																		
区 分	職 種	直 接 人 件 費																																																																	
		主 任 技術者	技 師 長	主 任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技 術 員																																																											
一 般 図 作 成						0.5																																																													
上 部 構 造 図 作 成						0.6	0.7	0.7																																																											
橋 脚 構 造 図 作 成							0.2	0.2																																																											
橋 脚 配 筋 図 作 成							0.3	0.5																																																											
合 計						1.1	1.2	1.4																																																											

全 面 改 定

※2-6-6. 図面複製

# 土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																																																																																										
調査計画編 〔2〕 道路調査 2. 橋の 耐震補強設計 2-3. 資料収集 2-3-7. 上部構造 反力算出 2-3-8. 橋脚復元設計	計道調-38		<p>2-3-7 上部構造反力算出</p> <table border="1" data-bbox="1659 363 1944 400"> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>DXD20200</td> </tr> </table> <p>(1) 適用範囲 耐震補強設計に用いる上部構造反力を算出する場合に計上する。</p> <p>(2) 標準歩掛</p> <p>2-3-7-1 上部構造反力算出 (1連当り)</p> <table border="1" data-bbox="1261 544 1865 667"> <thead> <tr> <th rowspan="2">職 種 区 分</th> <th colspan="7">直 接 人 件 費</th> </tr> <tr> <th>主任 技術者</th> <th>技師長 技師</th> <th>主任 技師</th> <th>技師 (A)</th> <th>技師 (B)</th> <th>技師 (C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上部構造反力算出</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>0.9</td> <td>1.4</td> <td>1.6</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 架違い部を有する場合で、同形式で1連当りの桁長又は桁高が異なる(死荷重が異なる)場合は70%の類似構造物とする。1つの橋で異なる上部構造形式が混在している場合はその形式数分を計上する。(例えば、2径間連続鋼板桁+単純PCT桁のような場合は2連分を計上する。)</p> <p>2-3-8 橋脚復元設計</p> <table border="1" data-bbox="1621 836 1944 873"> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>DXD20401 ~ DXD20405</td> </tr> </table> <p>(1) 適用範囲 橋脚の配筋図又は設計計算書がなく、非破壊調査、はつり調査により配筋が復元できない場合に、架橋当時の基準などにより柱部材の復元設計を行う。 復元設計費は、柱部材のみの復元設計である。これによりがたい場合は別途見積対応とする。</p> <p>(2) 標準歩掛</p> <p>2-3-8-1 橋脚復元設計 (橋脚1基当り)</p> <table border="1" data-bbox="1261 1070 1865 1342"> <thead> <tr> <th rowspan="2">職 種 区 分</th> <th colspan="7">直 接 人 件 費</th> </tr> <tr> <th>主任 技術者</th> <th>技師長 技師</th> <th>主任 技師</th> <th>技師 (A)</th> <th>技師 (B)</th> <th>技師 (C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設計計画</td> <td></td> <td></td> <td>0.2</td> <td>0.4</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>設計計算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.7</td> <td>1.3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>設計図</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.7</td> <td>0.7</td> <td>0.8</td> </tr> <tr> <td>照 査</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.2</td> <td>0.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>報告書作成</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.2</td> <td>0.2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td></td> <td></td> <td>0.2</td> <td>0.6</td> <td>2.1</td> <td>2.2</td> <td>0.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 複数の橋脚を有する場合で、構造形式と地盤条件が同一で上部構造反力、柱径、幅、高さが異なる場合は70%の類似構造物とする。形式が異なる場合はその橋脚基数分を計上する。</p>	施工単価コード	DXD20200	職 種 区 分	直 接 人 件 費							主任 技術者	技師長 技師	主任 技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員	上部構造反力算出			0.6	0.9	1.4	1.6		施工単価コード	DXD20401 ~ DXD20405	職 種 区 分	直 接 人 件 費							主任 技術者	技師長 技師	主任 技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員	設計計画			0.2	0.4				設計計算					0.7	1.3		設計図					0.7	0.7	0.8	照 査				0.2	0.5			報告書作成					0.2	0.2		合 計			0.2	0.6	2.1	2.2	0.8	全面改定
施工単価コード	DXD20200																																																																																													
職 種 区 分	直 接 人 件 費																																																																																													
	主任 技術者	技師長 技師	主任 技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員																																																																																							
上部構造反力算出			0.6	0.9	1.4	1.6																																																																																								
施工単価コード	DXD20401 ~ DXD20405																																																																																													
職 種 区 分	直 接 人 件 費																																																																																													
	主任 技術者	技師長 技師	主任 技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員																																																																																							
設計計画			0.2	0.4																																																																																										
設計計算					0.7	1.3																																																																																								
設計図					0.7	0.7	0.8																																																																																							
照 査				0.2	0.5																																																																																									
報告書作成					0.2	0.2																																																																																								
合 計			0.2	0.6	2.1	2.2	0.8																																																																																							

## 全 面 改 定

- ※2-6-7. 上部工反力算出
- ※2-6-4. 橋脚復元設計

# 土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考
調査計画編  [2] 道路調査  2. 橋の 耐震補強設計  2-4. 耐震性能照査  2-4-1. 橋脚の 耐震性能照査	計道調-39	新 規	<p><b>2-4 耐震性能照査</b></p> <p>2-4-1 橋脚の耐震性能照査</p> <p>(1) 適用範囲 橋脚の耐震性能照査を行う場合に適用する。解析手法を静的照査とする場合は当歩掛のみを計上し、動的照査が必要な場合は別途計上する。</p> <p>(2) 留意事項 1. 複数の橋脚を有する場合で、構造形式と地盤条件が同一で上部構造反力、柱径、幅、高さが異なる場合は70%の類似構造物とする。形式が異なる場合はその橋脚基数分を計上する。 2. 電算機使用料は、直接経費として上記標準歩掛(基本構造物を対象)の2%を計上する。</p> <p>(3) 標準歩掛</p> <p>2-4-1-1 壁式橋脚(逆T式) 「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-5-2」[壁式橋脚(逆T式)]を適用する。 ・設計計画(施工単価コード:WS410501) ・設計計算(施工単価コード:WS410502) ・照査(施工単価コード:WS410505) ・報告書作成(施工単価コード:WS410506)</p> <p>2-4-1-2 柱式橋脚(2柱式) 「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-5-3」[柱式橋脚(2柱式)]を適用する。 ・設計計画(施工単価コード:WS410601) ・設計計算(施工単価コード:WS410602) ・照査(施工単価コード:WS410605) ・報告書作成(施工単価コード:WS410606)</p> <p>2-4-1-3 張出式橋脚 「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-5-4」[張出式橋脚]を適用する。 ・設計計画(施工単価コード:WS410701) ・設計計算(施工単価コード:WS410702) ・照査(施工単価コード:WS410705) ・報告書作成(施工単価コード:WS410706)</p> <p>2-4-1-4 ラーメン式橋脚 「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-5-5」[ラーメン式橋脚]を適用する。 ・設計計画(施工単価コード:WS410801) ・設計計算(施工単価コード:WS410802) ・照査(施工単価コード:WS410805) ・報告書作成(施工単価コード:WS410806)</p>	全面改定

# 土木事業委託積算基準 の **改定・追加・訂正**

適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																									
調査計画編 〔2〕 道路調査 2. 橋の 耐震補強設計 2-4. 耐震性能照査 2-4-2. 動的照査 (耐震性能照査)	計道調-40		<p>2-4-2 動的照査(耐震性能照査)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>(DXD20510)</td> </tr> </table> <p>(1) 適用範囲 耐震性能照査で動的照査を行う場合に適用する。</p> <p>(2) 標準歩掛 2-4-2-1 動的照査(耐震性能照査)</p> <p style="text-align: right;">(1橋当たり)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">職 種</th> <th colspan="7">直 接 人 件 費</th> </tr> <tr> <th>主任 技術者</th> <th>技師長</th> <th>主任 技 師</th> <th>技 師 (A)</th> <th>技 師 (B)</th> <th>技 師 (C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>区 分</td> <td colspan="7">                     「設計業務等標準積算基準書 第3編                      第2章 土木設計業務等標準歩掛                      8-2 橋梁詳細設計(3) 動的照査」を適用する。                 </td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 上記歩掛は2次元モデルを対象としている。3次元モデルによる動的照査を行う場合は次により補正する。なお、①~④が重複する場合は補正率が最も大きいもののみ適用する。</p> <p>①ラーメン橋脚を有する橋は、+50%の補正率を乗じる。</p> <p>②直線橋で斜角60度未満の橋脚を有する橋は、+70%の補正率を乗じる。</p> <p>③3径間以内の曲線橋は、+70%の補正率を乗じる。</p> <p>④4径間以上の曲線橋は、+100%の補正率を乗じる。</p> <p>(例) ①と②が重複する場合、補正率の高い②のみを適用する。</p> <p style="text-align: center;">※標準歩掛×(1+0.70)</p>	施工単価コード	(DXD20510)	職 種	直 接 人 件 費							主任 技術者	技師長	主任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員	区 分	「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2 橋梁詳細設計(3) 動的照査」を適用する。							全面改定
施工単価コード	(DXD20510)																												
職 種	直 接 人 件 費																												
	主任 技術者	技師長	主任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員																						
区 分	「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2 橋梁詳細設計(3) 動的照査」を適用する。																												

新 規

# 土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																																																																																														
調査計画編  [2] 道路調査  2. 橋の 耐震補強設計  2-5. 耐震補強検討  2-5-1. 橋脚の補強 工法検討  2-5-2. 動的照査 (耐震補強検討)	計道調-41	<p style="text-align: center; color: red; font-size: 24px;">全 面 改 定</p> <p style="text-align: center;">※ 2-6-10. 補強工法選定</p>	<p style="color: red;">2-5 耐震補強検討</p> <p style="color: red;">2-5-1 橋脚の補強工法検討</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">             施工単価コード    DXD20801 ~ DXD20806         </div> <p>(1) 適用範囲 耐震性能2、又は耐震性能3を目標とする橋で、橋脚の補強工法検討を行う場合に適用する。 建築限界や河積阻害率など補強規模に関わる制限を受けず、補強工法が限定される場合は計上しない。解析手法を静的照査とする場合は当歩掛のみを計上し、動的照査が必要な場合は別途計上する。</p> <p>(2) 標準歩掛</p> <p style="color: red;">2-5-1-1 橋脚の補強工法検討 <span style="float: right;">(橋脚1基当り)</span></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分 \ 職 種</th> <th colspan="7">直 接 人 件 費</th> </tr> <tr> <th>主任 技術者</th> <th>技師長 技術者</th> <th>主任 技師</th> <th>技師 (A)</th> <th>技師 (B)</th> <th>技師 (C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設 計 計 画</td> <td></td> <td></td> <td>0.2</td> <td>0.4</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>設 計 計 算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.7</td> <td>1.2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>設 計 図</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>0.6</td> <td>0.7</td> </tr> <tr> <td>数 量 計 算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.7</td> <td>0.7</td> </tr> <tr> <td>照 査</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.2</td> <td>0.4</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>報 告 書 作 成</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.2</td> <td>0.2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td></td> <td></td> <td>0.2</td> <td>0.6</td> <td>1.9</td> <td>2.7</td> <td>1.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 上記歩掛は3工法を標準とし、比較工法数による補正はn/3で算出する。</p> <p style="color: red;">2-5-2 動的照査 (耐震補強検討)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">             施工単価コード    (DXD20510)         </div> <p>(1) 適用範囲 耐震補強検討で動的照査を行う場合に適用する。</p> <p>(2) 標準歩掛</p> <p style="color: red;">2-5-2-1 動的照査 (耐震補強検討) <span style="float: right;">(1橋当り)</span></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分 \ 職 種</th> <th colspan="7">直 接 人 件 費</th> </tr> <tr> <th>主任 技術者</th> <th>技師長 技術者</th> <th>主任 技師</th> <th>技師 (A)</th> <th>技師 (B)</th> <th>技師 (C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>動 的 照 査</td> <td colspan="7">                     [設計業務等標準積算基準書 第3編                      第2章 土木設計業務等標準歩掛                      8-2 橋梁詳細設計(3) 動的照査]を適用する。                 </td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 耐震性能照査と耐震補強検討を同時発注する場合は、当歩掛の50%を計上する。 2. 上記歩掛は2次元モデルを対象としている。3次元モデルによる動的照査を行う場合は次により補正する。なお、①~④が重複する場合は補正率が最も大きいもののみ適用する。 ①ラーメン橋脚を有する橋は、+50%の補正率を乗じる。 ②直線橋で斜角60度未満の橋脚を有する橋は、+70%の補正率を乗じる。 ③3径間以内の曲線橋は、+70%の補正率を乗じる。 ④4径間以上の曲線橋は、+100%の補正率を乗じる。 (例) 注1と注2の①②が重複する場合、注1に補正率の高い②のみを適用する。 ※標準歩掛×0.50×(1+0.70)=標準歩掛×0.85</p>	区 分 \ 職 種	直 接 人 件 費							主任 技術者	技師長 技術者	主任 技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員	設 計 計 画			0.2	0.4				設 計 計 算					0.7	1.2		設 計 図					0.6	0.6	0.7	数 量 計 算						0.7	0.7	照 査				0.2	0.4			報 告 書 作 成					0.2	0.2		合 計			0.2	0.6	1.9	2.7	1.4	区 分 \ 職 種	直 接 人 件 費							主任 技術者	技師長 技術者	主任 技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員	動 的 照 査	[設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2 橋梁詳細設計(3) 動的照査]を適用する。							全面改定
区 分 \ 職 種	直 接 人 件 費																																																																																																	
	主任 技術者	技師長 技術者	主任 技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員																																																																																											
設 計 計 画			0.2	0.4																																																																																														
設 計 計 算					0.7	1.2																																																																																												
設 計 図					0.6	0.6	0.7																																																																																											
数 量 計 算						0.7	0.7																																																																																											
照 査				0.2	0.4																																																																																													
報 告 書 作 成					0.2	0.2																																																																																												
合 計			0.2	0.6	1.9	2.7	1.4																																																																																											
区 分 \ 職 種	直 接 人 件 費																																																																																																	
	主任 技術者	技師長 技術者	主任 技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員																																																																																											
動 的 照 査	[設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2 橋梁詳細設計(3) 動的照査]を適用する。																																																																																																	

# 土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考
調査計画編  [2] 道路調査  2. 橋の 耐震補強設計  2-5. 耐震補強検討  2-5-3. 既設基礎の 照査	計道調-42	<h2 style="color: red;">新 規</h2>	<p>2-5-3 既設基礎の照査</p> <p>(1) 適用範囲 既設基礎の照査を行う場合に適用する。</p> <p>(2) 留意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>複数の橋脚を有する場合において、下部工の構造形式が異なる場合、又は、杭種、杭径が異なる場合は、それぞれ1基分として計上する。</li> <li>下部工の躯体幅、高さが異なる場合に、構造型式と地盤条件が同一で、杭種、杭径が同一の場合は70%の類似構造物とする。</li> <li>電算機使用料は、直接経費として上記標準歩掛(基本構造物を対象)の2%を計上する。</li> </ol> <p>(3) 標準歩掛</p> <p>2-5-3-1 既製杭(鋼管杭・RC杭・PHC杭に適用)                      「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-8 1) [既製杭]」を適用する。                      ・設計計算(施工単価コード:WS411302)                      ・照査(施工単価コード:WS411305)                      ・報告書作成(施工単価コード:WS411306)</p> <p>2-5-3-2 場所打杭                      「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-8 2) [場所打杭]」を適用する。                      ・設計計算(施工単価コード:WS411402)                      ・照査(施工単価コード:WS411405)                      ・報告書作成(施工単価コード:WS411406)</p> <p>2-5-3-3 深礎基礎                      「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-8 3) [深礎杭]」を適用する。                      ・設計計算(施工単価コード:WS411502)                      ・照査(施工単価コード:WS411505)                      ・報告書作成(施工単価コード:WS411506)</p> <p>2-5-3-4 ケーソン基礎                      「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-8 4) [井筒]」を適用する。                      ・設計計算(施工単価コード:WS411602)                      ・照査(施工単価コード:WS411605)                      ・報告書作成(施工単価コード:WS411606)</p>	全面改定

# 土木事業委託積算基準 の **改定・追加・訂正**

適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考
調査計画編  [2] 道路調査  2. 橋の 耐震補強設計  2-5. 耐震補強検討  2-5-4. 基礎の 補強工法検討	計道調-43	<h2 style="color: red;">新 規</h2>	<p>2-5-4 基礎の補強工法検討</p> <p>(1) 適用範囲</p> <p>基礎の補強工法検討を行う場合に適用する。数量計算は工法比較のための概算工事費算出を含む。</p> <p>(2) 留意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>複数の橋脚を有する場合において、下部工の構造形式が異なる場合、又は、杭種、杭径が異なる場合は、それぞれ1基分として計上する。</li> <li>下部工の躯体幅、高さが異なる場合に、構造型式と地盤条件が同一で、杭種、杭径が同一の場合は70%の類似構造物とする。</li> <li>電算機使用料は、直接経費として上記標準歩掛(基本構造物を対象)の2%を計上する。</li> </ol> <p>(3) 標準歩掛</p> <p>2-5-4-1 既製杭(鋼管杭・RC杭・PHC杭に適用)</p> <p>「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-8 1) [既製杭]」を適用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>設計計画(施工単価コード: WS411301)</li> <li>設計計算(施工単価コード: WS411302)</li> <li>数量計算(施工単価コード: WS411304)</li> <li>照査(施工単価コード: WS411305)</li> <li>報告書作成(施工単価コード: WS411306)</li> </ul> <p>2-5-4-2 場所打杭</p> <p>「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-8 2) [場所打杭]」を適用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>設計計画(施工単価コード: WS411401)</li> <li>設計計算(施工単価コード: WS411402)</li> <li>数量計算(施工単価コード: WS411404)</li> <li>照査(施工単価コード: WS411405)</li> <li>報告書作成(施工単価コード: WS411406)</li> </ul> <p>2-5-4-3 深礎基礎</p> <p>「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-8 3) [深礎杭]」を適用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>設計計画(施工単価コード: WS411501)</li> <li>設計計算(施工単価コード: WS411502)</li> <li>数量計算(施工単価コード: WS411504)</li> <li>照査(施工単価コード: WS411505)</li> <li>報告書作成(施工単価コード: WS411506)</li> </ul> <p>2-5-4-4 ケーソン基礎</p> <p>「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-8 4) [井筒]」を適用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>設計計画(施工単価コード: WS411601)</li> <li>設計計算(施工単価コード: WS411602)</li> <li>数量計算(施工単価コード: WS411604)</li> <li>照査(施工単価コード: WS411605)</li> <li>報告書作成(施工単価コード: WS411606)</li> </ul>	全面改定

# 土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																										
調査計画編  [2] 道路調査  2. 橋の 耐震補強設計  2-5. 耐震補強検討  2-5-5. 支承形式検討  2-5-6. 関係機関との 協議資料作成 (耐震補強検討)	計道調-44	<p style="text-align: center; color: red; font-size: 2em;">新 規</p>	<p>2-5-5 支承形式検討</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">施工単価コード</td> <td style="text-align: center;">(DXD34061)</td> </tr> </table> <p>(1) 適用範囲 耐震補強検討で支承形式検討を行う場合に適用する。落橋防止装置の設置条件など支承周りの構造との取合いの検討を含む。</p> <p>(2) 標準歩掛 2-5-5-1 支承形式検討</p> <p style="text-align: right;">(1 支承線当り)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2" style="text-align: center;">区 分</th> <th colspan="7" style="text-align: center;">直 接 人 件 費</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">職 種</th> <th style="text-align: center;">主任 技術者</th> <th style="text-align: center;">技師長</th> <th style="text-align: center;">主任 技 師</th> <th style="text-align: center;">技 師 (A)</th> <th style="text-align: center;">技 師 (B)</th> <th style="text-align: center;">技 師 (C)</th> <th style="text-align: center;">技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">支 承 形 式 検 討</td> <td colspan="7" style="text-align: center;">「8. 橋梁補修設計 8-9-3-1 支承取り替え設計」 を適用する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 支承線数による標準歩掛の補正は次による。 歩掛 = (標準歩掛) × (0.3 + 0.7 × n)    n: 支承線数</p> <p>2. 上部構造が同形式で桁高、支間長、支点条件のすべてが同じ場合は同一径間として取り扱う。</p> <p>2-5-6 関係機関との協議資料作成 (耐震補強検討)</p> <p>(1) 適用範囲 耐震補強検討の段階で関係機関との協議資料を作成する場合に適用する。</p> <p>(2) 標準歩掛 2-5-6-1 関係機関との協議資料作成 (耐震補強検討)</p> <p>「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-1-(7) 関係機関との協議資料作成」を適用する。</p> <p>・ 関係機関との協議資料作成 (施工単価コード: WS406108)</p>	施工単価コード	(DXD34061)	区 分	直 接 人 件 費							職 種	主任 技術者	技師長	主任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員	支 承 形 式 検 討	「8. 橋梁補修設計 8-9-3-1 支承取り替え設計」 を適用する。							全面改定
施工単価コード	(DXD34061)																													
区 分	直 接 人 件 費																													
	職 種	主任 技術者	技師長	主任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員																						
支 承 形 式 検 討	「8. 橋梁補修設計 8-9-3-1 支承取り替え設計」 を適用する。																													

# 土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考
調査計画編  [2] 道路調査  2. 橋の 耐震補強設計  2-6. 耐震補強設計  2-6-1. 橋脚の 耐震補強設計	計道調-45(1)	新 規	<p><b>2-6 耐震補強設計</b></p> <p>2-6-1 橋脚の耐震補強設計</p> <p>(1) 適用範囲 橋脚の耐震補強設計を行う場合に適用する。解析手法を静的照査とする場合は当歩掛のみを計上し、動的照査が必要な場合は別途計上する。</p> <p>(2) 留意事項 1. 複数の橋脚を有する場合で、構造形式と地盤条件が同一で上部構造反力、柱径、幅、高さが異なる場合は70%の類似構造物とする。形式が異なる場合はその橋脚基数分を計上する。 2. 電算機使用料は、直接経費として上記標準歩掛(基本構造物を対象)の2%を計上する。</p> <p>(3) 標準歩掛</p> <p>2-6-1-1 壁式橋脚(逆T式) 「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-5 2) [壁式橋脚(逆T式)]」を適用する。 ・設計計画(施工単価コード: WS410501) ・設計計算(施工単価コード: WS410502) ・設計図(施工単価コード: WS410503) ・数量計算(施工単価コード: WS410504) ・照査(施工単価コード: WS410505) ・報告書作成(施工単価コード: WS410506)</p> <p>2-6-1-2 柱式橋脚(2柱式) 「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-5 3) [柱式橋脚(2柱式)]」を適用する。 ・設計計画(施工単価コード: WS410601) ・設計計算(施工単価コード: WS410602) ・設計図(施工単価コード: WS410603) ・数量計算(施工単価コード: WS410604) ・照査(施工単価コード: WS410605) ・報告書作成(施工単価コード: WS410606)</p> <p>2-6-1-3 張出式橋脚 「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-5 4) [張出式橋脚]」を適用する。 ・設計計画(施工単価コード: WS410701) ・設計計算(施工単価コード: WS410702) ・設計図(施工単価コード: WS410703) ・数量計算(施工単価コード: WS410704) ・照査(施工単価コード: WS410705) ・報告書作成(施工単価コード: WS410706)</p> <p>2-6-1-4 ラーメン式橋脚 「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-5 5) [ラーメン式橋脚]」を適用する。 ・設計計画(施工単価コード: WS410801) ・設計計算(施工単価コード: WS410802) ・設計図(施工単価コード: WS410803) ・数量計算(施工単価コード: WS410804) ・照査(施工単価コード: WS410805) ・報告書作成(施工単価コード: WS410806)</p>	全面改定

# 土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考
調査計画編  [2] 道路調査  2. 橋の 耐震補強設計  2-6. 耐震補強設計  2-6-2. 基礎の 耐震補強設計	計道調-45(2)	<p style="text-align: center; color: red; font-size: 2em;">新 規</p>	<p>2-6-2 基礎の耐震補強設計</p> <p>(1) 適用範囲 基礎の耐震補強設計を行う場合に適用する。</p> <p>(2) 留意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>複数の橋脚を有する場合において、下部工の構造形式が異なる場合、又は、杭種、杭径が異なる場合は、それぞれ1基分として計上する。</li> <li>下部工の躯体幅、高さが異なる場合に、構造型式と地盤条件が同一で、杭種、杭径が同一の場合は70%の類似構造物とする。</li> <li>電算機使用料は、直接経費として上記標準歩掛(基本構造物を対象)の2%を計上する。</li> </ol> <p>(3) 標準歩掛</p> <p>2-6-2-1 既製杭(鋼管杭・RC杭・PHC杭に適用)</p> <p>「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-8 1)【既製杭】」を適用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設計計画(施工単価コード:WS411301)</li> <li>・設計計算(施工単価コード:WS411302)</li> <li>・設計図(施工単価コード:WS411303)</li> <li>・数量計算(施工単価コード:WS411304)</li> <li>・照査(施工単価コード:WS411305)</li> <li>・報告書作成(施工単価コード:WS411306)</li> </ul> <p>2-6-2-2 場所打杭</p> <p>「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-8 2)【場所打杭】」を適用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設計計画(施工単価コード:WS411401)</li> <li>・設計計算(施工単価コード:WS411402)</li> <li>・設計図(施工単価コード:WS411403)</li> <li>・数量計算(施工単価コード:WS411404)</li> <li>・照査(施工単価コード:WS411405)</li> <li>・報告書作成(施工単価コード:WS411406)</li> </ul> <p>2-6-2-3 深礎基礎</p> <p>「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-8 3)【深礎杭】」を適用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設計計画(施工単価コード:WS411501)</li> <li>・設計計算(施工単価コード:WS411502)</li> <li>・設計図(施工単価コード:WS411503)</li> <li>・数量計算(施工単価コード:WS411504)</li> <li>・照査(施工単価コード:WS411505)</li> <li>・報告書作成(施工単価コード:WS411506)</li> </ul> <p>2-6-2-4 ケーソン基礎</p> <p>「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-8 4)【井筒】」を適用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設計計画(施工単価コード:WS411601)</li> <li>・設計計算(施工単価コード:WS411602)</li> <li>・設計図(施工単価コード:WS411603)</li> <li>・数量計算(施工単価コード:WS411604)</li> <li>・照査(施工単価コード:WS411605)</li> <li>・報告書作成(施工単価コード:WS411606)</li> </ul>	全面改定

# 土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																																																		
調査計画編 〔2〕 道路調査 2. 橋の 耐震補強設計 2-6. 耐震補強設計 2-6-3. 動的照査 (耐震補強設計) 2-6-4. 支承 取り替え設計	計道調-45(3)		<p>2-6-3 動的照査(耐震補強設計)</p> <table border="1"> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>(DXD20510)</td> </tr> </table> <p>(1) 適用範囲 耐震補強設計で動的照査を行う場合に適用する。</p> <p>(2) 標準歩掛</p> <p>2-6-3-1 動的照査(耐震補強設計) (1橋当たり)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">職 種</th> <th colspan="7">直 接 人 件 費</th> </tr> <tr> <th>主任 技術者</th> <th>技師長 技 師</th> <th>主任 技 師</th> <th>技 師 (A)</th> <th>技 師 (B)</th> <th>技 師 (C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>区 分</td> <td colspan="7">「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2 橋梁詳細設計(3) 動的照査」を適用する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 耐震性能照査と耐震補強検討を同時発注する場合は、当歩掛の50%を計上する。 2. 上記歩掛は2次元モデルを対象としている。三次元モデルによる動的照査を行う場合は次により補正する。なお、①~④が重複する場合は補正率が最も大きいもののみ適用する。 ①ラーメン橋脚を有する橋は、+50%の補正率を乗じる。 ②直線橋で斜角60度未満の橋脚を有する橋は、+70%の補正率を乗じる。 ③3径間以内の曲線橋は、+70%の補正率を乗じる。 ④4径間以上の曲線橋は、+100%の補正率を乗じる。 (例) 注1と注2の①②が重複する場合、注1に補正率の高い②のみを適用する。 ※標準歩掛×0.50×(1+0.70)=標準歩掛×0.85</p> <p>2-6-4 支承取り替え設計</p> <table border="1"> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>(DXD34061)</td> </tr> </table> <p>(1) 適用範囲 既設支承の取り替え設計又は機能分離構造を追加する設計を行う場合に適用する。 仮受け構造・作用力の算出などのほか、取付部の耐力照査を含む。</p> <p>(2) 標準歩掛</p> <p>2-6-4-1 支承取り替え設計 (1支承線当たり)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">職 種</th> <th colspan="7">直 接 人 件 費</th> </tr> <tr> <th>主任 技術者</th> <th>技師長 技 師</th> <th>主任 技 師</th> <th>技 師 (A)</th> <th>技 師 (B)</th> <th>技 師 (C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>区 分</td> <td colspan="7">「8. 橋梁補修設計 8-9-3-1 支承取り替え設計」を適用する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 支承線数による標準歩掛の補正は次による。 歩掛=(標準歩掛)×(0.3+0.7×n) n:支承線数 2. 上部構造が同形式で桁高、支間長、支点条件のすべてが同じ場合は同一径間として取り扱う。</p>	施工単価コード	(DXD20510)	職 種	直 接 人 件 費							主任 技術者	技師長 技 師	主任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員	区 分	「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2 橋梁詳細設計(3) 動的照査」を適用する。							施工単価コード	(DXD34061)	職 種	直 接 人 件 費							主任 技術者	技師長 技 師	主任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員	区 分	「8. 橋梁補修設計 8-9-3-1 支承取り替え設計」を適用する。							全面改定
施工単価コード	(DXD20510)																																																					
職 種	直 接 人 件 費																																																					
	主任 技術者	技師長 技 師	主任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員																																															
区 分	「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2 橋梁詳細設計(3) 動的照査」を適用する。																																																					
施工単価コード	(DXD34061)																																																					
職 種	直 接 人 件 費																																																					
	主任 技術者	技師長 技 師	主任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員																																															
区 分	「8. 橋梁補修設計 8-9-3-1 支承取り替え設計」を適用する。																																																					

新 規

# 土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																																																																																																		
調査計画編 〔2〕 道路調査 2. 橋の 耐震補強設計 2-6. 耐震補強設計 2-6-5. 段落とし部の 損傷判定 (耐震性能3) 2-6-6. 地震時保有 水平耐力の照査 (耐震性能3)	計道調-45(4)	<p style="font-size: 2em; color: red;">全 面 改 定</p> <p>※2-6-9. 段落とし部の損傷判定 ※2-6-12. 地震時保有水平耐力法の照査</p>	<p>2-6-5 段落とし部の損傷判定 (耐震性能3)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>DXD20601 ~ DXD20604</td> </tr> </table> <p>(1) 適用範囲 耐震性能3を目標とする橋で段落とし部の損傷判定を行う場合に適用する。当歩掛は、柱部材のみを対象とする。</p> <p>(2) 標準歩掛 2-6-5-1 段落とし部の損傷判定 (耐震性能3) (橋脚1基当り)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th rowspan="2">職 種</th> <th colspan="6">直 接 人 件 費</th> </tr> <tr> <th>主任 技術者</th> <th>技師長 技術者</th> <th>主任 技師</th> <th>技師 (A)</th> <th>技師 (B)</th> <th>技師 (C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設 計 計 画</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.2</td> <td>0.4</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>設 計 計 算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.7</td> <td>1.3</td> </tr> <tr> <td>照 査</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.2</td> <td>0.4</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>報 告 書 作 成</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.2</td> <td>0.2</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.2</td> <td>0.6</td> <td>1.3</td> <td>1.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 複数の橋脚を有する場合で、構造形式と地盤条件が同一で上部構造反力、柱径、幅、高さが異なる場合は70%の類似構造物とする。形式が異なる場合はその橋脚基数分を計上する。 2. 段落とし部の損傷判定において、補強の必要性がないと判明した場合は、「橋脚の補強工法検討」と「橋脚の耐震補強設計(耐震性能3)」は不要とする。 3. 電算機使用料は、直接経費として上記標準歩掛の1%を計上する。</p> <p>2-6-6 地震時保有水平耐力の照査 (耐震性能3)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>DXD21201、DXD21202</td> </tr> </table> <p>(1) 適用範囲 耐震性能3を目標とする橋に適用する。段落し部損傷判定における計算過程で地震時保有水平耐力(Pa)の算出などに用いる。</p> <p>(2) 標準歩掛 2-6-6-1 地震時保有水平耐力の照査 (耐震性能3) (橋脚1基当り)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th rowspan="2">職 種</th> <th colspan="6">直 接 人 件 費</th> </tr> <tr> <th>主任 技術者</th> <th>技師長 技術者</th> <th>主任 技師</th> <th>技師 (A)</th> <th>技師 (B)</th> <th>技師 (C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設 計 計 画</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>0.6</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>設 計 計 算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.2</td> <td>2.2</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>0.6</td> <td>1.2</td> <td>2.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 複数の橋脚を有する場合で、構造形式と地盤条件が同一で上部構造反力、柱径、幅、高さが異なる場合は70%の類似構造物とする。形式が異なる場合はその橋脚基数分を計上する。 2. 電算機使用料は、直接経費として上記標準歩掛の1%を計上する。</p>	施工単価コード	DXD20601 ~ DXD20604	区 分	職 種	直 接 人 件 費						主任 技術者	技師長 技術者	主任 技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員	設 計 計 画				0.2	0.4			設 計 計 算						0.7	1.3	照 査				0.2	0.4			報 告 書 作 成						0.2	0.2	合 計				0.2	0.6	1.3	1.5	施工単価コード	DXD21201、DXD21202	区 分	職 種	直 接 人 件 費						主任 技術者	技師長 技術者	主任 技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員	設 計 計 画				0.6	0.6			設 計 計 算						1.2	2.2	合 計				0.6	0.6	1.2	2.2	全面改定
施工単価コード	DXD20601 ~ DXD20604																																																																																																					
区 分	職 種	直 接 人 件 費																																																																																																				
		主任 技術者	技師長 技術者	主任 技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員																																																																																														
設 計 計 画				0.2	0.4																																																																																																	
設 計 計 算						0.7	1.3																																																																																															
照 査				0.2	0.4																																																																																																	
報 告 書 作 成						0.2	0.2																																																																																															
合 計				0.2	0.6	1.3	1.5																																																																																															
施工単価コード	DXD21201、DXD21202																																																																																																					
区 分	職 種	直 接 人 件 費																																																																																																				
		主任 技術者	技師長 技術者	主任 技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員																																																																																														
設 計 計 画				0.6	0.6																																																																																																	
設 計 計 算						1.2	2.2																																																																																															
合 計				0.6	0.6	1.2	2.2																																																																																															

# 土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																																																																																																																																						
調査計画編 〔2〕 道路調査 2. 橋の 耐震補強設計 2-6. 耐震補強設計 2-6-7. 橋脚の 耐震補強設計 (耐震性能3) 2-6-8. 落橋防止 システム設計	計道調-45(5)	<p style="font-size: 2em; color: red;">全 面 改 定</p> <p>※2-6-11. 耐震補強設計 ※2-6-13. 落橋防止システム設計</p>	<p>2-6-7 橋脚の耐震補強設計 (耐震性能3)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <span style="font-size: 0.8em;">施工単価コード</span> DXD21001 ~ DXD21006         </div> <p>(1) 適用範囲 耐震性能3を目標とする橋で橋脚の耐震補強設計を行う場合に適用する。</p> <p>(2) 標準歩掛</p> <p>2-6-7-1 橋脚の耐震補強設計 (耐震性能3)</p> <p style="text-align: right;">(橋脚1基当り)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分 \ 職 種</th> <th colspan="7">直 接 人 件 費</th> </tr> <tr> <th>主 任 技 術 者</th> <th>技 師 長</th> <th>主 任 技 師</th> <th>技 師 (A)</th> <th>技 師 (B)</th> <th>技 師 (C)</th> <th>技 術 員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設 計 計 画</td> <td></td> <td></td> <td>0.4</td> <td>0.6</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>設 計 計 算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.0</td> <td>1.8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>設 計 図</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.9</td> <td>0.9</td> <td>1.2</td> </tr> <tr> <td>数 量 計 算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.2</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>照 査</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.4</td> <td>0.6</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>報 告 書 作 成</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.4</td> <td>0.4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td></td> <td></td> <td>0.4</td> <td>1.0</td> <td>2.9</td> <td>4.3</td> <td>2.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 複数の橋脚を有する場合で、構造形式と地盤条件が同一で上部構造反力、柱径、幅、高さが異なる場合は70%の類似構造物とする。形式が異なる場合はその橋脚基数分を計上する。 2. 電算機使用料は、直接経費として上記標準歩掛の1%を計上する。</p> <p>2-6-8 落橋防止システム設計</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <span style="font-size: 0.8em;">施工単価コード</span> DXD21401 ~ DXD21405         </div> <p>(1) 適用範囲 耐震性能2、又は耐震性能3を目標とする橋で、落橋防止構造及び変位制限構造を設計する場合に適用する。</p> <p>(2) 標準歩掛</p> <p>2-6-8-1 落橋防止システム設計</p> <p style="text-align: right;">(1基当り)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分 \ 職 種</th> <th colspan="7">直 接 人 件 費</th> </tr> <tr> <th>主 任 技 術 者</th> <th>技 師 長</th> <th>主 任 技 師</th> <th>技 師 (A)</th> <th>技 師 (B)</th> <th>技 師 (C)</th> <th>技 術 員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設 計 計 画</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>設 計 計 算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.7</td> <td>0.9</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>設 計 図</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.7</td> <td>0.7</td> <td>0.7</td> </tr> <tr> <td>数 量 計 算</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.7</td> <td>0.7</td> </tr> <tr> <td>照 査</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.7</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td></td> <td></td> <td>0.6</td> <td>1.4</td> <td>1.6</td> <td>1.4</td> <td>1.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 複数径間の橋梁で異なる工法を採用する場合は、工法ごとに計上する。落橋防止構造と変位制限構造が1箇所を設置される場合は、注)2により類似構造物とする。 2. 同一橋梁で同工法を用いる場合であっても、支間長の違いから別途設計計算を行う場合は、類似構造物とする。(0.5n+0.5) 3. 咨座周り構造図及び配筋図複製費を含む。 4. 落橋防止構造設置に必要な枠組み足場や吊り足場の施工計画含む。</p>	区 分 \ 職 種	直 接 人 件 費							主 任 技 術 者	技 師 長	主 任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技 術 員	設 計 計 画			0.4	0.6				設 計 計 算					1.0	1.8		設 計 図					0.9	0.9	1.2	数 量 計 算						1.2	1.0	照 査				0.4	0.6			報 告 書 作 成					0.4	0.4		合 計			0.4	1.0	2.9	4.3	2.2	区 分 \ 職 種	直 接 人 件 費							主 任 技 術 者	技 師 長	主 任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技 術 員	設 計 計 画			0.6					設 計 計 算				0.7	0.9			設 計 図					0.7	0.7	0.7	数 量 計 算						0.7	0.7	照 査				0.7				合 計			0.6	1.4	1.6	1.4	1.4	<p>全面改定</p>
区 分 \ 職 種	直 接 人 件 費																																																																																																																																									
	主 任 技 術 者	技 師 長	主 任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技 術 員																																																																																																																																			
設 計 計 画			0.4	0.6																																																																																																																																						
設 計 計 算					1.0	1.8																																																																																																																																				
設 計 図					0.9	0.9	1.2																																																																																																																																			
数 量 計 算						1.2	1.0																																																																																																																																			
照 査				0.4	0.6																																																																																																																																					
報 告 書 作 成					0.4	0.4																																																																																																																																				
合 計			0.4	1.0	2.9	4.3	2.2																																																																																																																																			
区 分 \ 職 種	直 接 人 件 費																																																																																																																																									
	主 任 技 術 者	技 師 長	主 任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技 術 員																																																																																																																																			
設 計 計 画			0.6																																																																																																																																							
設 計 計 算				0.7	0.9																																																																																																																																					
設 計 図					0.7	0.7	0.7																																																																																																																																			
数 量 計 算						0.7	0.7																																																																																																																																			
照 査				0.7																																																																																																																																						
合 計			0.6	1.4	1.6	1.4	1.4																																																																																																																																			

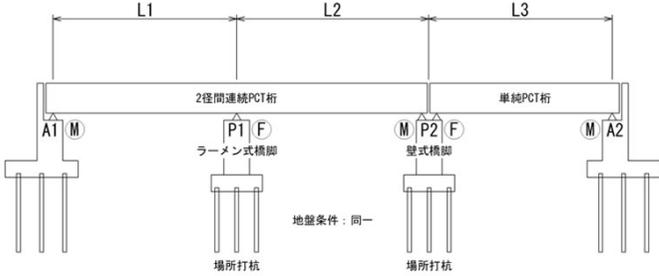
# 土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考
調査計画編  [2] 道路調査  2. 橋の 耐震補強設計  2-6. 耐震補強設計  2-6-9. 施工計画 (耐震補強設計)  2-6-10. 関係機関との 協議資料作成 (耐震補強設計)	計道調-45(6)	<p style="text-align: center; color: red; font-size: 2em;">新 規</p>	<p>2-6-9 施工計画(耐震補強設計)</p> <p>(1) 適用範囲 耐震補強設計で施工計画を行う場合に適用する。</p> <p>(2) 標準歩掛</p> <p>2-6-9-1 施工計画(耐震補強設計)</p> <p>「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2 (2) 施工計画」を適用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施工計画(施工単価コード: WS406202)</li> </ul> <p>2-6-10 関係機関との協議資料作成(耐震補強設計)</p> <p>(1) 適用範囲 耐震補強設計で関係機関との協議資料を作成する場合に適用する。</p> <p>(2) 標準歩掛</p> <p>2-6-10-1 関係機関との協議資料作成(耐震補強設計)</p> <p>「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2 (1) 関係機関との協議資料作成」を適用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関との協議資料作成(施工単価コード: WS406205)</li> </ul>	全面改定

# 土木事業委託積算基準 の **改定・追加・訂正**

適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考
調査計画編 [2] 道路調査 2. 橋の 耐震補強設計 2-7. 積算例 2-7-1. 積算例(1)	計道調-45(7)	<p style="text-align: center; color: red; font-size: 2em;">新 規</p>	<p>2-7 積算例</p> <p>2-7-1 積算例(1)</p> <p>(1) 積算条件</p> <p>耐震性能2(A) (2-1 橋の耐震補強設計、(1) 設計フローを参照)</p> <p>上部構造形式: 2径間連続PCT桁+単純PCT桁 (L1=L2≠L3) [上部構造連数: 2連]</p> <p>橋脚構造形式: [P1]ラーメン式橋脚 (斜角90度)、[P2]壁式橋脚 (斜角90度)</p> <p>基礎構造形式: [P1・P2]場所打杭 (φ1000×6本)</p> <p>設 計 手 法: 動的照査</p> <p>交 差 条 件: 河川</p> <p>支 承 線 数: 4支承線 (L1とL2が同形式で桁高、支間長、支点条件が同じため同一径間とする。)</p> <p>既 往 資 料: 竣工時図面あり、竣工時計算書あり</p> 	全面改定

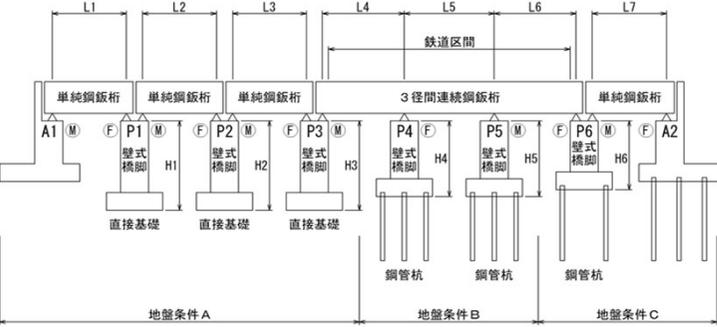
# 土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																																																																																																																												
調査計画編 〔2〕 道路調査 2. 橋の 耐震補強設計 2-7. 積算例 2-7-1. 積算例(1)	計道調-45(8)	新 規	<p>(2) 直接人件費</p> <p>【業務①】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>既往資料収集</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現地踏査</td> <td>業務</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>既往資料収集</td> <td>橋</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>図面複製(一般図作成)</td> <td>基</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>図面複製(上部構造図作成)</td> <td>基</td> <td>1.7</td> <td>L1、L2は同一形状のため基本構造物1基、L3は同形式で支間長が異なるため70%の類似構造物</td> </tr> <tr> <td>図面複製(橋脚構造図作成)</td> <td>基</td> <td>2</td> <td>橋脚形式が異なるため基数分を計上する。</td> </tr> <tr> <td>図面複製(橋脚配筋図作成)</td> <td>基</td> <td>2</td> <td>橋脚形式が異なるため基数分を計上する。</td> </tr> <tr> <td>上部構造反力算出</td> <td>連</td> <td>1.7</td> <td>同形式で上部構造1連当りの桁長が異なるため、70%の類似構造物として計上する。</td> </tr> <tr> <td>耐震性能照査</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>橋脚の耐震性能照査(ラーメン式橋脚)</td> <td>基</td> <td>1</td> <td>橋脚形式が異なるためそれぞれ計上する。</td> </tr> <tr> <td>橋脚の耐震性能照査(壁式橋脚(逆T式))</td> <td>基</td> <td>1</td> <td>橋脚形式が異なるためそれぞれ計上する。</td> </tr> <tr> <td>動的照査(耐震性能照査)</td> <td>橋</td> <td>1.5</td> <td>ラーメン橋脚を有するため50%割増しとする。</td> </tr> </tbody> </table> <p>【業務②】(※既設基礎の照査の結果、基礎補強が必要となる場合を想定している。)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>耐震補強検討</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>橋脚の補強工法検討</td> <td>基</td> <td>2</td> <td>基数分を計上する。</td> </tr> <tr> <td>動的照査(耐震補強検討)</td> <td>橋</td> <td>1.5</td> <td>ラーメン橋脚を有するため50%割増しとする。</td> </tr> <tr> <td>既設基礎の照査(場所打杭)</td> <td>基</td> <td>2</td> <td>橋脚形式が異なるため基数分を計上する。</td> </tr> <tr> <td>基礎の補強工法検討(場所打杭)</td> <td>基</td> <td>2</td> <td>橋脚形式が異なるため基数分を計上する。</td> </tr> <tr> <td>支承形式検討</td> <td>支承線</td> <td>3.1</td> <td>$n=4$ 支承線: $0.3+0.7 \times 4=3.1$</td> </tr> <tr> <td>関係機関との協議資料作成(耐震補強検討)</td> <td>業務</td> <td>1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【業務③】(※既設基礎の照査の結果、基礎補強が必要となる場合を想定している。)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>耐震補強設計</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>橋脚の耐震補強設計(ラーメン式橋脚)</td> <td>基</td> <td>1</td> <td>橋脚形式が異なるためそれぞれ計上する。</td> </tr> <tr> <td>橋脚の耐震補強設計(壁式橋脚(逆T式))</td> <td>基</td> <td>1</td> <td>橋脚形式が異なるためそれぞれ計上する。</td> </tr> <tr> <td>基礎の耐震補強設計</td> <td>基</td> <td>2</td> <td>橋脚形式が異なるため基数分を計上する。</td> </tr> <tr> <td>動的照査(耐震補強設計)</td> <td>橋</td> <td>1.5</td> <td>ラーメン橋脚を有するため50%割増しとする。</td> </tr> <tr> <td>支承取り替え設計</td> <td>支承線</td> <td>3.1</td> <td>$n=4$ 支承線: $0.3+0.7 \times 4=3.1$</td> </tr> <tr> <td>落橋防止システム設計</td> <td>基</td> <td>2</td> <td>架道い部: 1基、A2橋台部: 1基</td> </tr> <tr> <td>施工計画(耐震補強設計)</td> <td>橋</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>関係機関との協議資料作成(耐震補強設計)</td> <td>業務</td> <td>1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区 分	単 位	数 量	備 考	既往資料収集				現地踏査	業務	1		既往資料収集	橋	1		図面複製(一般図作成)	基	1		図面複製(上部構造図作成)	基	1.7	L1、L2は同一形状のため基本構造物1基、L3は同形式で支間長が異なるため70%の類似構造物	図面複製(橋脚構造図作成)	基	2	橋脚形式が異なるため基数分を計上する。	図面複製(橋脚配筋図作成)	基	2	橋脚形式が異なるため基数分を計上する。	上部構造反力算出	連	1.7	同形式で上部構造1連当りの桁長が異なるため、70%の類似構造物として計上する。	耐震性能照査				橋脚の耐震性能照査(ラーメン式橋脚)	基	1	橋脚形式が異なるためそれぞれ計上する。	橋脚の耐震性能照査(壁式橋脚(逆T式))	基	1	橋脚形式が異なるためそれぞれ計上する。	動的照査(耐震性能照査)	橋	1.5	ラーメン橋脚を有するため50%割増しとする。	区 分	単 位	数 量	備 考	耐震補強検討				橋脚の補強工法検討	基	2	基数分を計上する。	動的照査(耐震補強検討)	橋	1.5	ラーメン橋脚を有するため50%割増しとする。	既設基礎の照査(場所打杭)	基	2	橋脚形式が異なるため基数分を計上する。	基礎の補強工法検討(場所打杭)	基	2	橋脚形式が異なるため基数分を計上する。	支承形式検討	支承線	3.1	$n=4$ 支承線: $0.3+0.7 \times 4=3.1$	関係機関との協議資料作成(耐震補強検討)	業務	1		区 分	単 位	数 量	備 考	耐震補強設計				橋脚の耐震補強設計(ラーメン式橋脚)	基	1	橋脚形式が異なるためそれぞれ計上する。	橋脚の耐震補強設計(壁式橋脚(逆T式))	基	1	橋脚形式が異なるためそれぞれ計上する。	基礎の耐震補強設計	基	2	橋脚形式が異なるため基数分を計上する。	動的照査(耐震補強設計)	橋	1.5	ラーメン橋脚を有するため50%割増しとする。	支承取り替え設計	支承線	3.1	$n=4$ 支承線: $0.3+0.7 \times 4=3.1$	落橋防止システム設計	基	2	架道い部: 1基、A2橋台部: 1基	施工計画(耐震補強設計)	橋	1		関係機関との協議資料作成(耐震補強設計)	業務	1		全面改定
区 分	単 位	数 量	備 考																																																																																																																													
既往資料収集																																																																																																																																
現地踏査	業務	1																																																																																																																														
既往資料収集	橋	1																																																																																																																														
図面複製(一般図作成)	基	1																																																																																																																														
図面複製(上部構造図作成)	基	1.7	L1、L2は同一形状のため基本構造物1基、L3は同形式で支間長が異なるため70%の類似構造物																																																																																																																													
図面複製(橋脚構造図作成)	基	2	橋脚形式が異なるため基数分を計上する。																																																																																																																													
図面複製(橋脚配筋図作成)	基	2	橋脚形式が異なるため基数分を計上する。																																																																																																																													
上部構造反力算出	連	1.7	同形式で上部構造1連当りの桁長が異なるため、70%の類似構造物として計上する。																																																																																																																													
耐震性能照査																																																																																																																																
橋脚の耐震性能照査(ラーメン式橋脚)	基	1	橋脚形式が異なるためそれぞれ計上する。																																																																																																																													
橋脚の耐震性能照査(壁式橋脚(逆T式))	基	1	橋脚形式が異なるためそれぞれ計上する。																																																																																																																													
動的照査(耐震性能照査)	橋	1.5	ラーメン橋脚を有するため50%割増しとする。																																																																																																																													
区 分	単 位	数 量	備 考																																																																																																																													
耐震補強検討																																																																																																																																
橋脚の補強工法検討	基	2	基数分を計上する。																																																																																																																													
動的照査(耐震補強検討)	橋	1.5	ラーメン橋脚を有するため50%割増しとする。																																																																																																																													
既設基礎の照査(場所打杭)	基	2	橋脚形式が異なるため基数分を計上する。																																																																																																																													
基礎の補強工法検討(場所打杭)	基	2	橋脚形式が異なるため基数分を計上する。																																																																																																																													
支承形式検討	支承線	3.1	$n=4$ 支承線: $0.3+0.7 \times 4=3.1$																																																																																																																													
関係機関との協議資料作成(耐震補強検討)	業務	1																																																																																																																														
区 分	単 位	数 量	備 考																																																																																																																													
耐震補強設計																																																																																																																																
橋脚の耐震補強設計(ラーメン式橋脚)	基	1	橋脚形式が異なるためそれぞれ計上する。																																																																																																																													
橋脚の耐震補強設計(壁式橋脚(逆T式))	基	1	橋脚形式が異なるためそれぞれ計上する。																																																																																																																													
基礎の耐震補強設計	基	2	橋脚形式が異なるため基数分を計上する。																																																																																																																													
動的照査(耐震補強設計)	橋	1.5	ラーメン橋脚を有するため50%割増しとする。																																																																																																																													
支承取り替え設計	支承線	3.1	$n=4$ 支承線: $0.3+0.7 \times 4=3.1$																																																																																																																													
落橋防止システム設計	基	2	架道い部: 1基、A2橋台部: 1基																																																																																																																													
施工計画(耐震補強設計)	橋	1																																																																																																																														
関係機関との協議資料作成(耐震補強設計)	業務	1																																																																																																																														

# 土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考
調査計画編  [2] 道路調査  2. 橋の 耐震補強設計  2-7. 積算例  2-7-2. 積算例(2)	計道調-45(9)	<p style="text-align: center; color: red; font-size: 2em;">新 規</p>	<p>2-7-2 積算例(2)</p> <p>(1) 積算条件</p> <p>耐震性能2(A) (2-1 橋の耐震補強設計、(1)設計フローを参照)</p> <p>上部構造形式: 単純鋼板桁×3連+3径間連続鋼板桁+単純鋼板桁 ($L1=L2=L3 \neq L4=L5=L6 \neq L7$) [上部構造連数: 5連]</p> <p>橋脚構造形式: [P1~P6]壁式橋脚(斜角90度) ($H1=H2=H3 \neq H4=H5=H6$)</p> <p>基礎構造形式: [P1~P3]直接基礎、[P4~P6]鋼管杭($\phi 600 \times 6$本)</p> <p>設計手法: 動的照査</p> <p>交差条件: 鉄道(L4~L6区間)</p> <p>施工制限: P1・P2は補強規模の制限を受けない、P3~P6は補強規模の制限を受ける</p> <p>支 承 線 数: 8支承線(L1~L3が同形式で桁高、支間長、支点条件が同じため同一径間とする。)</p> <p>既 往 資 料: 竣工時図面あり、竣工時計算書あり</p> 	全面改定

# 土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																																																
調査計画編 〔2〕 道路調査 2. 橋の 耐震補強設計 2-7. 積算例 2-7-2. 積算例(2)	計道調-45(10)	新 規	<p>(2) 直接人件費</p> <p>【業務①】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>既往資料収集</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現地踏査</td> <td>業務</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>既往資料収集</td> <td>橋</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>図面複製 (一般図作成)</td> <td>基</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>図面複製 (上部構造図作成)</td> <td>基</td> <td>2.7</td> <td>L1、L2、L3は同一形状のため基本構造物1基 L4、L5、L6は同一形状のため基本構造物1基 L7は同形式で支間長が異なるため70%の類似構造物</td> </tr> <tr> <td>図面複製 (橋脚構造図作成)</td> <td>基</td> <td>3</td> <td>P1、P2、P3は同一形状のため1基 P4、P5は同一形状のため1基、P6は単独で1基</td> </tr> <tr> <td>図面複製 (橋脚配筋図作成)</td> <td>基</td> <td>3</td> <td>橋脚構造図の作成基数分を計上する。</td> </tr> <tr> <td>上部構造反力算出</td> <td>連</td> <td>2.4</td> <td>L1、L2、L3は同形式で桁長・桁高が同じのため1連分とする。 L4~L6とL7はそれぞれ桁長が異なるため、70%の類似構造物として計上する。</td> </tr> <tr> <td>耐震性能照査</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>橋脚の耐震性能照査 (壁式橋脚 (逆T式))</td> <td>基</td> <td>4.4</td> <td>地盤条件が異なる場合は類似構造物としない 【地盤条件A】1.7基 P1とP2は形状及び条件が同じのため基本構造物1基 P3は上部構造反力が異なるため70%の類似構造物 【地盤条件B】1.7基 P4は基本構造物1基 P5は支点条件が異なり上部構造反力が異なるため70%類似構造物 【地盤条件C】1.0基 P6は本構造物1基</td> </tr> <tr> <td>動的照査 (耐震性能照査)</td> <td>橋</td> <td>1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区 分	単 位	数 量	備 考	既往資料収集				現地踏査	業務	1		既往資料収集	橋	1		図面複製 (一般図作成)	基	1		図面複製 (上部構造図作成)	基	2.7	L1、L2、L3は同一形状のため基本構造物1基 L4、L5、L6は同一形状のため基本構造物1基 L7は同形式で支間長が異なるため70%の類似構造物	図面複製 (橋脚構造図作成)	基	3	P1、P2、P3は同一形状のため1基 P4、P5は同一形状のため1基、P6は単独で1基	図面複製 (橋脚配筋図作成)	基	3	橋脚構造図の作成基数分を計上する。	上部構造反力算出	連	2.4	L1、L2、L3は同形式で桁長・桁高が同じのため1連分とする。 L4~L6とL7はそれぞれ桁長が異なるため、70%の類似構造物として計上する。	耐震性能照査				橋脚の耐震性能照査 (壁式橋脚 (逆T式))	基	4.4	地盤条件が異なる場合は類似構造物としない 【地盤条件A】1.7基 P1とP2は形状及び条件が同じのため基本構造物1基 P3は上部構造反力が異なるため70%の類似構造物 【地盤条件B】1.7基 P4は基本構造物1基 P5は支点条件が異なり上部構造反力が異なるため70%類似構造物 【地盤条件C】1.0基 P6は本構造物1基	動的照査 (耐震性能照査)	橋	1		全面改定
区 分	単 位	数 量	備 考																																																	
既往資料収集																																																				
現地踏査	業務	1																																																		
既往資料収集	橋	1																																																		
図面複製 (一般図作成)	基	1																																																		
図面複製 (上部構造図作成)	基	2.7	L1、L2、L3は同一形状のため基本構造物1基 L4、L5、L6は同一形状のため基本構造物1基 L7は同形式で支間長が異なるため70%の類似構造物																																																	
図面複製 (橋脚構造図作成)	基	3	P1、P2、P3は同一形状のため1基 P4、P5は同一形状のため1基、P6は単独で1基																																																	
図面複製 (橋脚配筋図作成)	基	3	橋脚構造図の作成基数分を計上する。																																																	
上部構造反力算出	連	2.4	L1、L2、L3は同形式で桁長・桁高が同じのため1連分とする。 L4~L6とL7はそれぞれ桁長が異なるため、70%の類似構造物として計上する。																																																	
耐震性能照査																																																				
橋脚の耐震性能照査 (壁式橋脚 (逆T式))	基	4.4	地盤条件が異なる場合は類似構造物としない 【地盤条件A】1.7基 P1とP2は形状及び条件が同じのため基本構造物1基 P3は上部構造反力が異なるため70%の類似構造物 【地盤条件B】1.7基 P4は基本構造物1基 P5は支点条件が異なり上部構造反力が異なるため70%類似構造物 【地盤条件C】1.0基 P6は本構造物1基																																																	
動的照査 (耐震性能照査)	橋	1																																																		

# 土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

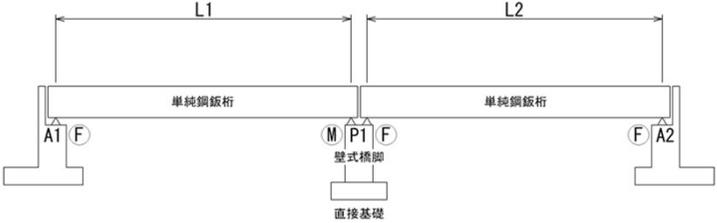
適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																																																												
調査計画編 〔2〕 道路調査 2. 橋の 耐震補強設計 2-7. 積算例 2-7-2. 積算例(2)	計道調-45(11)		<p>【業務②】(※既設基礎の照査の結果、基礎補強が不要となる場合を想定している。)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>耐震補強検討</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>橋脚の補強工法検討</td> <td>基</td> <td>4</td> <td>P1、P2は補強規模の制限を受けず、補強工法が限定されるため計上しない。(P3~P6のみ計上する)</td> </tr> <tr> <td>動的照査(耐震補強検討)</td> <td>橋</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>既設基礎の照査(既成杭)</td> <td>基</td> <td>2.7</td> <td>P4は基本構造物1基 P5は支点条件が異なるため70%の類似構造物 P6は地盤条件が異なるため基本構造物1基</td> </tr> <tr> <td>支承形式検討</td> <td>支承線</td> <td>5.9</td> <td>n = 8 支承線 : 0.3 + 0.7 × 8 = 5.9</td> </tr> <tr> <td>関係機関との協議資料作成(耐震補強検討)</td> <td>業務</td> <td>1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【業務③】(※既設基礎の照査の結果、基礎補強が不要となる場合を想定している。)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>耐震補強設計</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>橋脚の耐震補強設計(壁式橋脚(逆T式))</td> <td>基</td> <td>4.4</td> <td>地盤条件が異なる場合は類似構造物としない 【地盤条件A】1.7基 P1とP2は形状及び条件が同じのため基本構造物1基 P3は上部構造反力が異なるため70%の類似構造物 【地盤条件B】1.7基 P4は基本構造物1基 P5は支点条件が異なり上部構造反力が異なるため70%類似構造物 【地盤条件C】1.0基 P6は基本構造物1基</td> </tr> <tr> <td>動的照査(耐震補強設計)</td> <td>橋</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>支承取り替え設計</td> <td>支承線</td> <td>5.9</td> <td>n = 8 支承線 : 0.3 + 0.7 × 8 = 5.9</td> </tr> <tr> <td>落橋防止システム設計</td> <td>基</td> <td>3.5</td> <td>タイプ数分を計上する。支間長が異なる場合は50%の類似構造物として計上する。 【桁連結部】1 + 0.5 + 0.5 = 2.0基 P1とP2は同一のため基本構造物1基、P3、P6は上部構造反力が異なるためそれぞれ50%の類似構造物とする 【橋台部】1 + 0.5 = 1.5基 A1を基本としA2は上部構造反力が異なるため50%の類似構造物とする。</td> </tr> <tr> <td>施工計画(耐震補強設計)</td> <td>橋</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>関係機関との協議資料作成(耐震補強設計)</td> <td>業務</td> <td>1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区 分	単 位	数 量	備 考	耐震補強検討				橋脚の補強工法検討	基	4	P1、P2は補強規模の制限を受けず、補強工法が限定されるため計上しない。(P3~P6のみ計上する)	動的照査(耐震補強検討)	橋	1		既設基礎の照査(既成杭)	基	2.7	P4は基本構造物1基 P5は支点条件が異なるため70%の類似構造物 P6は地盤条件が異なるため基本構造物1基	支承形式検討	支承線	5.9	n = 8 支承線 : 0.3 + 0.7 × 8 = 5.9	関係機関との協議資料作成(耐震補強検討)	業務	1		区 分	単 位	数 量	備 考	耐震補強設計				橋脚の耐震補強設計(壁式橋脚(逆T式))	基	4.4	地盤条件が異なる場合は類似構造物としない 【地盤条件A】1.7基 P1とP2は形状及び条件が同じのため基本構造物1基 P3は上部構造反力が異なるため70%の類似構造物 【地盤条件B】1.7基 P4は基本構造物1基 P5は支点条件が異なり上部構造反力が異なるため70%類似構造物 【地盤条件C】1.0基 P6は基本構造物1基	動的照査(耐震補強設計)	橋	1		支承取り替え設計	支承線	5.9	n = 8 支承線 : 0.3 + 0.7 × 8 = 5.9	落橋防止システム設計	基	3.5	タイプ数分を計上する。支間長が異なる場合は50%の類似構造物として計上する。 【桁連結部】1 + 0.5 + 0.5 = 2.0基 P1とP2は同一のため基本構造物1基、P3、P6は上部構造反力が異なるためそれぞれ50%の類似構造物とする 【橋台部】1 + 0.5 = 1.5基 A1を基本としA2は上部構造反力が異なるため50%の類似構造物とする。	施工計画(耐震補強設計)	橋	1		関係機関との協議資料作成(耐震補強設計)	業務	1		全面改定
区 分	単 位	数 量	備 考																																																													
耐震補強検討																																																																
橋脚の補強工法検討	基	4	P1、P2は補強規模の制限を受けず、補強工法が限定されるため計上しない。(P3~P6のみ計上する)																																																													
動的照査(耐震補強検討)	橋	1																																																														
既設基礎の照査(既成杭)	基	2.7	P4は基本構造物1基 P5は支点条件が異なるため70%の類似構造物 P6は地盤条件が異なるため基本構造物1基																																																													
支承形式検討	支承線	5.9	n = 8 支承線 : 0.3 + 0.7 × 8 = 5.9																																																													
関係機関との協議資料作成(耐震補強検討)	業務	1																																																														
区 分	単 位	数 量	備 考																																																													
耐震補強設計																																																																
橋脚の耐震補強設計(壁式橋脚(逆T式))	基	4.4	地盤条件が異なる場合は類似構造物としない 【地盤条件A】1.7基 P1とP2は形状及び条件が同じのため基本構造物1基 P3は上部構造反力が異なるため70%の類似構造物 【地盤条件B】1.7基 P4は基本構造物1基 P5は支点条件が異なり上部構造反力が異なるため70%類似構造物 【地盤条件C】1.0基 P6は基本構造物1基																																																													
動的照査(耐震補強設計)	橋	1																																																														
支承取り替え設計	支承線	5.9	n = 8 支承線 : 0.3 + 0.7 × 8 = 5.9																																																													
落橋防止システム設計	基	3.5	タイプ数分を計上する。支間長が異なる場合は50%の類似構造物として計上する。 【桁連結部】1 + 0.5 + 0.5 = 2.0基 P1とP2は同一のため基本構造物1基、P3、P6は上部構造反力が異なるためそれぞれ50%の類似構造物とする 【橋台部】1 + 0.5 = 1.5基 A1を基本としA2は上部構造反力が異なるため50%の類似構造物とする。																																																													
施工計画(耐震補強設計)	橋	1																																																														
関係機関との協議資料作成(耐震補強設計)	業務	1																																																														

新 規

# 土木事業委託積算基準 の **改定・追加・訂正**

適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考
調査計画編 [2] 道路調査 2. 橋の 耐震補強設計 2-7. 積算例 2-7-3. 積算例(3)	計道調-45(12)	<p style="text-align: center; color: red; font-size: 2em;">新 規</p>	<p>2-7-3 積算例(3)</p> <p>(1) 積算条件</p> <p>耐震性能2(B) (2-1 橋の耐震補強設計、(1)設計フローを参照)</p> <p>上部構造形式: 2径間単純鋼板桁 (L1=L2) [上部構造連数: 2連]</p> <p>橋脚構造形式: [P1]壁式橋脚 (斜角90度)</p> <p>基礎構造形式: 直接基礎</p> <p>設 計 手 法: 静的照査</p> <p>交 差 条 件: 河川</p> <p>支 承 線 数: 2支承線 (L1とL2が同形式で桁高、支間長、支点条件が同じため同一径間とする。)</p> <p>既 往 資 料: 竣工時図面なし、竣工時計算書なし</p> 	全面改定

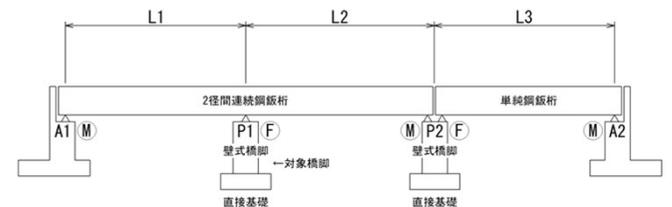
# 土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																																																																																																				
調査計画編 〔2〕 道路調査 2. 橋の 耐震補強設計 2-7. 積算例 2-7-3. 積算例(3)	計道調-45(13)	新 規	<p>(2) 直接人件費</p> <p>【業務①】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>既往資料収集</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>現地踏査</td><td>業務</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>既往資料収集</td><td>橋</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>上部構造形状調査</td><td>支間</td><td>1</td><td>L1、L2は同一形状のため1支間分を計上する。</td></tr> <tr><td>橋脚・橋台形状調査</td><td>基</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>非破壊調査及びはつり調査</td><td>基</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>はつり調査費</td><td>箇所</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>図面複製(一般図作成)</td><td>基</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>図面複製(上部構造図作成)</td><td>基</td><td>1</td><td>L1、L2は同一形状のため基本構造物1基分を計上する。</td></tr> <tr><td>図面複製(橋脚構造図作成)</td><td>基</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>図面複製(橋脚配筋図作成)</td><td>基</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>上部構造反力算出</td><td>連</td><td>1</td><td>L1、L2は同一形状のため1連分を計上する。</td></tr> <tr><td>橋脚復元設計</td><td>基</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>耐震性能照査</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>橋脚の耐震性能照査(壁式橋脚)</td><td>基</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>耐震補強検討</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>橋脚の補強工法選定</td><td>基</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>関係機関との協議資料作成(耐震補強検討)</td><td>業務</td><td>1</td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>【業務②】</p> <table border="1"> <tbody> <tr><td>耐震補強設計</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>橋脚の耐震補強設計(壁式橋脚)</td><td>基</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>支承取り替え設計</td><td>支承線</td><td>1.7</td><td>$n = 2 \text{ 支承線} : 0.3 + 0.7 \times 2 = 1.7$</td></tr> <tr><td>落橋防止システム設計</td><td>基</td><td>2</td><td>A1とA2橋台部は支間長が同じため1基分とする。 架違い部は、橋台部と工法が異なるため1基分とする。</td></tr> <tr><td>施工計画(耐震補強設計)</td><td>橋</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>関係機関との協議資料作成(耐震補強設計)</td><td>業務</td><td>1</td><td></td></tr> </tbody> </table>	区 分	単 位	数 量	備 考	既往資料収集				現地踏査	業務	1		既往資料収集	橋	1		上部構造形状調査	支間	1	L1、L2は同一形状のため1支間分を計上する。	橋脚・橋台形状調査	基	1		非破壊調査及びはつり調査	基	1		はつり調査費	箇所	1		図面複製(一般図作成)	基	1		図面複製(上部構造図作成)	基	1	L1、L2は同一形状のため基本構造物1基分を計上する。	図面複製(橋脚構造図作成)	基	1		図面複製(橋脚配筋図作成)	基	1		上部構造反力算出	連	1	L1、L2は同一形状のため1連分を計上する。	橋脚復元設計	基	1		耐震性能照査				橋脚の耐震性能照査(壁式橋脚)	基	1		耐震補強検討				橋脚の補強工法選定	基	1		関係機関との協議資料作成(耐震補強検討)	業務	1		耐震補強設計				橋脚の耐震補強設計(壁式橋脚)	基	1		支承取り替え設計	支承線	1.7	$n = 2 \text{ 支承線} : 0.3 + 0.7 \times 2 = 1.7$	落橋防止システム設計	基	2	A1とA2橋台部は支間長が同じため1基分とする。 架違い部は、橋台部と工法が異なるため1基分とする。	施工計画(耐震補強設計)	橋	1		関係機関との協議資料作成(耐震補強設計)	業務	1		全面改定
区 分	単 位	数 量	備 考																																																																																																					
既往資料収集																																																																																																								
現地踏査	業務	1																																																																																																						
既往資料収集	橋	1																																																																																																						
上部構造形状調査	支間	1	L1、L2は同一形状のため1支間分を計上する。																																																																																																					
橋脚・橋台形状調査	基	1																																																																																																						
非破壊調査及びはつり調査	基	1																																																																																																						
はつり調査費	箇所	1																																																																																																						
図面複製(一般図作成)	基	1																																																																																																						
図面複製(上部構造図作成)	基	1	L1、L2は同一形状のため基本構造物1基分を計上する。																																																																																																					
図面複製(橋脚構造図作成)	基	1																																																																																																						
図面複製(橋脚配筋図作成)	基	1																																																																																																						
上部構造反力算出	連	1	L1、L2は同一形状のため1連分を計上する。																																																																																																					
橋脚復元設計	基	1																																																																																																						
耐震性能照査																																																																																																								
橋脚の耐震性能照査(壁式橋脚)	基	1																																																																																																						
耐震補強検討																																																																																																								
橋脚の補強工法選定	基	1																																																																																																						
関係機関との協議資料作成(耐震補強検討)	業務	1																																																																																																						
耐震補強設計																																																																																																								
橋脚の耐震補強設計(壁式橋脚)	基	1																																																																																																						
支承取り替え設計	支承線	1.7	$n = 2 \text{ 支承線} : 0.3 + 0.7 \times 2 = 1.7$																																																																																																					
落橋防止システム設計	基	2	A1とA2橋台部は支間長が同じため1基分とする。 架違い部は、橋台部と工法が異なるため1基分とする。																																																																																																					
施工計画(耐震補強設計)	橋	1																																																																																																						
関係機関との協議資料作成(耐震補強設計)	業務	1																																																																																																						

# 土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																																																																				
調査計画編 〔2〕 道路調査 2. 橋の 耐震補強設計 2-7. 積算例 2-7-4. 積算例(4)	計道調-45(14)		<p>2-7-4 積算例(4)</p> <p>(1) 積算条件 ※設計対象は道路事業設計要領18-1-8耐震補強フロー(図18-1-10、図18-1-11)を参照 耐震性能3(2-1 橋の耐震補強設計、(1)設計フローを参照) 上部構造形式:2径間連続鋼板桁+単純鋼板桁(L1=L2≠L3)[上部構造連数:2連] 橋脚構造形式:[P1・P2]壁式橋脚 基礎構造形式:[P1・P2]直接基礎 交 差 条 件:河川 既 往 資 料:竣工時図面あり、竣工時計算書あり</p>  <p>(2) 直接人件費</p> <p>【業務①】(※段落とし部の損傷判定の結果、橋脚の補強が必要となる場合を想定している。)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>既往資料収集</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現地踏査</td> <td>業務</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>既往資料収集</td> <td>橋</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>図面複製(一般図作成)</td> <td>基</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>図面複製(上部構造図作成)</td> <td>基</td> <td>1.7</td> <td>L1、L2は同一形状のため基本構造物1基 L3は同形式で支間長が異なるため70%の類似構造物</td> </tr> <tr> <td>図面複製(橋脚構造図作成)</td> <td>基</td> <td>1</td> <td>対象橋脚:P1</td> </tr> <tr> <td>図面複製(橋脚配筋図作成)</td> <td>基</td> <td>1</td> <td>対象橋脚:P1</td> </tr> <tr> <td>上部構造反力算出</td> <td>連</td> <td>1.7</td> <td>同形式で上部構造1連当りの桁長が異なるため、70%の類似構造物として計上する。</td> </tr> <tr> <td>耐震補強設計</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>段落とし部の損傷判定(耐震性能3)</td> <td>基</td> <td>1</td> <td>対象橋脚:P1</td> </tr> <tr> <td>地震時保有水平耐力法の照査(耐震性能3)</td> <td>基</td> <td>1</td> <td>対象橋脚:P1</td> </tr> <tr> <td>橋脚の補強工法検討</td> <td>基</td> <td>1</td> <td>対象橋脚:P1</td> </tr> <tr> <td>橋脚の耐震補強設計(耐震性能3)</td> <td>基</td> <td>1</td> <td>対象橋脚:P1</td> </tr> <tr> <td>落橋防止システム設計</td> <td>基</td> <td>2</td> <td>架違い部:1基、A2橋台部:1基</td> </tr> <tr> <td>施工計画(耐震補強設計)</td> <td>橋</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>関係機関との協議資料作成(耐震補強設計)</td> <td>業務</td> <td>1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区 分	単位	数量	備考	既往資料収集				現地踏査	業務	1		既往資料収集	橋	1		図面複製(一般図作成)	基	1		図面複製(上部構造図作成)	基	1.7	L1、L2は同一形状のため基本構造物1基 L3は同形式で支間長が異なるため70%の類似構造物	図面複製(橋脚構造図作成)	基	1	対象橋脚:P1	図面複製(橋脚配筋図作成)	基	1	対象橋脚:P1	上部構造反力算出	連	1.7	同形式で上部構造1連当りの桁長が異なるため、70%の類似構造物として計上する。	耐震補強設計				段落とし部の損傷判定(耐震性能3)	基	1	対象橋脚:P1	地震時保有水平耐力法の照査(耐震性能3)	基	1	対象橋脚:P1	橋脚の補強工法検討	基	1	対象橋脚:P1	橋脚の耐震補強設計(耐震性能3)	基	1	対象橋脚:P1	落橋防止システム設計	基	2	架違い部:1基、A2橋台部:1基	施工計画(耐震補強設計)	橋	1		関係機関との協議資料作成(耐震補強設計)	業務	1		全面改定
区 分	単位	数量	備考																																																																					
既往資料収集																																																																								
現地踏査	業務	1																																																																						
既往資料収集	橋	1																																																																						
図面複製(一般図作成)	基	1																																																																						
図面複製(上部構造図作成)	基	1.7	L1、L2は同一形状のため基本構造物1基 L3は同形式で支間長が異なるため70%の類似構造物																																																																					
図面複製(橋脚構造図作成)	基	1	対象橋脚:P1																																																																					
図面複製(橋脚配筋図作成)	基	1	対象橋脚:P1																																																																					
上部構造反力算出	連	1.7	同形式で上部構造1連当りの桁長が異なるため、70%の類似構造物として計上する。																																																																					
耐震補強設計																																																																								
段落とし部の損傷判定(耐震性能3)	基	1	対象橋脚:P1																																																																					
地震時保有水平耐力法の照査(耐震性能3)	基	1	対象橋脚:P1																																																																					
橋脚の補強工法検討	基	1	対象橋脚:P1																																																																					
橋脚の耐震補強設計(耐震性能3)	基	1	対象橋脚:P1																																																																					
落橋防止システム設計	基	2	架違い部:1基、A2橋台部:1基																																																																					
施工計画(耐震補強設計)	橋	1																																																																						
関係機関との協議資料作成(耐震補強設計)	業務	1																																																																						
		新 規																																																																						

# 土木事業委託積算基準 の **改定・追加・訂正**

適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考
調査計画編  [2] 道路調査  5. 橋梁定期点検  5-2. 橋梁定期点検 (近接目視点検)  5-2-1. 適用範囲	計道調-56	<p>5-2-1 適用範囲</p> <p>本歩掛は、「橋梁点検・維持管理要領(平成27年5月改訂)北海道建設部土木局道路課」を基に実施する、北海道が所管する道路橋(横断歩道橋を含む)定期点検に適用する。</p>	<p>5-2-1 適用範囲</p> <p>本歩掛は、「橋梁点検・維持管理要領(令和6年8月改訂)北海道建設部土木局道路課」を基に実施する、北海道が所管する道路橋(横断歩道橋を含む)定期点検に適用する。</p>	版の改定

# 土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

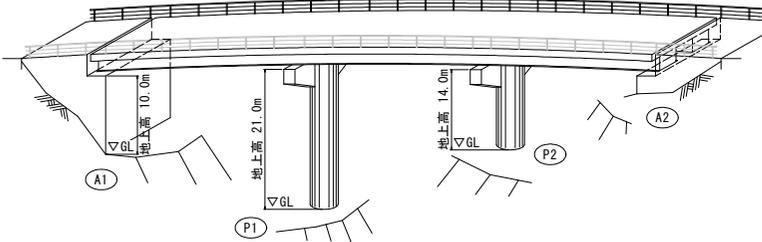
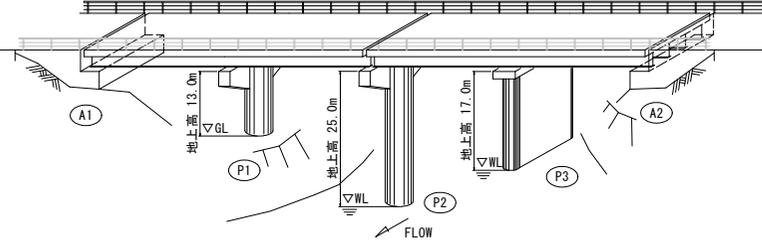
適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																															
調査計画編 〔2〕 道路調査 8. 橋梁 補修設計 8-4. ロープ アクセス 調査	計道調-74		<p><b>8-4 ロープアクセス調査</b></p> <p>8-4-1 適用範囲 梯子等による近接目視が困難となるコンクリート橋脚等（地上高4m程度以上30m程度以下）の外観変状調査、及び橋梁等定期点検に適用する。</p> <p>8-4-2 作業項目 ロープアクセス技術による外観変状調査（打音検査を含む）</p> <p>8-4-3 標準歩掛</p> <p>8-4-3-1 ロープアクセス調査</p> <table border="1" data-bbox="1682 555 1951 592"> <tr> <td>設計単価コード</td> <td>DXD34003</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="1218 611 1879 735"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">単 位</th> <th colspan="5">直 接 人 件 費</th> </tr> <tr> <th>主任技師</th> <th>技師(A)</th> <th>技師(B)</th> <th>技師(C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地上高15m未満</td> <td>1</td> <td>基</td> <td>1.6</td> <td>1.6</td> <td></td> <td></td> <td>1.6</td> </tr> <tr> <td>地上高15m以上</td> <td>1</td> <td>基</td> <td>2.8</td> <td>2.8</td> <td></td> <td></td> <td>2.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. ロープアクセス調査は、定期点検「現橋調査」、又は橋梁補修設計「損傷箇所確認調査」に付加して計上する。 2. 類似構造物についての標準歩掛の補正は次式による。 なお、類似構造物は橋梁単位で同一の区分毎に集計した基数とする。 歩掛 = (標準歩掛) × (0.3 + 0.7 × n)      n:基数 3. 標準歩掛は陸上の構造物に適応し、河川や湖沼等に適用する場合は標準歩掛に30%割増する。 4. 調査に必要なロープアクセス調査機材損料（ロープ、スリング、カラビナ他の器具等）は別途計上する。 5. 地上高4m程度未満の場合は梯子や脚立による調査を標準とし、地上高が30mを超える場合や標準的な構造形式以外（ラーメン式等を含む）に適用する場合は別途に見積もりを徴取する。</p>	設計単価コード	DXD34003	区 分	数量	単 位	直 接 人 件 費					主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	地上高15m未満	1	基	1.6	1.6			1.6	地上高15m以上	1	基	2.8	2.8			2.8	新規
設計単価コード	DXD34003																																		
区 分	数量	単 位	直 接 人 件 費																																
			主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員																												
地上高15m未満	1	基	1.6	1.6			1.6																												
地上高15m以上	1	基	2.8	2.8			2.8																												

新 規

# 土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																																					
調査計画編  [2] 道路調査  8. 橋梁 補修設計  8-4. ロープ アクセス 調査	計道調-75	新 規	<p>(例) 複数橋梁に適用する場合の積算例</p> <table border="1" data-bbox="1254 331 1912 625"> <thead> <tr> <th rowspan="2">対象</th> <th colspan="2">地上高による区分</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>1.5m未満(基)</th> <th>1.5m以上(基)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">A橋</td> <td>橋台A1</td> <td>1.0</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>橋脚P1</td> <td>-</td> <td>1.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>橋脚P2</td> <td>0.7</td> <td>-</td> <td>類似構造物による補正</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">B橋</td> <td>橋脚P1</td> <td>1.0</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>橋脚P2</td> <td>-</td> <td>1.3</td> <td>河川割増による補正</td> </tr> <tr> <td>橋脚P3</td> <td>-</td> <td>0.9</td> <td>類似構造物×河川割増による補正</td> </tr> <tr> <td>合計(基)</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>小数第1位切り上げ</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>A橋</p>  <p>B橋</p> 	対象	地上高による区分		備考	1.5m未満(基)	1.5m以上(基)	A橋	橋台A1	1.0	-		橋脚P1	-	1.0		橋脚P2	0.7	-	類似構造物による補正	B橋	橋脚P1	1.0	-		橋脚P2	-	1.3	河川割増による補正	橋脚P3	-	0.9	類似構造物×河川割増による補正	合計(基)	3	4	小数第1位切り上げ		新規
対象	地上高による区分		備考																																						
	1.5m未満(基)	1.5m以上(基)																																							
A橋	橋台A1	1.0	-																																						
	橋脚P1	-	1.0																																						
	橋脚P2	0.7	-	類似構造物による補正																																					
B橋	橋脚P1	1.0	-																																						
	橋脚P2	-	1.3	河川割増による補正																																					
	橋脚P3	-	0.9	類似構造物×河川割増による補正																																					
合計(基)	3	4	小数第1位切り上げ																																						

# 土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日  
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																							
調査計画編  [2] 道路調査  8. 橋梁 補修設計  8-5. 鉄筋腐食度 はつり調査	計道調-76	新 規	<p><b>8-5 鉄筋腐食度はつり調査</b></p> <p>8-5-1 適用範囲 補修対象部位・部材に関する既往資料がなく、鉄筋径、間隔、かぶり、腐食度を調査する場合に適用する。</p> <p>8-5-2 作業項目 はつり及び復旧作業を同日に実施し、作業量は1日当たり5箇所を標準とする。</p> <p>8-5-3 標準歩掛</p> <p>8-5-3-1 鉄筋腐食度はつり調査</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>設計単価コード</td> <td>DXD34005</td> </tr> </table> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="5">直 接 人 件 費</th> </tr> <tr> <th>主任技師</th> <th>技師(A)</th> <th>技師(B)</th> <th>技師(C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>はつり・復旧作業</td> <td>1</td> <td>箇所</td> <td></td> <td></td> <td>0.2</td> <td>0.2</td> <td>0.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. はつり調査は0.2m×0.2m×深さ0.2mを基本としている。 2. コンクリートカッター損料、ピックハンマー損料、空気圧縮機賃料、発動発電機賃料、ハンドミキサー損料及び無収縮モルタル材料費等は、直接経費として上記歩掛の3%を計上する。 3. 冬期労務補正は適用しない。</p>	設計単価コード	DXD34005	区 分	数量	単位	直 接 人 件 費					主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	はつり・復旧作業	1	箇所			0.2	0.2	0.2	新規
設計単価コード	DXD34005																										
区 分	数量	単位	直 接 人 件 費																								
			主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員																				
はつり・復旧作業	1	箇所			0.2	0.2	0.2																				
調査計画編  [2] 道路調査  8. 橋梁 補修設計  8-18. 排水装置 補修設計	計道調-79(3)	新 規	<p><b>8-18 排水装置補修設計</b></p> <p>8-18-1 適用範囲 応力計算を必要としない、排水装置(排水樹、排水管を含む)の補修(取り替え)に適用する。</p> <p>8-18-2 作業項目 設計計画、設計図作成、数量作成、照査、報告書作成</p> <p>8-18-3 標準歩掛</p> <p>8-18-3-1 排水装置補修設計</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>設計単価コード</td> <td>DXD34126</td> </tr> </table> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="5">直 接 人 件 費</th> </tr> <tr> <th>主任技師</th> <th>技師(A)</th> <th>技師(B)</th> <th>技師(C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>排水装置補修設計</td> <td>1</td> <td>橋</td> <td>0.1</td> <td>0.5</td> <td>0.5</td> <td>0.5</td> <td>1.0</td> </tr> </tbody> </table>	設計単価コード	DXD34126	区 分	数量	単位	直 接 人 件 費					主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	排水装置補修設計	1	橋	0.1	0.5	0.5	0.5	1.0	新規
設計単価コード	DXD34126																										
区 分	数量	単位	直 接 人 件 費																								
			主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員																				
排水装置補修設計	1	橋	0.1	0.5	0.5	0.5	1.0																				

地質調査標準歩掛等 運用資料 .....	調地標準	- 7
1. 共通 .....	調地標準	- 9
1-2 共通の留意事項 .....	調地標準	- 9
2. 機械ボーリング(土質ボーリング・岩盤ボーリング) .....	調地標準	- 9
2-7 解析等調査業務 .....	調地標準	- 9
2-8 その他 .....	調地標準	- 9
2-9 ボーリング孔保護工 .....	調地標準	- 9
2-10 オーガーボーリング .....	調地標準	- 10
2-11 ピートサンプリング .....	調地標準	- 10
5. 地すべり調査 .....	調地標準	- 11
5-7 その他 .....	調地標準	- 11
5-8 地下水検層 .....	調地標準	- 11
6. 地質概査 .....	調地標準	- 12
6-1 適用範囲及び条件 .....	調地標準	- 12
6-2 標準歩掛 .....	調地標準	- 12
6-3 その他 .....	調地標準	- 13
7. 物理検層 .....	調地標準	- 14
7-1 適用 .....	調地標準	- 14
7-2 測定 .....	調地標準	- 14
7-3 データ整理・計算 .....	調地標準	- 15
7-4 解析 .....	調地標準	- 16
7-5 深度補正 .....	調地標準	- 16
7-6 その他 .....	調地標準	- 16

## 7. 物理検層

### 7-1 適用

「運用資料」を適用する。

### 7-2 測定

「運用資料」を適用する。

### 7-3 データ整理・計算

「運用資料」を適用する。

### 7-4 解析

「運用資料」を適用する。

### 7-5 深度補正

「運用資料」を適用する。

### 7-6 その他

「運用資料」を適用する。

7. 物理検層

7-1 適用

ボーリング孔を利用して孔壁周辺の地層の物理的性質を調べる各原位置試験に適用する。なお、ボーリングと同一業務で行わない場合は、計画準備費・報告書作成費を別途計上すること。

7-2 測定

7-2-1 測定（物理検層）

施工単価コード	DXB48010~DXB48080
---------	-------------------

（1式（100m）当り）

区分	名称	単位	速度(P)検層 ウェルシューティング		音波(P) 1m間隔(連続)	P S 検 層			摘 要
			1m間隔	2m間隔		ダウンホール		孔内起振受振 1m間隔	
					1m間隔	2m間隔	1m間隔		
直接 人件費	地質調査技師	人	3.0	2.0	3.0	6.0	3.0	4.0	2人作業
	主任地質調査員	〃	1.5	1.0	1.5	3.0	1.5	2.0	1人作業
	地質調査員	〃	4.5	3.0	4.5	9.0	4.5	6.0	3人作業
材料費	ダイナマイト	本	(40)	(20)	—	(40)	(20)	—	3号桐(100g)
	電気雷管	個	(30)	(15)	—	(30)	(15)	—	6号瞬発
	損 耗 費	式	1	1	1	1	1	1	別表による
	消耗品費	式	1	1	1	1	1	1	上記材料費計*10%
動力費	軽油・油脂	式	1	1	1	1	1	1	材料費*1%
機械等 損料	検層器損料	日	1.5	1.0	1.5	3.0	1.5	2.0	ダウンホール1m間隔の 直接人件費*1.8%
	ボーリングマシン	日	1.5	1.0	1.5	3.0	1.5	2.0	ダウンホール1m間隔の 直接人件費*2.5%

区分	名称	単位	密度	電気	温度	キャリパー	摘 要
			連続	連続	連続	連続	
直接 人件費	地質調査技師	人	2.0	2.0	2.0	2.0	2人作業
	主任地質調査員	〃	1.0	1.0	1.0	1.0	1人作業
	地質調査員	〃	2.0	2.0	2.0	2.0	2人作業
材料費	損 耗 費	式	1	1	1	1	別表による
	消耗品費	式	1	1	1	1	上記材料費計*5%
動力費	軽油・油脂	式	1	1	1	1	材料費*1%
安全費	注13.による	式	1	—	—	—	直接人件費*5%
機械等 損料	検層器損料	日	1.0	1.0	1.0	1.0	直接人件費*6.6%
	ボーリングマシン	日	1.0	1.0	1.0	1.0	直接人件費*8.4%

損耗費はケーブル及びゾンデ合わせて1回使用当たりの費用とし、下表の値を直接人件費に乘じる。

速度(P)	音波(P)	P S 検層 ダウンホール	P S 検層 孔内起振受振	密度	電気	温度	キャリパー	摘 要
1m間隔の 7%	1m間隔の 17%	1m間隔の 7%	40%	35%	11%	11%	19%	ケーブル及びゾンデは 30回使用で全損

注) 1. 7-5により歩掛補正を行う。ただし、材料費について、測定深度100m未満の場合は、実測定長に応じ比例按分のこと。

2. 各検層の測定間隔は、表に示す値を基本としている。表以外の測定間隔の場合は別途考慮すること。

3. 速度検層、P S 検層におけるダイナマイト及び電気雷管は必要に応じて計上すること。
4. 消耗品費には、記録紙や電源（電池等）、油脂、ビニルテープ等を含む。
5. 当該歩掛は、最大深さ300m程度までの調査を標準としているため、これを超える深度の調査の場合は、別途考慮すること。なお、P S 検層（ダウンホール方式）の測定は、現場状況と地質状況にもよるが深さ100m程度が限界なので注意のこと。
6. 当該歩掛には、検層機器の昇降に必要なボーリングマシンやボーリングオペレーターを含む。なお、削孔費は別途計上のこと。
7. 速度検層において起振孔を必要とする場合は、別途φ76mm以上のボーリング費（φ73mm以上のケーシング全損）を計上のこと。
8. 崩壊性地質などで、塩ビパイプにより孔壁の保護を要する場合は、別途材料費及び挿入費を計上のこと。
9. ボーリングのケーシングプログラムなどにより測定作業が分割される場合は、複数孔による場合と考えて積算すること。また、現地状況により動復員（往復）に日数を要する場合は、別途歩掛を調整・計上すること。
10. ダウンホール方式によるP S 検層を実施する際に、地震基盤として設定された速度を確認して、ボーリングの掘止めを行う場合、増掘する場合の測定費は、その都度別孔扱いとして個別に補正係数を乗じて積算すること。
11. 密度検層における安全費とは、線源が半減期を迎える5年に一度ゾンデの部品交換を行う費用、線源の仕様届及び保管に係る費用である。
12. 測定深とは、測定区間長ではなく、測定する最下端の深さを指す。従って、60mから100m間を測定する場合は、測定深100mとなる。
13. ダウンホール方式によるP・S 検層の測定間隔は、土質地盤では1m間隔、岩盤では2m間隔が標準である。同一孔で深度0～50mの50m区間が土質地盤、50～80mの30m区間が岩盤の場合の直接人件費の積算例は以下となる。  
 $(\text{ダウンホール方式1mの直接人件費} \times 0.69 (\text{深度50mの補正係数}) + \text{ダウンホール方式2mの直接人件費} \times 0.56 (\text{深度30mの補正係数})) \times 0.88 (\text{深度80mの補正係数})$
14. ダウンホール方式によるP S 検層において、岩盤区間中の挟み層や破碎帯の検出など、地質状況の変化が大きく高い精度を要求される場合は、岩盤でも1m間隔とすることがある。

### 7-3 データ整理・計算

#### 7-3-1 データ整理・計算（物理検層）

施工単価コード	DXB48210~DXB48280
---------	-------------------

（1式（100m）当り）

区分	名称	単位	速度(P)検層 ウェルシュティンク		音波(P) 1m間隔(連続)	P S 検層 ダウンホール		摘要
			1m間隔	2m間隔		1m間隔	2m間隔	
直接人件費	地質調査技師	人	2.0	1.0	1.0	2.0	1.0	
	主任地質調査員	人	2.0	1.0	2.0	4.0	2.0	
消耗品費		式	1	1	1	1	1	直接人件費*5%

区分	名称	単位	P・S 検層 孔内起振受振	密度	電気	温度	キャリパー	摘要
			1m間隔					
直接人件費	地質調査技師	人	1.0	4.0	4.0	4.0	4.0	
	主任地質調査員	人	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	
消耗品費		式	1	1	1	1	1	直接人件費*5%

- 注) 1. 各検層の測定間隔は、表に示す値を基本としている。表以外の測定間隔の場合は別途考慮すること。  
 2. 7-5により歩掛補正を行う。

7-4 解析

7-4-1 解析 (物理検層)

施工単価コード	DXB48410~DXB48440
---------	-------------------

(1式(100m)当り)

区分	名称	単位	速度(P)検層		音波(P)	P・S検層			摘要
			1m間隔	2m間隔		P・S検層		孔内起振受振	
					1m間隔	2m間隔	1m間隔		
直接人件費	主任技師	人	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	
	技師(A)	〃	3.0	1.5	3.0	4.0	2.0	4.0	
	技師(C)	〃	2.5	2.0	5.0	6.0	5.0	6.0	
	技術員	〃	3.0	2.0	5.0	8.0	5.0	8.0	
材料費	雑品	式	1	1	1	1	1	1	直接人件費*1%

- 注) 1. 各検層の測定間隔は、表に示す値を基本としている。表以外の測定間隔の場合は別途考慮すること。  
 2. 7-5により歩掛補正を行う。  
 3. 密度、電気、温度、キャリパー検層は、データ整理・計算に解析費用を含む。  
 3. ダウンホール方式によるP・S検層を実施する際に、地震基盤として設定された速度を確認してボーリングの掘止めを行う場合、現地で解析した区間は別孔の解析費として計上すること。  
 4. 当該作業は、解析等調査業務費として計上すること。

7-5 深度補正

測定、データ整理・計算、解析について、測定深に応じて次の補正係数を各人件費、材料費、機械経等損料に乗じる。なお、複数の孔がある場合は、孔毎にそれぞれの測定深に応じた補正係数を用いること。

- (1) 測定深が20m以下の場合

補正係数 = 0.5

- (2) 測定深が20m超100m以下の場合

補正係数 =  $0.00625 \times \text{測定深} + 0.375$

(測定深は整数とし、補正係数は小数第3位四捨五入して小数第2位とする)

- (3) 測定深が100m超500m以下の場合

補正係数 =  $(1.8 - 0.4 \log(\text{測定深})) \times \text{測定深} \div 100$

(測定深は整数とし、補正係数は小数第3位四捨五入して小数第2位とする。対数(log)の底は10)

- (4) 測定深が500m超の場合

補正係数 = 3.6

7-6 その他

電子成果品作成費は、「設計業務等標準積算基準書 第2編 第2章 地質調査標準歩掛等 2-8-1 電子成果品作成費」により計上する。

## 7. 一般構造物設計

### 7-1 門型ラーメン・箱型函渠

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 7-1 門型ラーメン・箱型函渠」を適用する。なお、作業区分、概算工事費については「運用資料」を適用する。

施工単価コード：WS402401～WS402412(門型ラーメン・箱型函渠予備設計)、WS403001～WS403008(門型ラーメン詳細設計)、WS403101～WS403108(箱型函渠詳細設計)、WS403201～WS403206(プレキャストボックスウイングの取り付け設計)、WS403301～WS403305(プレキャストボックス割付一般図作成)

### 7-2 擁壁・補強土

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 7-2 擁壁・補強土」を適用する。なお、概算工事費については「運用資料」を適用する。

施工単価コード：WS402501～WS402512(擁壁・補強土予備設計)、WS403401～WS403408(逆T式擁壁)、WS403501～WS403508(重力式擁壁)、WS403601～WS403608(モタレ式擁壁)、WS415601～WS415608(井桁式擁壁)、WS415701～WS415708(大型ブロック積擁壁)、WS403701～WS403708(補強土テールアルメ、多数アンカー式擁壁)、WS403801～WS403808(U型擁壁)、WS403901～WS403905(プレキャストL型擁壁の割付一般図)

### 7-3 法面工

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 7-3 法面工」を適用する。なお、概算工事費については「運用資料」を適用する。

施工単価コード：WS402601～WS402612(法面工予備設計)、WS404001～WS404008(場所打ち法枠)、WS404101～WS404108(アンカー付場所打ち法枠)

### 7-4 落石防護柵

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 7-4 落石防護柵」を適用する。施工単価コード：WS404401～WS404408

### 7-5 雪崩予防施設

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 7-5 雪崩予防施設」を適用する。施工単価コード：WS404801～WS404809(雪崩予防柵、雪崩防護柵)、WS404901～WS404909(吊柵)

### 7-6 一般構造物基礎工

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 7-6 一般構造物基礎工」を適用する。なお、作業区分については「運用資料」を適用する。

施工単価コード：WS405101～WS405106(既製杭)、WS405201～WS405206(場所打杭)、WS405301～WS405306(深礎杭)

### 7-7 その他

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 7-7 その他」を適用する。

### 7-8 山留め式擁壁詳細設計

「運用資料」を適用する。

### 7-9 雪況調査対策工検討設計

「運用資料」を適用する。

## 参考. 一般構造物設計

### 参考3-1 適用及び用語の定義（一般構造物設計に適用）

「運用資料」を適用する。

### 参考3-2 積算方法

「設計業務等標準積算基準書（参考資料） 第4編 第1章 土木設計業務運用（参考資料） 3-2 積算方法」を適用する。

### 参考3-3 防雪施設一覧図

「設計業務等標準積算基準書（参考資料） 第4編 第1章 土木設計業務運用（参考資料） 3-3 防雪施設一覧図」を適用する。

### 参考3-4 積算例

「設計業務等標準積算基準書（参考資料） 第4編 第1章 土木設計業務運用（参考資料） 3-4 積算例」を適用する。

## 8. 橋梁設計

### 8-1 橋梁予備設計

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-1 橋梁予備設計」を適用する。  
施工単価コード：WS406101～WS406109

### 8-2 橋梁詳細設計

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2 橋梁詳細設計」を適用する。  
なお、落橋防止システムの設計はそれぞれの上部工標準歩掛に含まれている。また、概算工事費については「運用資料」を適用する。

施工単価コード：WS406201(座標計算)、WS406202(施工計画)、WS406204(動的照査)、WS406205(関係機関との協議資料作成)、WS406203(現地踏査)、WS406301～WS406306(RC単純床版橋)、WS406401～WS406406(RC単純T桁橋)、WS406501～WS406506(RC単純中空床版橋)、WS406601～WS406606(RC多径間連続中空床版橋)、WS406701～WS406706(RC多径間連続T桁橋)、WS406801～WS406806(RC多径間連続ラーメン橋)、WS406901～WS406906(PC単純プレテンションI桁橋)、WS407001～WS407006(PC単純プレテンションT桁橋)、WS407101～WS407106(PCプレテンションホロー桁橋)、WS407201～WS407206(PC単純中空床版橋)、WS407301～WS407306(PC単純ポストテンションT桁橋)、WS407401～WS407406(PC単純箱桁橋)、WS407501～WS407506(PC多径間連結プレテンションT桁橋)、WS407601～WS407606(PC多径間連結ポストテンションT桁橋)、WS407701～WS407706(PC斜材付きπ型ラーメン橋)、WS407801～WS407806(PC多径間連続中空床版橋)、WS407901～WS407906(PC多径間連続ポストテンションT桁橋)、WS408001～WS408006(PC多径間連続箱桁橋)、WS408101～WS408106(鋼単純H形橋)、WS408201～WS408206(鋼単純合成H形橋)、WS408301～WS408306(鋼単純鋸桁橋)、WS408401～WS408406(鋼単純合成鋸桁橋)、WS408501～WS408506(鋼単純鋼床版鋸桁橋)、WS408601～WS408606(鋼単純箱桁橋)、WS408701～WS408706(鋼単純合成箱桁橋)、WS408801～WS408806(鋼単純鋼床版箱桁橋)、WS408901～WS408906(鋼ゲルバー桁橋)、WS409001～WS409006(鋼単純トラス橋)、

## 1 4. 河川構造物設計

### 1 4 - 1 樋門設計

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 1 4 - 1 樋門設計」を適用する。なお、留意事項及び電算プログラムの適用、小型水門設備設計、概算工事費については「運用資料」を適用する。

施工単価コード：WS303201～WS303210(樋門予備設計)、  
WS303301～WS303312・DXC43505～DXC43510(樋門詳細設計(柔構造形式)電算プログラムなし)、  
WS303401～WS303412・DXC43705～DXC43710(樋門詳細設計(剛支持直接基礎)電算プログラムなし)

### 1 4 - 2 河川排水機場設計

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 1 4 - 2 河川排水機場設計」を適用する。

施工単価コード：WS304001～WS304012(排水機場予備設計)、WS304101～WS304114(排水機場詳細設計)

### 1 4 - 3 護岸設計

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 1 4 - 3 護岸設計」を適用する。なお、作業区分、護岸予備設計、概算工事費については「運用資料」を適用する。

施工単価コード：WS303001～WS303036(護岸詳細設計)

### 1 4 - 4 堰詳細設計

「運用資料」を適用する。

### 1 4 - 5 床止め詳細設計

「運用資料」を適用する。

### 1 4 - 6 自動開閉樋門工設計

「運用資料」を適用する。

### 1 4 - 7 排水工設計(簡易型柔構造形式)

「運用資料」を適用する。

### 1 4 - 8 排水工設計(柔構造形式・剛支持直接基礎)

「運用資料」を適用する。

### 1 4 - 9 樋門補修設計

「運用資料」を適用する。

### 1 4 - 1 0 河川砂防構造物等詳細設計 概算工事費算出

「運用資料」を適用する。

## 参考. 河川構造物設計

### 参考 8 - 1 護岸設計

「設計業務等標準積算基準書(参考資料) 第4編 第1章 土木設計業務運用(参考資料) 8 - 1 護岸設計」を適用する。

## 15. 砂防構造物設計

### 15-1 砂防堰堤設計

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 15-1 砂防堰堤設計」を適用する。  
なお、作業区分、留意事項、概算工事費については「運用資料」を適用する。

施工単価コード：WS500301～WS500311(砂防堰堤及び床固工予備設計)、WS500401～WS500419(砂防堰堤及び床固工詳細設計)

### 15-2 流木対策工

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 15-2 流木対策工」を適用する。  
なお、作業区分については「運用資料」を適用する。

施工単価コード：WS500601～WS500607(流木対策調査)、WS500701～WS500707(流木対策施設計画)、  
WS500801～WS500810(流木対策工予備設計)、WS500901～WS500909(流木対策工詳細設計)

### 15-3 溪流保全工設計

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 15-3 溪流保全工設計」を適用する。  
なお、作業区分については「運用資料」を適用する。

施工単価コード：WS501101～WS501109

### 15-4 魚道設計

「運用資料」を適用する。

## 参考. 砂防構造物設計

### 参考9-1 積算例

「設計業務等標準積算基準書(参考資料) 第4編 第1章 土木設計業務運用(参考資料) 9-1 積算例」  
を適用する。

概算工事費算出の歩掛は次のとおりとする。

施工単価コード	DXC14001
---------	----------

(予備設計あり)

(1業務当り)

区分	職 種	直 接 人 件 費						
		主 任 技術者	技師長	主 任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員
概 算 工 事 費					1.0	2.0	2.0	2.0

- (注) 1. 見積必要品目がある場合は、実施時点での見積徴取作業を含む。  
 2. 電子計算機使用料は、直接経費として直接人件費の2%を計上する。  
 3. 2-3-3標準歩掛等の補正は適用しない。

## 2-5 その他

### 2-5-1 道路照明施設設計

#### 2-5-1-1 道路照明施設詳細設計

施工単価コード	DXC14100~DXC14105
---------	-------------------

(1km当り)

区分	作業区分	職 種 単位	直接人件費：n				
			主 任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員
(1)	現 地 踏 査	k m			1.0	0.4	2.0
(2)	設 計 計 画			0.5			
	設 計 条 件 の 確 認 道 路 照 明 施 設 設 計						2.5
	設 計 図					2.0	5.0
	数 量 計 算				1.2	3.4	
	照 査			1.1	0.9	0.5	

- 注) 1. 区分(1)と(2)には、それぞれ下記の通り歩掛補正を行う。
- (1)  $0.60 + 0.40 / \text{設計延長}$   
 (2)  $0.74 + 0.26 / \text{設計延長} \times C$  (※Cの値 一般柱：1.0 個別制作柱：1.3)
2. 本歩掛は、5km未満の連続照明に適用する。  
 3. 予備設計が必要な場合には、別途積み上げること。  
 4. 高圧受電部等の業務は考慮していないので、別途積み上げること。  
 5. 連続照明区間に交差点D照明灯の局部照明を含む場合は、局部照明部分は別途積み上げること。  
 6. 関連機関との協議資料の作成及び報告書作成は、区分(2)の各作業区分の歩掛に含む。

7-1-5 概算工事費

(1) 適用範囲

門型ラーメン、現場打・プレキャスト函渠、及び開削共同溝詳細設計における概算工事費算出に適用する。

(2) 標準歩掛

7-1-5-1 概算工事費

施工単価コード	DXC13000
---------	----------

(1 業務当り)

職 種 区 分	直 接 人 件 費						
	主 任 技術者	技師長	主 任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員
概 算 工 事 費					2.0	2.0	2.0

- (注) 1. 見積必要品目がある場合は、実施時点での見積徴取作業を含む。  
 2. 電子計算機使用料は、直接経費として直接人件費の2%を計上する。  
 1. 2-3-3 標準歩掛等の補正は適用しない。

7-2 擁壁・補強土

7-2-1 概算工事費

(1) 適用範囲

逆T式、重力式、モタレ式、井桁式、大型ブロック積、補強土（テールアルメ、多数アンカー式擁壁等）、U型、プレキャストL型、及び山留め式擁壁詳細設計における概算工事費算出に適用する。

(2) 標準歩掛

7-2-1-1 概算工事費

施工単価コード	DXC13100
---------	----------

(1 業務当り)

職 種 区 分	直 接 人 件 費						
	主 任 技術者	技師長	主 任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員
概 算 工 事 費					1.5	1.5	

- (注) 1. 見積必要品目がある場合は、実施時点での見積徴取作業を含む。  
 2. 電子計算機使用料は、直接経費として直接人件費の2%を計上する。  
 2. 2-3-3 標準歩掛等の補正は適用しない。

7-3 法面工

7-3-1 概算工事費

(1) 適用範囲

場所打ち法枠及びアンカー付き場所打ち法枠詳細設計における概算工事費算出に適用する。

(2) 標準歩掛

7-3-1-1 概算工事費

施工単価コード	DXC13200
---------	----------

(1 業務当り)

職 種 区 分	直 接 人 件 費						
	主 任 技術者	技師長	主 任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員
概 算 工 事 費					1.0	2.0	2.0

- (注) 1. 見積必要品目がある場合は、実施時点での見積徴取作業を含む。  
 2. 電子計算機使用料は、直接経費として直接人件費の2%を計上する。  
 3. 2-3-3 標準歩掛等の補正は適用しない。

## 8. 橋梁設計

### 8-2 橋梁詳細設計

#### 8-2-1 概算工事費

##### (1) 適用範囲

橋梁詳細設計（橋梁撤去、土留工、及び仮橋・仮栈橋詳細設計を含む）における概算工事費算出に適用する。

##### (2) 標準歩掛

##### 7-1-5-1 概算工事費

施工単価コード	DXC13500
---------	----------

（1 業務当り）

区 分	職 種	直 接 人 件 費						
		主 任 技術者	技師長	主 任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員
概 算 工 事 費					1.5	5.0	7.0	6.0

- (注) 1. 見積必要品目がある場合は、実施時点での見積徴取作業を含む。  
 2. 電子計算機使用料は、直接経費として直接人件費の2%を計上する。  
 1. 2-3-3 標準歩掛等の補正は適用しない。

### 8-3 横断歩道橋詳細設計

横断歩道橋詳細設計における作業区分は以下のとおりとする。

作業区分	作 業 の 範 囲
設計計画	1) 設計計画 業務目的・主旨を把握したうえで、設計図書に示す業務内容を確認し、以下の項目について記載した業務計画書を作成する。 ① 業務概要、②実施方針、③業務工程、④業務組織計画、⑤打合せ計画、⑥成果品の品質を確保するための計画、⑦成果品の内容、部数、⑧使用する主な図書及び基準、⑨連絡体制（緊急時含む）、⑩使用する主な機器、⑪照査計画、⑫その他 2) 設計条件の確認 設計図書に示された道路の幾何構造、荷重条件等設計施工上の基本条件を確認し、当該設計用に整理する。 3) 設計細部事項の検討 使用材料、地盤定数、支承条件、構造細目、付属物の形式など詳細設計に当たり必要な細部条件について技術的検討を加えたうえで、これを当該設計用に整理するとともに適用基準との整合を図り確認を行う。 4) 関係機関との協議資料作成 業務の過程で、業務成果品に該当するものに若干の手を加える程度の関係機関との協議用資料を作成する。
設計計算	詳細設計計算に当たり、予備設計等で決定された主要構造寸法に基づき、現地への搬入条件及び架設条件を考慮し、上部工については、橋体、床版、支承、高欄、伸縮装置、橋面排水装置等、下部工については、梁、柱、フーチング、躯体等について詳細設計を行う。

14-1-3-2 標準歩掛（電算プログラム使用）

本歩掛は、設計条件が全て整備されており、各構造物の応力計算より、数量計算まで、全て電算プログラムにより処理する場合に適用する。

14-1-3-2-1 樋門詳細設計（柔構造形式（電算タイプ））

施工単価コード	DXC44005～DXC44031
施工単価コード（概算工事費）	DXC48500

標準 RC構造：一連当り断面積 2 m²以上 7 m²以下×1連×4.0 m （1箇所当り）

区 分 \ 職 種		直 接 人 件 費					
		技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員
設計計画			0.5	2.0	1.0		
現地踏査			0.5	1.0	1.5		
基本事項の決定		1.0	2.5	4.5	7.5		
景観設計	普通の検討		1.0	1.5	2.0		
	特別の検討		1.5	3.0	5.5		
構造設計	設計条件の確認		1.0	2.0	3.5		
	基礎工		2.0	4.0	8.5	3.0	
	高水護岸・低水護岸及び土工				2.0	3.5	5.0
	呑口部修正		0.6	1.3	1.3		
	吐口部修正		0.6	1.3	1.3		
	地盤処理工(置換基礎)		1.0	1.0	3.0		
施工計画	地盤処理工以外		1.0	1.5	5.0		
	地盤処理工(置換基礎)		0.5	1.5	2.0		
仮設構造物設計			1.0	2.5	5.0		
数量計算					1.2	2.8	4.6
概算工事費	「14-10 河川・砂防構造物詳細設計概算工事費算出」による。						
パース作成				1.0	3.5		
照査		1.0	1.0	2.0	3.3	2.3	
報告書作成			1.5	3.0	3.5		

- (注) 1. 予備設計を行わないで詳細設計を行う場合は、「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 14-1-1 適用範囲及び留意事項の(5)」によるものとする。
2. 呑口・吐口の設計については、電算プログラムで対応できるタイプ以外のコンクリート構造の呑吐口について計上すること。
3. 基礎杭の設計を必要とする場合は別途計上すること。
4. 景観設計の「普通の検討」と「特別の検討」の区分は「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 14-1-3 樋門詳細設計の(1)」によるものとする。
5. 仮設構造物設計には、鋼矢板式二重締切堤は含まれないものとする。
6. 電算プログラム使用料として「14-1-3-2-3 電算プログラム使用による設計費」を別途計上すること。（電算機使用料（直接人件費の2%）は計上しない）
7. 標準歩掛の補正は「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 14-1-4 標準歩掛の補正」によるものとする。
8. パース作成は必要に応じて計上する。
9. 照査には、赤黄チェックによる照査も含む。

14-1-3-2-2 樋門詳細設計（剛支持直接基礎（電算タイプ））

施工単価コード	DXC44041～DXC44221
施工単価コード（概算工事費）	DXC48500

標準 R C 構造：一連当り断面積 5 m²以下×1 連×2 スパン

（1 箇所当り）

区 分		職 種	直 接 人 件 費				
			技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C
設 計 計 画			0.5	2.0	1.0		
現 地 踏 査			1.0	1.0	1.5		
基本事項の決定			1.0	2.0	2.0	3.5	
景 観 設 計	普 通 の 検 討		1.0	1.5	2.0		
	特 別 の 検 討		1.5	3.0	5.5		
構 造 設 計	設 計 条 件 の 確 認		1.0	2.0	2.0		
	基 礎 工			2.0	2.0	3.0	
	軀 体 工				1.3	2.6	4.8
	高水護岸・低水護岸及び土工				2.0	3.5	5.0
	呑 口 部 修 正		0.6	1.3	1.3		
	吐 口 部 修 正		0.6	1.3	1.3		
	地盤処理工(置換基礎)		1.0	1.5	1.5	0.5	
施 工 計 画	地 盤 処 理 工 以 外		1.0	1.5	2.5	2.5	
	地盤処理工(置換基礎)			1.0	1.0	1.0	
仮設構造物設計			1.0	2.5	4.5		
数 量 計 算					1.3	2.3	3.8
概 算 工 事 費	「14-10 河川・砂防構造物詳細設計概算工事費算出」による。						
パ ー ス 作 成				1.0	3.5		
照 査		1.5	1.0	2.0	3.6	2.6	
報 告 書 作 成			1.5	3.0	3.5		
合 計			2.5	11.2	23.1	36.8	13.6

- (注) 1. 予備設計を行わないで詳細設計を行う場合は、「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 14-1-1 適用範囲及び留意事項の(5)」によるものとする。
2. 呑口・吐口の設計については、電算プログラムで対応できるタイプ以外のコンクリート構造の呑吐口について計上すること。
3. 基礎杭の設計を必要とする場合は別途計上すること。
4. 景観設計の「普通の検討」と「特別の検討」の区分は「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 14-1-3 樋門詳細設計の(1)」によるものとする。
5. 仮設構造物設計には、鋼矢板式二重締切堤は含まれないものとする。
6. 電算プログラム使用料として「14-1-3-2-3 電算プログラム使用による設計費」を別途計上すること。（電算機使用料（直接人件費の2%）は計上しない）
7. 標準歩掛の補正は「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 14-1-4 標準歩掛の補正」によるものとする。
8. パース作成は必要に応じて計上する。
9. 照査には、赤黄チェックによる照査も含む。

(4) 門数による補正

同形状規格のものを複数門同時設計する場合には、標準工数は表-4・5の補正係数を乗ずるものとする。

表-4・5 門数による工数補正係数

門数	2	3	4	5
補正係数	1.1	1.2	1.3	1.4

1 4 - 1 - 6 - 4 業務区分別工数比率

標準工数の業務内容は、表-4・6の8区分であり、業務委託内容により、工数比率で補正する。

表-4・6 業務区分別工数比率 (%)

業務区分	設計 計画	基本 事項	詳細 事項	設計 計算	設計 図	材料 計算	照 査	概 算	計
構成比	9	8	11	19	35	11	3	4	100

1 4 - 1 - 6 - 5 職種別工数比率

業務区分毎の職種別工数比率表は、表-4・7による。

表-4・7 職種別工数比率 (%)

職種業務 区分	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	計
設計計画	2	20	31	29	12	6	100
基本事項	2	11	26	37	14	10	100
詳細事項	1	10	20	31	24	14	100
設計計算	1	5	13	22	34	25	100
設計図	1	4	9	19	34	33	100
材料計算	0	2	8	18	30	42	100
照査	4	24	27	29	10	6	100
概算	1	7	18	36	23	15	100

1 4 - 1 - 7 概算工事費

「1 4 - 1 0 河川・砂防構造物詳細設計概算工事費算出」によるものとする。

(施工単価コード：DXC48500)

作業区分	業 務 の 範 囲
数量計算	詳細設計として作成した設計図に基づき設計図書又は、数量算出要領により、工種別、区間別に数量を算出する。
概算工事費	詳細設計として作成した設計図及び数量等に基づき概算工事費を算出する。
照 査	<p>下記に示す事項を標準として照査を行う。</p> <p>①設計条件の決定に際し、現地の状況の他、基礎情報を収集、把握しているかの確認を行い、その内容が適切であるかについて照査を行う。</p> <p>②一般図を基に構造物の断面形状、構造形式及び地盤条件と基礎形式の整合が適切にとれているかの照査を行う。また、埋設物、支障物件、周辺施設との近接等施工条件が設計計画に反映されているかの確認を行う。</p> <p>③設計方針及び設計手法が適切であるかの確認を行う。また、仮設工法と施工法の確認を行い、施工時の応力についても照査を行う。</p> <p>④設計計算、設計図、数量の正確性、適切性及び整合性に着目し照査を行う。最小鉄筋量等構造細目についても照査を行い、基準との整合を図る。特に、構造物相互の取り合いについて整合性の照査を行う。</p>
報告書作成	設計成果として、設計報告書、設計図、数量計算書等を取りまとめ、報告書を作成する。

1 4 - 3 - 3 - 2 概算工事費

「1 4 - 1 0 河川・砂防構造物詳細設計概算工事費算出」によるものとする。

(施工単価コード：DXC48500)

1 4 - 6 - 2 - 3 自動開閉樋門詳細設計 (柔構造形式・剛支持直接基礎)

1 4 - 6 - 2 - 3 - 1 作業区分

自動開閉樋門詳細設計歩掛における作業区分は以下のとおりとする。

作業区分	作 業 の 範 囲	
設 計 計 画	業務の目的・主旨を把握したうえで、設計図書に示す業務内容を確認し、業務計画書を作成する。	
現 地 踏 査	貸与資料を基に現地踏査を行い、現況施設の状況、予定地周辺の河川の状況、地形、地質、近接構造物及び土地利用状況・河川の利用形態等を把握し、合せて工事用道路、仮排水路、施工ヤード等の施工の観点から現地状況を把握し整理する。	
基本事項の決定	予備設計等の貸与資料、設計図書及び指示事項等に基づき、詳細設計で決定する事項を整理し、施設、配置計画、断面、基礎地盤の沈下・変位量、地盤対策工及び函材、函軸構造形式、スパン割り、継手形式を検討する。	
景 観 検 討	普通 の 検 討	周辺との調和を考慮した素材・デザインを決定し詳細設計を行う。 なお、デザイン決定においては、イメージパース (ペンシル) 2 案程度提出する。
	特別 の 検 討	河川景観、周辺整備計画を基に、地域の特性 (歴史的・文化的) 背景を整理し、景観のデザインテーマを基に、3 案程度のイメージパースを作成し、計画案を設定するとともに、使用する素材について美観性、耐候性、加工性、経済性について比較検討を行い、決定された最終案に対し詳細設計を行う。
構 造 設 計	設計条件の確認	構造設計に必要な、設計条件、荷重条件、自然・地盤条件、施工条件等の必要項目を設定する。
	基 礎 工	荷重条件、函体構造形式、地盤対策工等に基づき基礎地盤の沈下を考慮した「弾性床上の梁」の解析等により、相対沈下量、地盤の降伏変位量等について照査し、函体構造及び地盤改良工の仕様を検討する。 柔構造の場合は、相対沈下量、地盤の降伏変位量などを算定した上で地盤処理工の仕様を決定する。
	地 盤 処 理 工 (置換基礎)	地盤条件、施工条件、周辺に及ぼす影響、経済性等の諸条件を考慮して設計を行う。
	呑 口 翼 壁 部	呑口翼壁及び沈下・変位・部材応力等の計測工について検討し、安定計算・構造計算を行い、構造詳細図、配筋図等を作成する。
	本 体 部	躯体、川裏胸壁及び沈下・変位・部材応力等の計測工について検討し、安定計算・構造計算を行い、構造詳細図、配筋図等を作成する。
	川 裏 胸 壁 部	川表胸壁及び沈下・変位・部材応力等の計測工について検討し、安定計算・構造計算を行い、構造詳細図、配筋図等を作成する。
	吐 口 翼 壁 部	吐口翼壁、水叩き、護床工及び沈下・変位・部材応力等の計測工について検討し、安定計算・構造計算を行い、構造詳細図、配筋図等を作成する。
	ゲ ー ト 工	扉体、戸当りの各部について検討し、ゲートの設計を行う。
	高水護岸・低水護岸及び土工等	高水護岸・低水護岸の構造及び使用すべき材料の選定と、必要に応じて安定計算、構造計算を行って、平面図、横断図、縦断図、構造詳細図を作成する。 また、掘削、盛土及び埋戻等の土工図を作成する。
施 工 計 画	堤防開削、本堤築造及びそれに伴う仮締切の構造・撤去等の工事の順序と施工法を検討する。	
施 工 計 画 (地盤処理工置換基礎)	地盤処理工 (置換基礎) の工事順序と施工方法を検討する。	
仮設構造物設計	施工計画により必要となる仮設構造物 (仮締切、仮排水路、工事用道路及び山留工等) の規模、構造諸元を近接構造物への影響を考慮して、水理計算、安定計算及び構造計算により決定し、仮設計画を策定する。	
数 量 計 算	数量算出要領に基づき、工種別、区間別に数量のとりまとめを行う。	
概 算 工 事 費	詳細設計として作成した設計図及び数量等に基づき概算工事費を算出する。	

作業区分	作 業 の 範 囲
照 査	下記に示す事項を標準として照査を行う。 ①設計条件の決定に際し、現地の状況の他、基礎情報を収集、把握しているかの確認を行い、その内容が適切であるかについて照査を行う。 ②一般図を基に構造物の位置、断面形状、構造形式及び地盤条件と基礎形式の整合が適切にとられているかの照査を行う。 ③設計方針及び設計手法が適切であるかの照査を行う。また、仮設工法と施工法の確認を行い、施工時の応力についても照査を行う。 ④設計計算、設計図、数量の正確性、適切性及び整合性に着目し照査を行う。最小鉄筋量等構造細目についても照査を行い、基準との整合性を図る。特に、構造物相互の取り合いについて整合性の照査を行う。
報告書作成	設計業務成果概要書、設計計算書等、設計図面、数量計算書、概算工事費、施工計画書、現地踏査結果等のとりまとめを行い、報告書を作成する。

14-6-2-3-2 標準歩掛（自動開閉樋門詳細設計（柔構造形式））

14-6-2-3-2-1 自動開閉樋門詳細設計（柔構造形式）

施工単価コード	DXC45065~DXC45160
施工単価コード（概算工事費）	DXC48500

標準 RC構造：一連当り断面積2m²以上4m²以下×1連×40m （1箇所当り）

区 分	職 種	直 接 人 件 費					
		技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員
設 計 計 画			0.5	1.9	1.0		
現 地 踏 査			0.5	1.0	1.5		
基本事項の決定		1.0	2.5	4.5	7.5		
景 観 設 計 （普通の検討）			1.0	1.5	2.0		
構 造 設 計	設計条件の確認		1.0	2.0	3.4		
	基 礎 工		2.0	4.0	8.5	3.0	
	呑 口 翼 壁 部				2.5	4.0	5.5
	本 体 部				4.4	8.4	11.4
	川 表 胸 壁 部				3.0	3.5	4.5
	吐 口 翼 壁 部				2.5	4.0	5.5
	ゲ ー ト 工				2.4	3.6	4.4
	高水護岸・低水護岸及び土工等				2.0	3.5	4.8
施 工 計 画			1.0	1.5	5.0		
仮設構造物設計			1.0	2.5	5.0		
数 量 計 算					3.0	5.5	8.5
概 算 工 事 費	「14-10 河川・砂防構造物詳細設計概算工事費算出」による。						
照 査		1.0	1.0	2.0	3.3	2.3	
報 告 書 作 成			1.5	3.0	3.5		
合 計		2.0	12.0	23.9	60.5	37.8	44.6

- (注) 1. 照査には、赤黄チェックによる照査も含む。  
 2. 予備設計を行わないで詳細設計を行う場合は、「14-6-2-1 適用範囲及び留意事項の4)」によるものとする。  
 3. 施工計画の歩掛は、地盤処理工を含まない場合である。  
 4. 電算機使用料は、直接人件費の2%を直接経費として計上する。

14-6-2-3-3 標準歩掛（自動開閉樋門詳細設計（剛支持直接基礎））

14-6-2-3-3-1 自動開閉樋門詳細設計（剛支持直接基礎）

施工単価コード	DXC45165~DXC45260
---------	-------------------

施工単価コード（概算工事費）	DXC48500
----------------	----------

標準 R C構造：一連当り断面積4m²以下×1連×2スパン (1箇所当り)

区 分		職 種	直 接 人 件 費					
			技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員
設 計 計 画				0.6	1.8	1.1		
現 地 踏 査				1.0	1.0	1.4		
基本事項の決定			1.0	2.0	2.0	3.4		
景 観 設 計 (普通の検討)				1.0	1.5	2.0		
構 造 設 計	設計条件の確認			1.0	2.0	2.2		
	基 礎 工				2.0	2.2	3.0	
	呑 口 翼 壁 部					2.1	3.5	5.0
	本 体 部				3.1	2.2	5.1	4.0
	川 表 胸 壁 部					2.5	3.0	4.0
	吐 口 翼 壁 部					2.0	3.5	5.0
	ゲ ー ト 工					2.3	3.7	4.4
	高水護岸・低水護岸及び土工等					2.0	3.5	5.0
施 工 計 画				1.0	1.4	2.8	2.4	
仮設構造物設計				1.0	2.5	4.5		
数 量 計 算						2.0	4.6	7.6
概 算 工 事 費	「14-10 河川・砂防構造物詳細設計概算工事費算出」による。							
照 査			1.5	1.0	2.0	3.5	2.5	
報 告 書 作 成				1.5	3.0	3.5		
合 計			2.5	10.1	22.3	41.7	34.8	35.0

- (注) 1. 予備設計を行わないで詳細設計を行う場合は、「14-6-2-1 適用範囲及び留意事項の4）」によるものとする。
2. 施工計画の歩掛は、地盤処理工を含まない場合である。
3. 電算機使用料は、直接人件費の2%を直接経費として計上する。
4. 景観設計において特別の検討を行う場合は、下記の歩掛を加算する。  
なお、「普通の検討」と「特別の検討」の区分は「14-6-2-3-1 作業区分」による。
5. 照査には、赤黄チェックによる照査も含む。

区 分		職 種	直 接 人 件 費					
			技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員
景観設計（特別の検討）				1.5	3.0	5.5		

作業区分	作 業 の 範 囲
数 量 計 算	数量算出要領に基づき、工種別、区間別に数量のとりまとめを行う。
概 算 工 事 費	詳細設計として作成した設計図及び数量等に基づき概算工事費を算出する。
照 査	<p>下記に示す事項を標準として照査を行う。</p> <p>①設計条件の決定に際し、現地の状況の他、基礎情報を収集、把握しているかの確認を行い、その内容が適切であるかについて照査を行う。</p> <p>②設計方針及び設計手法が適切であるかの照査を行う。</p> <p>③設計計算、設計図、概算工事費の適切性及び整合性に着目し照査を行う。最小鉄筋量等構造細目についても照査を行い、基準との整合を図る。特に、構造物相互の取り合いについて整合性の照査を行う。</p>
報 告 書 作 成	設計業務成果概要書、設計計算書等、設計図面、数量計算書、概算工事費、施工計画書、現地踏査結果等のとりまとめを行い、報告書を作成する。

1 4 - 7 - 2 - 2 電算プログラム使用の適用範囲

単価コード	範囲 種別	適 用 の 範 囲	使用料
ZAF3462000	排 水 工	<p>1. φ600mm～φ2600mmかつ土被り4.0m以下とする。</p> <p>2. 各構造部は本体、呑口・吐口胸壁、呑口・吐口翼壁</p>	円／基

- (注) 1. トラフ等のオープン構造形式には適用しない。
2. 本体、呑口吐口胸壁、呑口吐口翼壁を含む応力計算、設計図、材料計算までの一式単価である。
3. 電算プログラム使用料は、その他原価及び一般管理費等の対象としない。

14-8-3-3 標準歩掛

14-8-3-3-1 排水工詳細設計（柔構造形式）

施工単価コード	DXC47501~DXC47515
---------	-------------------

施工単価コード（概算工事費）	DXC48500
----------------	----------

標準 RC構造：一連当り断面積2m²以上7m²以下×1連×40m (1箇所当り)

区 分		職 種	直 接 人 件 費					
			技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員
設 計 計 画			0.6	1.9	1.2			
現 地 踏 査			0.6	1.2	1.4			
基本事項の決定		0.7	2.4	5.0	8.0			
景 観 設 計			0.7	1.8	2.4			
構 造 設 計	設計条件の確認		0.6	2.2	3.5			
	基 礎 工		1.8	4.2	8.9	3.1		
	本 体 工				9.4	17.0	23.6	
	高水護岸・低水護岸及び土工				2.1	3.9	5.5	
施 工 計 画			0.7	1.8	5.5			
仮設構造物設計			0.7	2.5	5.8			
数 量 計 算					2.5	5.9	9.0	
概算工事費	「14-10 河川・砂防構造物詳細設計概算工事費算出」による。							
照 査		0.7	1.2	2.3	3.6	2.1		
報 告 書 作 成			1.3	3.1	4.1			
合 計			1.4	10.6	26.0	58.4	32.0	38.1

(注) 1. 予備設計を行わないで詳細設計を行う場合は、「14-8-1 適用範囲及び留意事項の5)」によるものとする。

2. 施工計画の歩掛は、地盤処理工を含まない場合である。

3. 電算機使用料は、直接人件費の2%を直接経費として計上する。

4. 景観設計において特別の検討を行う場合は、下記の歩掛を加算する。

なお、「普通の検討」と「特別の検討」の区分は「14-8-3-1 作業区分」によるものとする。

5. 照査には、赤黄チェックによる照査も含む。

区 分		職 種	直 接 人 件 費				
			技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C
景観設計（特別の検討）			1.3	2.9	5.9		

6. 構造設計において地盤処理工（置換基礎）の検討を行う場合は、下記の歩掛を加算する。

区 分		職 種	直 接 人 件 費				
			技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C
構造設計 地盤処理工（置換基礎）			0.7	1.2	3.5		

7. 施工計画で地盤処理工（置換基礎）を含む場合は、下記の歩掛を加算する。

区分	職 種	直 接 人 件 費					
		技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員
施工計画 地盤処理工（置換基礎）			0.6	1.2	2.3		

14-8-3-3-2 排水工詳細設計（剛支持直接基礎）

施工単価コード	DXC47701～DXC47715
---------	-------------------

施工単価コード（概算工事費）	DXC48500
----------------	----------

標準 RC構造：一連当り断面積5m²以下×1連×2スパン (1箇所当り)

区分	職 種	直 接 人 件 費					
		技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員
設 計 計 画			0.6	1.9	1.2		
現 地 踏 査			0.6	1.2	1.4		
基本事項の決定		0.7	1.8	2.5	4.1		
景 観 設 計			0.7	1.8	2.4		
構 造 設 計	設計条件の確認		0.6	2.2	2.4		
	基 礎 工			1.9	2.3	3.0	
	本 体 工			2.5	6.3	12.8	14.9
	高水護岸・低水護岸及び土工				2.1	3.9	5.5
施 工 計 画			0.7	1.8	2.9	2.4	
仮設構造物設計			0.7	2.5	5.3		
数 量 計 算					1.9	4.6	8.0
概 算 工 事 費	「14-10 河川・砂防構造物詳細設計概算工事費算出」による。						
照 査		0.7	1.2	2.3	3.5	2.0	
報 告 書 作 成			1.3	3.1	4.1		
合 計		1.4	8.2	23.7	39.9	28.7	28.4

- (注) 1. 予備設計を行わないで詳細設計を行う場合は、「14-8-1 適用範囲及び留意事項の5)」によるものとする。
2. 施工計画の歩掛は、地盤処理工を含まない場合である。
3. 電算機使用料は、直接人件費の2%を直接経費として計上する。
4. 景観設計において特別の検討を行う場合は、「14-8-3-3-1の注) 4.」による。
5. 構造設計において地盤処理工（置換基礎）の検討を行う場合は、「14-8-3-3-1の注) 6.」による。
6. 施工計画で地盤処理工（置換基礎）を含む場合は、「14-8-3-3-1の注) 7.」による。
7. 照査には、赤黄チェックによる照査も含む。

14-8-3-3-3 排水工詳細設計（柔構造形式（電算タイプ））

本歩掛は「7-3-2 電算プログラム使用の適用範囲」の排水工を電算プログラムにより処理する上で、補完のために別途委託業務が必要な場合に適用する。

施工単価コード	DXC47601~DXC47616
---------	-------------------

施工単価コード（概算工事費）	DXC48500
----------------	----------

標準 RC構造：一連当り断面積 2 m²以上 7 m²以下×1連×4.0 m （1箇所当り）

区分	職 種	直 接 人 件 費					
		技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員
設 計 計 画			0.6	1.9	1.2		
現 地 踏 査			0.6	1.2	1.4		
基本事項の決定		0.6	2.3	4.8	7.8		
景 観 設 計			0.7	1.8	2.4		
構 造 設 計	設計条件の確認		0.6	2.2	3.5		
	基 礎 工		1.8	4.2	8.9	3.1	
	高水護岸・低水護岸及び土工				1.9	3.7	5.3
	呑口部修正		0.6	1.2	1.4		
	吐口部修正		0.6	1.2	1.4		
施 工 計 画			0.7	1.8	5.5		
仮設構造物設計			0.7	2.5	5.8		
数 量 計 算					1.3	3.0	5.0
概算工事費	「14-10 河川・砂防構造物詳細設計概算工事費算出」による。						
照 査		0.7	1.2	2.3	3.6	2.1	
報 告 書 作 成			1.3	3.1	4.1		
合 計		1.3	11.7	28.2	50.2	11.9	10.3

- (注) 1. 予備設計を行わないで詳細設計を行う場合は、「14-8-1 適用範囲及び留意事項の5)」によるものとする。
2. 呑口・吐口の設計については、電算プログラムで対応できるタイプ以外のコンクリート構造の呑吐口について計上すること。
3. 基礎杭の設計を必要とする場合は別途計上すること。
4. 施工計画の歩掛は、地盤処理工を含まない場合である。
5. 景観設計において特別の検討を行う場合は、「14-8-3-3-1の注) 4. 」による。
6. 構造設計において地盤処理工（置換基礎）の検討を行う場合は、「14-8-3-3-1の注) 6. 」による。
7. 施工計画で地盤処理工（置換基礎）を含む場合は、「14-8-3-3-1の注) 7. 」による。
8. 電算プログラム使用料として「14-8-3-5-1 電算プログラム使用による設計費」を別途計上すること。
9. 照査には、赤黄チェックによる照査も含む。

14-8-3-3-4 排水工詳細設計（剛支持直接基礎（電算タイプ））

本歩掛は「7-3-2 電算プログラム使用の適用範囲」の排水工を電算プログラムにより処理する上で、補完のために別途委託業務が必要な場合に適用する。

施工単価コード	DXC47901～DXC47917
施工単価コード（概算工事費）	DXC48500

標準 RC構造：一連当り断面積5m²以下×1連×2スパン （1箇所当り）

区 分		職 種	直 接 人 件 費				
			技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C
設 計 計 画			0.6	1.9	1.2		
現 地 踏 査			0.6	1.2	1.4		
基本事項の決定		0.6	1.8	2.4	3.9		
景 観 設 計			0.7	1.8	2.4		
構 造 設 計	設計条件の確認		0.6	2.2	2.4		
	基 礎 工			1.9	2.3	3.0	
	軀 体 工				1.2	2.5	4.7
	高水護岸・低水護岸及び土工				1.9	3.7	5.3
	呑口部修正		0.6	1.2	1.4		
	吐口部修正		0.6	1.2	1.4		
施 工 計 画			0.7	1.8	2.9	2.4	
仮設構造物設計			0.7	2.5	5.3		
数 量 計 算					1.2	2.6	4.4
概 算 工 事 費	「14-10 河川・砂防構造物詳細設計概算工事費算出」による。						
照 査		0.7	1.2	2.3	3.5	2.0	
報 告 書 作 成			1.3	3.1	4.1		
合 計		1.3	9.4	23.5	36.5	16.2	14.4

- (注) 1. 予備設計を行わないで詳細設計を行う場合は、「14-8-1 適用範囲及び留意事項の5)」によるものとする。
2. 呑口・吐口の設計については、電算プログラムで対応できるタイプ以外のコンクリート構造の呑吐口について計上すること。
3. 基礎杭の設計を必要とする場合は別途計上すること。
4. 施工計画の歩掛は、地盤処理工を含まない場合である。
5. 景観設計において特別の検討を行う場合は、「14-8-3-3-1の注) 4.」による。
6. 構造設計において地盤処理工（置換基礎）の検討を行う場合は、「14-8-3-3-1の注) 5.」による。
7. 施工計画で地盤処理工（置換基礎）を含む場合は、「14-8-3-3-1の注) 6.」による。
8. 電算プログラム使用料として「14-8-3-5-1 電算プログラム使用による設計費」を別途計上すること。
9. 照査には、赤黄チェックによる照査も含む。

14-10 河川・砂防構造物詳細設計概算工事費算出

(1) 適用範囲

護岸詳細設計、樋門詳細設計、自動開閉樋門詳細設計、排水工実施設計及び詳細設計、砂防堰堤詳細設計、並びに急傾斜地崩壊防止施設詳細設計における概算工事費算出に適用する。

(2) 標準歩掛

14-10-1 概算工事費

施工単価コード	DXC48500
---------	----------

(1 業務当り)

職 種  区 分	直 接 人 件 費						
	主 任 技術者	技師長	主 任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員
概 算 工 事 費				1.1	2.8	8.0	

- (注) 1. 見積必要品目がある場合は、実施時点での見積徴取作業を含む。  
2. 各詳細設計における標準歩掛の補正は適用しない。

作業区分		作業の範囲
施設設計	基礎工設計	基礎の支持力及び長期的な湛水の可能性を検討し、パイピング対策が必要な場合は、その対策について設計を行う。 堰堤が高く長期的に湛水することが考えられる場合にはコンソリデーショングラウチング及びカーテングラウチング及び置換工等の設計をおこない、施設設計図面を作成する。
	景観設計	自然と地域になじんだ施設の設計を行う。
施工計画・仮設構造物設計		〈施工計画〉 設計図書に基づき、施工方法、施工順序を考慮し、掘削計画、現場内道路及びコンクリート打設計画の概略施工計画を立案する。 なお、施工計画書には、設計と不可分な施工上の留意点について取りまとめ記載する。 〈仮設構造物設計〉 設計図書に基づき、工事施工に必要な河川切り回し計画、仮排水路の転流工の概略設計を行う。
数量計算		詳細設計で作成した設計図に基づき、土木工事数量算出要領により数量計算を行い、工種別、区間別にとりまとめを行う。
概算工事費		詳細設計として作成した設計図及び数量等に基づき概算工事費を算出する。
照査		1) 設計条件の決定に際し、実施方針、現地の状況、既存資料等の確認を行い、その内容が適切であるか照査を行う。 2) 設計条件及び現地条件等、基本条件の整理が終了した段階で、設計基本条件の運用と手順について照査を行う。 3) 詳細設計に必要な設計詳細条件の設計方針・設計手段及び全体一般図についてその妥当性について照査を行う。 4) すべての成果品について正確性、適切性及び、整合性に着目し照査を行う。
総合検討		施設設計について、総合的な検討を行う。
報告書作成		設計成果として、設計報告書、設計図、数量計算書を取りまとめ報告書の作成を行う。
現地踏査		貸与資料を基に現地踏査を行い、計画予定地周辺の溪流の状況、河床材料の粒径、地形、地質、周辺構造物及び周辺の土地利用状況等を確認し、合わせて工事用道路、施工ヤード等の施工の観点から現地状況を把握し整理を行う。

15-1-2-2 概算工事費

「14-10 河川・砂防構造物詳細設計概算工事費算出」によるものとする。(施工単価コード:DXC48500)

## 17-2 詳細設計

### 17-2-1 適用範囲

急傾斜地崩壊対策工事における設計業務において、場所打ち法砕工、アンカー付場所打法砕工（グラウンドアンカー併用・ロックボルト併用）、プレキャスト法砕工、土留柵工、擁壁工の詳細設計を行う場合に適用する。なお、工法比較検討を行う必要がある場合は、17-1 予備設計による。

また、設計条件等は北海道建設部河川砂防課監修「急傾斜地崩壊防止工事技術指針（案）」に基づく。

### 17-2-2 作業区分

急傾斜地崩壊防止施設詳細設計歩掛における作業区分は以下のとおりとする。

作業区分	作 業 の 範 囲
設 計 計 画	業務内容の目的・主旨を把握したうえで、設計図書に示す業務内容を確認し、業務計画を作成する。
現 地 踏 査	設計範囲の地形や立地条件を目視により確認し、斜面状況及び周辺の状況を把握する。
設計条件の確認	設計図書に示された地形・地質等、設計・施工上の基本条件について確認を行うとともに、関係機関との対外協議の既往資料及び貸与資料を当該設計用に整理する。
設 計 計 算	予備設計で決定された工法について、その主要構造寸法に基づき、設計図書で指示された設計条件に従い、安定計算及び構造計算を行う。なお、擁壁工、アンカー付場所打ち法砕工(グラウンドアンカー併用・ロックボルト併用)、土留柵工については、すべり安定解析を行う。
設 計 図	設計計算から定められた構造形状や構造細目から、平面図、横断図、解析断面図、対策施設の構造一般図、詳細図、展開図を作成する。また、排水工や転落防止柵等の附属施設の設計図、単管足場等の仮設工図も合わせて作成する。
数 量 計 算	決定した対策施設の詳細形状に対して、設計図書に記載する方法により、その数量を詳細に計算し、工種別、区間別にとりまとめを行う。
概 算 工 事 費	詳細設計として作成した設計図及び数量等に基づき概算工事費を算出する。

17-2-3 場所打ち法枠工設計

(1) 標準歩掛

17-2-3-1 場所打ち法枠工設計

施工単価コード	DXC62201～DXC62208
施工単価コード（概算工事費）	DXC48500

（1箇所当り）

区 分 \ 職 種	直 接 人 件 費				
	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員
設 計 計 画	0.6	0.7			
現 地 踏 査		0.6	0.8		
設 計 条 件 の 確 認		0.6			
設 計 計 算		0.8	2.1	2.5	
設 計 図			2.4	6.1	5.8
数 量 計 算			2.5	5.4	5.1
概 算 工 事 費	「14-10 河川・砂防構造物詳細設計概算工事費算出」による。				
照 査	0.6	0.6	1.0	1.0	
報 告 書 作 成			0.5	0.6	0.7
合 計	1.2	3.3	9.3	15.6	11.6

- (注) 1 予備設計と同一業務の場合、現地踏査及び設計条件の確認は計上しない。  
 2 予備設計を行っている場合、標準歩掛に90%を乗じて適用する。  
 3 電算機使用料は、直接人件費の2%を直接経費として計上する。  
 4 補正係数の適用及び予備設計の取り扱いについては、17-5 急傾斜地崩壊防止施設設計歩掛の運用を参照すること。  
 2 照査には、赤黄チェックによる照査も含む。

(2) 標準歩掛の補正

a) 設計延長による変化率

設 計 延 長	100m 以下	101 ～200m	201 ～300m	301 ～400m	401 ～500m	501m 以上
補 正 係 数	-30%	0%	30%	60%	90%	120%

(注) 現地踏査、設計計算、設計図、数量計算及び照査に適用する。

b) 崖高による変化率

崖 高	15m以下	16 ～25m	26 ～35m	36 ～45m	46 ～55m	56m 以上
補 正 係 数	-10%	-5%	0%	5%	10%	15%

(注) 現地踏査、設計計算、設計図、数量計算及び照査に適用する。

17-2-4 アンカー付場所打ち法枠工設計（グラウンドアンカー併用・ロックボルト併用）

(1) 標準歩掛

17-2-4-1 アンカー付場所打ち法枠工設計（グラウンドアンカー併用・ロックボルト併用）

施工単価コード	DXC62401～DXC62408
施工単価コード（概算工事費）	DXC48500

（1箇所当り）

職 種 区 分	直 接 人 件 費				
	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員
設 計 計 画	0.6	0.7			
現 地 踏 査		0.6	0.7		
設 計 条 件 の 確 認		0.6			
設 計 計 算		3.5	5.5	7.0	
設 計 図			3.8	5.6	9.4
数 量 計 算			2.4	4.7	7.2
概 算 工 事 費	「14-10 河川・砂防構造物詳細設計概算工事費算出」による。				
照 査	1.1	1.3	1.3	1.3	
報 告 書 作 成			0.5	1.2	1.3
合 計	1.7	6.7	14.2	19.8	17.9

- (注) 1 予備設計と同一業務の場合、現地踏査及び設計条件の確認は計上しない。  
 2 予備設計を行っている場合、標準歩掛に90%を乗じて適用する。  
 3 ロックボルト併用を標準とし、グラウンドアンカー併用の場合は標準歩掛に110%を乗じて適用する。  
 4 電算機使用料は、直接人件費の2%を直接経費として計上する。  
 5 補正係数の適用及び予備設計の取り扱いについては、17-5 急傾斜地崩壊防止施設設計歩掛の運用を参照すること。  
 6 照査には、赤黄チェックによる照査も含む。

(2) 標準歩掛の補正

a) 設計延長による変化率

設 計 延 長	100m 以下	101 ～200m	201 ～300m	301 ～400m	401 ～500m	501m 以上
補 正 係 数	-20%	0%	30%	60%	80%	100%

(注) 現地踏査、設計計算、設計図、数量計算及び照査に適用する。

b) 崖高による変化率

崖 高	15m以下	16 ～25m	26 ～35m	36 ～45m	46 ～55m	56m以上
補 正 係 数	-20%	-10%	0%	10%	20%	30%

(注) 現地踏査、設計計算、設計図、数量計算及び照査に適用する。

17-2-5 プレキャスト法枠工設計

(1) 標準歩掛

17-2-5-1 プレキャスト法枠工設計

施工単価コード	DXC62601~DXC62607
施工単価コード(概算工事費)	DXC48500

(1箇所当り)

職 種 区 分	直 接 人 件 費				
	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員
設 計 計 画	0.6	0.6			
現 地 踏 査		0.6	0.8		
設 計 条 件 の 確 認		0.6			
設 計 図			1.2	2.4	2.8
数 量 計 算			1.2	2.3	2.6
概 算 工 事 費	「14-10 河川・砂防構造物詳細設計概算工事費算出」による。				
照 査	0.6	0.6	1.0	1.0	
報 告 書 作 成			0.5	0.6	0.7
合 計	1.2	2.4	4.7	6.3	6.1

- (注) 1 予備設計と同一業務の場合、現地踏査及び設計条件の確認は計上しない。  
 2 予備設計を行っている場合、標準歩掛に90%を乗じて適用する。  
 3 電算機使用料は、直接人件費の2%を直接経費として計上する。  
 4 補正係数の適用及び予備設計の取り扱いについては、17-5 急傾斜地崩壊防止施設設計歩掛の運用を参照すること。  
 5 照査には、赤黄チェックによる照査も含む。

(2) 標準歩掛の補正

a) 設計延長による変化率

設 計 延 長	100m 以下	101 ~200m	201 ~300m	301 ~400m	401 ~500m	501m 以上
補 正 係 数	-20%	0%	30%	55%	80%	100%

(注) 現地踏査、設計図、数量計算及び照査に適用する。

b) 崖高による変化率

崖 高	15m以下	16 ~25m	26 ~35m	36 ~45m	46 ~55m	56m以上
補 正 係 数	-15%	-10%	0%	10%	25%	40%

(注) 現地踏査、設計図、数量計算及び照査に適用する。

17-2-6 土留柵工設計

(1) 標準歩掛

17-2-6-1 土留柵工設計

施工単価コード	DXC62801~DX62808
施工単価コード(概算工事費)	DXC48500

(1箇所当り)

職 種 区 分	直 接 人 件 費				
	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員
設 計 計 画	0.6	0.6			
現 地 踏 査		0.6	0.6		
設 計 条 件 の 確 認		0.6			
設 計 計 算		2.2	3.3	5.1	
設 計 図			3.7	4.8	9.3
数 量 計 算			2.1	3.5	7.0
概 算 工 事 費	「14-10 河川・砂防構造物詳細設計概算工事費算出」による。				
照 査	1.1	1.3	1.3	1.3	
報 告 書 作 成			0.6	1.2	1.2
合 計	1.7	5.3	11.6	15.9	17.5

- (注) 1 予備設計と同一業務の場合、現地踏査及び設計条件の確認は計上しない。  
 2 予備設計を行っている場合、標準歩掛に90%を乗じて適用する。  
 3 電算機使用料は、直接人件費の2%を直接経費として計上する。  
 4 補正係数の適用及び予備設計の取り扱いについては、17-5 急傾斜地崩壊防止施設設計歩掛の運用を参照すること。  
 5 照査には、赤黄チェックによる照査も含む。

(2) 標準歩掛の補正

a) 設計延長による変化率

設 計 延 長	100m 以下	101 ~200m	201 ~300m	301 ~400m	401 ~500m	501m 以上
補 正 係 数	-20%	0%	30%	60%	80%	100%

(注) 現地踏査、設計計算、設計図、数量計算及び照査に適用する。

b) 崖高による変化率

崖 高	15m以下	16 ~25m	26 ~35m	36 ~45m	46 ~55m	56m以上
補 正 係 数	-20%	-10%	0%	10%	20%	30%

(注) 現地踏査、設計計算、設計図、数量計算及び照査に適用する。

17-2-7 重力式擁壁工設計

(1) 標準歩掛

17-2-7-1 重力式擁壁工設計

施工単価コード	DXC63001~DXC63008
施工単価コード(概算工事費)	DXC48500

(1箇所当り)

職 種 区 分	直 接 人 件 費				
	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員
設 計 計 画	0.6				
現 地 踏 査		0.6	0.6		
設 計 条 件 の 確 認		0.6			
設 計 計 算			0.6	1.3	
設 計 図			1.3	1.7	1.3
数 量 計 算				0.6	1.3
概 算 工 事 費	「14-10 河川・砂防構造物詳細設計概算工事費算出」による。				
照 査		0.6	0.8	0.8	
報 告 書 作 成			0.5	0.6	0.7
合 計	0.6	1.8	3.8	5.0	3.3

- (注) 1 予備設計と同一業務の場合、現地踏査及び設計条件の確認は計上しない。  
 2 予備設計を行っている場合、標準歩掛に90%を乗じて適用する。  
 3 電算機使用料は、直接人件費の2%を直接経費として計上する。  
 4 補正係数の適用及び予備設計の取り扱いについては、17-5 急傾斜地崩壊防止施設設計歩掛の運用を参照すること。  
 5 照査には、赤黄チェックによる照査も含む。

(2) 標準歩掛の補正

設計延長による変化率

設 計 延 長	100m 以下	101 ~200m	201 ~300m	301 ~400m	401 ~500m	501m 以上
補 正 係 数	-25%	0%	25%	50%	75%	100%

(注) 現地踏査、設計計算、設計図、数量計算及び照査に適用する。

17-2-8 井桁式擁壁工設計

(1) 標準歩掛

17-2-8-1 井桁式擁壁工設計

施工単価コード	DXC63201~DXC63208
施工単価コード(概算工事費)	DXC48500

(1箇所当り)

職 種 区 分	直 接 人 件 費				
	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員
設 計 計 画	0.6	0.6			
現 地 踏 査		0.6	0.6		
設 計 条 件 の 確 認		0.6			
設 計 計 算			1.7	1.7	
設 計 図			1.3	1.8	1.7
数 量 計 算				0.6	1.3
概 算 工 事 費	「14-10 河川・砂防構造物詳細設計概算工事費算出」による。				
照 査		0.6	0.8	0.8	
報 告 書 作 成			0.5	0.6	0.7
合 計	0.6	2.4	4.9	5.5	3.7

- (注) 1 予備設計と同一業務の場合、現地踏査及び設計条件の確認は計上しない。  
 2 予備設計を行っている場合、標準歩掛に90%を乗じて適用する。  
 3 電算機使用料は、直接人件費の2%を直接経費として計上する。  
 4 補正係数の適用及び予備設計の取り扱いについては、17-5 急傾斜地崩壊防止施設設計歩掛の運用を参照すること。  
 5 照査には、赤黄チェックによる照査も含む。

(2) 標準歩掛の補正

設計延長による変化率

設 計 延 長	100m 以下	101 ~200m	201 ~300m	301 ~400m	401 ~500m	501m 以上
補 正 係 数	-25%	0%	25%	50%	75%	100%

(注) 現地踏査、設計計算、設計図、数量計算及び照査に適用する。

## 調 査 計 画 編

〔1〕 調査・計画業務委託積算基準	計積基	-	1
〔2〕 道路調査	計道調	-	1
1. 道路環境調査	計道調	-	1
2. 橋の耐震補強設計	計道調	-	28
3. 道路防災総点検業務	計道調	-	46
4. 道路防災総点検交付金（ソフト）事業業務	計道調	-	52
5. 橋梁定期点検	計道調	-	54
6. 路面性状調査	計道調	-	68
7. 舗装補修工法検討業務	計道調	-	72
8. 橋梁補修設計	計道調	-	73
9. 横断排水施設点検業務委託積算基準	計道調	-	80
〔3〕 河川調査	計河調	-	1
1. 河川水辺環境調査（河川空間利用実態調査）	計河調	-	1
2. 水文調査	計河調	-	2
3. 水質調査	計河調	-	26
4. 洪水痕跡調査	計河調	-	29
〔4〕 河川計画	計河川	-	1
1. 河川計画	計河川	-	1
2. 浸水想定区域図作成	計河川	-	21
3. 航空測量調査	計河川	-	34
〔5〕 砂防等調査・計画	計砂防	-	1
1. 砂防調査	計砂防	-	1
2. 砂防計画	計砂防	-	12
3. 土砂災害警戒区域等基礎調査	計砂防	-	15
4. 海岸調査・計画	計砂防	-	39
〔6〕 保安林解除申請図書作成業務等委託積算基準	計保安	-	1
〔7〕 発注者支援業務等	計発支	-	1
1. 施工管理業務	計発支	-	1
2. 交付申請等に係る資料作成業務	計発支	-	3
3. 現場技術業務	計発支	-	6

## 〔2〕 道 路 調 査

### 目 次

1. 道路環境調査	計道調	-	1
1-1 道路環境調査業務等積算基準	計道調	-	1
1-2 打合せ	計道調	-	1
1-3 地域環境に係る基礎的項目に関する調査	計道調	-	2
1-4 大気質（予測及び評価並びに環境要素の検討）	計道調	-	4
1-5 水質汚濁（既存資料調査）	計道調	-	6
1-6 水質汚濁（現地調査）	計道調	-	6
1-7 騒音及び振動（予測及び評価並びに環境保全対策の検討）	計道調	-	8
1-8 騒音及び振動（現地調査）	計道調	-	11
1-9 地盤沈下（既存資料調査）	計道調	-	15
1-10 地盤沈下（現地調査）	計道調	-	15
1-11 地盤沈下（予測及び評価並びに環境保全対策の検討）	計道調	-	15
1-12 地形・地質（既存資料調査）	計道調	-	16
1-13 地形・地質（現地調査）	計道調	-	17
1-14 地形・地質（予測及び評価並びに環境保全対策の検討）	計道調	-	18
1-15 植物（既存資料調査）	計道調	-	18
1-16 植物（現地調査）	計道調	-	19
1-17 植物（予測及び評価並びに環境保全対策の検討）	計道調	-	20
1-18 動物（既存資料調査）	計道調	-	21
1-19 動物（現地調査）	計道調	-	21
1-20 動物（予測及び評価並びに環境保全対策の検討）	計道調	-	23
1-21 景観（既存資料調査）	計道調	-	23
1-22 景観（現地調査）	計道調	-	24
1-23 景観（予測及び評価並びに環境保全対策の検討）	計道調	-	25
1-24 報告書作成	計道調	-	25
2. 橋の耐震補強設計	計道調	-	28
2-1 橋の耐震補強設計	計道調	-	28
2-2 業務等の費用	計道調	-	34
2-3 資料収集	計道調	-	34
2-4 耐震性能照査	計道調	-	39
2-5 耐震補強検討	計道調	-	41
2-6 耐震補強設計	計道調	-	45(1)
2-7 積算例	計道調	-	45(7)

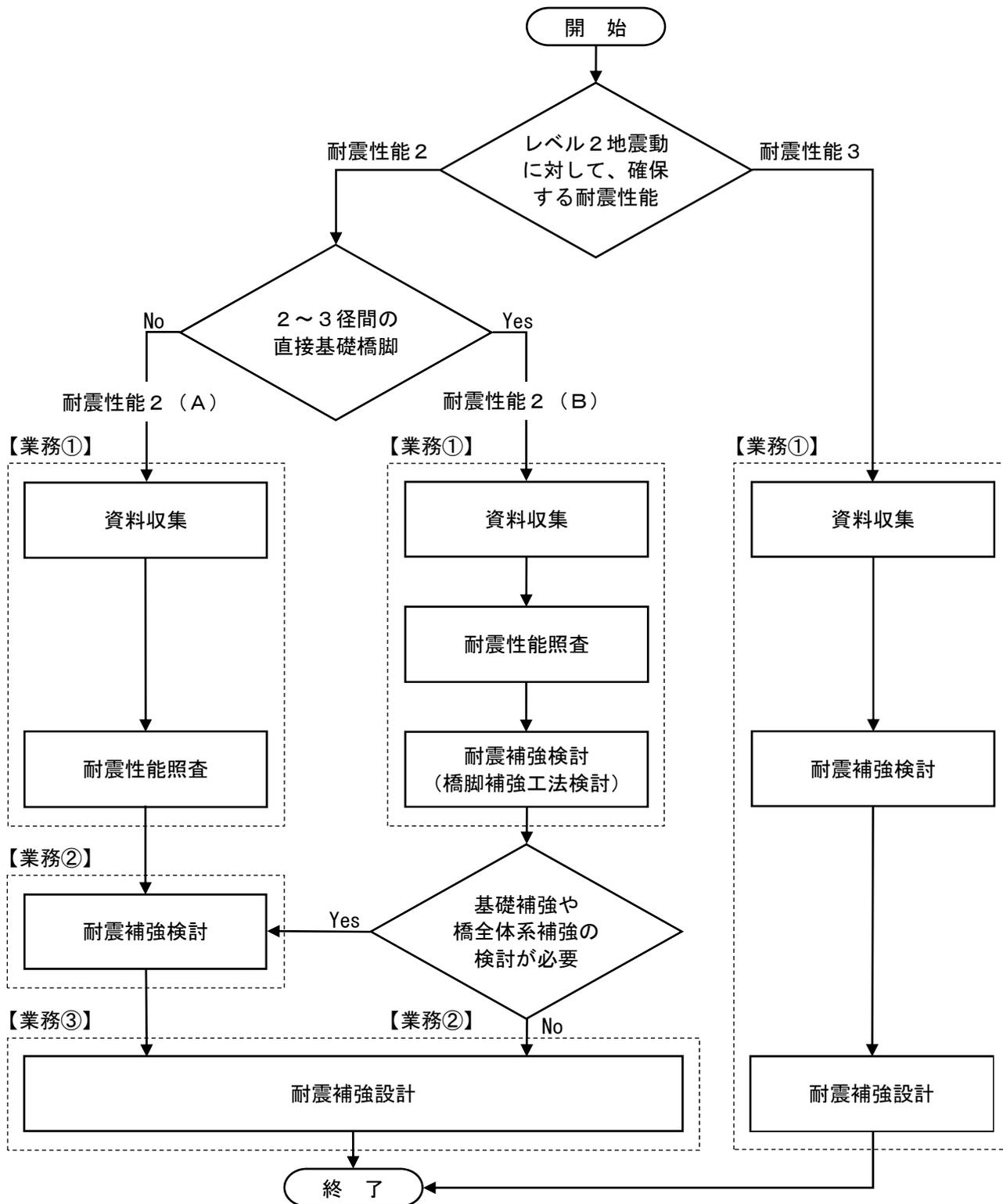
(次ページへ続く)

<b>8. 橋梁補修設計</b> .....	計道調	-	73
8-1 適用範囲 .....	計道調	-	73
8-2 業務等の費用及び積算 .....	計道調	-	73
8-3 損傷箇所の確認調査 .....	計道調	-	73
8-4 ロープアクセス調査 .....	計道調	-	74
8-5 鉄筋腐食度はつり調査 .....	計道調	-	76
8-6 PC桁の補修設計 .....	計道調	-	76
8-7 RC床版補修設計 .....	計道調	-	77
8-8 鋼橋塗装塗り替え設計 .....	計道調	-	77
8-9 伸縮装置取り替え設計 .....	計道調	-	78
8-10 支承補修設計 .....	計道調	-	78
8-11 支承取り替え設計 .....	計道調	-	78
8-12 地覆・防護柵補修設計 .....	計道調	-	79(1)
8-13 地覆・防護柵部分補修設計 .....	計道調	-	79(1)
8-14 防護柵塗装塗り替え設計 .....	計道調	-	79(2)
8-15 地覆補修設計 .....	計道調	-	79(2)
8-16 橋面防水設計 .....	計道調	-	79(3)
8-17 下部工補修設計 .....	計道調	-	79(3)
8-18 排水装置補修設計 .....	計道調	-	79(3)
8-19 施工計画 .....	計道調	-	79(4)
8-20 概算工事費算出 .....	計道調	-	79(4)
<b>9. 横断排水施設点検業務委託積算基準</b> .....	計道調	-	80
9-1 適用範囲 .....	計道調	-	80
9-2 業務委託料 .....	計道調	-	80
9-3 業務内容 .....	計道調	-	81
9-4 標準歩掛 .....	計道調	-	81
9-5 打合せ協議 .....	計道調	-	83
9-6 安全費 .....	計道調	-	83
9-7 点検(外業)の旅費交通費積算例 .....	計道調	-	83

## 2. 橋の耐震補強設計

### 2-1 橋の耐震補強設計

#### (1) 設計フロー



注) 1. 上図の破線[ ]は、標準的な業務単位を示す。

2. 耐震性能2において、耐震補強検討の結果より橋の架替えが必要と判断される場合は、橋梁予備設計や道路概略設計(道路予備設計)を適宜検討すること。

(2) 作業内容

耐震性能2 (A) 【業務①】

区分		作業内容	計上
資料収集	現地踏査	地形・地質を把握し、各種耐震補強対策の実施を想定し現地状況を確認・把握をする。必要に応じて橋脚まわりの桁下高をポールやテープを用いて計測するなどの簡易的な土工調査を含む。	◎
	既往資料収集	対象橋梁の竣工図面、設計計算書、その他関連資料の収集・整理を行う。	◎
	上部構造形状調査	下部構造に作用する上部構造反力の算出に必要な範囲、支承及び落橋防止システムを設置する想定箇所を調査する。5m梯子程度以下で調査可能な箇所に適用する。	○
	橋脚・橋台形状調査	地表面又は水面より突出している部分の橋脚・橋台形状、支承及び落橋防止システムを設置する想定箇所を調査する。5m梯子程度以下で調査可能な箇所に適用する。	○
	非破壊調査及びはつり調査	地表面又は水面より突出している部分の橋脚・橋台の配筋を調査する。柱の主要鉄筋のほか、橋座、上梁、ラーメン部材などの耐力照査を行うすべての主要鉄筋について鉄筋径やかぶりを調査する。また支承及び落橋防止システムを新たに設置する箇所を想定し調査する。	○
	図面複製	上部構造反力や橋脚補強など、耐震補強対策設計に必要な土工図及び一般図などの作成を行う。また既設橋梁の図面(PDFや調査図)をCADデータ化により複製する。	◎
	上部構造反力算出	上部構造図面から上部構造重量を求め上部構造反力を算出する。	◎
	橋脚復元設計	橋脚の配筋図又は設計計算書がなく、非破壊調査、はつり調査により配筋が復元できない場合に、架橋当時の基準などにより柱部材の復元設計を行う。必要に応じて橋台を含む。	○
耐震性能照査	橋脚の耐震性能照査	既設橋脚の柱、張出しばり及びラーメン橋脚などの部材照査、及び橋脚の安定照査を行う。必要に応じてフーチングの部材照査を含む。	◎
	動的照査(耐震性能照査)	既設橋の解析モデルにより動的解析を行い、各部材に生じる応答値により橋の耐震性能を照査する。	◎

- 注) 1. ◎の工種は標準的に計上する項目を示す。  
○の工種は必要に応じて計上すること。
2. 設計に必要な地質条件が不足する場合は地質調査を別途計上すること。
3. 設計や施工計画に必要な現地条件が不足する場合は測量調査を別途計上すること。

耐震性能2 (A) 【業務②】

区分		作業内容	計上
耐震補強 検討	橋脚の補強工法 検討	耐震性能照査の結果から、必要となる耐震補強対策として橋脚の補強工法 検討を行う。ただし、建築限界や河積阻害率など補強規模に関わる制限を受け ず、補強工法が明確となる場合は計上しない。	◎
	動的照査（耐震 補強検討）	補強部材を含め各部材の形状・剛性から設定する解析モデルなどを用いて 動的照査を行い、各部材に発生する応答値により耐震補強検討を行う。	◎
	既設基礎の照査	橋脚の補強を行う場合に、その補強形状をモデルとして、地震時に基礎が限 界状態以下に留まるかを照査する。直接基礎の場合は適用しない。	◎
	基礎の補強工法 検討	既設基礎の照査の結果、補強が必要となる場合は基礎の補強工法検討を行 う。	○
	支承形式検討	橋全体系の補強の検討が必要な場合に支承形式の検討を行う。また、落橋防 止装置の設置条件など支承周りの構造との取合いの検討を行う。	◎
	関係機関との協 議資料作成（耐 震補強検討）	設計図書に基づき関係機関との協議用資料、説明用資料の作成を行う。	◎

注) 1. ◎の工種は標準的に計上する項目を示す。  
○の工種は必要に応じて計上すること。

耐震性能2 (A) 【業務③】

区分		作業内容	計上
耐震補強 設計	橋脚の耐震補強 設計	耐震補強検討の結果に基づき、橋脚の耐震補強設計を実施する。本設計で は、柱軸方向鉄筋の段落し部や基部の補強設計など柱部材全域にわたる設計 のほか、張出式橋脚の上梁やラーメン式橋脚のラーメン部材など柱以外の各 種部材に対しても設計を行う。直接基礎のフーチングの補強を含む。	◎
	基礎の耐震補強 設計	耐震補強検討の結果に基づき、基礎の耐震補強設計を行う。	○
	動的照査（耐震 補強設計）	補強部材を含め各部材の形状・剛性から設定する解析モデルなどを用いて 動的照査を行い、各部材に発生する応答値により耐震補強設計を行う。	◎
	支承取り替え設 計	既設支承の取り替え設計又は機能分離構造を追加する設計を行う。仮受け 構造・反力の算出などのほか、取付部の照査を含む。	◎
	落橋防止システ ム設計	落橋防止システムの検討・設計を行う。本設計では、桁かかり長の照査、沓 座拡幅設計、落橋防止構造及び横変位拘束構造の設計のほか、取付部の照査を 含む。	○
	施工計画（耐震 補強設計）	構造物の規模、道路・鉄道の交差条件、河川の渡河条件及び、計画工程表、 施工順序、施工方法、資材・部材の搬入計画、仮設備計画など、工事費積算に あたって必要な計画を記載した施工計画書を作成する。なお、施工計画書には 設計と不可分な施工上の留意点について取りまとめ記載する。	◎
	関係機関との協 議資料作成（耐 震補強設計）	設計図書に基づき関係機関との協議用資料、説明用資料の作成を行う。	◎

注) 1. ◎の工種は標準的に計上する項目を示す。  
○の工種は必要に応じて計上すること。  
2. 施工計画の実施にあたり、仮設構造物設計が必要な場合は別途計上すること。

耐震性能2 (B) 【業務①】

区分	作業内容	計上	
資料収集	現地踏査	地形・地質を把握し、各種耐震補強対策の実施を想定し現地状況を確認・把握をする。必要に応じて橋脚まわりの桁下高をポールやテープを用いて計測するなどの簡易的な土工調査を含む。	◎
	既往資料収集	対象橋梁の竣工図面、設計計算書、その他関連資料の収集・整理を行う。	◎
	上部構造形状調査	下部構造に作用する上部構造反力の算出に必要な範囲、支承及び落橋防止システムを設置する想定箇所を調査する。5m梯子程度以下で調査可能な箇所に適用する。	○
	橋脚・橋台形状調査	地表面又は水面より突出している部分の橋脚・橋台形状、支承及び落橋防止システムを設置する想定箇所を調査する。5m梯子程度以下で調査可能な箇所に適用する。	○
	非破壊調査及びはつり調査	地表面又は水面より突出している部分の橋脚・橋台の配筋を調査する。柱の主要鉄筋のほか、橋座、上梁、ラーメン部材などの耐力照査を行うすべての主要鉄筋について鉄筋径やかぶりを調査する。また支承及び落橋防止システムを新たに設置する箇所を想定し調査する。	○
	図面複製	上部構造反力や橋脚補強など、耐震補強対策設計に必要な土工図及び一般図などの作成を行う。また既設橋梁の図面(PDFや調査図)をCADデータ化により複製する。	◎
	上部構造反力算出	上部構造図面から上部構造重量を求め上部構造反力を算出する。	◎
	橋脚復元設計	橋脚の配筋図又は設計計算書がなく、非破壊調査、はつり調査により配筋が復元できない場合に、架橋当時の基準などにより柱部材の復元設計を行う。必要に応じて橋台を含む。	○
耐震性能照査	橋脚の耐震性能照査	既設橋脚の柱、張出しばり及びラーメン橋脚などの部材照査、及び橋脚の安定照査を行う。必要に応じてフーチングの部材照査を含む。	◎
	動的照査(耐震性能照査)	既設橋の解析モデルにより動的解析を行い、各部材に生じる応答値により橋の耐震性能を照査する。	○
耐震補強検討	橋脚の補強工法検討	耐震性能照査の結果から、必要となる耐震補強対策として橋脚の補強工法検討を行う。ただし、建築限界や河積阻害率など補強規模に関わる制限を受けず、補強工法が明確となる場合は計上しない。	◎
	動的照査(耐震補強検討)	補強部材を含め各部材の形状・剛性から設定する解析モデルなどを用いて動的照査を行い、各部材に発生する応答値により耐震補強検討を行う。	○
	既設基礎の照査	橋脚の補強を行う場合に、その補強形状をモデルとして、地震時に基礎が限界状態以下に留まるかを照査する。直接基礎の場合は適用しない。	◎
	基礎の補強工法検討	既設基礎の照査の結果、補強が必要となる場合は基礎の補強工法検討を行う。	○
	関係機関との協議資料作成(耐震補強検討)	設計図書に基づき関係機関との協議用資料、説明用資料の作成を行う。	◎

注) 1. ◎の工種は標準的に計上する項目を示す。

○の工種は必要に応じて計上すること。

2. 設計に必要な地質条件が不足する場合は地質調査を別途計上すること。

3. 設計や施工計画に必要な現地条件が不足する場合は測量調査を別途計上すること。

耐震性能2 (B) 【業務②】

区分		作業内容	計上
耐震補強設計	橋脚の耐震補強設計	耐震補強検討の結果に基づき、橋脚の耐震補強設計を実施する。本設計では、柱軸方向鉄筋の段落し部や基部の補強設計など柱部材全域にわたる設計のほか、張出式橋脚の上梁やラーメン式橋脚のラーメン部材など柱以外の各種部材に対しても設計を行う。直接基礎のフーチングの補強を含む。	◎
	基礎の耐震補強設計	耐震補強検討の結果に基づき、基礎の耐震補強設計を行う。	○
	動的照査（耐震補強設計）	補強部材を含め各部材の形状・剛性から設定する解析モデルなどを用いて動的照査を行い、各部材に発生する応答値により耐震補強設計を行う。	○
	支承取り替え設計	既設支承の取り替え設計又は機能分離構造を追加する設計を行う。仮受け構造・反力の算出などのほか、取付部の照査を含む。	◎
	落橋防止システム設計	落橋防止システムの検討・設計を行う。本設計では、桁かかり長の照査、沓座拡幅設計、落橋防止構造及び横変位拘束構造の設計のほか、取付部の照査を含む。	○
	施工計画（耐震補強設計）	構造物の規模、道路・鉄道の交差条件、河川の渡河条件及び、計画工程表、施工順序、施工方法、資材・部材の搬入計画、仮設備計画など、工事費積算にあたって必要な計画を記載した施工計画書を作成する。なお、施工計画書には設計と不可分な施工上の留意点について取りまとめ記載する。	◎
	関係機関との協議資料作成（耐震補強設計）	設計図書に基づき関係機関との協議用資料、説明用資料の作成を行う。	◎

注) 1. ◎の工種は標準的に計上する項目を示す。

○の工種は必要に応じて計上すること。

2. 施工計画の実施にあたり、仮設構造物設計が必要な場合は別途計上すること。

耐震性能3

区分	作業内容	計上	
資料収集	現地踏査	地形・地質を把握し、各種耐震補強対策の実施を想定し現地状況を確認・把握をする。必要に応じて橋脚まわりの桁下高をポールやテープを用いて計測するなどの簡易的な土工調査を含む。	◎
	既往資料収集	対象橋梁の竣工図面、設計計算書、その他関連資料の収集・整理を行う。	◎
	上部構造形状調査	下部構造に作用する上部構造反力の算出に必要な範囲、支承及び落橋防止システムを設置する想定箇所を調査する。5m梯子程度以下で調査可能な箇所に適用する。	○
	橋脚・橋台形状調査	地表面又は水面より突出している部分の橋脚・橋台形状、支承及び落橋防止システムを設置する想定箇所を調査する。5m梯子程度以下で調査可能な箇所に適用する。	○
	非破壊調査及びはつり調査	地表面又は水面より突出している部分の橋脚・橋台の配筋を調査する。柱の主要鉄筋のほか、橋座、上梁、ラーメン部材などの耐力照査を行うすべての主要鉄筋について鉄筋径やかぶりを調査する。また支承及び落橋防止システムを新たに設置する箇所を想定し調査する。	○
	図面複製	上部構造反力や橋脚補強など、耐震補強対策設計に必要な土工図及び一般図などの作成を行う。また既設橋梁の図面(PDFや調査図)をCADデータ化により複製する。	◎
	上部構造反力算出	上部構造図面から上部構造重量を求め上部構造反力を算出する。	◎
	橋脚復元設計	橋脚の配筋図又は設計計算書がなく、非破壊調査、はつり調査により配筋が復元できない場合に、架橋当時の基準などにより柱部材の復元設計を行う。必要に応じて橋台を含む。	○
耐震補強設計	段落し部の損傷判定	既設橋脚の段落し部の損傷判定を行う。	◎
	地震時保有水平耐力の照査	段落し部損傷判定における計算過程で地震時保有水平耐力(Pa)の算出などを行う。	◎
	橋脚の補強工法検討	段落し部の損傷判定により、耐震補強対策が必要となる場合は、橋脚段落し部の補強工法検討を行う。	○
	橋脚の耐震補強設計	段落し部の損傷判定及び耐震補強工法検討により決定された工法に対して詳細設計を行う。	○
	落橋防止システム設計	落橋防止システムの検討・設計を行う。本設計では、桁かかり長の照査、沓座拡幅設計、落橋防止構造及び横変位拘束構造の設計のほか、取付部の耐力照査を含む。	◎
	施工計画(耐震補強設計)	構造物の規模、道路・鉄道の交差条件、河川の渡河条件及び、計画工程表、施工順序、施工方法、資材・部材の搬入計画、仮設備計画など、工事費積算にあたって必要な計画を記載した施工計画書を作成する。なお、施工計画書には設計と不可分な施工上の留意点について取りまとめ記載する。	◎
	関係機関との協議資料作成(耐震補強設計)	設計図書に基づき関係機関との協議用資料、説明用資料の作成を行う。	◎

注) 1. ◎の工種は標準的に計上する項目を示す。

○の工種は必要に応じて計上すること。

2. 施工計画の実施にあたり、仮設構造物設計が必要な場合は別途計上すること。

2-2 業務等の費用

(1) 業務等の費用及び積算等

業務等に係わる費用及び積算等は、設計業務委託積算基準による。

2-3 資料収集

2-3-1 現地踏査

(1) 適用範囲

耐震補強設計において、現地踏査を行う場合に適用する。橋脚まわりの桁下高をポールやテープを用いて計測するなどの簡易的な作工調査を含む。

(2) 標準歩掛

2-3-1-1 現地踏査

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-1 橋梁予備設計」を適用する。

・現地踏査（施工単価コード：WS406109）

2-3-2 既往資料収集

(1) 適用範囲

対象橋梁の竣工図面、設計計算書、その他関連資料（拡幅、補修、補強履歴など）の収集・整理を行う場合に適用する。

(2) 標準歩掛

2-3-2-1 既往資料収集

施工単価コード	DXD18200
---------	----------

（1橋当り）

職 種 区 分	直 接 人 件 費						
	主任 技術者	技師長	主任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員
既往資料収集整理					0.6		0.8

注) 1. 耐震性能照査と耐震補強検討を同時発注又は単独発注に関係なく1橋梁として計上する。

2-3-3 上部構造形状調査

(1) 適用範囲

上部構造の既往資料がない場合に、下部構造に作用する上部構造反力の算出に必要な範囲、支承及び落橋防止システムを設置する想定箇所を調査する。5m梯子程度以下で調査可能な箇所に適用する。梯子での調査が困難で足場や点検車が必要な場合は、別途計上する。

支間50m程度以上の場合や、箱桁や鋼床版、トラス橋など複雑な上部構造は別途見積対応とする。

(2) 標準歩掛

2-3-3-1 上部構造形状調査

施工単価コード	DXD18400
---------	----------

(1支間当り)

職 種 区 分	直 接 人 件 費						
	主 任 技術者	技師長	主 任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員
上 部 構 造 形 状 調 査				1.2	1.3		1.3

注) 1. 沓座周り形状調査を含む。

2. 1橋梁で桁高、桁配置が同じ同形式が複数支間ある場合は1支間当りとし、同形式で桁高が違う場合は、70%の割増し、異種形式の場合は支間数分を計上する。

2-3-4 橋脚・橋台形状調査

(1) 適用範囲

補強対象橋脚に関する既往資料がない場合に、地表面又は水面より突出している部分の形状調査を行う。

根入れ調査については橋脚柱の高さが不明な場合に別途計上するものとし、フーチング上面までの土被り深さをノンコアボーリングで調査する方法やバックホウによる試掘等による。

橋脚形状調査は5m程度の梯子を想定して歩掛に含んでいる。それ以外の水面上や高所の調査で足場や点検車が必要な場合は、別途計上する。

(2) 標準歩掛

2-3-4-1 橋脚・橋台形状調査

施工単価コード	DXD18600
---------	----------

(下部工1基当り)

職 種 区 分	直 接 人 件 費						
	主 任 技術者	技師長	主 任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員
橋 脚 ・ 橋 台 形 状 調 査				0.6	0.7		0.7

注) 幅、高さ、形式などのいずれかが違う場合は基数分計上する。

2-3-5 非破壊調査及びはつり調査

(1) 適用範囲

補強対象橋脚の配筋に関する既往資料がなく、橋脚段落し部の鉄筋径、間隔、かぶりなどを調査する場合に適用する。

非破壊調査費（鉄筋探査）は、必要に応じて別途計上するものとし、積算は、測量業務積算基準による。

(2) 標準歩掛

2-3-5-1 非破壊調査及びはつり調査

施工単価コード	DXD18800、DXD18900
---------	-------------------

(橋脚1基当り)

職 種 区 分	直 接 人 件 費						
	主 任 技術者	技師長	主 任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員
調 査 計 画					0.8		1.8
デ ー タ 取 り ま と め					0.9		1.3
合 計					1.7		3.1

注) 1. 橋脚の規模によって段落し箇所が複数(2段配筋) 想定される場合は、非破壊調査及びはつり調査を複数倍する。

2-3-5-2 はつり調査費

施工単価コード	DXD21600
---------	----------

(1箇所当り)

		規 格	単 位	数 量	小 計	備 考
はつり作業	技師 (A)		人	1.2		
	特殊作業員		人	0.7		
	はつり工		人	0.8		
	普通作業員		人	0.8		
復旧作業	特殊作業員		人	1.2		
	型枠工		人	1.2		
	普通作業員		人	1.2		

- 注) 1. 作業は、はつり作業1日、復旧作業1日である。  
 2. はつり調査は0.7m×0.7m×深さ0.1mを基本としている。  
 3. コンクリートカッター損料、ピックハンマー損料、空気圧縮機賃料、発動発電機賃料、ハンドミキサー損料及び無収縮モルタル材料費などは、直接経費として上記歩掛の3%を計上する。  
 4. 冬期労務補正は適用しない。

2-3-6 図面複製

(1) 適用範囲

調査結果や既設橋梁の図面（PDFや調査図）をCADデータ化により複製する場合に適用する。  
 一般図作成は、関係機関との協議や補強工事計画、仮設計画などができる図面を作成する。  
 上部構造図作成は、上部構造重量算出ができる図面を作成する。また、上下部構造の取合い(沓座回り)を明示する。  
 橋脚構造図作成は、橋脚全体の構造図を作成する。  
 橋脚配筋図作成は、配筋図、鉄筋段落とし位置の図面を作成する。

(2) 標準歩掛

2-3-6-1 図面複製

施工単価コード	DXD20001 ~ DXD20004
---------	---------------------

(橋脚1基当たり)

職 種 区 分	直 接 人 件 費						
	主任 技術者	技師長	主任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員
一 般 図 作 成					0.5		
上 部 構 造 図 作 成					0.6	0.7	0.7
橋 脚 構 造 図 作 成						0.2	0.2
橋 脚 配 筋 図 作 成						0.3	0.5
合 計					1.1	1.2	1.4

- 注) 1. 上部構造図作成について、同形式で桁高や支間長が違う複数径間の図面を複製する場合は類似として70%を計上する。  
 2. 橋脚構造図について、幅、高さが違う複数橋脚について作成する場合は基数分を計上する。  
 3. 橋脚配筋図について、複数橋脚の配筋図を作成する場合は、橋脚基数分を計上する。

2-3-7 上部構造反力算出

施工単価コード	DXD20200
---------	----------

(1) 適用範囲

耐震補強設計に用いる上部構造反力を算出する場合に計上する。

(2) 標準歩掛

2-3-7-1 上部構造反力算出

(1連当り)

職 種 区 分	直 接 人 件 費						
	主任 技術者	技師長	主任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員
上部構造反力算出			0.6	0.9	1.4	1.6	

注) 1. 架違い部を有する場合で、同形式で1連当りの桁長又は桁高が異なる(死荷重が異なる)場合は70%の類似構造物とする。1つの橋で異なる上部構造形式が混在している場合はその形式数分を計上する。(例えば、2径間連続鋼板桁+単純PCT桁のような場合は2連分を計上する。)

2-3-8 橋脚復元設計

施工単価コード	DXD20401 ~ DXD20405
---------	---------------------

(1) 適用範囲

橋脚の配筋図又は設計計算書がなく、非破壊調査、はつり調査により配筋が復元できない場合に、架橋当時の基準などにより柱部材の復元設計を行う。

復元設計費は、柱部材のみの復元設計である。これによりがたい場合は別途見積対応とする。

(2) 標準歩掛

2-3-8-1 橋脚復元設計

(橋脚1基当り)

職 種 区 分	直 接 人 件 費						
	主任 技術者	技師長	主任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員
設 計 計 画			0.2	0.4			
設 計 計 算					0.7	1.3	
設 計 図					0.7	0.7	0.8
照 査				0.2	0.5		
報 告 書 作 成					0.2	0.2	
合 計			0.2	0.6	2.1	2.2	0.8

注) 1. 複数の橋脚を有する場合で、構造形式と地盤条件が同一で上部構造反力、柱径、幅、高さが異なる場合は70%の類似構造物とする。形式が異なる場合はその橋脚基数分を計上する。

## 2-4 耐震性能照査

### 2-4-1 橋脚の耐震性能照査

#### (1) 適用範囲

橋脚の耐震性能照査を行う場合に適用する。解析手法を静的照査とする場合は当歩掛のみを計上し、動的照査が必要な場合は別途計上する。

#### (2) 留意事項

1. 複数の橋脚を有する場合で、構造形式と地盤条件が同一で上部構造反力、柱径、幅、高さが異なる場合は70%の類似構造物とする。形式が異なる場合はその橋脚基数分を計上する。
2. 電算機使用料は、直接経費として上記標準歩掛（基本構造物を対象）の2%を計上する。

#### (3) 標準歩掛

#### 2-4-1-1 壁式橋脚（逆T式）

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-5-2）〔壁式橋脚（逆T式）〕」を適用する。

- ・設計計画（施工単価コード：WS410501）
- ・設計計算（施工単価コード：WS410502）
- ・照査（施工単価コード：WS410505）
- ・報告書作成（施工単価コード：WS410506）

#### 2-4-1-2 柱式橋脚（2柱式）

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-5-3）〔柱式橋脚（2柱式）〕」を適用する。

- ・設計計画（施工単価コード：WS410601）
- ・設計計算（施工単価コード：WS410602）
- ・照査（施工単価コード：WS410605）
- ・報告書作成（施工単価コード：WS410606）

#### 2-4-1-3 張出式橋脚

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-5-4）〔張出式橋脚〕」を適用する。

- ・設計計画（施工単価コード：WS410701）
- ・設計計算（施工単価コード：WS410702）
- ・照査（施工単価コード：WS410705）
- ・報告書作成（施工単価コード：WS410706）

#### 2-4-1-4 ラーメン式橋脚

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-5-5）〔ラーメン式橋脚〕」を適用する。

- ・設計計画（施工単価コード：WS410801）
- ・設計計算（施工単価コード：WS410802）
- ・照査（施工単価コード：WS410805）
- ・報告書作成（施工単価コード：WS410806）

2-4-2 動的照査（耐震性能照査）

施工単価コード	(DXD20510)
---------	------------

(1) 適用範囲

耐震性能照査で動的照査を行う場合に適用する。

(2) 標準歩掛

2-4-2-1 動的照査（耐震性能照査）

(1橋当り)

職 種  区 分	直 接 人 件 費						
	主 任 技術者	技師長	主 任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員
動 的 照 査	「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2 橋梁詳細設計（3）動的照査」を適用する。						

注) 1. 上記歩掛は2次元モデルを対象としている。3次元モデルによる動的照査を行う場合は次により補正する。なお、①～④が重複する場合は補正率が最も大きいもののみ適用する。

- ① ラーメン橋脚を有する橋は、+50%の補正率を乗じる。
- ② 直線橋で斜角60度未満の橋脚を有する橋は、+70%の補正率を乗じる。
- ③ 3径間以内の曲線橋は、+70%の補正率を乗じる。
- ④ 4径間以上の曲線橋は、+100%の補正率を乗じる。

(例) ①と②が重複する場合、補正率の高い②のみを適用する。

※標準歩掛 × (1 + 0.70)

## 2-5 耐震補強検討

### 2-5-1 橋脚の補強工法検討

施工単価コード

DXD20801 ~ DXD20806

#### (1) 適用範囲

耐震性能2、又は耐震性能3を目標とする橋で、橋脚の補強工法検討を行う場合に適用する。

建築限界や河積阻害率など補強規模に関わる制限を受けず、補強工法が限定される場合は計上しない。解析手法を静的照査とする場合は当歩掛のみを計上し、動的照査が必要な場合は別途計上する。

#### (2) 標準歩掛

#### 2-5-1-1 橋脚の補強工法検討

(橋脚1基当たり)

区 分 \ 職 種	直 接 人 件 費						
	主任 技術者	技師長	主任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員
設 計 計 画			0.2	0.4			
設 計 計 算					0.7	1.2	
設 計 図					0.6	0.6	0.7
数 量 計 算						0.7	0.7
照 査				0.2	0.4		
報 告 書 作 成					0.2	0.2	
合 計			0.2	0.6	1.9	2.7	1.4

注) 1. 上記歩掛は3工法を標準とし、比較工法数による補正はn/3で算出する。

### 2-5-2 動的照査(耐震補強検討)

施工単価コード

(DXD20510)

#### (1) 適用範囲

耐震補強検討で動的照査を行う場合に適用する。

#### (2) 標準歩掛

#### 2-5-2-1 動的照査(耐震補強検討)

(1橋当り)

区 分 \ 職 種	直 接 人 件 費						
	主任 技術者	技師長	主任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員
動 的 照 査	「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2 橋梁詳細設計(3) 動的照査」を適用する。						

注) 1. 耐震性能照査と耐震補強検討を同時発注する場合は、当歩掛の50%を計上する。  
2. 上記歩掛は2次元モデルを対象としている。3次元モデルによる動的照査を行う場合は次により補正する。なお、①~④が重複する場合は補正率が最も大きいもののみ適用する。

① ラーメン橋脚を有する橋は、+50%の補正率を乗じる。

② 直線橋で斜角60度未満の橋脚を有する橋は、+70%の補正率を乗じる。

③ 3径間以内の曲線橋は、+70%の補正率を乗じる。

④ 4径間以上の曲線橋は、+100%の補正率を乗じる。

(例) 注1と注2の①②が重複する場合、注1に補正率の高い②のみを適用する。

※標準歩掛×0.50×(1+0.70)=標準歩掛×0.85

### 2-5-3 既設基礎の照査

#### (1) 適用範囲

既設基礎の照査を行う場合に適用する。

#### (2) 留意事項

1. 複数の橋脚を有する場合において、下部工の構造形式が異なる場合、又は、杭種、杭径が異なる場合は、それぞれ1基分として計上する。
2. 下部工の躯体幅、高さが異なる場合に、構造型式と地盤条件が同一で、杭種、杭径が同一の場合は70%の類似構造物とする。
3. 電算機使用料は、直接経費として上記標準歩掛（基本構造物を対象）の2%を計上する。

#### (3) 標準歩掛

#### 2-5-3-1 既製杭（鋼管杭・RC杭・PHC杭に適用）

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-8 1) [既製杭]」を適用する。

- ・設計計算（施工単価コード：WS411302）
- ・照査（施工単価コード：WS411305）
- ・報告書作成（施工単価コード：WS411306）

#### 2-5-3-2 場所打杭

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-8 2) [場所打杭]」を適用する。

- ・設計計算（施工単価コード：WS411402）
- ・照査（施工単価コード：WS411405）
- ・報告書作成（施工単価コード：WS411406）

#### 2-5-3-3 深礎基礎

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-8 3) [深礎杭]」を適用する。

- ・設計計算（施工単価コード：WS411502）
- ・照査（施工単価コード：WS411505）
- ・報告書作成（施工単価コード：WS411506）

#### 2-5-3-4 ケーソン基礎

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-8 4) [井筒]」を適用する。

- ・設計計算（施工単価コード：WS411602）
- ・照査（施工単価コード：WS411605）
- ・報告書作成（施工単価コード：WS411606）

## 2-5-4 基礎の補強工法検討

### (1) 適用範囲

基礎の補強工法検討を行う場合に適用する。数量計算は工法比較のための概算工事費算出を含む。

### (2) 留意事項

1. 複数の橋脚を有する場合において、下部工の構造形式が異なる場合、又は、杭種、杭径が異なる場合は、それぞれ1基分として計上する。
2. 下部工の躯体幅、高さが異なる場合に、構造型式と地盤条件が同一で、杭種、杭径が同一の場合は70%の類似構造物とする。
3. 電算機使用料は、直接経費として上記標準歩掛（基本構造物を対象）の2%を計上する。

### (3) 標準歩掛

#### 2-5-4-1 既製杭（鋼管杭・RC杭・PHC杭に適用）

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-8 1) [既製杭]」を適用する。

- ・設計計画（施工単価コード：WS411301）
- ・設計計算（施工単価コード：WS411302）
- ・数量計算（施工単価コード：WS411304）
- ・照査（施工単価コード：WS411305）
- ・報告書作成（施工単価コード：WS411306）

#### 2-5-4-2 場所打杭

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-8 2) [場所打杭]」を適用する。

- ・設計計画（施工単価コード：WS411401）
- ・設計計算（施工単価コード：WS411402）
- ・数量計算（施工単価コード：WS411404）
- ・照査（施工単価コード：WS411405）
- ・報告書作成（施工単価コード：WS411406）

#### 2-5-4-3 深礎基礎

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-8 3) [深礎杭]」を適用する。

- ・設計計画（施工単価コード：WS411501）
- ・設計計算（施工単価コード：WS411502）
- ・数量計算（施工単価コード：WS411504）
- ・照査（施工単価コード：WS411505）
- ・報告書作成（施工単価コード：WS411506）

#### 2-5-4-4 ケーソン基礎

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-8 4) [井筒]」を適用する。

- ・設計計画（施工単価コード：WS411601）
- ・設計計算（施工単価コード：WS411602）
- ・数量計算（施工単価コード：WS411604）
- ・照査（施工単価コード：WS411605）
- ・報告書作成（施工単価コード：WS411606）

2-5-5 支承形式検討

施工単価コード	(DXD34061)
---------	------------

(1) 適用範囲

耐震補強検討で支承形式検討を行う場合に適用する。落橋防止装置の設置条件など支承周りの構造との取合いの検討を含む。

(2) 標準歩掛

2-5-5-1 支承形式検討

(1 支承線当り)

職 種	直 接 人 件 費						
	主 任 技 術 者	技 師 長	主 任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技 術 員
区 分							
支 承 形 式 検 討	「8. 橋梁補修設計 8-9-3-1 支承受り替え設計」 を適用する。						

注) 1. 支承線数による標準歩掛の補正は次による。

$$\text{歩掛} = (\text{標準歩掛}) \times (0.3 + 0.7 \times n) \quad n: \text{支承線数}$$

2. 上部構造が同形式で桁高、支間長、支点条件のすべてが同じ場合は同一径間として取り扱う。

2-5-6 関係機関との協議資料作成 (耐震補強検討)

(1) 適用範囲

耐震補強検討の段階で関係機関との協議資料を作成する場合に適用する。

(2) 標準歩掛

2-5-6-1 関係機関との協議資料作成 (耐震補強検討)

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-1-(7) 関係機関との協議資料作成」を適用する。

- ・ 関係機関との協議資料作成 (施工単価コード: WS406108)

## 2-6 耐震補強設計

### 2-6-1 橋脚の耐震補強設計

#### (1) 適用範囲

橋脚の耐震補強設計を行う場合に適用する。解析手法を静的照査とする場合は当歩掛のみを計上し、動的照査が必要な場合は別途計上する。

#### (2) 留意事項

1. 複数の橋脚を有する場合で、構造形式と地盤条件が同一で上部構造反力、柱径、幅、高さが異なる場合は70%の類似構造物とする。形式が異なる場合はその橋脚基数分を計上する。
2. 電算機使用料は、直接経費として上記標準歩掛（基本構造物を対象）の2%を計上する。

#### (3) 標準歩掛

#### 2-6-1-1 壁式橋脚（逆T式）

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-5 2) [壁式橋脚（逆T式）]」を適用する。

- ・設計計画（施工単価コード：WS410501）
- ・設計計算（施工単価コード：WS410502）
- ・設計図（施工単価コード：WS410503）
- ・数量計算（施工単価コード：WS410504）
- ・照査（施工単価コード：WS410505）
- ・報告書作成（施工単価コード：WS410506）

#### 2-6-1-2 柱式橋脚（2柱式）

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-5 3) [柱式橋脚]（2柱式）」を適用する。

- ・設計計画（施工単価コード：WS410601）
- ・設計計算（施工単価コード：WS410602）
- ・設計図（施工単価コード：WS410603）
- ・数量計算（施工単価コード：WS410604）
- ・照査（施工単価コード：WS410605）
- ・報告書作成（施工単価コード：WS410606）

#### 2-6-1-3 張出式橋脚

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-5 4) [張出式橋脚]」を適用する。

- ・設計計画（施工単価コード：WS410701）
- ・設計計算（施工単価コード：WS410702）
- ・設計図（施工単価コード：WS410703）
- ・数量計算（施工単価コード：WS410704）
- ・照査（施工単価コード：WS410705）
- ・報告書作成（施工単価コード：WS410706）

#### 2-6-1-4 ラーメン式橋脚

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-5 5) [ラーメン式橋脚]」を適用する。

- ・設計計画（施工単価コード：WS410801）
- ・設計計算（施工単価コード：WS410802）
- ・設計図（施工単価コード：WS410803）
- ・数量計算（施工単価コード：WS410804）
- ・照査（施工単価コード：WS410805）
- ・報告書作成（施工単価コード：WS410806）

## 2-6-2 基礎の耐震補強設計

### (1) 適用範囲

基礎の耐震補強設計を行う場合に適用する。

### (2) 留意事項

1. 複数の橋脚を有する場合において、下部工の構造形式が異なる場合、又は、杭種、杭径が異なる場合は、それぞれ1基分として計上する。
2. 下部工の躯体幅、高さが異なる場合に、構造型式と地盤条件が同一で、杭種、杭径が同一の場合は70%の類似構造物とする。
3. 電算機使用料は、直接経費として上記標準歩掛（基本構造物を対象）の2%を計上する。

### (3) 標準歩掛

#### 2-6-2-1 既製杭（鋼管杭・RC杭・PHC杭に適用）

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-8 1) [既製杭]」を適用する。

- ・設計計画（施工単価コード：WS411301）
- ・設計計算（施工単価コード：WS411302）
- ・設計図（施工単価コード：WS411303）
- ・数量計算（施工単価コード：WS411304）
- ・照査（施工単価コード：WS411305）
- ・報告書作成（施工単価コード：WS411306）

#### 2-6-2-2 場所打杭

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-8 2) [場所打杭]」を適用する。

- ・設計計画（施工単価コード：WS411401）
- ・設計計算（施工単価コード：WS411402）
- ・設計図（施工単価コード：WS411403）
- ・数量計算（施工単価コード：WS411404）
- ・照査（施工単価コード：WS411405）
- ・報告書作成（施工単価コード：WS411406）

#### 2-6-2-3 深礎基礎

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-8 3) [深礎杭]」を適用する。

- ・設計計画（施工単価コード：WS411501）
- ・設計計算（施工単価コード：WS411502）
- ・設計図（施工単価コード：WS411503）
- ・数量計算（施工単価コード：WS411504）
- ・照査（施工単価コード：WS411505）
- ・報告書作成（施工単価コード：WS411506）

#### 2-6-2-4 ケーソン基礎

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2-8 4) [井筒]」を適用する。

- ・設計計画（施工単価コード：WS411601）
- ・設計計算（施工単価コード：WS411602）
- ・設計図（施工単価コード：WS411603）
- ・数量計算（施工単価コード：WS411604）
- ・照査（施工単価コード：WS411605）
- ・報告書作成（施工単価コード：WS411606）

2-6-3 動的照査(耐震補強設計)

施工単価コード	(DXD20510)
---------	------------

(1) 適用範囲

耐震補強設計で動的照査を行う場合に適用する。

(2) 標準歩掛

2-6-3-1 動的照査(耐震補強設計)

(1橋当り)

職 種 区 分	直 接 人 件 費						
	主任 技術者	技師長	主任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員
動 的 照 査	「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2 橋梁詳細設計(3) 動的照査」を適用する。						

- 注) 1. 耐震性能照査と耐震補強検討を同時発注する場合は、当歩掛の50%を計上する。  
 2. 上記歩掛は2次元モデルを対象としている。三次元モデルによる動的照査を行う場合は次により補正する。なお、①~④が重複する場合は補正率が最も大きいもののみ適用する。  
 ①ラーメン橋脚を有する橋は、+50%の補正率を乗じる。  
 ②直線橋で斜角60度未満の橋脚を有する橋は、+70%の補正率を乗じる。  
 ③3径間以内の曲線橋は、+70%の補正率を乗じる。  
 ④4径間以上の曲線橋は、+100%の補正率を乗じる。  
 (例) 注1と注2の①②が重複する場合、注1に補正率の高い②のみを適用する。  
 ※標準歩掛×0.50×(1+0.70)=標準歩掛×0.85

2-6-4 支承取り替え設計

施工単価コード	(DXD34061)
---------	------------

(1) 適用範囲

既設支承の取り替え設計又は機能分離構造を追加する設計を行う場合に適用する。

仮受け構造・作用力の算出などのほか、取付部の耐力照査を含む。

(2) 標準歩掛

2-6-4-1 支承取り替え設計

(1支承線当り)

職 種 区 分	直 接 人 件 費						
	主任 技術者	技師長	主任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員
支 承 取 り 替 え 設 計	「8. 橋梁補修設計 8-9-3-1 支承取り替え設計」 を適用する。						

- 注) 1. 支承線数による標準歩掛の補正は次による。  

$$\text{歩掛} = (\text{標準歩掛}) \times (0.3 + 0.7 \times n) \quad n: \text{支承線数}$$
  
 2. 上部構造が同形式で桁高、支間長、支点条件のすべてが同じ場合は同一径間として取り扱う。

2-6-5 段落とし部の損傷判定(耐震性能3)

施工単価コード	DXD20601 ~ DXD20604
---------	---------------------

(1) 適用範囲

耐震性能3を目標とする橋で段落とし部の損傷判定を行う場合に適用する。当歩掛は、柱部材のみを対象とする。

(2) 標準歩掛

2-6-5-1 段落とし部の損傷判定(耐震性能3)

(橋脚1基当たり)

区 分	職 種	直 接 人 件 費						
		主 任 技 術 者	技 師 長	主 任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技 術 員
設 計 計 画				0.2	0.4			
設 計 計 算						0.7	1.3	
照 査					0.2	0.4		
報 告 書 作 成						0.2	0.2	
合 計				0.2	0.6	1.3	1.5	

- 注) 1. 複数の橋脚を有する場合で、構造形式と地盤条件が同一で上部構造反力、柱径、幅、高さが異なる場合は70%の類似構造物とする。形式が異なる場合はその橋脚基数分を計上する。  
 2. 段落とし部の損傷判定において、補強の必要性がないと判明した場合は、「橋脚の補強工法検討」と「橋脚の耐震補強設計(耐震性能3)」は不要とする。  
 3. 電算機使用料は、直接経費として上記標準歩掛の1%を計上する。

2-6-6 地震時保有水平耐力の照査(耐震性能3)

施工単価コード	DXD21201、DXD21202
---------	-------------------

(1) 適用範囲

耐震性能3を目標とする橋に適用する。段落し部損傷判定における計算過程で地震時保有水平耐力(Pa)の算出などに用いる。

(2) 標準歩掛

2-6-6-1 地震時保有水平耐力の照査(耐震性能3)

(橋脚1基当たり)

区 分	職 種	直 接 人 件 費						
		主 任 技 術 者	技 師 長	主 任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技 術 員
設 計 計 画				0.6	0.6			
設 計 計 算						1.2	2.2	
合 計				0.6	0.6	1.2	2.2	

- 注) 1. 複数の橋脚を有する場合で、構造形式と地盤条件が同一で上部構造反力、柱径、幅、高さが異なる場合は70%の類似構造物とする。形式が異なる場合はその橋脚基数分を計上する。  
 2. 電算機使用料は、直接経費として上記標準歩掛の1%を計上する。

2-6-7 橋脚の耐震補強設計(耐震性能3)

施工単価コード	DXD21001 ~ DXD21006
---------	---------------------

(1) 適用範囲

耐震性能3を目標とする橋で橋脚の耐震補強設計を行う場合に適用する。

(2) 標準歩掛

2-6-7-1 橋脚の耐震補強設計(耐震性能3)

(橋脚1基当り)

職 種 区 分	直 接 人 件 費						
	主任 技術者	技師長	主任 技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員
設 計 計 画			0.4	0.6			
設 計 計 算					1.0	1.8	
設 計 図					0.9	0.9	1.2
数 量 計 算						1.2	1.0
照 査				0.4	0.6		
報 告 書 作 成					0.4	0.4	
合 計			0.4	1.0	2.9	4.3	2.2

- 注) 1. 複数の橋脚を有する場合で、構造形式と地盤条件が同一で上部構造反力、柱径、幅、高さが異なる場合は70%の類似構造物とする。形式が異なる場合はその橋脚基数分を計上する。  
2. 電算機使用料は、直接経費として上記標準歩掛の1%を計上する。

2-6-8 落橋防止システム設計

施工単価コード	DXD21401 ~ DXD21405
---------	---------------------

(1) 適用範囲

耐震性能2、又は耐震性能3を目標とする橋で、落橋防止構造及び変位制限構造を設計する場合に適用する。

(2) 標準歩掛

2-6-8-1 落橋防止システム設計

(1基当り)

職 種 区 分	直 接 人 件 費						
	主任 技術者	技師長	主任 技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員
設 計 計 画			0.6				
設 計 計 算				0.7	0.9		
設 計 図					0.7	0.7	0.7
数 量 計 算						0.7	0.7
照 査				0.7			
合 計			0.6	1.4	1.6	1.4	1.4

- 注) 1. 複数径間の橋梁で異なる工法を採用する場合は、工法ごとに計上する。落橋防止構造と変位制限構造が1箇所に設置される場合は、注)2により類似構造物とする。  
2. 同一橋梁で同工法を用いる場合であっても、支間長の違いから別途設計計算を行う場合は、類似構造物とする。(0.5n+0.5)  
3. 沓座周り構造図及び配筋図複製費を含む。  
4. 落橋防止構造設置に必要な枠組み足場や吊り足場の施工計画含む。

2-6-9 施工計画（耐震補強設計）

（1）適用範囲

耐震補強設計で施工計画を行う場合に適用する。

（2）標準歩掛

2-6-9-1 施工計画（耐震補強設計）

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2 （2）施工計画」を適用する。

- ・ 施工計画（施工単価コード：WS406202）

2-6-10 関係機関との協議資料作成（耐震補強設計）

（1）適用範囲

耐震補強設計で関係機関との協議資料を作成する場合に適用する。

（2）標準歩掛

2-6-10-1 関係機関との協議資料作成（耐震補強設計）

「設計業務等標準積算基準書 第3編 第2章 土木設計業務等標準歩掛 8-2 （1）関係機関との協議資料作成」を適用する。

- ・ 関係機関との協議資料作成（施工単価コード：WS406205）

## 2-7 積算例

### 2-7-1 積算例(1)

#### (1) 積算条件

耐震性能2(A) (2-1 橋の耐震補強設計、(1) 設計フローを参照)

上部構造形式: 2径間連続PCT桁+単純PCT桁 (L1=L2≠L3) [上部構造連数: 2連]

橋脚構造形式: [P1]ラーメン式橋脚(斜角90度)、[P2]壁式橋脚(斜角90度)

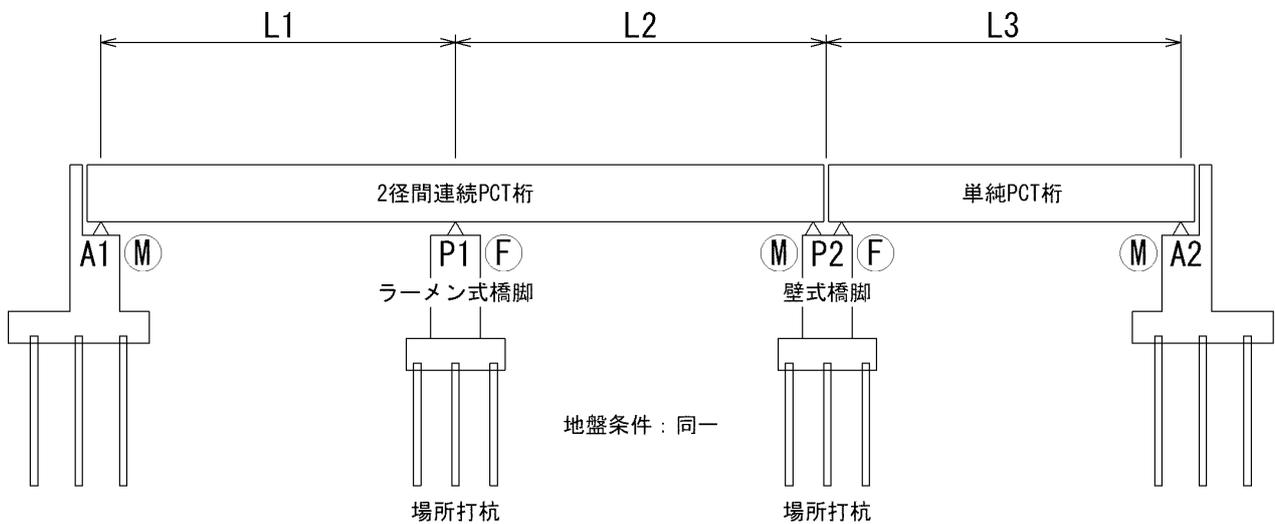
基礎構造形式: [P1・P2]場所打杭(φ1000×6本)

設計手法: 動的照査

交差条件: 河川

支承線数: 4支承線 (L1とL2が同形式で桁高、支間長、支点条件が同じため同一径間とする。)

既往資料: 竣工時図面あり、竣工時計算書あり



(2) 直接人件費

【業務①】

区 分	単位	数量	備考
既往資料収集			
現地踏査	業務	1	
既往資料収集	橋	1	
図面複製（一般図作成）	基	1	
図面複製（上部構造図作成）	基	1.7	L1、L2は同一形状のため基本構造物1基 L3は同形式で支間長が異なるため70%の類似構造物
図面複製（橋脚構造図作成）	基	2	橋脚形式が異なるため基数分を計上する。
図面複製（橋脚配筋図作成）	基	2	橋脚形式が異なるため基数分を計上する。
上部構造反力算出	連	1.7	同形式で上部構造1連当りの桁長が異なるため、70%の類似構造物として計上する。
耐震性能照査			
橋脚の耐震性能照査（ラーメン式橋脚）	基	1	橋脚形式が異なるためそれぞれ計上する。
橋脚の耐震性能照査（壁式橋脚（逆T式））	基	1	橋脚形式が異なるためそれぞれ計上する。
動的照査（耐震性能照査）	橋	1.5	ラーメン橋脚を有するため50%割増しとする。

【業務②】（※既設基礎の照査の結果、基礎補強が必要となる場合を想定している。）

区 分	単位	数量	備考
耐震補強検討			
橋脚の補強工法検討	基	2	基数分を計上する。
動的照査（耐震補強検討）	橋	1.5	ラーメン橋脚を有するため50%割増しとする。
既設基礎の照査（場所打杭）	基	2	橋脚形式が異なるため基数分を計上する。
基礎の補強工法検討（場所打杭）	基	2	橋脚形式が異なるため基数分を計上する。
支承形式検討	支承線	3.1	$n = 4 \text{ 支承線} : 0.3 + 0.7 \times 4 = 3.1$
関係機関との協議資料作成（耐震補強検討）	業務	1	

【業務③】（※既設基礎の照査の結果、基礎補強が必要となる場合を想定している。）

区 分	単位	数量	備考
耐震補強設計			
橋脚の耐震補強設計（ラーメン式橋脚）	基	1	橋脚形式が異なるためそれぞれ計上する。
橋脚の耐震補強設計（壁式橋脚（逆T式））	基	1	橋脚形式が異なるためそれぞれ計上する。
基礎の耐震補強設計	基	2	橋脚形式が異なるため基数分を計上する。
動的照査（耐震補強設計）	橋	1.5	ラーメン橋脚を有するため50%割増しとする。
支承取り替え設計	支承線	3.1	$n = 4 \text{ 支承線} : 0.3 + 0.7 \times 4 = 3.1$
落橋防止システム設計	基	2	架違い部：1基、A2橋台部：1基
施工計画（耐震補強設計）	橋	1	
関係機関との協議資料作成（耐震補強設計）	業務	1	

2-7-2 積算例(2)

(1) 積算条件

耐震性能2(A) (2-1 橋の耐震補強設計、(1) 設計フローを参照)

上部構造形式: 単純鋼板桁×3連+3径間連続鋼板桁+単純鋼板桁

( $L1=L2=L3 \neq L4=L5=L6 \neq L7$ ) [上部構造連数: 5連]

橋脚構造形式: [P1~P6]壁式橋脚(斜角90度) ( $H1=H2=H3 \neq H4=H5 \neq H6$ )

基礎構造形式: [P1~P3]直接基礎、[P4~P6]鋼管杭( $\phi 600 \times 6$ 本)

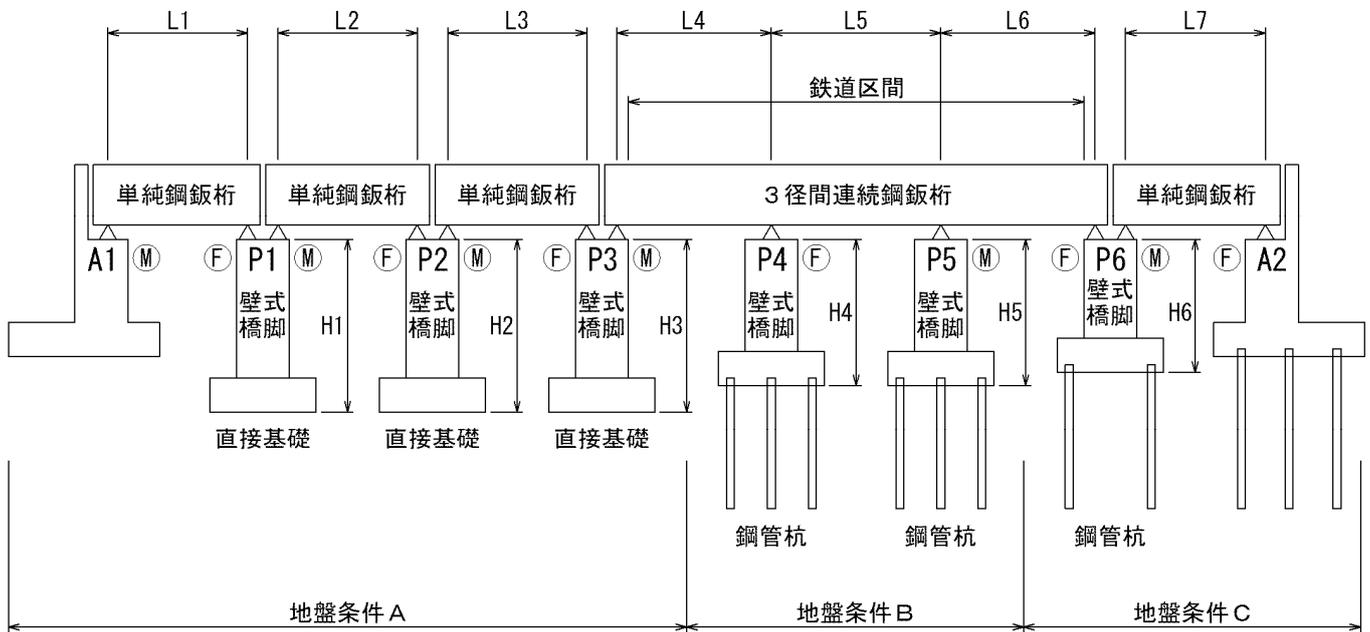
設計手法: 動的照査

交差条件: 鉄道(L4~L6区間)

施工制限: P1・P2は補強規模の制限を受けない、P3~P6は補強規模の制限を受ける

支承線数: 8支承線(L1~L3が同形式で桁高、支間長、支点条件が同じため同一径間とする。)

既往資料: 竣工時図面あり、竣工時計算書あり



(2) 直接人件費

【業務①】

区 分	単 位	数 量	備 考
既往資料収集			
現地踏査	業務	1	
既往資料収集	橋	1	
図面複製（一般図作成）	基	1	
図面複製（上部構造図作成）	基	2.7	L1、L2、L3は同一形状のため基本構造物1基 L4、L5、L6は同一形状のため基本構造物1基 L7は同形式で支間長が異なるため70%の類似構造物
図面複製（橋脚構造図作成）	基	3	P1、P2、P3は同一形状のため1基 P4、P5は同一形状のため1基、P6は単独で1基
図面複製（橋脚配筋図作成）	基	3	橋脚構造図の作成基数分を計上する。
上部構造反力算出	連	2.4	L1、L2、L3は同形式で桁長・桁高が同じのため1連分とする。 L4～L6とL7はそれぞれ桁長が異なるため、70%の類似構造物として計上する。
耐震性能照査			
橋脚の耐震性能照査（壁式橋脚（逆T式））	基	4.4	地盤条件が異なる場合は類似構造物としない 【地盤条件A】1.7基 P1とP2は形状及び条件が同じのため基本構造物1基 P3は上部構造反力が異なるため70%の類似構造物 【地盤条件B】1.7基 P4は基本構造物1基 P5は支点条件が異なり上部構造反力が異なるため70%類似構造物 【地盤条件C】1.0基 P6は本構造物1基
動的照査（耐震性能照査）	橋	1	

【業務②】（※既設基礎の照査の結果、基礎補強が不要となる場合を想定している。）

区 分	単位	数量	備考
耐震補強検討			
橋脚の補強工法検討	基	4	P1、P2は補強規模の制限を受けず、補強工法が限定されるため計上しない。（P3～P6のみ計上する）
動的照査（耐震補強検討）	橋	1	
既設基礎の照査（既成杭）	基	2.7	P4は基本構造物1基 P5は支点条件が異なるため70%の類似構造物 P6は地盤条件が異なるため基本構造物1基
支承形式検討	支承線	5.9	$n = 8 \text{ 支承線} : 0.3 + 0.7 \times 8 = 5.9$
関係機関との協議資料作成（耐震補強検討）	業務	1	

【業務③】（※既設基礎の照査の結果、基礎補強が不要となる場合を想定している。）

区 分	単位	数量	備考
耐震補強設計			
橋脚の耐震補強設計（壁式橋脚（逆T式））	基	4.4	地盤条件が異なる場合は類似構造物としない 【地盤条件A】1.7基 P1とP2は形状及び条件が同じのため基本構造物1基 P3は上部構造反力が異なるため70%の類似構造物 【地盤条件B】1.7基 P4は基本構造物1基 P5は支点条件が異なり上部構造反力が異なるため70%類似構造物 【地盤条件C】1.0基 P6は基本構造物1基
動的照査（耐震補強設計）	橋	1	
支存取り替え設計	支承線	5.9	$n = 8 \text{ 支承線} : 0.3 + 0.7 \times 8 = 5.9$
落橋防止システム設計	基	3.5	タイプ数分を計上する。支間長が異なる場合は50%の類似構造物として計上する。 【桁連結部】 $1 + 0.5 + 0.5 = 2.0$ 基 P1とP2は同一のため基本構造物1基、P3、P6は上部構造反力がことなるためそれぞれ50%の類似構造物とする 【橋台部】 $1 + 0.5 = 1.5$ 基 A1を基本としA2は上部構造反力が異なるため50%の類似構造物とする。
施工計画（耐震補強設計）	橋	1	
関係機関との協議資料作成（耐震補強設計）	業務	1	

2-7-3 積算例(3)

(1) 積算条件

耐震性能2(B) (2-1 橋の耐震補強設計、(1) 設計フローを参照)

上部構造形式: 2径間単純鋼鈑桁 (L1=L2) [上部構造連数: 2連]

橋脚構造形式: [P1]壁式橋脚 (斜角90度)

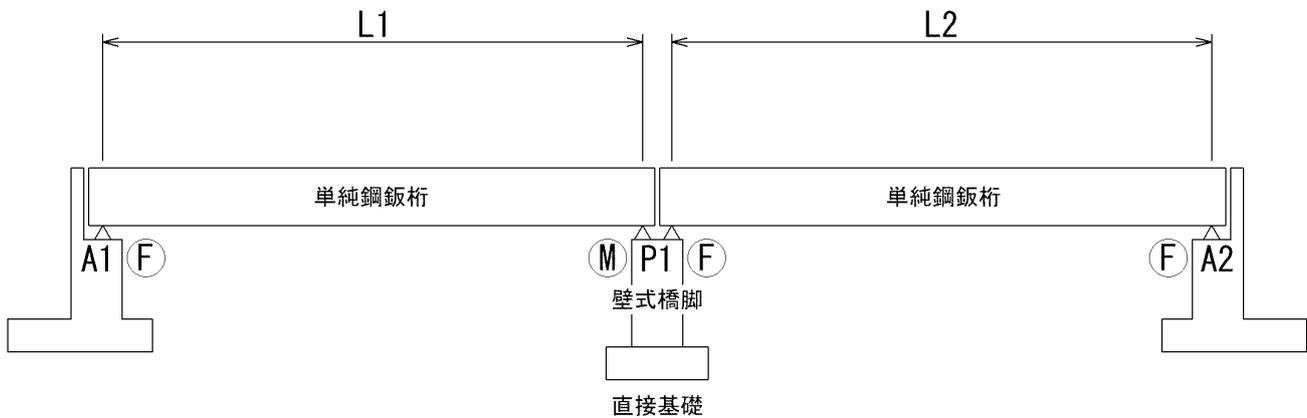
基礎構造形式: 直接基礎

設計手法: 静的照査

交差条件: 河川

支承線数: 2支承線 (L1とL2が同形式で桁高、支間長、支点条件が同じため同一径間とする。)

既往資料: 竣工時図面なし、竣工時計算書なし



(2) 直接人件費

【業務①】

区 分	単 位	数 量	備 考
既往資料収集			
現地踏査	業務	1	
既往資料収集	橋	1	
上部構造形状調査	支間	1	L1、L2は同一形状のため1支間分を計上する。
橋脚・橋台形状調査	基	1	
非破壊調査及びはつり調査	基	1	
はつり調査費	箇所	1	
図面複製（一般図作成）	基	1	
図面複製（上部構造図作成）	基	1	L1、L2は同一形状のため基本構造物1基分を計上する。
図面複製（橋脚構造図作成）	基	1	
図面複製（橋脚配筋図作成）	基	1	
上部構造反力算出	連	1	L1、L2は同一形状のため1連分を計上する。
橋脚復元設計	基	1	
耐震性能照査			
橋脚の耐震性能照査（壁式橋脚）	基	1	
耐震補強検討			
橋脚の補強工法選定	基	1	
関係機関との協議資料作成（耐震補強検討）	業務	1	

【業務②】

耐震補強設計			
橋脚の耐震補強設計（壁式橋脚）	基	1	
支承取り替え設計	支承線	1.7	$n = 2 \text{ 支承線} : 0.3 + 0.7 \times 2 = 1.7$
落橋防止システム設計	基	2	A1とA2橋台部は支間長が同じため1基分とする。 架違い部は、橋台部と工法が異なるため1基分とする。
施工計画（耐震補強設計）	橋	1	
関係機関との協議資料作成（耐震補強設計）	業務	1	

2-7-4 積算例(4)

(1) 積算条件

※設計対象は道路事業設計要領18-1-8耐震補強フロー(図18-1-10、図18-1-11)を参照

耐震性能3(2-1 橋の耐震補強設計、(1)設計フローを参照)

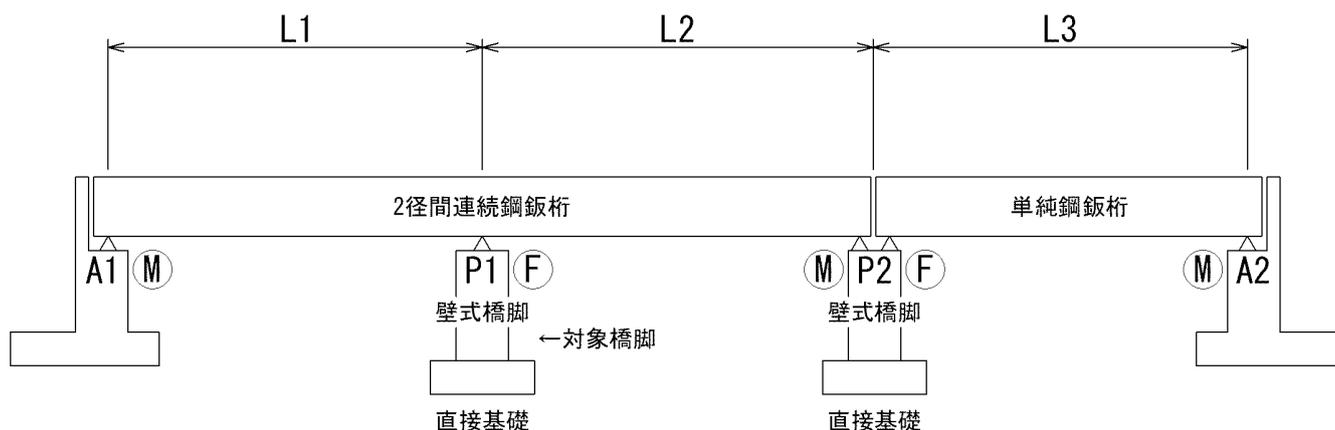
上部構造形式:2径間連続鋼板桁+単純鋼板桁(L1=L2≠L3)[上部構造連数:2連]

橋脚構造形式:[P1・P2]壁式橋脚

基礎構造形式:[P1・P2]直接基礎

交差条件:河川

既往資料:竣工時図面あり、竣工時計算書あり



(2) 直接人件費

【業務①】(※段落とし部の損傷判定の結果、橋脚の補強が必要となる場合を想定している。)

区分	単位	数量	備考
既往資料収集			
現地踏査	業務	1	
既往資料収集	橋	1	
図面複製(一般図作成)	基	1	
図面複製(上部構造図作成)	基	1.7	L1、L2は同一形状のため基本構造物1基 L3は同形式で支間長が異なるため70%の類似構造物
図面複製(橋脚構造図作成)	基	1	対象橋脚:P1
図面複製(橋脚配筋図作成)	基	1	対象橋脚:P1
上部構造反力算出	連	1.7	同形式で上部構造1連当りの桁長が異なるため、70%の類似構造物として計上する。
耐震補強設計			
段落とし部の損傷判定(耐震性能3)	基	1	対象橋脚:P1
地震時保有水平耐力法の照査(耐震性能3)	基	1	対象橋脚:P1
橋脚の補強工法検討	基	1	対象橋脚:P1
橋脚の耐震補強設計(耐震性能3)	基	1	対象橋脚:P1
落橋防止システム設計	基	2	架違い部:1基、A2橋台部:1基
施工計画(耐震補強設計)	橋	1	
関係機関との協議資料作成(耐震補強設計)	業務	1	

## 5-2 橋梁定期点検（近接目視点検）

### 5-2-1 適用範囲

本歩掛は、「橋梁点検・維持管理要領（令和6年8月改訂）北海道建設部土木局道路課」を基に実施する、北海道が所管する道路橋（横断歩道橋を含む）定期点検に適用する。

### 5-2-2 業務等の費用及び積算

#### 1) 機械経費

機械経費は、橋梁点検車を用いる場合に計上する。また、定期点検においてその他の機械（リフト車、ゴンドラ、船舶など）が必要である場合は、別途、費用を計上するものとする。

#### 2) 安全費

安全費は、橋梁点検車を使用する場合に、交通障害の防止と、現場の安全確保のため、交通誘導警備員の費用を計上するものとする。

#### 3) 仮設費

道路橋の定期点検における足場条件は、地上、梯子および橋梁に添架された既設の点検路を用いることを標準とするが、その他の仮設費（足場等の設置）が必要である場合は、別途、仮設費においてその費用を計上するものとする。

#### 4) 電子成果品作成費

〔1〕設計業務等委託積算基準 1-6 電子成果品作成費 （2）その他設計業務による。

### 5-2-3 作業区分

点検作業における作業区分は以下のとおりとする。

作業区分	区分	作業の範囲等
計画準備	業務計画書作成	事業の目的・主旨を把握したうえで、特記仕様書に示す業務内容を確認し、業務概要・実施方針・業務工程・業務組織計画・打合せ計画・成果品の内容、部数・使用する主な図書及び基準・連絡体制（緊急時含む）等の事項について業務計画書を作成する。
	資料収集・事前調書作成	対象橋梁の関連資料の収集・整理を行い、現地において立地環境、交通規制の要否等を確認する。北海道橋梁データベース（HBDB）の橋梁諸元などを現地において確認する。
関係機関との協議資料作成		定期点検において必要な関係機関との協議用資料、説明用資料の作成及び協議、資料の提出等を行う。
定期点検	現橋調査	「橋梁点検・維持管理要領」に基づき、橋梁点検車、高所作業車、点検用足場、あるいは梯子等を用いて近接目視にて点検を行う。また必要に応じて部分的な損傷状態の確認のための打音検査および触診を行う。
	打音検査	点検用ハンマーを使用し、打音検査を行う。うき・はく離箇所は、応急措置としてハンマー等を用いて出来るだけたたき落とす。
点検調書作成		「橋梁点検・維持管理要領」を参考に「HBDB操作編マニュアル」「HBDB運用編マニュアル」に基づき、各種点検調書に取りまとめる。

## 8. 橋梁補修設計

### 8-1 適用範囲

この積算基準は、北海道建設部において委託により実施する橋梁補修設計に適用する。

### 8-2 業務等の費用及び積算

業務に係わる費用及び積算等は、設計業務委託積算基準による。

### 8-3 損傷箇所の確認調査

#### 8-3-1 業務内容

補修設計に先立ち、近接目視で橋梁全体の損傷状況を確認するとともに、必要となる各種試験を実施する。

#### 8-3-2 適用範囲

一般的な桁橋に適用し（ボックスは除く）、特殊な構造形式の場合には、別途見積を取るものとする。近接目視調査に必要な機材等（リフト車、点検車、枠組み足場、吊り足場、交通規制資材）は別途見積を取る。

#### 8-3-3 作業項目

現地踏査、外観変状調査、形状寸法測定、データ整理、損傷図作成、補修箇所の抽出、報告書作成

#### 8-3-4 標準歩掛

##### 8-3-4-1 損傷箇所の確認調査

施工単価コード	DXD34001
---------	----------

区 分	数量	単位	直 接 人 件 費					内・外業 業務区分	直接経費
			主任技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員		安全費
損傷箇所の確認調査	1	径間	0.7	1.2	2.3	1.6	2.9	内業	直接人件費
					1.0	1.0	1.0	外業	×23%
計			0.7	1.2	3.3	2.6	3.9		

(注) 1. 類似構造物についての標準歩掛の補正は次による。

$$\text{歩掛} = (\text{標準歩掛}) \times (0.3 + 0.7 \times n) \quad n: \text{径間数}$$

2. 作業項目のうち現地踏査、外観変状調査、形状寸法測定は、現地確認をすることとし外業業務とする。

3. 安全費は、交通誘導警備員及び交通規制資材の費用であり、必要な場合に計上する。なお、左記以外は含まないので、必要な場合は別途計上すること。

## 8-4 ロープアクセス調査

### 8-4-1 適用範囲

梯子等による近接目視が困難となるコンクリート橋脚等（地上高4m程度以上30m程度以下）の外観変状調査、及び橋梁等定期点検に適用する。

### 8-4-2 作業項目

ロープアクセス技術による外観変状調査（打音検査を含む）

### 8-4-3 標準歩掛

#### 8-4-3-1 ロープアクセス調査

設計単価コード
---------

DXD34003
----------

区 分	数量	単位	直接人件費				
			主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
地上高15m未満	1	基	1.6	1.6			1.6
地上高15m以上	1	基	2.8	2.8			2.8

(注) 1. ロープアクセス調査は、定期点検「現橋調査」、又は橋梁補修設計「損傷箇所の確認調査」に付加して計上する。

2. 類似構造物についての標準歩掛の補正は次式による。

なお、類似構造物は橋梁単位で同一の区分毎に集計した基数とする。

$$\text{歩掛} = (\text{標準歩掛}) \times (0.3 + 0.7 \times n) \quad n : \text{基数}$$

3. 標準歩掛は陸上の構造物に適応し、河川や湖沼等に適用する場合は標準歩掛に30%割増する。

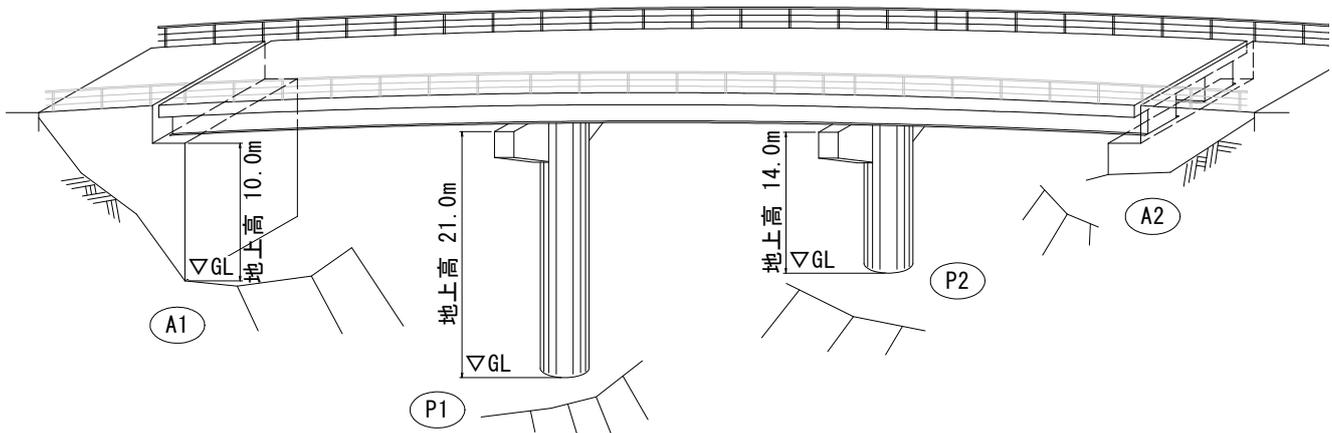
4. 調査に必要なロープアクセス調査機材損料（ロープ、スリング、カラビナ他の装具等）は別途計上する。

5. 地上高4m程度未満の場合は梯子や脚立による調査を標準とし、地上高が30mを超える場合や標準的な構造形式以外（ラーメン式等を含む）に適用する場合は別途に見積もりを徴取する。

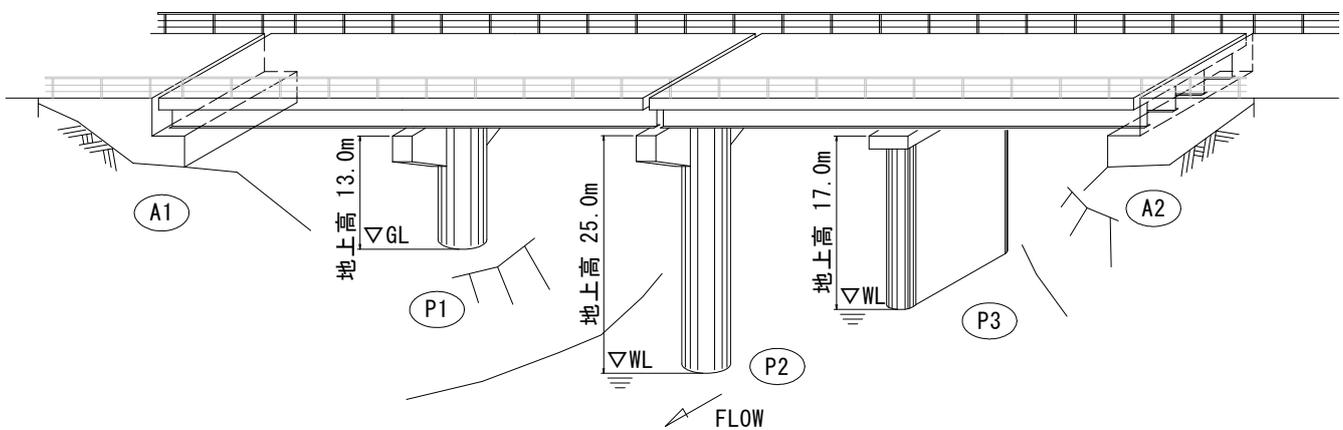
(例) 複数橋梁に適用する場合の積算例

対象		地上高による区分		備考
		1.5m未満(基)	1.5m以上(基)	
A橋	橋台A1	1.0	—	
	橋脚P1	—	1.0	
	橋脚P2	0.7	—	類似構造物による補正
B橋	橋脚P1	1.0	—	
	橋脚P2	—	1.3	河川割増による補正
	橋脚P3	—	0.9	類似構造物×河川割増による補正
合計(基)		3	4	小数第1位切り上げ

A橋



B橋



## 8-5 鉄筋腐食度はつり調査

### 8-5-1 適用範囲

補修対象部位・部材に関する既往資料がなく、鉄筋径、間隔、かぶり、腐食度を調査する場合に適用する。

### 8-5-2 作業項目

はつり及び復旧作業を同日に実施し、作業量は1日当たり5箇所を標準とする。

### 8-5-3 標準歩掛

#### 8-5-3-1 鉄筋腐食度はつり調査

設計単価コード	DXD34005
---------	----------

区 分	数量	単位	直接人件費				
			主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
はつり・復旧作業	1	箇所			0.2	0.2	0.2

- (注) 1. はつり調査は0.2m×0.2m×深さ0.2mを基本としている。  
 2. コンクリートカッター損料、ピックハンマー損料、空気圧縮機賃料、発動発電機賃料、ハンドミキサー損料及び無収縮モルタル材料費等は、直接経費として上記歩掛の3%を計上する。  
 3. 冬期労務補正は適用しない。

## 8-6 PC桁の補修設計

### 8-6-1 適用範囲

応力計算を必要としない、ひび割れや遊離石灰、断面補修等の局部的な損傷箇所の補修設計に適用する。

### 8-6-2 作業項目

設計計画、設計図作成、数量作成、照査、報告書作成

### 8-6-3 標準歩掛

#### 8-6-3-1 PC桁の補修設計

施工単価コード	DXD34011
---------	----------

区 分	数量	単位	直接人件費				
			主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
PC桁の補修設計	1	径間	0.2	0.7	1.2	2.2	2.0

- (注) 1. 類似構造物についての標準歩掛の補正は次による。  

$$\text{歩掛} = (\text{標準歩掛}) \times (0.3 + 0.7 \times n) \quad n : \text{径間数}$$

## 8-7 RC床版補修設計

### 8-7-1 適用範囲

応力計算を必要としない、ひび割れや遊離石灰、断面補修等の局所的な損傷箇所の補修設計に適用する。  
なお、地覆部の補修設計も含む。

### 8-7-2 作業項目

設計計画、設計図作成、数量作成、照査、報告書作成

### 8-7-3 標準歩掛

#### 8-7-3-1 RC床版補修設計

施工単価コード	DXD34021
---------	----------

区 分	数量	単位	直 接 人 件 費				
			主任技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員
RC床版補修設計	1	径間	0.2	1.0	1.1	2.0	2.0

(注) 1. 類似構造物についての標準歩掛の補正は次による。  

$$\text{歩掛} = (\text{標準歩掛}) \times (0.3 + 0.7 \times n) \quad n: \text{径間数}$$

## 8-8 鋼橋塗装塗り替え設計

### 8-8-1 適用範囲

防食機能を回復させるための再塗装（塗装仕様・範囲）の設計に適用する。また、耐候性鋼材、溶融亜鉛メッキ、金属溶射による塗り替えの場合は適用外とする。  
 なお、支承・高欄・防護柵を同時に塗り替える場合は、その設計を含む。

### 8-8-2 作業項目

設計計画、設計図作成、数量作成、照査、報告書作成

### 8-8-3 標準歩掛

#### 8-8-3-1 鋼橋塗装塗り替え設計

施工単価コード	DXD34031
---------	----------

区 分	数量	単位	直 接 人 件 費				
			主任技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員
鋼橋塗装塗り替え設計	1	径間	0.4	0.7	1.2	2.0	2.2

(注) 1. 類似構造物についての標準歩掛の補正は次による。  

$$\text{歩掛} = (\text{標準歩掛}) \times (0.3 + 0.7 \times n) \quad n: \text{径間数}$$
  
 2. 既存資料により塗装数量が分かる場合は、標準歩掛の60%を計上する。

## 8-9 伸縮装置取り替え設計

### 8-9-1 適用範囲

応力計算を必要としない構造の既設伸縮装置の取り替え設計に適用する。

### 8-9-2 作業項目

設計計画、設計図作成、数量作成、照査、報告書作成

### 8-9-3 標準歩掛

#### 8-9-3-1 伸縮装置取り替え設計

施工単価コード	DXD34041
---------	----------

区 分	数量	単位	直接人件費				
			主任技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員
伸縮装置取り替え設計	1	箇所	0.1	0.6	1.0	1.3	1.4

(注) 1. 類似構造物についての標準歩掛の補正は次による。

$$\text{歩掛} = (\text{標準歩掛}) \times (0.3 + 0.7 \times n) \quad n : \text{箇所}$$

## 8-10 支承補修設計

### 8-10-1 適用範囲

既設鋼製支承の再塗装、又は応力計算を必要としないモルタル補修設計に適用する。

### 8-10-2 作業項目

設計計画、設計図作成、数量作成、照査、報告書作成

### 8-10-3 標準歩掛

#### 8-10-3-1 支承補修設計

施工単価コード	DXD34051
---------	----------

区 分	数量	単位	直接人件費				
			主任技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員
支承補修設計	1	支承線	0.1	0.5	1.0	1.5	1.0

(注) 1. 類似構造物についての標準歩掛の補正は次による。

$$\text{歩掛} = (\text{標準歩掛}) \times (0.3 + 0.7 \times n) \quad n : \text{支承線数}$$

## 8-11 支承取り替え設計

### 8-11-1 適用範囲

既設支承の取り替え設計に適用し、仮受けブラケット・上部工反力の算出等を含む。

### 8-11-2 作業項目

設計計画、設計計算、設計図作成、数量作成、照査、報告書作成

### 8-11-3 標準歩掛

#### 8-11-3-1 支承取り替え設計

施工単価コード	DXD34061
---------	----------

区 分	数量	単位	直接人件費				
			主任技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員
支承取り替え設計	1	支承線	0.6	1.9	2.1	4.1	3.0

(注) 1. 類似構造物についての標準歩掛の補正は次による。

$$\text{歩掛} = (\text{標準歩掛}) \times (0.3 + 0.7 \times n) \quad n : \text{支承線数}$$

### 8-12 地覆・防護柵補修設計

#### 8-12-1 適用範囲

応力計算を必要としない、地覆・防護柵の補修設計（取り替え）に適用する。また、支柱取り替えに必要な地覆の補修設計も含む。

#### 8-12-2 作業項目

設計計画、設計図作成、数量作成、照査、報告書作成

#### 8-12-3 標準歩掛

##### 8-12-3-1 地覆・防護柵補修設計

施工単価コード	DXD34071
---------	----------

区 分	数量	単位	直 接 人 件 費				
			主任技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員
地覆・防護柵補修設計	1	径間	0.1	0.5	1.2	1.8	1.9

(注) 1. 類似構造物についての標準歩掛の補正は次による。  

$$\text{歩掛} = (\text{標準歩掛}) \times (0.3 + 0.7 \times n) \quad n : \text{径間数}$$

### 8-13 地覆・防護柵部分補修設計

#### 8-13-1 適用範囲

応力計算を必要としない、地覆・防護柵の部分的な補修設計（取り替え）に適用する。また、支柱取り替えに必要な地覆の補修設計も含む。

#### 8-13-2 作業項目

設計計画、設計図作成、数量作成、照査、報告書作成

#### 8-13-3 標準歩掛

##### 8-13-3-1 地覆・防護柵部分補修設計

施工単価コード	DXD34081
---------	----------

区 分	数量	単位	直 接 人 件 費				
			主任技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員
地覆・防護柵部分補修設計	1	径間		0.1	0.4	0.6	0.6

(注) 1. 類似構造物についての標準歩掛の補正は次による。  

$$\text{歩掛} = (\text{標準歩掛}) \times (0.3 + 0.7 \times n) \quad n : \text{径間数}$$

### 8-14 防護柵塗装塗り替え設計

#### 8-14-1 適用範囲

防食機能を回復させるための再塗装（塗装仕様・範囲）の設計に適用する。  
耐候性鋼材、溶融亜鉛メッキ、金属溶射による塗り替えの場合は適用外とする。

#### 8-14-2 作業項目

設計計画、設計図作成、数量作成、照査、報告書作成

#### 8-14-3 塗装面積算出方法

標準支柱間隔間の面積を算出し防護柵の延長を乗じて算出する。

#### 8-14-4 標準歩掛

##### 8-14-4-1 防護柵塗装塗り替え設計

施工単価コード	DXD34091
---------	----------

区 分	数量	単位	直 接 人 件 費				
			主任技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員
防護柵塗装塗り替え設計	1	橋	0.1	0.3	0.4	0.7	0.7

### 8-15 地覆補修設計

#### 8-15-1 適用範囲

応力計算を必要としない、地覆全体の広範囲に発生するひび割れや遊離石灰、断面補修等の補修設計に適用する。

#### 8-15-2 作業項目

設計計画、設計図作成、数量作成、照査、報告書作成

#### 8-15-3 標準歩掛

##### 8-15-3-1 地覆補修設計

施工単価コード	DXD34101
---------	----------

区 分	数量	単位	直 接 人 件 費				
			主任技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員
地覆補修設計	1	径間	0.1	0.5	1.0	1.4	1.5

(注) 1. 類似構造物についての標準歩掛の補正は次による。  

$$\text{歩掛} = (\text{標準歩掛}) \times (0.3 + 0.7 \times n) \quad n : \text{径間数}$$

8-16 橋面防水設計

8-16-1 適用範囲

既設上部工の橋面防水工の新設・再設置に適用する。

8-16-2 作業項目

設計計画、設計図作成、数量作成、照査、報告書作成

8-16-3 標準歩掛

8-16-3-1 橋面防水設計

施工単価コード	DXD34111
---------	----------

区 分	数量	単位	直接人件費				
			主任技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員
橋面防水設計	1	径間	0.1	0.4	0.9	1.2	1.1

(注) 1. 類似構造物についての標準歩掛の補正は次による。

$$\text{歩掛} = (\text{標準歩掛}) \times (0.3 + 0.7 \times n) \quad n: \text{径間数}$$

8-17 下部工補修設計

8-17-1 適用範囲

応力計算を必要としない、ひび割れや遊離石灰、断面補修等の局部的な損傷箇所の補修設計に適用する。

8-17-2 作業項目

設計計画、設計図作成、数量作成、照査、報告書作成

8-17-3 標準歩掛

8-17-3-1 下部工補修設計

施工単価コード	DXD34121
---------	----------

区 分	数量	単位	直接人件費				
			主任技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員
下部工補修設計	1	基	0.1	0.6	1.0	1.7	1.7

(注) 1. 類似構造物についての標準歩掛の補正は次による。

$$\text{歩掛} = (\text{標準歩掛}) \times (0.3 + 0.7 \times n) \quad n: \text{基数}$$

8-18 排水装置補修設計

8-18-1 適用範囲

応力計算を必要としない、排水装置（排水桝、排水管を含む）の補修（取り替え）に適用する。

8-18-2 作業項目

設計計画、設計図作成、数量作成、照査、報告書作成

8-18-3 標準歩掛

8-18-3-1 排水装置補修設計

設計単価コード	DXD34126
---------	----------

区 分	数量	単位	直接人件費				
			主任技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員
排水装置補修設計	1	橋	0.1	0.5	0.5	0.5	1.0

8-19 施工計画

8-19-1 適用範囲

足場・支保工の設置、交通規制などが必要な補修設計を行う場合に適用する。なお、関係機関との協議資料作成が必要な場合は、別途計上する。

8-19-2 作業項目

工程計画、施工要領、施工計画図などが含まれる。

8-19-3 標準歩掛

8-19-3-1 施工計画

施工単価コード	DXD34131
---------	----------

区 分	数量	単位	直 接 人 件 費				
			主任技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員
施工計画	1	橋	0.6	2.4	2.4	1.2	1.2

8-20 概算工事費算出

8-20-1 適用範囲

設計図や数量等に基づく概算工事費の算出に適用する。

8-20-2 作業項目

概算工事費算出

8-20-3 標準歩掛

8-20-3-1 概算工事費算出

施工単価コード	DXD34141
---------	----------

区 分	数量	単位	直 接 人 件 費				
			主任技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員
概算工事費算出	1	橋		0.5	1.0	2.0	2.5

(注) 1. 見積必要品目がある場合は、実施時点での見積徴収作業を含む。

2. 電子計算機使用料は、直接経費として直接人件費の2%を計上する。